

設置計画の概要

事項	記 入 欄
事前相談事項	事前伺い
計画の区分	研究科以外の教育研究上の基本となる組織（学校教育法第 100 条）の設置
フリガナ設置者	コクリツダクイフクホクシンホッカイトウダクイフク 国立大学法人北海道大学
フリガナ大学の名称	ホッカイトウダクイフクダクイフク 北海道大学大学院（Graduate School of Hokkaido University）
新設学部等において養成する人材像	<p>1. 養成する人材像 北海道大学が掲げる 4 つの基本理念（フロンティア精神、国際性の涵養、全人教育、実学の重視）の下、高度な研究、社会で指導的に活躍するための基礎となる論理的な思考力、総合的な判断力を持ち、専門領域を個別のかつ総合的に理解し、関連する問題を解決することができる能力を備えた人材を養成する。</p> <p>① 人文学専攻 各領域に関わる理論的あるいは実証的な基礎研究、さらに現代社会の諸問題をめぐる研究において、それぞれの研究の方法を身につけ、これまでの研究を適切に理解するとともに、必要に応じて現地調査を含むデータ収集とその処理・分析を的確に行う能力を備えた人材を養成する。また、異文化に対する知識とその深い理解力、さまざまな地域や民族がかかえる現代的課題を具体的に把握する観察力と分析力を基盤とした、高度の専門性を必要とする職業を担う人間としての総合的な能力を備えた人材を養成する。</p> <p>② 人間科学専攻 認知心理学、社会心理学、認知科学、行動科学、社会学、地域社会学、人文地理学、社会生態学に関する専門的知識を修得できる能力を備えた人材を養成する。また、人間と社会の理解に向けた科学的・実証的なアプローチにより研究を遂行できる能力を備えた人材を養成する。</p> <p>2. 教育研究上の目的（学生に習得させる能力等） 世界のさまざまな課題に立ち向かい、その解決に貢献する人材を育成するために、新たなものの見方や制度的な仕組みを提案し設計する能力、自然科学の先端的な学術知を人類に福祉の改善に導くことができる能力、多様な文化的な背景・価値観を持つ人々と協働し、グローバル社会に担う能力、俯瞰的な視野から複雑で多面的な社会問題に対応する能力を習得させる。</p> <p>① 人文学専攻 人文学に属する様々な研究領域における考え方や方法論を広く学びながら、専門分野に関する文献を正確に解読できる言語運用能力と、それをもとに問題を発見し分析する能力を身につけること。また、研究成果を明解に説明できるコミュニケーション能力を身につけ、専門的知識を生かして社会で活躍することができること。</p> <p>② 人間科学専攻 人間科学の基礎分野から応用分野まで学び、人間個人や集団に関する人文社会科学的な知識と研究能力を身につけること。また、国際的に通用するコミュニケーション能力をもち、企業、学校、行政などの業種で専門的技術や考察力等を活かすこと。</p> <p>3. 修了後の進路</p> <p>① 人文学専攻 大学の教育研究職の他に、中学高校の教員、官公庁を始め、金融業・製造業・サービス業等の民間企業等で広く活躍することが期待できる。</p> <p>② 人間科学専攻 大学や研究所等の教育研究職・研究員の他に、中学高校の教員、官公庁を始め、情報通信業・金融業・製造業・サービス業等の民間企業等で広く活躍することが期待できる。</p>
既設学部等において養成する人材像	<p>1. 養成する人材像 北海道大学が掲げる 4 つの基本理念（フロンティア精神、国際性の涵養、全人教育、実学の重視）の下、人文学の諸領域において高度の専門的な教育研究を行うことにより、「ことば」に対する感受性及び論理的な思考力、総合的な判断力等を有する人材を養成するとともに、国際的に卓越した創造的な研究者を養成する。</p> <p>① 思想文化学専攻 科学技術が著しく進展する現代社会の中で、その変化に眼差しを向けつつも、人間の思想という心の中心にあるもののありよう、そしてその発露としての文化的活動について、人間の変わることのない本質との関連において理解する人材を育成する。</p> <p>② 歴史地域文化学専攻 地域横断的な視点によって歴史や文化の研究領域を切り拓き、従来の歴史地域研究では周縁化されていた地域にも光を当て、世界の総体を捉え返す人材を育成する。</p> <p>③ 言語文学専攻 「ことば」に対する感受性及び論理的思考力、総合的な判断力等を有する人材を養成する。</p>

		<p>④ 人間システム科学専攻</p> <p>個人としての人間やそれによって構成される集団，社会，地域を研究の対象とし，これらの諸要素間の相互関係を総合的に解明できる人材を養成する。</p> <p>2. 教育研究上の目的(学生に習得させる能力等)</p> <p>人文科学の諸領域において高度の専門的な教育研究を行うことにより，「ことば」に対する感受性及び論理的な思考力，総合的な判断力等を有する人材の育成を図るとともに，国際的に卓越した創造的な研究者を養成し，その資質の向上を図ることを目的とする。</p> <p>① 思想文化学専攻</p> <p>経済と政治のグローバル化が進展する中で，価値観の対立と衝突も生まれている現代社会にこそ，人間のあり方について根源的な問を差し続け，これらの分野に関する深い知識を持つこと。</p> <p>② 歴史地域文化学</p> <p>自己と他者との対話を通して，文化の多様性と共通性を学び，過去と現在，中心と周縁を有機的に結びつけて世界の総体を捉え直すことができる能力。</p> <p>③ 言語文化学専攻</p> <p>専門研究に関わる言語についての知識と人文学的な研究の遂行に必要な言語運用能力。専門研究に関わる言語による文化的表現や文学作品・批評・メディア文化，また諸言語そのものについて深く理解する能力。</p> <p>④ 人間システム科学専攻</p> <p>人間と社会の理解に向けた科学的・実証的なアプローチにより研究を遂行できる能力。国際的に通用するコミュニケーション能力。</p> <p>3. 修了後の進路</p> <p>① 思想文化学専攻</p> <p>大学の教育研究職の他に，中学校の教員，官公庁を始め，金融業・製造業・サービス業等の民間企業等で広く活躍することが期待できる。</p> <p>② 歴史地域文化学</p> <p>大学の教育研究職の他に，中学校の教員，官公庁を始め，金融業・製造業・サービス業等の民間企業等で広く活躍することが期待できる。</p> <p>③ 言語文化学専攻</p> <p>大学の教育研究職の他に，中学校の教員，官公庁を始め，金融業・製造業・サービス業等の民間企業等で広く活躍することが期待できる。</p> <p>④ 人間システム科学専攻</p> <p>大学や研究所等の教育研究職・研究員の他に，中学校の教員，官公庁を始め，情報通信業・金融業・製造業・サービス業等の民間企業等で広く活躍することが期待できる。</p>									
新設学部等において取得可能な資格		<p><人文学専攻></p> <p>【中学教員専修（国語・社会・英語）】</p> <p>①国家資格②資格取得が可能③修了要件科目のほか，教職関連科目の履修が必要</p> <p>【高校教員専修（国語・地理歴史・公民・英語）】</p> <p>①国家資格②資格取得が可能③修了要件科目のほか，教職関連科目の履修が必要</p> <p><人間科学専攻></p> <p>【中学教員専修（社会）】</p> <p>①国家資格②資格取得が可能③修了要件科目のほか，教職関連科目の履修が必要</p> <p>【高校教員専修（地理歴史・公民）】</p> <p>①国家資格②資格取得が可能③修了要件科目のほか，教職関連科目の履修が必要</p>									
既設学部等において取得可能な資格		<p><思想文化学専攻><歴史地域文化学専攻><言語文化学専攻></p> <p>【中学教員専修（国語・社会・英語）】</p> <p>①国家資格②資格取得が可能③修了要件科目のほか，教職関連科目の履修が必要</p> <p>【高校教員専修（国語・地理歴史・公民・英語）】</p> <p>①国家資格②資格取得が可能③修了要件科目のほか，教職関連科目の履修が必要</p> <p><人間システム科学専攻></p> <p>【中学教員専修（社会）】</p> <p>①国家資格②資格取得が可能③修了要件科目のほか，教職関連科目の履修が必要</p> <p>【高校教員専修（地理歴史・公民）】</p> <p>①国家資格②資格取得が可能③修了要件科目のほか，教職関連科目の履修が必要</p>									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等		開設時期	専任教員		
						学位又は称号	学位又は学科の分野		異動元	助教以上	うち教授

既設学部等の概要	文学院 [Graduate School of Humanities and Human Sciences]	人文学専攻 [Division of Humanities] (修士課程)	2	71	—	142	修士 (文学) 修士 (学術)	文学関係	平成 31 年 4 月	思想文化学専攻	14	6
										歴史地域文化学専攻	27	19
										言語文学専攻	27	17
										理学院自然史科学専攻	1	0
										その他	8	1
										計	77	43
		人文学専攻 [Division of Humanities] (博士後期課程)	3	28	—	84	博士 (文学) 博士 (学術)	文学関係	平成 31 年 4 月	思想文化学専攻	13	5
										歴史地域文化学専攻	26	19
										言語文学専攻	25	16
										理学院自然史科学専攻	1	0
										その他	7	1
										計	72	41
	人間科学専攻 [Division of Human Sciences] (修士課程)	2	19	—	38	修士 (人間科学)	文学関係	平成 31 年 4 月	人間システム科学専攻	23	11	
									計	23	11	
	人間科学専攻 [Division of Human Sciences] (博士後期課程)	3	7	—	21	博士 (人間科学)	文学関係	平成 31 年 4 月	人間システム科学専攻	22	10	
									計	22	10	
既設学部等の名称		修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	授与する学位等		開設時期	専任教員			
						学位又 は称号	学位 又は 学科の分 野		異動先	助教 以上	うち 教授	
文学研究科 (廃止)	思想文化学専攻 (修士課程)	2	14	—	28	修士 (文学)	文学関係	平成 12 年 4 月	人文学専攻	14	6	
									退 職	2	2	
									計	16	8	
	思想文化学専攻 (博士後期課程)	3	6	—	18	博士 (文学)	文学関係	平成 12 年 4 月	人文学専攻	13	5	
									退 職	3	3	
									計	16	8	
	歴史地域文化学専攻 (修士課程)	2	28	—	56	修士 (文学) 修士 (学術)	文学関係	平成 12 年 4 月	人文学専攻	27	19	
									計	27	19	
	歴史地域文化学専攻 (博士後期課程)	3	11	—	33	博士 (文学) 博士 (学術)	文学関係	平成 12 年 4 月	人文学専攻	26	19	
									退 職	1	0	
	計	27	19									
	言語文学専攻 (修士課程)	2	29	—	58	修士 (文学)	文学関係	平成 12 年 4 月	人文学専攻	27	17	
									計	27	17	
	言語文学専攻 (博士後期課程)	3	11	—	33	博士 (文学)	文学関係	平成 12 年 4 月	人文学専攻	25	16	
退 職									2	1		
計									27	17		
人間システム科学専攻 (修士課程)	2	19	—	38	修士 (文学)	文学関係	平成 12 年 4 月	人間科学専攻	23	11		
								計	23	11		
人間システム科学専攻 (博士後期課程)	3	7	—	21	博士 (文学)	文学関係	平成 12 年 4 月	人間科学専攻	22	10		
								退 職	1	1		
計	23	11										

理学院	自然史科学専攻 (修士課程)	2	39	—	78	修士 (理学)	理学関係	平成 18 年 4 月	人文学専攻	1	0
									理学院自然史科学専攻	54	20
									退職	3	2
		計	58	22							
	自然史科学専攻 (博士後期課程)	3	20	—	60	博士 (理学)	理学関係	平成 18 年 4 月	人文学専攻	1	0
									理学院自然史科学専攻	52	18
退職									5	4	
	計	58	22								

【備考欄】

(同一設置者内における変更状況)

【H31.4 学生募集停止(予定)】

【研究科の廃止】

文学研究科

思想文化学専攻	[修士]	(△ 14)
〃	[博士後期]	(△ 6)
歴史地域文化学専攻	[修士]	(△ 28)
〃	[博士後期]	(△ 11)
言語文学専攻	[修士]	(△ 29)
〃	[博士後期]	(△ 11)
人間システム科学専攻	[修士]	(△ 19)
〃	[博士後期]	(△ 7)

情報科学研究科

情報理工学専攻	[修士]	(△ 48)
〃	[博士後期]	(△ 12)
情報エレクトロニクス専攻	[修士]	(△ 39)
〃	[博士後期]	(△ 8)
生命人間情報科学専攻	[修士]	(△ 33)
〃	[博士後期]	(△ 6)
メディアネットワーク専攻	[修士]	(△ 30)
〃	[博士後期]	(△ 8)
システム情報科学専攻	[修士]	(△ 27)
〃	[博士後期]	(△ 8)

【専攻の廃止】

農学院

共生基盤学専攻	[修士]	(△ 40)
〃	[博士後期]	(△ 8)
生物資源科学専攻	[修士]	(△ 42)
〃	[博士後期]	(△ 14)
応用生物科学専攻	[修士]	(△ 18)
〃	[博士後期]	(△ 6)
環境資源学専攻	[修士]	(△ 42)
〃	[博士後期]	(△ 14)

国際広報メディア・観光学院

国際広報メディア専攻	[修士]	(△ 27)
〃	[博士後期]	(△ 14)
観光創造専攻	[修士]	(△ 15)
〃	[博士後期]	(△ 3)

【H31.4 入学定員変更(予定)】

理学院

数学専攻	[修士]	(△ 2)
〃	[博士後期]	(△ 1)

【H31.4 意見伺いによる設置(予定)】

国際食資源学院

国際食資源学専攻	[博士後期]	(+ 6)
----------	--------	-------

【H31.4 事前伺いによる設置(予定)】

農学院			
農学専攻	[修士]	(+142)	
〃	[博士後期]	(+ 36)	
国際広報メディア・観光学院			
国際広報メディア・観光学専攻	[修士]	(+ 47)	
〃	[博士後期]	(+ 12)	
情報科学院			
情報科学専攻	[修士]	(+179)	
〃	[博士後期]	(+ 43)	

(大学院設置基準第 14 条における教育方法の特例)
実施する

【施設・設備の状況】

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
	校 舎 敷 地	923,867 m ²	0 m ²	0 m ²	923,867 m ²			
	運 動 場 用 地	175,488 m ²	0 m ²	0 m ²	175,488 m ²			
	小 計	1,099,355 m ²	0 m ²	0 m ²	1,099,355 m ²			
	そ の 他	659,049,323 m ²	0 m ²	0 m ²	659,049,323 m ²			
	合 計	660,148,678 m ²	0 m ²	0 m ²	660,148,678 m ²			
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
		625,868 m ² (625,868 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	625,868 m ² (625,868 m ²)			
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	259	158	1,307 室	28 室 (補助職員 3人)	9 室 (補助職員 1人)			
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数				
		文学院		89 室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学院単位での特 定が不能なた め、大学全体の 数
	文学院	3,838,813 〔1,788,390〕	84,673 〔 37,105〕	21,399 〔20,170〕	89,444	0	0	
		3,838,813 〔1,788,390〕	84,673 〔 37,105〕	21,399 〔20,170〕	(89,444)	(0)	(0)	
	計	3,838,813 〔1,788,390〕	84,673 〔 37,105〕	21,399 〔20,170〕	89,444	0	0	
		3,838,813 〔1,788,390〕	84,673 〔 37,105〕	21,399 〔20,170〕	(89,444)	(0)	(0)	
図書館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数				
		33,542 m ²	2,224 席	425 万冊				
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体		
		7,429 m ²	テニスコート(11)、野球場(3)、プール(2)、ホッケー・ハンドボール場(1)、陸上競技場(1)、サッカー・ラグビー場(1)、アメリカンフットボール・ラグロス場(1)、スポーツトレーニングセンター(1)、武道場(1)、剣道場(1)、弓道場(1)、洋弓場(1)、ライフル射撃場(1)、ボート艇庫(1)、ヨット艇庫(1)、馬場(1)、山小屋(5)					

(注)

1 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

2 「施設・設備の状況」の記載方法は「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(平成30年度改訂版)」P38～を参考にすること。

3 「既設学部等の状況」の記載方法は「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(平成30年度改訂版)」P41～を参考にすること。

【既設学部等の状況】

大学の名称		国立大学法人 北海道大学／北海道大学大学院								
学部等の名称 M … 修士課程 D … 博士(後期)課程 P … 専門職学位課程	修業年限 (年)	入学定員 (人)	編入学定員 (年次・人)	収容定員 (人)	学位又は称号	定員超過率 (倍)	開設年度	所在地		
文学部						1.04	S25	札幌市北区北10条西7丁目		
人文学科	4	185	-	740	学士(文学)	1.04	H 7			
教育学部						1.07	S24	札幌市北区北11条西7丁目		
教育学科	4	50	③10	220	学士(教育学)	1.07	S24			
法学部						1.05	S28	札幌市北区北9条西7丁目		
法学課程	4	200	②10/③10	850	学士(法学)	1.05	S49			
経済学部						1.06	S28	札幌市北区北9条西7丁目		
経済学科	4	100	-	400	学士(経済学)	1.07	S28			
経営学科	4	90	-	360	学士(経営学)	1.06	S41			
理学部						1.03	S24	札幌市北区北10条西8丁目		
数学科	4	50	-	200	学士(理学)	1.04	H 7			
物理学科	4	35	-	140		1.02	H 6			
化学科	4	75	-	300		1.03	H 7			
生物科学科	4	80	-	320		1.04	H 5			
地球惑星科学科	4	60	-	240		1.04	H 6			
医学部							-	S24	札幌市北区北15条西7丁目	H29年度 保健学科 3年次編入学 入学定員減(△20人)
医学科	6	107	②5	667	学士(医学)	1.00	S24			
保健学科	4	180		720	学士(看護学/ 保健学)	1.03	H16	札幌市北区北12条西5丁目		
歯学部						0.99	S42	札幌市北区北13条西7丁目		
歯学科	6	53	-	318	学士(歯学)	0.99	S42			
薬学部						-	S40	札幌市北区北12条西6丁目		
薬科学科	4	50	-	200	学士(薬科学)	1.03	H18			
薬学科	6	30	-	180	学士(薬学)	1.03				
工学部						1.04	S24	札幌市北区北13条西8丁目	編入学定員は4学科 共通であるため、収 容定員には含めてい ない	
応用理工系学科	4	160	③10	640	学士(工学)	1.05	H17			
情報エレクトロニクス学科	4	180		720		1.04				
機械知能工学科	4	120		480		1.06				
環境社会工学科	4	210		840		1.03				
農学部								1.04	S24	札幌市北区北9条西9丁目
生物資源科学科	4	36	-	144	学士(農学)	1.04	H 4			
応用生命科学科	4	30	-	120		1.03				
生物機能化学科	4	35	-	140		1.04				
森林科学科	4	36	-	144		1.04				
畜産科学科	4	23	-	92		1.04				
生物環境工学科	4	30	-	120		1.03		S24		
農業経済学科	4	25	-	100		1.04				
獣医学部							1.03	S27	札幌市北区北18条西9丁目	
共同獣医学課程	6	40	-	240	学士(獣医学)	1.03	H24			

水産学部						1.01	S24	函館市港町3丁目1番1号	
海洋生物科学科	4	54	-	216	学士(水産学)	1.01	H18		
海洋資源科学科	4	53	-	212		1.01			
増殖生命科学科	4	54	-	216		1.01			
資源機能化学科	4	54	-	216		1.01			
文学研究科							S28	札幌市北区北10条西7丁目	
思想文化学専攻	M	2	14	-	28	修士(文学)	0.53	H12	
	D	3	6	-	18	博士(文学)	0.82		
歴史地域文化学専攻	M	2	28	-	56	修士(文学/学術)	0.80		
	D	3	11	-	33	博士(文学/学術)	0.81		
言語文学専攻	M	2	29	-	58	修士(文学)	0.98		
	D	3	11	-	33	博士(文学)	1.08		
人間システム科学専攻	M	2	19	-	38		1.65		
	D	3	7	-	21		1.04		
法学研究科							S28	札幌市北区北9条西7丁目	
法学政治学専攻	M	2	20	-	40	修士(法学)	0.97	H12	
	D	3	15	-	45	博士(法学)	0.35		
法律実務専攻	P	3	50	-	150	法務博士(専門職)	0.71	H16	
医学研究科							S30	札幌市北区北15条西7丁目	
医科学専攻	M	2	-	-	-	修士(医科学)	-	H14	H29年度より学生募集停止
医学専攻	D	4	-	-	-	博士(医学)	-	H19	
情報科学研究科							H16	札幌市北区北14条西9丁目	
情報理工学専攻	M	2	48	-	96	修士(工学/情報科学)	1.15	H26	
	D	3	12	-	36	博士(工学/情報科学)	0.63		
情報エレクトロニクス専攻	M	2	39	-	78		1.21	H16	
	D	3	8	-	24		0.95		
生命人間情報科学専攻	M	2	33	-	66		0.96		
	D	3	6	-	18		0.61		
ITネットワーク専攻	M	2	30	-	60		1.21		
	D	3	8	-	24		1.20		
システム情報科学専攻	M	2	27	-	54		1.23		
	D	3	8	-	24		1.37		
水産科学院							H17	函館市港町3丁目1番1号	
海洋生物資源科学専攻	M	2	43	-	86	修士(水産科学)	1.11	H17	
	D	3	17	-	51	博士(水産科学)	0.31		
海洋応用生命科学専攻	M	2	47	-	94		1.29		
	D	3	18	-	54		0.58		
環境科学院							H17	札幌市北区北10条西5丁目	
環境起学専攻	M	2	44	-	88	修士(環境科学)	0.74	H17	
	D	3	15	-	45	博士(環境科学)	0.50		
地球圏科学専攻	M	2	35	-	70		1.00		
	D	3	14	-	42		0.40		
生物圏科学専攻	M	2	52	-	104		1.00		
	D	3	23	-	69		0.59		
環境物質科学専攻	M	2	28	-	56		1.05		
	D	3	11	-	33		0.57		

既設大学等

理学院							H18	札幌市北区北10条西8丁目				
数学専攻	M	2	46	-	92	修士(理学)	0.74	H18				
	D	3	17	-	51		博士(理学)			0.54		
物性物理学専攻	M	2	24	-	48	修士(理学)	0.87					
	D	3	10	-	30		0.66					
宇宙物理学専攻	M	2	20	-	40		修士(理学)			0.87		
	D	3	9	-	27					1.03		
自然史科学専攻	M	2	39	-	78					修士(理学)	1.29	
	D	3	20	-	60						0.80	
農学院								H18	札幌市北区北9条西9丁目			
共生基盤学専攻	M	2	40	-	80			修士(農学)	0.97		H18	H29年度より共生基盤学専攻入学定員減(D△8人)
	D	3	8	-	32	博士(農学)			1.24			
生物資源科学専攻	M	2	42	-	84	修士(農学)		1.18				
	D	3	14	-	42		0.59					
応用生物科学専攻	M	2	18	-	36		修士(農学)	1.85				
	D	3	6	-	18			0.94				
環境資源学専攻	M	2	42	-	84			修士(農学)	1.29			
	D	3	14	-	42				0.56			
生命科学学院									H18	札幌市北区北10条西8丁目		
生命科学専攻	M	2	116	-	248				修士(生命科学/薬科学)	0.99	H18	H30年度より生命科学専攻入学定員減(M△16人, D△8人)臨床薬学専攻入学定員増(D2人)
	D	3	38	-	130	博士(生命科学/薬科学)				0.82		
臨床薬学専攻	D	4	6	-	18	博士(臨床薬学)			1.37	H24		
ソフトマター専攻	M	2	16	-	16	修士(ソフトマター科学)	1.50		H30			
	D	3	6	-	6		博士(ソフトマター科学)			0.83		
教育学院							H19	札幌市北区北11条西7丁目				
教育学専攻	M	2	45	-	90	修士(教育学)	0.99	H19				
	D	3	21	-	63		博士(教育学)		0.69			
国際広報・IT・観光学院							H19	札幌市北区北17条西8丁目				
国際広報・IT専攻	M	2	27	-	54	修士(国際広報・IT/学)	1.12	H19				
	D	3	14	-	42		博士(国際広報・IT/学)		0.47			
観光創造専攻	M	2	15	-	30	修士(観光学)	1.09					
	D	3	3	-	9		博士(観光学)		0.99			
保健科学院							H20	札幌市北区北12条西5丁目				
保健科学専攻	M	2	40	-	80	修士(保健科学/看護学)	1.14	H20	H29年度より保健科学専攻入学定員増(D2人)			
	D	3	10	-	28		博士(保健科学/看護学)			0.93		
工学院							H22	札幌市北区北13条西8丁目				
応用物理学専攻	M	2	33	-	66	修士(工学)	1.11	H22				
	D	3	9	-	27		博士(工学)		0.77			
材料科学専攻	M	2	39	-	78	修士(工学)	1.11					
	D	3	7	-	21		0.80					
機械宇宙工学専攻	M	2	27	-	54		修士(工学)		1.21			
	D	3	5	-	15				0.53			
人間機械システム工学専攻	M	2	26	-	52				修士(工学)	1.20		
	D	3	5	-	15					0.46		
エネルギー環境システム専攻	M	2	26	-	52					修士(工学)	1.19	
	D	3	5	-	15						1.00	
量子理工学専攻	M	2	20	-	40						修士(工学)	1.35

	D	3	5	-	15		0.60			
環境フロンティア工学専攻	M	2	24	-	48		1.22			
	D	3	6	-	18		0.88			
北方圏環境政策工学専攻	M	2	26	-	52		1.09			
	D	3	7	-	21		0.80			
建設都市空間システム専攻	M	2	22	-	44		1.13			
	D	3	5	-	15		1.00			
空間性能システム専攻	M	2	27	-	54		0.81			
	D	3	5	-	15		0.53			
環境創生工学専攻	M	2	28	-	56		1.21			
	D	3	5	-	15		0.53			
環境循環システム専攻	M	2	18	-	36		1.27			
	D	3	5	-	15		2.00			
共同資源工学専攻	M	2	10	-	20	修士(工学)	1.35	H29		
総合化学院								H22	札幌市北区北13条西8丁目	
総合化学専攻	M	2	129	-	258	修士(総合化学)	1.18	H22		
	D	3	38	-	114	博士(理学/工学/総合化学)	1.10			
経済学院								S28	札幌市北区北9条西7丁目	
現代経済経営専攻	M	2	35	-	70	修士(経済学/経営学)	1.31	H12	経済学研究科からH29年度より名称変更, 現代経済経営学専攻入学定員減 (D△7人)	
	D	3	8	-	31	博士(経済学/経営学)	0.86			
会計情報専攻	P	2	20	-	40	会計修士(専門職)	1.05	H17		
医学院								H29	札幌市北区北15条西7丁目	
医科学専攻	M	2	20	-	40	修士(医科学/公衆衛生学)	1.55	H29		
医学専攻	D	4	90	-	180	博士(医学)	1.02	H29		
歯学院								S49	札幌市北区北13条西7丁目	歯学研究科からH29年度より名称変更, 入学定員減 (D△2人)
口腔医学専攻	D	4	40	-	164	博士(歯学)	0.82	H12		
獣医学院								S28	札幌市北区北18条西9丁目	獣医学研究科からH29年度より名称変更, 入学定員減 (D△8人)
獣医学専攻	D	4	16	-	80	博士(獣医学)	0.97	H 7		
医理工学院								H29	札幌市北区北15条西7丁目	
医理工学専攻	M	2	12	-	24	修士(医理工学)	1.12	H29		
	D	3	5	-	10	博士(医理工学)	1.30			
国際感染症学院								H29	札幌市北区北18条西9丁目	
感染症学専攻	D	4	12	-	24	博士(感染症学/獣医学)	1.24	H29		
国際食資源学院								H29	札幌市北区北9条西9丁目	
国際食資源学専攻	M	2	15	-	30	修士(食資源学)	1.09	H29		
公共政策学教育部								H17	札幌市北区北9条西7丁目	
公共政策学専攻	P	2	30	-	60	公共政策学修士(専門職)	1.19	H17		

附属施設の概要	<p>名称：北海道大学病院 目的：患者に良質な医療を提供することを通じて、医学及び歯学の教育研究を行うこと 所在地：札幌市北区北14条西5丁目 設置年月：平成15年10月 規模等：敷地面積 151,333㎡（本院），建物面積 100,941㎡（本院）</p>	
	<p>名称：スラブ・ユーラシア研究センター 目的：スラブ・ユーラシア地域に関する総合研究を行い、かつ、国立大学の教員その他の者で、この分野の研究に従事するものの利用に供すること 所在地：札幌市北区北9条西7丁目 設置年月：平成2年6月 規模等：敷地面積 25,746㎡（文学部等と共用），建物面積 2,688㎡</p>	
	<p>名称：アイヌ・先住民研究センター 目的：アイヌ・先住少数民族との協同を基本として、アイヌ・先住少数民族に関する学際的で高度な研究教育を行うとともに、アイヌをはじめとする先住少数民族文化の発展に寄与すること 所在地：札幌市北区北8条西6丁目 設置年月：平成19年4月 規模等：敷地面積 312,257㎡（事務局管理区域と共用），建物面積 555㎡</p>	
	<p>名称：総合博物館 目的：学術標本の収蔵、展示、公開等及び学術標本に関する教育研究の支援並びにこれらに関する研究を行うとともに、地域社会への教育普及に寄与すること 所在地：札幌市北区北10条西8丁目 設置年月：平成11年4月 規模等：敷地面積 132,112㎡（理学部等と共用），建物面積 9,498㎡</p>	
	<p>名称：埋蔵文化財調査センター 目的：本学構内の埋蔵文化財に関する調査を実施するとともに、出土した資料の保存及び活用を図ること 所在地：札幌市北区北11条西7丁目 設置年月：平成27年4月 規模等：敷地面積 312,257㎡（事務局管理区域と共用），建物面積 384㎡</p>	

(注)

- 1 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。
- 2 「施設・設備の状況」の記載方法は「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(平成30年度改訂版)」P38～を参考にすること。
- 3 「既設学部等の状況」の記載方法は「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(平成30年度改訂版)」P41～を参考にすること。

教育課程等の概要(事前伺い)														
(文学院 人文学専攻 修士課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教		助手
必修科目	修士論文・特定課題指導特殊演習	2通	2				○		43	27	1	6		共同
	人文社会構造論	1①	1			○			3					兼1 共同
	複合環境文化論	1②	1			○			2					兼2 共同
	多文化共生論	1③	1			○			3					兼1 共同
	総合社会情報論	1④	1			○			1	1				兼2 共同
	研究倫理・論文指導特殊講義	1①・②	1			○			3	3				兼2 共同
	小計(6科目)	—	7	0	0		—		43	27	1	6	0	兼8 —
選択必修科目	哲学特殊講義	1・2③④		2		○			1	1				
	倫理学特殊講義	1・2①②		2		○			1					
	論理学特別演習	1・2①②		2			○			1				
	古代中世哲学特別演習	1・2①②・③④		2			○			1				
	近現代哲学特別演習	1・2①②・③④		2			○		2			1		
	倫理学特別演習	1・2①②・③④		2			○		1	1				
	インド哲学仏教学特殊講義	1・2①②		2			○		1	1				
	宗教学特殊講義	1・2①②・③④		2			○		1	1				
	インド哲学仏教学特別演習	1・2③④		2				○	1	1				
	宗教学特別演習	1・2①②・③④		2				○	1	1				
	日本史学特殊講義	1・2①②・③④		2			○		3	3				
	日本古代史特別演習	1・2①②・③④		2				○		1				
	日本中世近世史特別演習	1・2①②・③④		2				○	1	1				
	日本近現代史特別演習	1・2①②・③④		2				○	2	1		1		
	東洋史学特殊講義	1・2①②・③④		2			○		1	1				
	東洋史学特別演習	1・2①②・③④		2				○	2	1				
	西洋史学特殊講義	1・2①②・③④		2			○		4	1				
	西洋史学特別演習	1・2①②・③④		2				○	4	1				
	考古学特殊講義	1・2③④		2			○		1	1				オムニバス
	考古学特別演習	1・2①②・③④		2				○	1					
	北方考古学特別演習	1・2①②・③④		2				○		1				
	考古科学特別演習	1・2①②		2				○			1			
	環境考古学特別演習	1・2③④		2				○			1			
	考古学特別実習	1・2①②・③④		2					1	1		1		高中・共同(一部)
	文化人類学特殊講義	1・2③④		2			○		1					
	文化人類学特別演習	1・2①②・③④		2				○	1					
	芸術学特殊講義	1・2①②・③④		2			○		2	1				
	芸術学特別演習	1・2①②・③④		2				○	2	1				共同
	博物館・文化財研究特殊講義	1・2①②・③④		2			○		1	1				兼1
	博物館・文化財研究特別演習	1・2①②・③④		2				○	1	1				兼1 共同
	英米文学特殊講義	1・2①②・③④		2			○		2					
	西洋文学特殊講義	1・2①②・③④		2			○		1	3				
	英米文学特別演習Ⅰ	1・2①②・③④		2				○	1					
	英米文学特別演習Ⅱ	1・2①②・③④		2				○	1					
	英米文学特別演習Ⅲ	1・2①②・③④		2				○	1					
	西洋文学特別演習	1・2①②・③④		2				○	1	2		1		
言語文化論特別演習	1・2①②・③④		2				○		2		1			
日本古典文化論特殊講義	1・2①②		2			○		1						
日本古典文化論特別演習	1・2①②・③④		2				○	2	2					
文献学(国語・国文)特別演習	1・2①②・③④		2				○	2	2					
中国文化論特殊講義	1・2③④		2			○		1						
中国思想特殊講義	1・2①②		2			○		1						
中国語学特殊講義	1・2③④		2			○		1						
中国文学特殊講義	1・2①②		2			○		1						

中国思想特別演習	1・2①②・③④	2			○	1													
中国語学特別演習	1・2①②・③④	2			○	1													
中国文学特別演習	1・2①②・③④	2			○	1													
映像表象文化論特殊講義	1・2①②・③④	2			○	1	1												
現代表象文化論特殊講義	1・2③④	2			○		1												
日本現代文化論特殊講義	1・2①②・③④	2			○	2													
映像表象文化論特別演習	1・2①②・③④	2				1	1												
現代表象文化論特別演習	1・2①②	2					1												
日本現代文化論特別演習	1・2①②・③④	2				2													
言語学特殊講義	1・2①②・③④	2			○	1	1												
英語学特殊講義	1・2①②	2			○	1													
西洋言語学特殊講義	1・2③④	2			○	1													
日本語学特殊講義	1・2①②・③④	2			○	2													
言語学特別演習	1・2③④	2				1	1												
英語学特別演習	1・2①②・③④	2				1													
西洋言語学特別演習	1・2①②・③④	2				2													
日本語学特別演習	1・2①②・③④	2				2													
言語分析論特別演習	1・2③④	2				1													
スラブ・ユーラシア研究特殊講義	1・2①②・③④	2			○	2	1												
スラブ・ユーラシア総合研究特殊講義	1・2①②	2			○	2	1												
スラブ・ユーラシア総合研究特別演習	1・2①②・③④	2				7	1												オムニバス 共同
スラブ・ユーラシア文化研究特別演習	1・2①②・③④	2				2	1												
スラブ・ユーラシア社会研究特別演習	1・2①②・③④	2				2													
スラブ・ユーラシア相関研究特別演習	1・2①②・③④	2				1													
アイヌ・先住民学特殊講義	1・2①②・③④	2			○	1	5						1						
アイヌ・先住民学総合特殊講義	1・2①②	2			○	1	5						1						オムニバス
アイヌ・先住民学特別演習	1・2①②・③④	2				1	3												
アイヌ・先住民学海外特別演習	1・2③④	2				1	5						1						集中・共同
小計（72科目）	—	0	144	0	—	43	27	1	6	0	兼1	—							
合計（78科目）	—	7	144	0	—	43	27	1	6	0	兼9	—							
学位又は称号	修士（文学） 修士（学術）	学位又は学科の分野			文学関係														

※同一授業科目で内容の異なる授業が開講される場合は、当該授業科目を複数履修することができる。

教育課程等の概要（事前伺い）															
（文学院 人文学専攻 博士後期課程）															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
必修科目	博士論文指導特殊演習Ⅰ	1通	2				○		41	26	1	4		共同	
	博士論文指導特殊演習Ⅱ	2通	2				○		41	26	1	4		共同	
	小計（2科目）	—	4	0	0	—	—	—	41	26	1	4	0	0	—
合計（2科目）		—	4	0	0	—	—	—	41	26	1	4	0	0	—
学位又は称号	博士（文学） 博士（学術）		学位又は学科の分野			文学関係									

教育課程等の概要(事前伺い)														
(文学院 人間科学専攻 修士課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教		助手
必修科目	修士論文・特定課題指導特殊演習	2通	2				○		11	9		3		共同
	人文社会構造論	1①	1			○			2	1				兼3 共同
	複合環境文化論	1②	1			○			1					兼2 共同
	多文化共生論	1③	1			○			1					兼3 共同
	総合社会情報論	1④	1			○			1	1				兼2 共同
	研究倫理・論文指導特殊講義	1①・②	1			○			1	1				兼6 共同
小計(6科目)	—	—	7	0	0	—	—	11	9	0	3	0	兼16	—
選択必修科目	心理学特殊講義	1・2①②		2		○			3	2				オムニバス
	認知理論特別演習	1・2①②		2			○			1				
	行動理論特別演習	1・2①②・③④		2			○		1					
	知覚情報論特別演習	1・2③④		2			○		1					
	表象構造論特別演習	1・2③④		2			○			1				
	知識構造論特別演習	1・2①②・③④		2			○		1			1		共同(一部)
	思考過程論特別演習	1・2①②・③④		2			○			1				
	学習過程論特別演習	1・2①②・③④		2			○		1					
	行動科学特殊講義	1・2①②		2		○			1					
	行動科学特別演習	1・2①②・③④		2				○	2	2				
	行動実験調査法特別演習	1・2①②・③④		2				○		1				
	計量行動学特別演習	1・2①②		2				○		1		1		共同
	数理行動学特別演習	1・2③④		2				○		1				
	社会心理学特別演習	1・2①②		2				○		1				
	集団力学特別演習	1・2①②・③④		2				○	1	1				
	社会学特殊講義	1・2③④		2			○		1					
	社会調査法特別演習	1・2①②		2				○	1					
	社会学理論特別演習	1・2①②・③④		2				○	2	1				共同
	社会集団論特別演習	1・2①②		2				○	1					
	社会構造論特別演習	1・2①②		2				○	1					
	社会変動論特別演習	1・2③④		2				○		1				
	地域科学特殊講義	1・2①②		2			○		3	2		1		オムニバス
	地域分析法特別演習	1・2③④		2				○				1		
	地域社会学特別演習	1・2③④		2				○	1					
	開発社会学特別演習	1・2③④		2				○		1				
	地域環境学特別演習	1・2①②		2				○	1					
	社会生態学特別演習	1・2①②・③④		2				○	1			1		
	人文地理学特別演習	1・2③④		2				○	1					
	経済地理学特別演習	1・2①②		2				○		1				
	地誌学特別演習	1・2③④		2				○		1				
	地理学特別演習	1・2①②		2				○	1					
	地域調査特別演習	1・2①②		2				○	1					
	地域科学特別演習	1・2①②		2				○		1				
小計(33科目)	—	—	0	66	0	—	—	10	9	0	3	0	0	—
合計(39科目)	—	—	7	66	0	—	—	11	9	0	3	0	兼16	—
学位又は称号	修士(人間科学)		学位又は学科の分野			文学関係								

※同一授業科目で内容の異なる授業が開講される場合は、当該授業科目を複数履修することができる。

教育課程等の概要（事前伺い）															
（文学院 人間科学専攻 博士後期課程）															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
必修科目	博士論文指導特殊演習Ⅰ	1通	2				○		10	9		3		共同	
	博士論文指導特殊演習Ⅱ	2通	2				○		10	9		3		共同	
	小計（2科目）	—	4	0	0	—	—	—	10	9	0	3	0	0	—
合計（2科目）		—	4	0	0	—	—	—	10	9	0	3	0	0	—
学位又は称号		博士（人間科学）		学位又は学科の分野				文学関係							

I. 背景

1. 現在の社会的背景

コミュニケーション分野での技術革新の進展により、現代社会は急激に変化している。同時に、グローバル化が急速に進むことにより、多くの価値観が併存する多面的で複雑な社会になりつつある。こうした世界的な諸課題に立ち向かい、その解決に貢献する人材の育成が必要であり、この点において人文社会科学への期待は大きい。

例えば、日本経済団体連合会「産業界の求める人材像と大学教育への期待に関するアンケート結果」(平成 23 年)によれば、文系大学・大学院に期待するものとして、「論理的思考力や課題解決力を身につける」、「チームを組んで特定の課題に取り組む経験」、「実社会や職業との繋がりを理解させる教育」が挙げられている。また、産業競争力懇談会「第 5 期科学技術基本計画の策定に対する提言」(平成 27 年)によれば、産業界が求める人材の基礎的な二つの素養として、「自ら課題を設定・解決する力」、「専門分野の基礎基盤的な知識」が挙げられ、イノベーション創出のために必要な能力として、「広義のシステムエンジニアリング」(構想力、設計力)、「多様性から価値を作り出すプロデューサ能力」、「数学や統計学を駆使したデータの分析力」、「人文社会科学の素養」、「高度なコミュニケーション力」が挙げられている。この提言は、必ずしも文系大学院を念頭に置いたものではないが、学際性が進む現在の人文社会科学分野においても同様の人材育成が求められていると受け止めている。

こうした人文社会科学に対する社会的期待は、専門分野に関する先鋭化された知見に加えて、隣接分野や関連分野に対する広範な知識と動的な理解力に対するものであり、それは人文社会科学の諸分野に対する新たな刺激ともなり、未開拓の研究領域を切り開く原動力ともなる。そして、学位を取得した大学院修了者に、研究職人材として学術的貢献を行うような狭隘な職業選択の路だけを提供するのではなく、高い適応性につながる実務的能力やジェネリックスキルを獲得させることで、様々な職種やスタンスで社会的な貢献を行えるようにキャリアパスを多様化させていくことが今後の大学院教育において特に重要である。

2. 人文社会科学分野における人材育成

しかしながらこれまでの文学研究科では、昭和 28 年設立以来一貫して研究者養成に重点を置き、専門分野の学修を中心とする教育体制を実施してきた。近年の大学院進学者の動向を見ると、学問的な関心は高く能力も具えていながら、大学院への進学を躊躇するものが少なくない。この理由として、大学院での研究が狭い学問領域に籠居して社会から隔絶され、将来のキャリア形成が不透明だというイメージが強いことを指摘することができる。

確かに、これまで人文社会諸科学においても、学際的研究を発展させたり、新たな領域を創成するとともに新発見をもたらすブレイクスルーをなしとげたり、相応の成果を挙げてはいるが、実績と革新性が一部の領域に偏っており、他方に社会的還元にも更に注力すべき余地のある分野が残っていることも事実である。加えて、社会的には修士や博士の学位を有する高度な専門知識を有する人材に対する理解や需要が増大してきており、既に相応のキャリアを持つ社会人のなかにも専門知識にとどまらない広範かつ先端的な学識を身につけたいという需要が見られる。大学院教育には、専門的研究を高度

に進めるとともに、科学的知見を縦横無尽に修得しつつ、実社会と接続しうる有為な人材を育成すべく、更に開放的で柔軟な研究教育の場を提供することが求められている。

こうした背景の下で、新たに設置する文学院では、人文社会科学分野に期待される人材育成のために、文学研究科で培ってきた高度な人文社会科学研究を基礎としながら、人文社会科学の学際的・総合的な教育を実施し、社会と学生のニーズに応える教育を実施する。

さらに、教育組織と教員組織が一体である現在の文学研究科を、学校教育法第 100 条に基づいて教育組織（文学院）と教員組織（文学研究院）とに分離することにより、本学の他研究院の教員が研究科に移籍することなく文学院の教育に参画することが可能となり、学際的・総合的な教育をより一層充実させることができる。具体的には以下の通りである。

本学の総合博物館から 1 名の教員（現在は本学大学院理学院の専任教員）が、専任教員（考古学研究室）として文学院の教育に参画し、「考古学特別演習」と「環境考古学特別演習」を新規に開講することにより、文学研究科では行うことができなかった当該分野における自然科学的手法を取り入れた新たな教育を行うことが可能になる。考古学研究室には、新たに埋蔵文化財調査センターの教員 1 名が文学院の専任教員として教育に参画し、「考古学特別実習」を通じて、発掘作業及び考古学資料の保存等における実務的な教育を一層強化することが可能になる。

総合博物館から 1 名の教員（現在は本学大学院農学院の専任教員）が、兼任教員として文学院の教育に参画し、「博物館・文化財研究特殊講義」と「博物館・文化財研究特別演習」を担当することにより、博物館学において一層学際的な教育が可能になる。

アイヌ・先住民研究センターの 8 名の教員が文学院の専任教員として教育に参画し、「アイヌ・先住民学研究室」を新たに設置する。この 8 名の教員は、歴史学、考古学、文化人類学、博物館学、言語学、憲法学を専門としており、アイヌ・先住民学の分野において、「アイヌ・先住民学特殊講義」、「アイヌ・先住民学総合特殊講義」、「アイヌ・先住民学特別演習」、「アイヌ・先住民学海外特別演習」を通じて、これらの専門分野を総合的・学際的に教育することが可能となる。大学院レベルでアイヌ文化に関する学際的な学修が可能な大学院は国内外を問わず他にはなく、また世界各国の先住民に関しても海外の大学や研究機関と連携した国際的な教育を実施する。

スラブ・ユーラシア研究センターは、文学研究科に協力講座（スラブ社会文化論講座）を置き、教育を実施してきたが、8 名の教員が文学院に引き続き専任教員として加わることにより、「スラブ・ユーラシア学研究室」を設置する。同センターは、スラブ・ユーラシア地域におけるわが国を代表する国際的な研究拠点であり、「スラブ・ユーラシア研究特殊講義」、「スラブ・ユーラシア総合研究特殊講義」、「スラブ・ユーラシア総合研究特別演習」、「スラブ・ユーラシア文化研究特別演習」、「スラブ・ユーラシア社会研究特別演習」、「スラブ・ユーラシア相関研究特別演習」を通じて、先端的な研究に基づいた学際的な教育を実施する。

II. 本学に設置する必要性

本学の人文科学分野のミッションの再定義として、「人文科学分野の諸領域における専門的かつ高度な教育を通して、人類の思想・歴史・文化・社会に対する深い知識とその学問の根幹である言語力を涵養し、それに基づきながら、論理的かつ独創的な思考力を身に付けることにより、国際的に卓越した想像力豊かな研究者及び国内外の様々な分野で活躍できる高度専門職業人を養成する」、「学部・大学院

の教育課程及び組織の在り方，規模等の見直しと指導体制の充実・強化に取り組む」ことを掲げている。

1. 本学の人文社会科学分野における研究の強み・特徴

本学は，北海道における唯一の人文社会科学の総合研究科であり，国立大学においても最大規模の教員組織を擁する人文社会科学の基幹研究科として，先端的な研究を実施している。本学の人文社会科学の強み・特徴として，次の4点を挙げるができる。

① 豊富な文献・資料に基づく実証的な人文社会科学的研究

札幌農学校以来蓄積されてきた本学の蔵書を有益な研究資源とする，哲学・歴史学・文学における実証的な研究が行われており，文学研究科は，人文社会学研究における国内外の研究者の交流の拠点となっている。

② 北海道・北方地域を対象としたフィールドワークに基づく実証的な人文社会科学的研究

文学研究科施設「北方研究教育センター」において，北海道の地域的特性を活かした北海道からサハリン，ユーラシア大陸に及ぶ北方地域を対象としたフィールドワークに基づく実証的研究が行われており，北方研究を世界へ発信している。

③ 世界的レベルで展開される先端的かつ実証的・学際的な人文社会科学的研究

21世紀 COE，グローバル COE，卓越した大学院拠点形成支援補助金等の文部科学省の大型プロジェクト，国際的なネットワークによる共同研究，国際共同研究プロジェクト（オックスフォード大学等）を実施するとともに，オークランド大学（ニュージーランド）との国際的な共同研究プロジェクトが実施されている。文学研究科施設である「応用倫理研究教育センター」において，現代社会における諸問題，とりわけ生命倫理，ジェンダー，環境倫理，科学技術倫理などの多様な領域における問題分析と解決が図られている。

④ 人文社会科学諸分野・自然科学諸分野と融合する学際的な研究

哲学・倫理学・論理学と脳科学・心理学の融合による新たな研究・教育の可能性が創出されている。一例としては，領域開拓プログラム（課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業平成29～32年度）に採択された研究課題である「アイデンティティの内的多元性：哲学と経験科学の協同による実証研究の展開」を挙げるができる。哲学，社会心理学，脳科学の教員により，自己，意識，間主観性などの哲学の考察対象を神経科学や認知科学の手法を用いて解明することを目指す文理融合・学際的な共同研究である。

2. 本学の人文社会科学分野における教育の強み・特徴

本学が掲げる4つの基本理念（フロンティア精神，国際性の涵養，全人教育，実学の重視）の下，人文社会科学の諸領域において高度の専門的な教育研究を行うことにより，「ことば」に対する感受性及び論理的な思考力，総合的な判断力等を有する人材の育成を図ることを教育目標としている。先端的な人文社会科学の研究に基づいて，高度な専門教育を実施するとともに，学際的な研究に基づいた人

文社会科学の多様な諸分野を総合的に学修できるカリキュラムを提供してきた。また複数指導体制を採ることにより、充実した個別指導を実施してきた。教育の強み・特徴として次の2点を挙げるができる。

① 大型プロジェクトによる教育拠点形成

「魅力ある大学院教育」イニシアティブ「人間の統合的理解のための教育拠点」（平成17年～18年）、グローバルCOE「心の社会性に関する教育研究拠点」（平成19年～21年）、大学院教育支援プログラム「人文科学における実証的研究者の育成拠点」（平成19年～21年）、文部科学省科学補助金新学術領域研究「法と人間科学」（平成23～27年）に代表されるように、大型の教育研究プロジェクトによる教育拠点として、卓越した人材育成を実施してきた。

② 国際協働教育

これまで培ってきた上記の研究力の基礎の上に、学際的でグローバルな教育を実施している。例えば、アルバータ大学（カナダ）の教授と学生とともに、文化心理学に関する授業をHokkaidoサマー・インスティテュートと呼ばれる夏季特別講義として開講し、英語での活発な討論を通じて、参加学生は文化心理学に関する最新の知見を得るとともに、英語でのディベート力を向上させることができた。また、ハワイ大学（米国）の教授とともに、札幌で開催されている国際教育音楽祭パシフィック・ミュージック・フェスティバル（PMF）の協力を得て、芸術・政治・経済の文化研究に関する授業をHokkaidoサマー・インスティテュートとして開講し、PMFアカデミー生への英語でのインタビューや論文指導が行われ、参加学生は文化の多様性を学ぶとともに、英語力及び英語論文作成力を向上させることができた。

さらに、本学の教員が学生を帯同して海外で教育を実施するラーニング・サテライト事業の一環として、香港中文大学（中国）に赴き、同大学の教授とともに、現代社会の課題解決に向けた人文社会国際教育プログラムを実施し、フィールドワークを含む多彩なプログラムの中で、参加学生は英語を用いて現代社会の課題の解決方法を議論した。

これまで実施してきた教育の蓄積を活かしつつ、新たな教育課程として、人文学諸分野を深くまた広く学ぶことができる自由度の高いカリキュラム、人文学諸分野と人間科学諸分野を俯瞰できる授業科目、社会のニーズと学生のニーズに対応する教育組織、人材育成に特化した社会と繋がる実践を重視した教育プログラムを展開することにより、人文社会科学の総合的な教育を実施し、社会と学生のニーズに応える大学院教育を展開する。

3. 教育課程の特色

文学院の基礎となる教育組織である文学研究科は、昭和28年に7専攻が設置され、その後11専攻（哲学専攻、東洋哲学専攻、行動科学専攻、日本史学専攻、東洋史学専攻、西洋史学専攻、英米文学専攻、国文学専攻、独文学専攻、中国文学専攻、言語学専攻）に増えて平成12年の大学院重点化に至る。平成12年の大学院重点化により、思想文化学専攻、歴史地域文化学専攻、言語文学専攻、人間システム科学専攻の4専攻体制で教育を実施してきたが、平成31年4月からは、文学院として、

人文学専攻と人間科学専攻の2専攻体制で教育を提供する。

人文学専攻には7講座（16研究室）を設置し、人間科学専攻には4講座（4研究室）を設置する。

また文学院への改組に合わせて教育内容の見直しを行い、24の授業科目を新規開講するとともに、この間の各研究分野における研究動向を鑑みて、既存の授業科目のうち、29の授業科目について教育内容を見直し、授業科目名も合わせて変更する。

人文学専攻・人間科学専攻 共通授業科目名（必修科目）		
単位数		単位数
修士論文・特定課題指導特殊演習		2
人文社会構造論	1	多文化共生論
複合環境文化論	1	総合社会情報論
研究倫理・論文指導特殊講義		1

人文学専攻		人間科学専攻	
授業科目名	単位数	授業科目名	単位数
哲学特殊講義	2	言語文化論特別演習	2
倫理学特殊講義	2	日本古典文化論特殊講義	2
論理学特別演習	2	日本古典文化論特別演習	2
古代中世哲学特別演習	2	文学（国語・国文）特別演習	2
近現代哲学特別演習	2	中国文化論特殊講義	2
倫理学特別演習	2	中国思想特殊講義	2
インド哲学仏教学特殊講義	2	中国語学特殊講義	2
宗教学特殊講義	2	中国文学特殊講義	2
インド哲学仏教学特別演習	2	中国思想特別演習	2
宗教学特別演習	2	中国語学特別演習	2
日本史学特殊講義	2	中国文学特別演習	2
日本古代史特別演習	2	映像表象文化論特殊講義	2
日本中世近世史特別演習	2	現代表象文化論特殊講義	2
日本近現代史特別演習	2	日本現代文化論特殊講義	2
東洋史学特殊講義	2	映像表象文化論特別演習	2
東洋史学特別演習	2	現代表象文化論特別演習	2
西洋史学特殊講義	2	日本現代文化論特別演習	2
西洋史学特別演習	2	言語学特殊講義	2
考古学特殊講義	2	英語学特殊講義	2
考古学特別演習	2	西洋言語学特殊講義	2
北方考古学特別演習	2	日本語学特殊講義	2
考古学特別演習	2	言語学特別演習	2
環境考古学特別演習	2	英語学特別演習	2
考古学特別実習	2	西洋言語学特別演習	2
文化人類学特殊講義	2	日本語学特別演習	2
文化人類学特別演習	2	言語分析論特別演習	2
芸術学特殊講義	2	ｽﾗﾌﾞ・ユーﾗｼﾞｱ研究特殊講義	2
芸術学特別演習	2	ｽﾗﾌﾞ・ユーﾗｼﾞｱ総合研究特殊講義	2
博物館・文化財研究特殊講義	2	ｽﾗﾌﾞ・ユーﾗｼﾞｱ総合研究特別演習	2
博物館・文化財研究特別演習	2	ｽﾗﾌﾞ・ユーﾗｼﾞｱ文化研究特別演習	2
英米文学特殊講義	2	ｽﾗﾌﾞ・ユーﾗｼﾞｱ社会研究特別演習	2
西洋文学特殊講義	2	ｽﾗﾌﾞ・ユーﾗｼﾞｱ相関研究特別演習	2
英米文学特別演習Ⅰ	2	アイヌ・先住民学特殊講義	2
英米文学特別演習Ⅱ	2	アイヌ・先住民学総合特殊講義	2
英米文学特別演習Ⅲ	2	アイヌ・先住民学特別演習	2
西洋文学特別演習	2	アイヌ・先住民学海外特別演習	2

新規開講科目

教育内容を見直した授業科目

人文学専攻

【哲学宗教学講座】

- ・哲学倫理学研究室
- ・宗教学インド哲学研究室

【歴史学講座】

- ・日本史学研究室
- ・東洋史学研究室
- ・西洋史学研究室
- ・考古学研究室※

【文化多様性論講座】

- ・文化人類学研究室※
- ・芸術学研究室
- ・博物館学研究室※

【表現文化論講座】

- ・欧米文学研究室
- ・日本古典文化論研究室
- ・中国文化論研究室
- ・映像・現代文化論研究室

【言語科学講座】

- ・言語科学研究室

【スラブ・ユーラシア学講座】

- ・スラブ・ユーラシア学研究室

【アイヌ・先住民学講座】

- ・アイヌ・先住民学研究室※

※は新設の研究室

人間科学専攻

【心理学講座】

- ・心理学研究室

【社会学講座】

- ・社会学研究室

【行動科学講座】

- ・行動科学研究室

【地域科学講座】

- ・地域科学研究室

(1) 人文学専攻の設置

従来は研究者の育成を中心とした「タコ壺」的な教育が行われていたが、社会の多くの分野で活躍できる人材の育成を目指し、人文学系の3専攻(思想文化学専攻、歴史地域文化学、言語文学専攻)を人文学専攻に統合し、人文学の総合的な教育を可能にする教育体制をとる。これにより、人文学の専門分野の学修とともに、人文学の多様な分野の学修が可能となる。多様な分野の学修の必要性としては、例えば、ある地域の歴史を研究するには、その地域の思想、信仰、芸術、言語、文学も知らなければならないが、専攻が三つに分かれているので包括的に学びづらい状況にある。

また、学芸員になるために博物館学を学びたいが、現在は、思想文化学専攻と歴史地域文化学専攻のそれぞれで科目が分散して開講されているため、どこに進学すれば良いのか分かりにくく、また専攻が異なるため授業の取り方が自由にならないという状況にもある。加えて、高校の教育の現場からも、教員(高校・地理歴史)として魅力的な授業をするために、特定の地域の歴史を専門に研究するとともに、人文学分野を広く学修する必要があることがしばしば指摘されている。

既存の人文学系3専攻を人文学専攻に1専攻化することにより、学生が学びやすい環境と社会が求める人材の育成を目指す。

この人文学専攻の設置に際し、新しい研究室(考古学研究室、文化人類学研究室、博物館学研究室、アイヌ・先住民学研究室)を設置し、新たな授業科目を開講する。

考古学研究室では、総合博物館から1名の教員(本学大学院理学院の専任教員であり、考古学、生態学、分子生物学、解剖学の専門家)を文学院の専任教員として新たに加えることにより、「考古科学特別演習」と「環境考古学特別演習」を新規に開講し、これまでの考古学教育に自然科学的手法を取り入れた新たな教育を実施する。さらに、新たに埋蔵文化財調査センターの教員1名が文学院の専任教員として教育に参画することにより、「考古学特別実習」の担当を通じて、発掘調査及び考古学資料の保存等の実務的な教育をより一層強化する。

文化人類学研究室では、人びとが活動し生活する具体的な現場を理解することにより、現場の視点から新しい世界像を提示する文化人類学を目指し、「文化人類学特殊講義」を新たに開講する。

博物館学研究室では、専任教員2名とともに、総合博物館の1名の教員(本学大学院農学院の専任教員であり、昆虫分類学、体系学、生物地理学、博物館学の専門家)が兼任教員として文学院の教育に新たに参画することにより、「博物館・文化財研究特殊講義」と「博物館・文化財研究特別演習」を新規に開講し、より一層学際性が高い教育を実施する。本学における学芸員関係の授業の履修者は毎年増加傾向にあり、学芸員養成課程において開講されている「博物館概論」、「博物館資料論」、「博物館資料保存論」等の履修者数は、平成25年から平成29年度の5年間で増加傾向にある(下記の「学芸員養成課程授業科目履修者数一覧」参照)。このように学芸員及び博物館学に関する学生のニーズは高く、博物館学研究室の設置は、学生のニーズに合致したものである。

アイヌ・先住民学研究室では、「アイヌ・先住民学特殊講義」、「アイヌ・先住民学総合特殊講義」、「アイヌ・先住民学特別演習」、「アイヌ・先住民学海外特別演習」を新たに開講する。今回新たに文学院に参加するアイヌ・先住民研究センターの教員8名は、歴史学、考古学、文化人類学、博物館学、言語学、憲法学を専門としており、これらの専門分野を学際的に教育するとともに、海外の大学や研究機関と連携した国際的な教育を実施する。このアイヌ・先住民学研究室は、わが国で初めて大学院レベルでのアイヌ文化に関する総合的な学修を可能とするものである。さらに、このアイヌ・先

住民学研究室とともにスラブ・ユーラシア学研究室は、北海道の地域的な特性を活かした教育課程と
言うことができる。

(学芸員養成課程授業科目履修者数一覧)

	学部	大学院	合計		学部	大学院	合計		
平成25年度	博物館概論	129	22	151	平成28年度	博物館概論	175	18	193
	博物館資料論	114	19	133		博物館資料論	150	17	167
	博物館資料保存論	94	20	114		博物館資料保存論	155	15	170
	博物館展示論	98	16	114		博物館展示論	153	18	171
	教育社会科学講義(生涯学習論)	141	15	156		教育社会科学講義(生涯学習論)	144	18	162
	博物館教育論	96	23	119		博物館教育論	115	17	132
	博物館情報・メディア論	103	18	121		博物館情報・メディア論	121	15	136
	博物館経営論	133	18	151		博物館経営論	123	16	139
博物館実習	24	13	37	博物館実習	31	16	47		
計	932	164	1096	計	1167	150	1317		
平成26年度	博物館概論	161	12	173	平成29年度	博物館概論	150	10	160
	博物館資料論	125	13	138		博物館資料論	148	11	159
	博物館資料保存論	108	18	126		博物館資料保存論	142	13	155
	博物館展示論	108	19	127		博物館展示論	158	10	168
	教育社会科学講義(生涯学習論)	121	12	133		教育社会科学講義(生涯学習論)	143	13	156
	博物館教育論	85	18	103		博物館教育論	90	11	101
	博物館情報・メディア論	92	13	105		博物館情報・メディア論	121	8	129
	博物館経営論	132	14	146		博物館経営論	140	13	153
博物館実習	43	10	53	博物館実習	48	22	70		
計	975	129	1104	計	1140	111	1251		
平成27年度	博物館概論	187	7	194					
	博物館資料論	155	6	161					
	博物館資料保存論	150	7	157					
	博物館展示論	144	8	152					
	教育社会科学講義(生涯学習論)	153	8	161					
	博物館教育論	85	10	95					
	博物館情報・メディア論	84	6	90					
	博物館経営論	107	8	115					
博物館実習	19	14	33						
計	1084	74	1158						

(2) 人間科学専攻の設置

本専攻の基礎となる「人間システム科学専攻」は、平成12年の大学院重点化の際に新しく設置された専攻である。「人間システム科学」という名称は、昭和20年に出版されたルートヴィヒ・フォン・ベルタランフィの著書『一般システム理論：その基礎・発展・応用』(General System Theory: Foundations, Development, Application)などで提唱されたシステム論が基礎となって発展した「システム科学」の考え方に基づいている。様々な異領域をつなぐシステム科学は、研究対象を複数の要素から構成されるシステムとして把握し、その解明を目的とする学際的学問領域である。人間を研究対象とする学問分野において、その共通の方法としてシステム科学を選択し、このシステム科学の考え方を人文・社会科学に持ち込んで教育研究を進めることを目指したのが、「人間システム科学専攻」である。そのため本専攻では、各教員の専門をシステムの部分的な解明手段とし、それらを統合することでシステム全体を理解しようという試みが続けられた。このようなシステム科学に基づく教育研究は、多くの大学院生を集め成果を上げてきた。

しかし、研究の国際性や社会的貢献性を高める過程で、対象をシステムとして把握できない新たな研究課題が数多く見付き、その対応としてユニークネス性を重視した研究や、記述的方法論を重視した研究などの必要性が増大し、「システム科学」という名称が現在の教育研究には馴染まなくなってきた。

そのため、成果の普遍性や再現性を重視するシステム科学の立場を含め、上記の必要性に対応した人間そのものを対象とする広範囲な総合的学問としての人間科学の拠点形成を目指すために専攻名を

「人間科学専攻」に変更する。特に、これまでの人間システム科学専攻で蓄積してきた成果を土台とし、人文科学・社会科学・自然科学を統合することで、人間の内的環境と外的環境を並列的に扱うことのできる新たな人間科学の研究教育を行うことが可能となる。

授業科目としては、「地誌学特別演習」、「地理学特別演習」、「地域調査特別演習」、「地域科学特別演習」を新たに開講し、複合的な視野からの教育の充実を図る。人間科学専攻では、人間と社会に関する世界レベルの高度で先端的な学修が可能であり、実験、実習、調査など多彩なフィールドワークの方法論を学修することができる。

この専攻名の変更とともに、学位の名称も既に大阪大学やフロリダ州立大学（米国）など、国内外の大学で使用されており、国際通用性が高い「人間科学」を用いることにより、教育の内容と学位の名称を一致させることができる。

（3）カリキュラムの特色

① 2 専攻共通の必修科目の新設

文学院の学問分野全体を広く包括的に含む学際的な授業科目として4つの授業科目を新たに開講し、文学院の必修科目とする。この新授業科目は、これまでの学際的な研究教育の基盤の上に、人文社会科学及び自然科学を含む学際的な授業科目であり、文学院でしかできない授業科目である。

- 「人文社会構造論」は、国際関係の複雑化、価値観の多様化、民族主義の先鋭化など、現在の私たちを取り巻く世界レベルから生活空間レベルまで様々な人間社会の現象を、哲学的観点、文化的観点、歴史的観点、地理的観点、言語的観点、心理的観点など、複合的観点から分析する能力を身につけることにより、新たなものの見方や仕組みを設計し提案する能力を養う。そのために、旧来の狭い個別の学問領域にこだわらず、人文社会科学全般に関連する知見や問題意識を共有するとともに、より広い視野を持ってそれぞれの研究に取り組む姿勢を培うことを目指す科目である。
- 「複合環境文化論」は、環境問題、原子力発電を含むエネルギー問題、外来種問題、自然災害に関わる問題、少子高齢化問題、グローバル化に伴う産業構造の変化や社会的格差などの問題、及びそれらに対する対応など、私たちの生活の身近で生起している重要なテーマに関して、何が問題かを含めて、人文科学分野と社会科学分野における先端的な研究に基づいて複眼的に読み解き、重層的な学術知を人類社会における福祉の向上に貢献する人材の育成を目指す科目である。
- 「多文化共生論」は、世界各地の様々な文化的背景、価値観、歴史観、社会的慣習を学修することにより、自国の文化とは異なる文化を受容する社会的寛容性の涵養を図り、グローバル化していくこれからの社会において、国際理解や国際協力に貢献する人材の育成を目指す。文化に関して地域を超えて問題となりうる特定のテーマを設定し、人文学及び人間科学の諸分野における豊富な研究成果をもとに多角的に検討することを通じて、自身の専門領域にとどまらない幅広い視野で多種多様な文化のあり方を総合的に考察し、理解を深めることを目指す科目である。
- 「総合社会情報論」は、人文科学、社会科学及び自然科学の多くの領域において、これまで蓄積された様々なタイプの興味深い情報を活用しながら、受講者が数理的、論理的な思考力や情報の

高度な処理力・応用力を身に付けることができることを目的としている。また、俯瞰的な視野から、複雑で多面的な高度情報化社会において、課題を発見し解決に導くことができる人材の育成を目指している。国際的な情報交流の歴史、情報処理と伝達における言語の機能、情報の統計的分析法とその見方や解釈、脳などの認知システムにおける情報処理などを扱う科目である。

この4つの授業科目は、人文学と人間科学の双方を俯瞰的な視野から学ぶことができる科目であり、学生は、学際的な学問分野を学修することにより、研究を進めるためには関心を広く持つこと、幅広い分野の知識を修得することが重要なことを学ぶことができる。またこの4つの新規開講科目は、多分野の教員が共同で授業を行うため、複合的に考える力の養成を図ることができる。文学院が目指している人材育成に資する授業科目であり、この授業科目の履修により、学生はそれぞれの専門分野を超えて、文学院に共通する学びを修得することができる。

このような授業科目は、企業アンケート（若手社員に求める能力）で求められている能力を総合的に養成する社会的ニーズに対応する授業科目である。

② 修士論文ないしは特定課題研究に向けた体系的な学び

「研究倫理・論文指導特殊講義」を新たに開講し、研究倫理、研究対象の選定と目的設定、資料等へのアクセス方法、電子ジャーナルの利用方法、論文の投稿方法など、文学院の学問領域に必要な基本的な研究力を養成し、修士論文あるいは特定課題研究に取り組む基礎力を養う。この基礎の上に、修士2年次で履修する「修士論文・特定課題指導特殊演習」において、各専門分野における研究倫理、研究手法など当該分野の研究に必要な研究力を養成する。修士論文ないしは特定課題研究の作成に向けて、2年間の体系的な学修を可能とする。

③ 博士論文に向けた体系的な学び

博士後期課程の学生指導の充実を図るために、博士後期課程進学時に、指導教員1名と副指導教員2名を選出し、博士論文の提出まで一貫した複数指導体制を採る。また、博士後期課程1年次を対象とする「博士論文指導特殊演習Ⅰ」（2単位）において、各専門分野の研究テーマに関して、研究の実践、指導を行い、博士論文の準備を進めるとともに、論文指導を行う。さらに博士後期課程2年次を対象とする「博士論文指導特殊演習Ⅱ」（2単位）において、博士論文全体の構成等について具体的な指導を行い、研究成果を博士論文としてまとめることができるように指導する。この二つの演習により博士論文の準備を進めることで、3年次は博士論文の執筆に注力できるようになり、3年間の体系的な学修を可能とする。

④ 学生の志望に合わせた自由度の高いカリキュラム

修士課程の学生は、所属する専攻の選択必修科目のほか、自分の進路志望及び専門分野の特性に基づいて、人文学専攻と人間科学専攻のカリキュラムを自由に選択することができる。指導教員は、年2回の履修登録時（4月と10月）に、指導学生の履修指導を個別に行い、学生の研究分野と将来の志望に合わせて、学院の特色である学際的・総合的な教育を重視して、履修すべき授業科目について指導を実施する。オーダーメイド型のカリキュラムを学生に提供するとともに、文学院での学びを重視

するカリキュラムを提供する。

以下においてはその一例として、5つの履修モデルを例示する。

A) 二つの専攻の多彩な分野を広く学際的に学ぶ

「人文学専攻」と「人間科学専攻」の授業科目を幅広く履修し、多彩な分野を学修し、汎用的能力を身につけるとともに、総合的な知を形成することができる。

履修モデル①は、人文学専攻の文化人類学研究室を例にしたものであり、人文学専攻と人間科学専攻の諸分野を多彩に学び、フィールドワークで培った行動力を活かす職業（公務員等）を目指す。

履修モデル① 人文学専攻(学位：学術) **人文学専攻と人間科学専攻の諸分野を多彩に学び、フィールドワークで培った行動力を活かす公務員を目指す（文化人類学研究室）**

区分	1年目				2年目			
	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期
必修科目 7単位	人文社会 構造論 研究倫理・論文 指導特殊講義	複合環境 文化論	多文化 共生論	総合社会 情報論	修士論文・特定課題指導特殊演習 修士論文または特定課題の準備・提出			
所属する専攻の 選択必修科目 12単位以上	文化人類学特別演習(新) 博物館・文化財研究特別演習(新)		文化人類学特別演習(新) 文化人類学特殊講義(新)		アイヌ・先住民学特別演習(新) 博物館・文化財研究特殊講義(新)		アイヌ・先住民学特別演習(新)	
他専攻の科目	地域環境学特別演習(人) 地域科学特殊講義(人)		開発社会学特別演習(人) 社会学特殊講義(人)		心理学特殊講義(人) 地理学特別演習(新)			

入学

文学部・他学部・他大学・社会人

(新)：新規授業科目
(思)：旧思想文化学専攻の授業科目
(歴)：旧歴史地域文化学専攻の授業科目
(高)：旧言語文学専攻の授業科目
(人)：旧人間システム科学の授業科目

修士(学術)
修得単位数：33単位
(修了要件30単位以上)

履修モデル②は、人間科学専攻の行動科学研究室を例にしたものであり、広い視野から人間の行動を学び、データ分析のスキルを活かす民間企業（シンクタンク等）への就職を目指す。

履修モデル② 人間科学専攻(学位：人間科学) **広い視野から人間の行動を学び、データ分析のスキルを活かす民間企業（シンクタンク）への就職を目指す（行動科学研究室）**

区分	1年目				2年目			
	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期
必修科目 7単位	人文社会 構造論 研究倫理・論文 指導特殊講義	複合環境 文化論	多文化 共生論	総合社会 情報論	修士論文・特定課題指導特殊演習 修士論文または特定課題の準備・提出			
所属する専攻の 選択必修科目 12単位以上	行動科学特別演習(人) 行動科学特殊講義(人)		行動科学特別演習(人) 行動実験調査法特別演習(人)		集団力学特別演習(人) 社会心理学特別演習(人)		集団力学特別演習(人)	
他専攻の科目	言語学特殊講義(高) 倫理学特殊講義(思)		文化人類学特殊講義(新) 哲学特殊講義(思)		映像表象文化論特殊講義(高) 日本史学特殊講義(歴)			

入学

文学部・他学部・他大学・社会人

(新)：新規授業科目
(思)：旧思想文化学専攻の授業科目
(歴)：旧歴史地域文化学専攻の授業科目
(高)：旧言語文学専攻の授業科目
(人)：旧人間システム科学の授業科目

修士(人間科学)
修得単位数：33単位
(修了要件30単位以上)

B) 人文学の諸分野を学ぶ

人文学系の3専攻を「人文学専攻」専攻にまとめたことにより、これまで3専攻に分かれていた人文学諸分野の授業科目を自由に選択して履修することができる。専門分野の学修を進めるとともに、人文学諸分野を広く学修することができる。

履修モデル③は、人文学専攻の博物館学研究室を例にしたものであり、広く人文学諸分野を学修し、アートマネジメントができる博物館の学芸員を目指す。

履修モデル③ 人文学専攻(学位：学術) 人文学の多様な分野を学び、アートマネジメントができる博物館の学芸員になる(博物館学研究室)

区分	1年目				2年目			
	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期
必修科目 7単位	人文社会 構造論 研究倫理・論文 指導特殊講義	複合環境 文化論	多文化 共生論	総合社会 情報論	修士論文・特定課題指導特殊演習			
					修士論文または特定課題の準備・提出			
所属する専攻の 選択必修科目 12単位以上	博物館・文化財研究特殊講義(新) 博物館・文化財研究特別演習(新) アイヌ・先住民学特殊講義(新)		博物館・文化財研究特別演習(新) 日本史学特殊講義(歴) 文化人類学特別演習(新) 芸術学特殊講義(思)		芸術学特別演習(思) 倫理学特殊講義(思) 日本現代文化論特殊講義(言) 考古学特別演習(新)		芸術学特別演習(思)	
他専攻の科目	地域科学特殊講義(人)							

(新)：新規授業科目
(思)：旧思想文化学専攻の授業科目
(歴)：旧歴史地域文化学専攻の授業科目
(言)：旧言語文学専攻の授業科目
(人)：旧人間システム科学の授業科目



修士(学術)
修得単位数：33単位
(修了要件30単位以上)

C) 専門分野を深く学ぶ

履修モデル④は、人文学専攻の日本史学研究室を例にしたものであり、人文学専攻内の日本史の専門分野の授業を中心に履修しながら、人文学諸分野を広く学び高校の教員を目指す。

履修モデル④ 人文学専攻(学位：文学) 日本史を深く学び、高校の教員(地歴)になる(日本史学研究室)

区分	1年目				2年目			
	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期
必修科目 7単位	人文社会 構造論 研究倫理・論文 指導特殊講義	複合環境 文化論	多文化 共生論	総合社会 情報論	修士論文・特定課題指導特殊演習			
					修士論文または特定課題の準備・提出			
所属する専攻の 選択必修科目 12単位以上	日本史学特殊講義(歴) 日本中世近世史特別演習(歴) 日本古代史特別演習(歴)		日本中世近世史特別演習(歴) 日本古代史特別演習(歴) 東洋史学特殊講義(歴)		日本現代文化論特殊講義(言) アイヌ・先住民学特別演習(新) 西洋史学特殊講義(歴) 日本近現代史特別演習(歴)		日本近現代史特別演習(歴)	
他専攻の科目	地理学特別演習(新)		人文地理学特別演習(人)					

(新)：新規授業科目
(思)：旧思想文化学専攻の授業科目
(歴)：旧歴史地域文化学専攻の授業科目
(言)：旧言語文学専攻の授業科目
(人)：旧人間システム科学の授業科目



修士(文学)
修得単位数：33単位
(修了要件30単位以上)

履修モデル⑤は、人間科学専攻の心理学研究室を例にしたものであり、世界レベルの研究に触れながら、人間科学に関する充実した実験や実習を通じて、科学的・実証的なアプローチを学修し、研究者を目指す。

履修モデル⑤ 人間科学専攻(学位：人間科学) 認知科学を専門的に学び、研究者を目指す(心理学研究室)

区分	1年目				2年目			
	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期
必修科目 7単位	人文社会 構造論 研究倫理・論文 指導特殊講義	複合環境 文化論	多文化 共生論	総合社会 情報論	修士論文・特定課題指導特殊演習			
					修士論文または特定課題の準備・提出			
所属する専攻の 選択必修科目 12単位以上	行動理論特別演習(人) 思考過程論特別演習(人) 心理学特殊講義(人)		行動理論特別演習(人) 思考過程論特別演習(人) 社会学特殊講義(人)		知識構造論特別演習(人) 行動科学特殊講義(人) 認知理論特別演習(人) 学習過程論特別演習(人)		知識構造論特別演習(人)	
他専攻の科目	倫理学特殊講義(思)		言語学特殊講義(言)					

(思)：旧思想文化学専攻の授業科目
(言)：旧言語文学専攻の授業科目
(人)：旧人間システム科学の授業科目



修士(人間科学)
修得単位数：33単位
(修了要件30単位以上)

⑤ 社会で活躍するための教育プログラム「教養深化プログラム」の実施

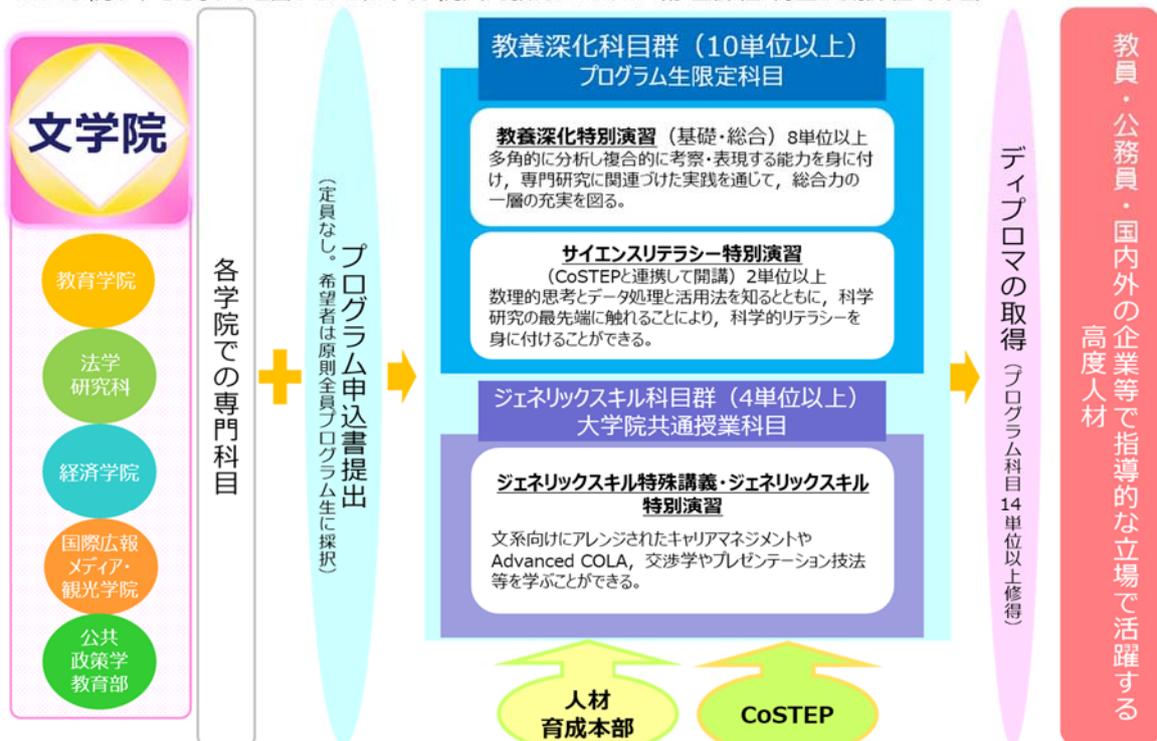
社会の多くの分野で活躍することができる高度人材育成のために、修士課程及び博士後期課程学生を対象にした「教養深化プログラム」を新たに実施する。このプログラムは、修士課程を修了して就職を希望する学生の増加及び高度な研究能力を持つ有為な博士人材を社会に輩出する必要性に対応するものである。

「教養深化プログラム」は、複雑で多面的な性格を持つ多くの社会問題に対応できる力の向上、人文社会科学の知を基礎として数理的な思考力を身につけることにより、課題を発見し解決する力、俯瞰する力、複合的に考え正しく伝える力、行動する力を身につけることを目標としている。

この目標を達成するために、教養深化科目群とジェネリックスキル科目群を設定する。教養深化科目群は、人文社会科学諸分野を横断する総合的な学修を可能とする教養深化特別演習と数理的思考やデータ分析と活用法を学修するとともに、自然科学の最先端の知に触れる学際的・文理融合的なサイエンスリテラシー特別演習からなる。ジェネリックスキル科目群は、人材育成本部及びCoSTEP（北海道大学高等教育推進機構科学技術コミュニケーション教育研究部門）と連携して、社会と繋がる実践を重視したジェネリックスキル特殊講義及びジェネリックスキル特別演習からなる。

「教養深化プログラム」は、文学院の教員が中心となって運営するプログラムであり、プログラム生としては主に文学院の修士課程及び博士後期課程の学生を対象とするが、教育学院，法学研究科，経済学院，国際広報メディア・観光学院，公共政策学教育部の他の文系5大学院の学生も参加することが可能である。人材育成に特化した大学院レベルの教育プログラムとしては、国内では類例がないプログラムである。

※文学院が中心となって運営する文系6大学院共同教育プログラム（修士課程・博士後期課程 共通）



(注) Advanced COLA: Advanced Course of Liberal Arts Administrationの略、企業の第一線で活躍する博士人材を講師として、文系大学院生のキャリア形成を目指す授業。

III. 3つのポリシー

① アドミッションポリシー

グローバル化・情報化が進展する中で、従来の価値観が変化しつつある現代にあって、そこに生きる人間と人間が創り出す社会や文化の本質を学ぶことができる大学院教育の提供し、人文社会科学諸分野における専門的知識と研究方法を身に付け、社会の様々な領域において活躍できる人材を育成する。

【人文学専攻】

修士課程

- 人文学に属する様々な研究領域における考え方や方法論を広く学びながら、専門分野に関する文献を正確に解読できる言語運用能力と、それをもとに問題を発見し分析する能力を身につけることを目指す学生を求める。
- 研究成果を明解に説明できるコミュニケーション能力を身につけ、専門的知識を生かして社会で活躍することを望む学生を求める。

博士後期課程

- 人文学の諸領域に関する高度な専門知識をもとに研究を推進し、独創性の高い研究を遂行するとともに、高度なコミュニケーション能力によって国際的な交流を深めることを目指す学生を求める。

【人間科学専攻】

修士課程

- 人間科学の基礎分野から応用分野まで学び、人間個人や集団に関する人文社会科学的な知識と研究能力を身につけることを目指す学生を求める。
- 国際的に通用するコミュニケーション能力をもち、企業、学校、行政などの業種で専門的技術や考察力等を活かすことを目指す学生を求める。

博士後期課程

- 人間個人や集団について人文社会科学的立場から、実証的なアプローチによって研究を進め、広汎で深い知識を修得するとともに、優れた調査能力・分析能力・考察力等を身につけ、独創性の高い研究を目指す学生を求める。

② カリキュラム・ポリシー

人文学及び人間科学の諸分野の多様な学問領域の研究に関する基本的かつ体系的な知識の総合的な学修を可能とするカリキュラムを実施する。また少人数の授業や指導教員による直接指導を受け、専門分野の研究を深めるためのカリキュラム及び専門分野以外に視野を広げ、研究をより豊かにするために、隣接する分野を始め幅広い分野の授業科目が履修できるカリキュラムを編成・実施する。

【人文学専攻】

修士課程

- 各専門分野における最先端の研究成果を学ぶ講義や、様々な資料・文献類の講読や研究報告により、問題発見能力と分析能力を身に付ける教育を実施する。
- 研究対象となる国や地域への留学や現地調査を推奨し、修了後に専門的知識を活かして社会で活躍できる能力を身に付ける教育を実施する。

博士後期課程

- 専門分野での深い学識の涵養と継承を図り、自立した研究者として必須の問題発見力や問題解決力、またそれによって得られる独創的な研究成果を論理的に発表する能力を身に付ける教育を実施する。
- 研究の高度化を図るために対象となる国や地域への留学や現地調査を推奨し、グローバルな視点から研究する人材を育成する教育を実施する。

【人間科学専攻】

修士課程

- 人間と社会を理解するために、微視的及び巨視的な観点を獲得することができる教育を実施する。
- 実験、コンピュータ・シミュレーション、社会調査、聞き取り調査、フィールドワークなどの多様な方法論を修得することができる教育を実施する。

博士後期課程

- 世界レベルの研究拠点のメリットを活かした高度で先端的な教育を実施する。
- 研究の高度化を図るために対象となる国や地域への留学や現地調査を推奨し、グローバルな視点から研究する人材を育成する教育を実施する。

③ ディプロマ・ポリシー

高度な研究，社会で指導的に活躍するための基礎となる論理的な思考力，総合的な判断力，専門領域を個別のかつ総合的に理解し，関連する問題を解決することができる能力を修得している者に学位を授与する。

【人文学専攻】

修士課程

- 各領域に関わる理論的あるいは実証的な基礎研究，さらに現代社会の諸問題をめぐる研究において，それぞれの研究の方法を身につけ，これまでの研究を適切に理解するとともに，必要に応じて現地調査を含むデータ収集とその処理・分析を的確に行う能力
- 異文化に対する知識とその深い理解力，様々な地域や民族がかかえる現代的課題を具体的に把握する観察力と分析力を基盤とした，高度の専門性を必要とする職業を担う人間としての総合的な能力

博士後期課程

- 各領域に関する高度な専門的知識をもとに調査・研究・保存・活用を行い、学会発表などで各分野の学界に貢献し、博士論文を完成させることができる、卓越した研究推進能力と問題解決能力
- 広汎な文化的事象を深く理解し、専門とする研究テーマについて広くかつ深い視点と知識を持ち、社会にわかりやすく説明し知的還元を行う能力

【人間科学専攻】

修士課程

- 認知心理学，社会心理学，認知科学，行動科学，社会学，地域社会学，人文地理学，社会生態学に関する専門的知識を修得できる能力
- 人間と社会の理解に向けた科学的・実証的なアプローチにより研究を遂行できる能力

博士後期課程

- 人間と社会の理解に向けた科学的・実証的なアプローチにより博士論文を完成させる能力
- 広汎な文化的事象を深く理解し、専門とする研究テーマについて広くかつ深い視点と知識を持ち、社会にわかりやすく説明し知的還元を行う能力

IV. 学位の名称

文学院では、以下の学位を授与する。

【修士課程】

- 人文学専攻： 修士（文学）・修士（学術） Master（in the field of Humanities）
- 人間科学専攻： 修士（人間科学） Master（in the field of Human Sciences）

【博士後期課程】

- 人文学専攻： 博士（文学）・博士（学術） Doctor of Philosophy（in the field of Humanities）
- 人間科学専攻： 博士（人間科学） Doctor of Philosophy（in the field of Human Sciences）

人文学専攻の「文学」と「学術」の学位については、基礎となる教育組織である文学研究科において従来提供していたものである。この二つの名称については、学位論文の内容によって区別する。「学術」については、学際的な地域研究に重点があるスラブ・ユーラシア学分野の学位論文で従来から用いられており、同様の理由から新設のアイヌ・先住民学分野の学位論文についても「学術」の学位を用いる予定である。また博物館学分野では、すでに総合研究大学院大学、お茶の水女子大学、横浜市立大学などで「学術」の学位を用いており、博物館学分野では「学術」の通用性が高いことから、博物館学分野の学位論文についても「学術」を用いる予定である。それ以外の分野の学位論文については、従来通り「文学」を用いることを予定している。

人間科学専攻の基礎となる専攻では、システム科学的立場から異領域を繋ぐ学際的な教育研究を行うために「人間システム科学」という名称を用い、本名称は研究分野として一般的ではないため、学位の名称としては「文学」を用いてきた。しかし教育研究の進展により、研究対象をシステムとして捉えることができない新たな研究課題が数多く見つかったため、これまでに蓄積してきた成果を土台とし、人間そのものを対象とする広範囲な総合科学としての「人間科学」の教育研究を実施するために専攻の名称を「人間科学」に変更することに伴い、学位の名称も既に国内外で通用性の高い「人間科学」に変更する。

また、これまで「文学」という名称を用いてきたことについて、学生から、人間システム科学専攻で学んだことが企業側に伝わりにくく、就職活動で苦労したこと、あるいは企業から、就職後の配属の決定において苦労したという声が多く寄せられていた。今回学位の名称を「人間科学」に変更することにより、この点についても改善を図ることができる。

学位としての「人間科学」は、既に国内外で学位の名称として通用性が高く、次の国内外の他の大学においても、本学の学位名称と同じ「人間科学 (Human Sciences)」が使用されている。

国内の事例（一部）

大阪大学	人間科学研究科	修士・博士
大阪府立大学	人間社会システム研究科	修士・博士
早稲田大学	人間科学研究科	修士・博士
西南大学	人間科学研究科	修士・博士
聖心女子大学	文学研究科	修士・博士

外国の事例（一部）

ネブラスカ大学リンカーン校(米国)， フロリダ州立大学(米国)， デブレツェン大学(ハンガリー)， オスナブリュック大学(ドイツ)， ブリュッセル自由大学(ベルギー)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
【修士課程】 必修科目6科目7単位，所属する専攻の選択必修科目のうち特殊講義2単位以上及び特別演習または特別実習10単位以上，合計で30単位以上を修得し，修士論文または特定課題研究の審査及び試験に合格すること。 ※同一授業科目で内容の異なる授業が開講される場合は，当該授業科目を複数履修することができる。	1学年の学期区分	4学期制
	1学期の授業期間	8週間
	1時限の授業時間	90分

【博士後期課程】

指導教員の担当する授業科目「博士論文指導特殊演習Ⅰ」(2単位)及び「博士論文指導特殊演習Ⅱ」(2単位)を修得し、博士論文の審査及び試験に合格すること。

教育課程等の概要(事前伺い)

(既設 文学研究科 思想文化学専攻 修士課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
必修科目	修士論文・特定課題指導特殊演習	2前・後	2				○		8	7		1		共同
	小計(1科目)	—	2	0	0		—		8	7	0	1	0	0
選択科目	古代中世哲学特殊講義	1・2前		2		○			1					集中 兼9 オムニバス
	近世哲学特殊講義	1・2後		2		○			1					
	現代哲学特殊講義	1・2前		2		○			1	1		1		
	倫理学特殊講義	1・2前・後		2		○			2					
	応用倫理学特殊講義	1・2前・後		2		○			1	1				
	論理学特殊講義	1・2前・後		2		○			1	1		1		
	古代中世哲学特別演習	1・2後		2			○		1					
	近世哲学特別演習	1・2前		2			○		1					
	現代哲学特別演習	1・2前・後		2			○		2	1		1		
	倫理学特別演習	1・2前・後		2			○		2	2				
	応用倫理学特別演習	1・2後		2			○		1					
	インド哲学特殊講義	1・2前		2		○			1					
	仏教学特殊講義	1・2前		2		○				1				
	宗教学特殊講義	1・2前・後		2		○			1	1				
	インド哲学特別演習	1・2後		2			○		1					
	仏教学特別演習	1・2後		2			○			1				
	宗教学特別演習	1・2前・後		2			○		1	1				
	芸術学特殊講義	1・2後		2		○			1					
	美学文化学特殊講義	1・2前		2		○				1				
	芸術学特別演習	1・2前		2			○		2	2				
	美学文化学特別演習	1・2後		2			○		2	2				
小計(21科目)	—		0	42	0		—	8	7	0	1	0	兼9	
合計(22科目)	—		2	42	0		—	8	7	0	1	0	兼9	
学位又は称号	修士(文学)		学位又は学科の分野			文学関係								

※同一授業科目で内容の異なる授業が開講される場合は、当該授業科目を複数履修することができる。

教育課程等の概要（事前伺い）																	
（既設 文学研究科 思想文化学専攻 博士後期課程）																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				備考				
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教		助 手			
必修科目	博士論文指導特殊演習	1・2通	2				○				8	7		1			共同
合計（1科目）		—	2	0	0	—			8	7	0	1	0	0	—		
学位又は称号		博士（文学）		学位又は学科の分野			文学関係										

※同一授業科目で内容の異なる授業が開講される場合は、当該授業科目を複数履修することができる。

教育課程等の概要(事前伺い)														
(既設 文学研究科 歴史地域文化学専攻 修士課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
必修科目	修士論文・特定課題指導特殊演習	2前・後	2				○		19	7		1		共同
	小計(1科目)	—	2	0	0		—		19	7	0	1	0	0 —
選択科目	日本史学特殊講義	1・2前・後		2		○			2	3				兼1
	日本古代史特別演習	1・2前・後		2			○			1				
	日本中世近世史特別演習	1・2前・後		2			○		1	1				
	日本近現代史特別演習	1・2前・後		2			○		1	1		1		
	東洋史学特殊講義	1・2前・後		2		○			1	1				
	東洋古代中世史特別演習	1・2前・後		2			○			1				
	東洋近現代史特別演習	1・2前・後		2			○		1					
	西洋史学特殊講義	1・2前		2		○			3	1				
	西洋史学総合特別演習	1・2後		2			○		3	1				
	西洋古代史特別演習	1・2前・後		2			○		1					
	西洋中世近世史特別演習	1・2前・後		2			○		1					
	西洋近現代史特別演習	1・2前・後		2			○		1	1				
	東欧史特別演習	1・2前		2			○		1					
	歴史文化学特殊講義	1・2前・後		2			○		3					兼1
	歴史文化学特別演習	1・2後		2				○	2					
	歴史文化学特別実習	1・2前・後		2				○	1					
	社会文化史学特別演習	1・2前		2				○	1					
	文化人類学特別演習	1・2前・後		2				○	1					
	国際文化関係学特別演習	1・2前		2				○	1					
	北方文化論特殊講義	1・2前・後		2			○		2	1				
	考古学特別演習	1・2前・後		2				○	1	1				オムニバス
	北方考古学特別演習	1・2前・後		2				○		1				
	人類学特別演習	1・2後		2				○	1					
	北方人類学特別演習	1・2前		2				○	1					
	民族言語学特別演習	1・2前		2				○	1					
	北方民族言語学特別演習	1・2後		2				○	1					
	北方文化論特別実習	1・2前		2					1	1				集中・共同
	スラブ社会文化論特殊講義	1・2前・後		2			○		4	1				オムニバス
	スラブ社会文化論総合特別演習	1・2前・後		2				○	7					オムニバス
	スラブ地域文化論特別演習	1・2前・後		2				○	2	1				
	スラブ地域社会論特別演習	1・2前・後		2				○	2					
	スラブ地域相関論特別演習	1・2前・後		2				○	1					
	小計(32科目)	—	0	64	0		—		19	7	0	1	0	兼2 —
	合計(33科目)	—	2	64	0		—		19	7	0	1	0	兼2 —
学位又は称号	修士(文学) 修士(学術)		学位又は学科の分野			文学関係								

※同一授業科目で内容の異なる授業が開講される場合は、当該授業科目を複数履修することができる。

教育課程等の概要（事前伺い）															
（既設 文学研究科 歴史地域文化学専攻 博士後期課程）															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置			備考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師		助 教	助 手	
必修科目	博士論文指導特殊演習	1・2通	2				○		19	7		1		共同	
合計（1科目）		—	2	0	0	—			19	7	0	1	0	0	—
学位又は称号		博士（文学） 博士（学術）		学位又は学科の分野			文学関係								

※同一授業科目で内容の異なる授業が開講される場合は、当該授業科目を複数履修することができる。

教育課程等の概要 (事前伺い)														
(既設 文学研究科 言語文学専攻 修士課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
必修科目	修士論文・特定課題指導特殊演習	2前・後	2				○		17	8		2		共同
	小計 (1科目)	—	2	0	0		—		17	8	0	2	0	—
選択科目	英語英米文学特殊講義	1・2前・後	2			○			2			1		
	ドイツ語ドイツ文学特殊講義	1・2前・後	2			○				1				
	ロシア語ロシア文学特殊講義	1・2前	2			○			1					
	フランス語フランス文学特殊講義	1・2前・後	2			○			1	1				
	西洋古典学特殊講義	1・2後	2			○				1				
	英米文学特別演習Ⅰ	1・2前・後	2				○		1					
	英米文学特別演習Ⅱ	1・2前・後	2				○		1					
	英米文学特別演習Ⅲ	1・2前・後	2				○		1					
	ドイツ文学特別演習	1・2後	2				○					1		
	ロシア文学特別演習	1・2前・後	2				○		1					
	フランス文学特別演習	1・2前・後	2				○			1				
	西洋古典学特別演習	1・2前・後	2				○			1				
	言語情報学特殊講義	1・2前	2			○			1					
	英語学特別演習Ⅰ	1・2前	2				○		1					
	英語学特別演習Ⅱ	1・2後	2				○		1					
	ドイツ語学ゲルマン語学特別演習	1・2前・後	2				○		1					
	ロシア語学特別演習	1・2前・後	2				○		1					兼1
	フランス語学ロマンス語学特別演習	1・2前・後	2				○		1					
	国語学特別演習	1・2前・後	2				○		2					
	言語学特別演習Ⅰ	1・2前	2				○			1				
	言語学特別演習Ⅱ	1・2前	2				○		1					
	言語情報学特別演習	1・2前	2				○			1				
	日本語科学特殊講義	1・2前	2			○			1					
	言語文化比較論特殊講義	1・2前・後	2			○								兼2
	日本語科学特別演習	1・2前・後	2				○		2					
	言語分析論特別演習	1・2後	2				○		1					
	言語文化比較論特別演習	1・2前・後	2				○		3	3				
	日本文化論特殊講義	1・2前	2			○			1					
	日本古典文化論特別演習	1・2前	2				○		1	1				
	日本語文化論特別演習	1・2後	2				○		1					
	文献学 (国語・国文) 特別演習	1・2後	2				○			1				
	日本文化史特別演習	1・2前	2				○		1					
	中国文化論特殊講義	1・2後	2			○			1					
	中国思想特殊講義	1・2前・後	2			○			1					
	中国語学特殊講義	1・2前	2			○			1					
	中国文学特殊講義	1・2後	2			○			1					
	中国文化論特別演習Ⅰ	1・2前	2				○		1					
	中国文化論特別演習Ⅱ	1・2後	2				○		1					
	中国思想特別演習Ⅰ	1・2前	2				○		1					
	中国思想特別演習Ⅱ	1・2後	2				○		1					
	中国語学特別演習Ⅰ	1・2前	2				○		1					
	中国語学特別演習Ⅱ	1・2後	2				○		1					
	中国文学特別演習Ⅰ	1・2前	2				○		1					
	中国文学特別演習Ⅱ	1・2後	2				○		1					
	映像・図像表現文化論特殊講義	1・2前	2			○				1				
	映像・図像表現文化論特別演習	1・2前・後	2				○		1	1				
	近代表現文化論特殊講義	1・2前	2			○				1				
近代表現文化論特別演習	1・2後	2				○			1					
日本近代文化論特殊講義	1・2前・後	2			○			2						
日本近代文化論特別演習	1・2前・後	2				○		2						
小計 (50科目)	—	—	0	100	0	—	—	17	8	0	2	0	兼3	—
合計 (51科目)	—	—	2	100	0	—	—	17	8	0	2	0	兼3	—
学位又は称号	修士 (文学)													
学位又は学科の分野	文学関係													

※同一授業科目で内容の異なる授業が開講される場合は、当該授業科目を複数履修することができる。

教育課程等の概要（事前伺い）															
（既設 文学研究科 言語文学専攻 博士後期課程）															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教		助 手	
必修科目	博士論文指導特殊演習	1・2通	2				○		17	8		2		共同	
合計（1科目）		—	2	0	0	—			17	8	0	2	0	0	—
学位又は称号		博士（文学）		学位又は学科の分野				文学関係							

※同一授業科目で内容の異なる授業が開講される場合は、当該授業科目を複数履修することができる。

教育課程等の概要 (事前伺い)														
(既設 文学研究科 人間システム科学専攻 修士課程)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
必修科目	修士論文・特定課題指導特殊演習	2前・後	2				○		11	9		3		共同
	小計 (1科目)	—	2	0	0		—		11	9	0	3	0	0
選択科目	心理学特殊講義	1・2前		2		○			4	2				オムニバス
	認知理論特別演習	1・2前		2			○			1				
	行動理論特別演習	1・2前・後		2			○		1					
	知覚情報論特別演習	1・2前・後		2			○		1					
	表象構造論特別演習	1・2後		2			○			1				
	知識構造論特別演習	1・2前・後		2			○		1			1		共同
	思考過程論特別演習	1・2前・後		2			○			1				
	学習過程論特別演習	1・2前・後		2			○		1					
	行動科学特殊講義	1・2前		2		○			1					
	行動科学特別演習	1・2前・後		2			○		2	2				
	行動実験調査法特別演習	1・2前・後		2			○			1				
	計量行動学特別演習	1・2前		2			○			1		1		共同
	数理行動学特別演習	1・2後		2			○			1				
	社会心理学特別演習	1・2前		2			○			1				
	集団力学特別演習	1・2前・後		2			○		1	1				
	社会学特殊講義	1・2後		2		○			1					
	社会調査法特別演習	1・2前		2			○		1					
	社会学理論特別演習	1・2前・後		2			○		2	1				オムニバス
	社会集団論特別演習	1・2後		2			○		1					
	社会構造論特別演習	1・2前		2			○		1					
	社会変動論特別演習	1・2後		2			○			1				
	応用社会学特別演習	1・2前		2			○			1				
	地域科学特殊講義	1・2前		2		○			2	5		1		関中・オムニバス
	地域分析法特別演習	1・2前		2			○		1					
	地域社会学特別演習	1・2後		2			○		1					
	開発社会学特別演習	1・2前・後		2			○			1				
	地域環境学特別演習	1・2前・後		2			○		1			1		
	社会生態学特別演習	1・2前・後		2			○		1			1		
	人文地理学特別演習	1・2後		2			○		1					
	経済地理学特別演習	1・2前・後		2			○			1				
	小計 (30科目)	—	0	60	0		—		11	9	0	3	0	0
	合計 (31科目)	—	2	60	0		—		11	9	0	3	0	0
学位又は称号	修士 (文学)		学位又は学科の分野			文学関係								

※同一授業科目で内容の異なる授業が開講される場合は、当該授業科目を複数履修することができる。

教育課程等の概要（事前伺い）																		
（既設 文学研究科 人間システム科学専攻 博士後期課程）																		
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				備考					
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教		助 手				
必修科目	博士論文指導特殊演習	1・2通	2				○					11	9		3			共同
合計（1科目）		—	2	0	0	—			11	9	0	3	0	0	—			
学位又は称号		博士（文学）		学位又は学科の分野			文学関係											

※同一授業科目で内容の異なる授業が開講される場合は、当該授業科目を複数履修することができる。

授 業 科 目 の 概 要			
(文学院 人文学専攻 修士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	修士論文・特定課題指導特殊演習	<p>(概要) 人文学専攻における各専門分野の研究テーマに関して、研究の実践、指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるように指導を行う。</p> <p>(1 山本 文彦) 西洋中世史及び近世史研究における修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する史料の読解整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。</p> <p>(2 岩下 明裕) スラブ・ユーラシア地域に関わる国際関係やボーダースタディーズにおける修士論文あるいは当該テーマの作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の先行研究及び方法の整理、研究に使用する文献や情報の分析整理及び扱い方、フィールドワーク実践、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。</p> <p>(3 応 雄) 映画、イメージを始めとする映像表象文化研究における修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題提起における学術的価値についての検討、当該課題の先行研究の整理、論文の全体構成及び論の進め方等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。</p> <p>(4 宇山 智彦) 中央ユーラシア地域研究・旧ソ連諸国政治研究に関する修士論文執筆または特定課題研究のために必要な指導を実施する。論文の問題設定と構成、先行研究の把握、資料の収集と読解・分析方法などについて、各人のテーマと研究進捗状況に合わせて指導士、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。</p> <p>(5 WOLFF DAVID) ロシア史及びシベリア・極東研究における修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する史料の読解整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。</p> <p>(6 大西 郁夫) 近現代ロシア文学研究における修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する資料の読解整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。</p>	共同

(7 押野 武志)

日本近現代文学・文化研究における修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該課題の研究手法、研究に使用する資料の読解整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(8 小田 博志)

文化人類学の分野における修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。履修生から研究の進捗状況の報告を受け、段階に応じて、調査の進め方、分析の仕方、論文の書き方について指導を実施し、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(9 加藤 重広)

日本語を対象とする研究、語用論や統語論の研究、社会言語学や言語基礎論の研究について、修士論文を完成させたり、特定課題演習を成功させたりするのに必要な基礎的能力を習得するための研究指導を実施する。日本語学や言語学の方法論を身につけ、論文や報告書を執筆する上で求められる論理構成力や表現力などにも気を配りながら、研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(10 加藤 博文)

先住民考古学及び先住民文化遺産学に関する修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の課題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する史資料の扱い方、論文作成の技法、研究倫理等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(11 権 錫永)

日本近代思想史・文化史に関する修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。課題設定とその妥当性、当該分野の研究史の整理、論証で用いる資料の収集・整理・読解、論文の構成などについて、研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(12 藏田 伸雄)

現代規範倫理学・メタ倫理学・応用倫理学及び近現代哲学研究における修士論文作成あるいは特定課題研究の遂行のために必要な研究指導を実施する。修士論文における問題設定の妥当性、当該問題に関わる研究史の整理、論文に使用する文献の読解、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(13 小杉 康)

考古学研究における修士論文または特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。研究の全体計画、問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する考古資料の扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(14 後藤 康文)

平安朝文学作品・作家等をテーマとする修士論文執筆あるいは特定課題作成のために必要な研究指導を実施する。論文等の問題設定の妥当性、研究史の捕捉とその整理方法、使用する資料の読解及び扱い方、論文の構成等に関する助言と適切な指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(15 近藤 浩之)

中国の古代思想，易学思想の研究における修士論文あるいは特定課題を作成するために必要とされる研究指導を実施する。当該分野における先行研究の整理方法，問題設定の妥当性，研究対象の文献資料の読解，論文構成の工夫等について指導し，修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(16 佐々木 啓)

宗教学・宗教史学における修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性，当該分野の研究史の整理方法，研究に使用する資料の読解整理及び扱い方，論文の構成等について研究指導を行い，修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(17 佐々木 亨)

博物館学及び博物館人類学などにおける，修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。課題設定の妥当性，先行研究の吟味，設定した課題の当該研究分野における位置づけの検討，使用するデータ・情報に関する調査方法・分析方法の検討，修士論文あるいは特定課題の構成の検討などについて研究指導を行い，修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(18 佐藤 知己)

アイヌ語及び北方言語に関する修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。テーマの選定，先行研究の調査，収集，データ収集，仮説の設定，データの分析，結果の提示について指導を行う。また，草稿について助言を行う。特定課題提出予定者に対しては，課題となるテーマ，文献の選定に関して指導を行い，そのテーマに関する概説報告書を執筆するための指導を行う。また，報告書の草稿について，形式，内容両面に関して助言を行い，修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(19 清水 誠)

ドイツ語学及びゲルマン語学の分野に関する修士論文作成のために必要な研究指導を実施する。卒業論文における研究成果を確認するとともに，修士論文のテーマ，構成，資料，方法について検討し，その妥当性を検証する。また修士論文で使用する資料及び方法論を確認し，専門的な研究指導を行い，修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(20 白木沢 旭児)

日本現代史に関する修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。課題設定とその妥当性，当該分野の研究史の整理，論証で用いる資料の収集・整理・読解，論文の構成などについて，研究指導を行い，修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(21 砂田 徹)

西洋古代史研究における修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性，当該分野の研究史の整理方法，研究に使用する史料の読解整理及び扱い方，論文の構成等について研究指導を行い，修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(22 瀬名波 栄潤)

英米・英語圏文学を中心に、学位取得に向けた論文・特定課題の研究指導を実施する。学位に資する第1・第2次資料を収集させ、内容理解、全体の構成、並びに論理展開を検証・指導し、妥当性と新規性を確認することにより、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(23 仙石 学)

中東欧比較政治・政治経済における修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究の概観、研究に使用する資料・データ収集と分析の方法、論文の構成などについて研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(24 田口 茂)

現象学、近代日本哲学、その他の現代哲学に関する修士論文作成あるいは特定課題研究の遂行のために必要な研究指導を実施する。修士論文における問題設定の妥当性、当該問題に関わる研究史の整理、論文に使用する文献の読解、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(25 竹内 康浩)

英米・英語圏文学に関する修士論文・特定課題執筆に向けた研究指導を実施する。研究倫理やデータベースの利用法などの基礎的な事柄から、先行論文の読解、自らの研究対象の批評上の意義などを指導し、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(26 武田 雅哉)

中国の文学、言語、及び芸術の研究における修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する史料の読解整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(27 谷本 晃久)

日本近世史に関する修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。課題設定とその妥当性、当該分野の研究史整理、論証で用いる史資料の収集・整理・読解、論文の構成などについて、研究上の指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(28 田畑 伸一郎)

スラブ・ユーラシア地域の経済研究における修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定、当該分野の先行研究の整理、研究に使用する資料・データの扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(29 富田 康之)

日本近世文学及び近世演劇における修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題点の設定方法、当該分野の先行研究の整理方法、関係資料の収集方法、及び論文構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(30 長縄 宣博)

中央ユーラシア近現代史及びロシア史研究における修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する史料の読解整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(31 中村 三春)

日本近代文学・比較文学・表象文化論における修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する資料の読解整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(32 野町 素己)

スラブ言語学研究における修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する史料の読解整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(33 野村 益寛)

英語学・認知言語学についての修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。テーマの選定、先行研究の読解、言語データの収集法、論文における議論の進め方、論文の表現等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(34 長谷川 貴彦)

西洋近世史・近代史及び現代史研究における修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する史料の読解整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(35 藤田 健)

ロマンス諸語の言語学的研究における修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。テーマの設定、先行研究の整理方法、データの扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(36 細田 典明)

インド哲学研究における修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する資料の読解整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(37 村田 勝幸)

アメリカ近現代史及び同時代史研究における修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する史料の読解整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(38 谷古宇 尚)

西洋美術史に関する修士論文あるいは特定課題研究成果報告書の作成のために必要な研究指導を実施する。研究課題の設定、研究史や現在の研究状況の把握、作品や資料の調査と分析、論文の構成や執筆等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(39 弓巾 和順)

中国古代思想研究における修士論文あるいは特定課題を作成するために必要とされる研究指導を実施する。当該分野における先行研究の整理方法、研究対象の文献の読解及び使用法、論文の問題設定及び構成の妥当性等について指導し、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(40 吉開 将人)

東洋史学の諸分野のうち東アジア史、とりわけ中国史を対象とする修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する史料の読解整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(41 池田 証壽)

日本語学における修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。研究の背景と問題点、研究資料、研究目的と方法、分析方法、仮説の提示と検証、論文執筆の基本などについて研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(42 太田 敬子)

東洋史学の諸分野のうち、中世近東史、及び初期・中世イスラーム社会におけるマイノリティに関する修士論文執筆あるいは特定課題の作成に必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の先行研究の整理方法、研究に使用する史料の読解整理及び取り扱い方、論文の構成について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(43 北村 清彦)

美学・芸術学に関する修士論文あるいは特定課題研究成果報告書の作成のために必要な研究指導を実施する。研究課題の設定、研究史や現在の研究状況の把握、作品や資料の調査と分析、論文の構成や執筆等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(44 千葉 恵) ※2020.3退職

古代中世哲学及び西洋哲学の研究における修士論文作成あるいは特定課題研究の遂行のために必要な研究指導を実施する。修士論文における問題設定の妥当性について当該問題に関わる研究状況をサーヴェイしつつ確認し、また問題の解明とその解決への貢献を指導し、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(45 安達 大輔)

ロシア文学研究における修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用するテキスト・資料の読解整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(46 阿部 嘉昭)

映画を始めとする映像表象，サブカルチャー表象研究での修士論文あるいは特殊課題研究のために必要な研究指導を実施する。着眼の新規性・創造性，先行研究への配慮，論文の展開構成，用語の厳密性などについて指導を行い，修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(47 李 連珠)

記述言語学や対照言語学研究における修士論文もしくは特定課題のために必要な研究指導を実施する。修士論文における研究目的へ繋がる全体構成であるかを検討し，研究に関わる先行研究の調査や論文作成の方法など修士論文もしくは特定課題に関する研究指導を行い，修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(48 小倉 真紀子)

日本古代史をテーマとする修士論文あるいは特定課題の作成に必要な研究指導を実施する。問題設定の妥当性，当該分野に関する研究史の把握，研究に使用する史料の選定・整理・調査方法，史料の解釈，論文の構成等に関する指導を行い，修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(49 落合 研一)

アイヌ・先住民法研究に関する修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の課題設定の妥当性，諸国の法制度との比較研究の方法，論文の読解整理，論文の構成等について研究指導を行い，修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(50 金沢 英之)

上代文学作品を対象とした修士論文あるいは特定課題作成のために必要な研究指導を実施する。課題の発見，当該分野の先行研究の調査と整理，それを踏まえての問題の設定，資料分析の方法と妥当性の検討，全体的な論文の構成等について適切な指導を行い，修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(51 川口 暁弘)

日本近代史に関する修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。課題設定とその妥当性，当該分野の研究史の整理，論証で用いる資料の収集・整理・読解，論文の構成などについて，研究指導を行い，修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(52 北原 次郎太)

先住民の宗教・思想史研究に関する修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の課題設定の妥当性，当該分野の研究史の整理方法，研究に使用する史料の読解整理及び扱い方，論文の構成等について研究指導を行い，修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(53 近藤 智彦)

古代中世哲学及び西洋倫理思想史の研究における修士論文作成あるいは特定課題研究の遂行のために必要な研究指導を実施する。修士論文における問題設定の妥当性、当該問題に関わる研究史の整理、論文に使用する古典文献資料及び研究文献の読解整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

※2020.4より下記も担当

古代中世哲学及び西洋哲学の研究における修士論文作成あるいは特定課題研究の遂行のために必要な研究指導を実施する。修士論文における問題設定の妥当性について当該問題に関わる研究状況をサーヴェイしつつ確認し、また問題の解明とその解決への貢献を指導し、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(54 佐藤 健太郎)

東洋史学の諸分野のうちイスラーム史、とりわけ北アフリカやイベリア半島などの歴史を対象とする修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する史料の読解整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(55 佐野 勝彦)

分析哲学、数学・論理学の哲学、及び論理学における修士論文作成あるいは特定課題研究の遂行のために必要な研究指導を実施する。修士論文における問題設定の妥当性、当該問題に関わる研究史・関連研究の整理、論文に使用する文献の読解、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(56 鈴木 幸人)

博物館学及び博物館人類学などに関する、修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。課題設定の妥当性、先行研究の吟味、設定した課題の当該研究分野における位置づけの検討、使用するデータ・情報に関する調査方法・分析方法の検討、修士論文あるいは特定課題の構成の検討などについて研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(57 高瀬 克範)

考古学研究における修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する資料及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(58 竹内 修一)

フランス文学を研究領域とする学生に対して、学位取得に向けた修士論文・特定課題の研究指導を実施する。学位に資する第1・第2次資料を収集させ、内容理解、全体の構成、並びに論理展開を検証・指導し、妥当性と新規性を確認し、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(59 丹菊 逸治)

アイヌ・先住民の口承文芸・言語研究に関する修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の課題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する史資料の整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(60 戸田 聡)

西洋古代学研究における修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する資料の読解整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(61 長沼 正樹) ※2020.3退職

先住民考古学及び先住民文化遺産学分野を中心に、修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。研究に使用する発掘資料等の扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(62 野本 東生)

日本中世文学に関わる修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題点の設定方法、当該分野の先行研究の整理方法、関係資料の収集方法、及び論文構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(63 橋本 雄)

日本中世史に関する修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。課題設定とその妥当性、当該分野の研究史整理、論証で用いる史資料の収集・整理・読解、論文の構成などについて指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(64 林寺 正俊)

仏教学研究における修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する資料の読解整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(65 浅沼 敬子)

現代美術史に関する修士論文あるいは特定課題研究成果報告書の作成のために必要な研究指導を実施する。研究課題の設定、研究史や現在の研究状況の把握、作品や資料の調査と分析、論文の構成や執筆等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(66 松尾 明男)

フランス近世史及び近現代史における修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する史料の読解整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(67 水溜 真由美)

日本近現代文学・思想史における修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定及び方法論の妥当性、当該分野の先行研究の整理方法、研究対象とするテキストの選定と分析方法、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(68 蓑島 栄紀)

アイヌ史及び先住民族史研究における修士論文や特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の執筆における問題設定の視点・方法や、研究史の整理の仕方、史料の読解と扱い方、論証の組み立て方や論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(69 宮嶋 俊一)

宗教学分野における修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する資料の読解整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(70 村松 正隆)

近現代フランス哲学・倫理学、その他近現代哲学・倫理学に関する修士論文作成あるいは特定課題研究の遂行のために必要な研究指導を実施する。修士論文における問題設定の妥当性、当該問題に関わる研究史・関連研究の整理、論文に使用する文献の読解、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(71 山崎 幸治)

先住民族に関わる博物館学及び文化人類学に関する修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の課題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する史資料の整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

※2020.4より下記も担当

先住民考古学及び先住民文化遺産学分野を中心に、修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。研究に使用する発掘資料等の扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(72 Matthias Grunewald)

ドイツ語圏文学を中心に、学位取得に向けた論文・特定課題の研究指導を実施する。ドイツ語で書かれた第1・第2次資料を収集させ、ドイツ語作品・文献をドイツ語で理解する能力を養い、全体の構成、並びに論理展開を検証・指導する。最終的には、妥当性と新規性を確認し、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(73 江田 真毅)

考古学研究における修士論文または特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、実験に使用する資料の取り扱い方法、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

	<p>(74 井上 敬介) 日本史学研究室の近現代史分野を中心に、日本史学研究室の修士課程学生の修士論文または特定課題に関する研究の指導補助を行う。</p> <p>(75 近藤 祉秋) アイヌ・先住民学研究室の文化人類学分野・英語圏の先住民研究分野を中心に、アイヌ・先住民学研究室の修士課程学生の修士論文または特定課題に関する研究の指導補助を行う。</p> <p>(76 高倉 純) 考古学研究室の先史考古学分野を中心に、考古学研究室の修士課程学生の修士論文または特定課題に関する研究の指導補助を行う。</p> <p>(77 野村 恭史) 哲学倫理学研究室の分析哲学・言語哲学分野を中心に、哲学倫理学研究室の修士課程学生の修士論文または特定課題に関する研究の指導補助を行う。</p> <p>(78 藤本 純子) 言語科学研究室のドイツ語学及びドイツ語教育学に関わる分野を中心に、言語科学研究室の修士課程学生の修士論文または特定課題に関する研究の指導補助を行う。</p> <p>(79 宮下 弥生) 欧米文学研究室のイギリス文学及び文学理論の分野を中心に、欧米文学研究室の修士課程学生の修士論文または特定課題に関する研究の指導補助を行う。作品の分析方法、文学理論の応用の仕方、先行研究の調査方法、英文論文を執筆する際に必要なテクニックや、日本語論文とは違った論理展開の方法など実践的な指導補助を行う。</p>	
人文社会構造論	<p>(概要) 本授業では、国際関係の複雑化、価値観の多様化、民族主義の先鋭化など、現在の私たちを取り巻く世界レベルから生活空間レベルまで様々な人間社会の現象を、哲学的観点、文化的観点、歴史的観点、地理的観点、言語的観点、心理的観点など、複合的観点から分析する能力を身につけることにより、新たなものの見方や仕組みを設計し提案する能力を養う。そのために、旧来の狭い個別の学問領域にこだわらず、人文社会科学全般に関連する知見や問題意識を共有するとともに、より広い視野を持ってそれぞれの研究に取り組む姿勢を培う。 本授業では、実際の社会問題を事例として用いて、講義形式により、4名の教員が毎回、複数の観点からの論点の提示を行うことにより、複合的な思考方法を学ぶ。 上記の内容を4名の教員が、役割分担せずに共同で行う。</p>	共同
複合環境文化論	<p>(概要) 本授業では、環境問題、原子力発電を含むエネルギー問題、外来種問題、自然災害に関わる問題、少子高齢化問題、グローバル化に伴う産業構造の変化や社会的格差などの問題、及びそれらに対する対応など、私たちの生活の身近で生起している重要なテーマに関して、何が問題かを含めて、人文科学分野と社会科学分野における先端的な研究に基づいて複眼的に読み解く能力を養う。重層的な学術知を人類社会における福祉の向上に貢献する人材の育成を目指す。 本授業では、実際の社会問題を事例として用いて、講義形式により、4名の教員が毎回、複数の観点からの論点の提示を行うことにより、複眼的な思考方法を学ぶ。 上記の内容を4名の教員が、役割分担せずに共同で行う。</p>	共同

多文化共生論	<p>(概要)</p> <p>本授業では、世界各地の様々な文化的背景、価値観、歴史観、社会的慣習を学修することにより、自国の文化とは異なる文化を受容する社会的寛容性の涵養を図り、グローバル化していくこれからの社会において、国際理解や国際協力に貢献する人材の育成を目指す。文化に関して地域を超えて問題となりうる特定のテーマを設定し、人文学及び人間科学の諸分野における豊富な研究成果をもとに多角的に検討することを通じて、自身の専門領域にとどまらない幅広い視野で多種多様な文化のあり方を総合的に考察し、理解を深めることができる。</p> <p>本授業では、実際の社会問題を事例として用いて、講義形式により、4名の教員が毎回、複数の観点からの論点の提示を行うことにより、多角的な思考方法を学ぶ。</p> <p>上記の内容を4名の教員が、役割分担せずに共同で行う。</p>	共同
総合社会情報論	<p>(概要)</p> <p>本授業では、人文学、社会科学および自然科学の多くの領域において、これまで蓄積された様々なタイプの興味深い情報を活用しながら、受講者が数理的、論理的な思考力や情報の高度な処理力・応用力を身に付けることができることを目的としている。また、俯瞰的な視野から、複雑で多面的な高度情報化社会において、課題を発見し解決に導くことができる人材の育成を目指している。国際的な情報交流の歴史、情報処理と伝達における言語の機能、情報の統計的分析法とその見方や解釈、脳などの認知システムにおける情報処理などを扱う。</p> <p>本授業では、実際の社会問題を事例として用いて、講義形式により、4名の教員が毎回、複数の観点からの論点の提示を行うことにより、数理的な思考方法を学ぶ。</p> <p>上記の内容を4名の教員が、役割分担せずに共同で行う。</p>	共同
研究倫理・論文指導特殊講義	<p>(概要)</p> <p>本授業では、研究倫理や不正行為の防止、研究対象の選定と目的設定、資料等へのアクセス方法、電子ジャーナルの利用方法、論文の投稿方法など、文学院の学問領域において修士論文あるいは特定課題に取り組む際に必要となる基本的な研究力を養成する。</p>	
	<p>(春学期)</p> <p>人文学及び社会科学における研究倫理、特に論文や発表における捏造、データ改竄、盗用(不適切な引用)、さらに研究上での個人情報の保護や人を対象とした研究に関する倫理問題について説明し、ディスカッション等も交えながら研究倫理の基礎を学ぶ。また研究対象をどのように選定するか、研究の目的をどのように設定するのかといった研究の方法論についても学ぶ。さらに電子ジャーナルへのアクセスや利用方法、資料へのアクセス、フィールドワークにおける倫理、論文投稿の作法といった内容についても扱う。</p> <p>本授業では、実際の社会問題を事例として用いて、講義形式により、4名の教員が毎回、複数の観点からの論点の提示を行うことにより、研究倫理と論文作成法を学ぶ。</p> <p>上記の内容を4名の教員が、役割分担せずに共同で行う。</p>	共同

		<p>(夏学期)</p> <p>文学院の学問領域においてすべての研究者に共通して求められる研究倫理や不正行為の防止について学び、ディスカッションを行って理解を深める。さらに人間や動物を直接の対象とする研究や歴史的文献及び考古学的資料の調査・収集を行う研究など、研究分野によって特に求められる研究倫理や国内外の法について解説する。これらの基礎知識に基づいて、研究対象の選定と目的設定、資料等へのアクセス方法、電子ジャーナルの利用方法、研究論文の投稿・研究書の出版方法など、修士論文あるいは特定課題に取り組む際に必要となる基本的な研究力を養成する。その上で、修士2年次に履修する「修士論文・特定課題指導特殊演習」を履修する。</p> <p>本授業では、実際の社会問題を事例として用いて、講義形式により、4名の教員が毎回、複数の観点からの論点の提示を行うことにより、研究倫理と論文作成法を学ぶ。</p> <p>上記の内容を4名の教員が、役割分担せず共同で行う。</p>	共同
選択必修科目	哲学特殊講義	<p>(概要)</p> <p>本講義では、近現代哲学に関する研究の現状を概観するとともに、大学院での哲学研究に必要な現代哲学や論理学の基本概念について解説する。さらに近年の哲学の研究動向及び先端的な研究内容について紹介する。特に近年の研究において取り上げられることの多いテーマについて説明し、さらには現象学と論理学の両分野について、それぞれどのような方法論によって研究が進められているのか、さらに現在の研究上の問題点は何かを扱う。</p>	
		<p>(24 田口 茂)</p> <p>本講義では、現象学、近代日本哲学、心の哲学などに目配りしながら、現代における哲学的諸問題の取り扱いに習熟し、自ら現代的な仕方での哲学的議論を展開していく力を養成していく。そのため、意識、経験、実在、身体、世界、間主観性等、現代哲学においてしばしば論じられる諸テーマについて、テキストに即しながら検討し、教員による解説を加える。現代哲学の諸問題に親しみながら、哲学的討論の基礎が身につくよう配慮する。</p>	
		<p>(55 佐野 勝彦)</p> <p>本講義では認識論理(Epistemic Logic)と認識論(Epistemology)に関して次の二つの内容の習得を目指す。第一に、知識状態を扱う論理である認識論理の論理的基礎(意味論と証明論)を習得する。第二に、近年の分析哲学の研究動向及び先端的な研究内容を踏まえつつ、認識論理による分析が有効である認識論のトピックについての標準的知識を獲得する。具体的には次のトピックが扱われる：論理的全知の問題(すでに獲得している知識から論理的に導出できる命題を知識とってよいか)、認識論的閉包(知識はどのような論理演算について閉じているべきか)、高階の知識(何かを知っているならその知っていること自体を知っているといえるか)、知識に関わるパラドックス(何か真ならばそのことの知識を得ることは可能か?)。</p>	
	倫理学特殊講義	<p>本講義では、倫理学史及び現代倫理学・応用倫理学に関する研究の現状を概観するとともに、大学院での研究に必要な倫理学の基本概念について解説する。さらに近年の規範倫理学及びメタ倫理学に関する研究動向及び先端的な研究内容について紹介する。特に近年規範倫理学及びメタ倫理学において取り上げられることの多いテーマについて説明し、さらには規範倫理学とメタ倫理学のそれぞれでどのような方法論によって研究が進められているのか、またこの両分野の関係はどのようになっているのかを理解し、さらに現在の研究上の問題点について論じる。</p>	

論理学特別演習	<p>現代論理学について研究するためには論理学の枠組みを理解した上で、手を動かして演習を行うことが必要不可欠である。本演習では、直観主義論理、多値論理、様相論理といった非古典論理、古典論理のモデル理論と証明論、再帰関数と不完全性定理からトピックを一つ選び、問題演習を通じて大学院での分析哲学・論理学研究に必要な基礎体力を養うことを目標とする。特に、授業で学ぶ論理体系がどのような論理的性質（健全性、完全性、カット除去定理など）をみたすのかについての定理（メタ定理）の証明を自力で完成できるようになることが一つの到達目標となる。</p>	
古代中世哲学特別演習	<p>(概要) 本演習は、古代中世哲学の古典文献を精読するとともに、関連する研究文献を批判的に検討することを通して、古代中世哲学研究が実際にどのように営まれているのか把握することを目指す。古代中世哲学の研究には、古代ギリシア語・ラテン語及び研究で用いられる英語等の語学力、古代中世哲学に関する専門的知識、近年の研究動向及び先端的研究手法についての理解が必要となる。本演習は、そのような素養を身につけた上、受講生自身の研究に結びつけることができるようになることを目標とする。</p>	
	<p>(44 千葉 恵) ※2020.3退職 (春・夏学期) 本演習ではアリストテレスの『形而上学』で展開される様相存在論の理解を深めるべく、当該テキストのうち、主に第九巻をギリシア語原典により読み進める。様相とは存在者の在り方（力能、実働、完成）であるが、従来の「可能態と現実態」という理解が誤りであることを明らかにする。関連個所のテキスト読解を通じて、その後の現代に至る様相哲学に対し新たな視点を提供することを目指す。存在者の存在をめぐる理解を深める。</p>	
	<p>(44 千葉 恵) ※2020.3退職 (秋・冬学期) 春・夏学期に引き続き、アリストテレス『形而上学』の様相存在論の関連テキストのギリシア語原典を購読する。新たな受講生にも理解できるよう配慮する。関連個所のテキスト読解を通じて、その後の現代に至る様相哲学に対し新たな視点を提供することを目指す。存在者の存在をめぐる理解を深める。</p>	
	<p>(53 近藤 智彦) (春・夏学期) 本演習では、キケロの哲学的著作と古代中世のキケロ受容に関わる諸文献の精読及び研究文献の検討を通して、ラテン語で書かれた古代中世哲学の文献の解釈技法を身につけるとともに、古典との対話から哲学的思考を紡ぎ出す方法を実地に学ぶ。古代中世哲学研究に必要な古典語と現代語の語学力はもとより、辞書事典類・データベース・注釈書・研究文献等の使い方身につけた上で、近年の研究動向と先端的研究手法を具体例にもとづいて把握することを通して、受講生自身が古代中世哲学研究に独自の貢献を果たすための能力を獲得していくことを目指す。</p>	
	<p>※2020.4より下記も担当 (春・夏学期) 本演習ではアリストテレスの『形而上学』で展開される様相存在論の理解を深めるべく、当該テキストのうち、主に第九巻をギリシア語原典により読み進める。様相とは存在者の在り方（力能、実働、完成）であるが、従来の「可能態と現実態」という理解が誤りであることを明らかにする。関連個所のテキスト読解を通じて、その後の現代に至る様相哲学に対し新たな視点を提供することを目指す。存在者の存在をめぐる理解を深める。</p>	

	<p>(53 近藤 智彦) (秋・冬学期) 本演習は、アリストテレスの哲学的著作と古代中世のアリストテレス注解の精読及び研究文献の検討を通して、古代ギリシア語で書かれた古代中世哲学の文献の解釈技法を身につけるとともに、古典との対話から哲学的な思考を紡ぎ出す方法を实地に学ぶ。古代中世哲学研究に必要な古典語と現代語の語学力はもとより、辞書事典類・データベース・注釈書・研究文献等の用い方を身につけた上で、近年の研究動向と先端的な研究手法を具体例にもとづいて把握することを通して、受講生自身が古代中世哲学研究に独自の貢献を果たすための能力を獲得していくことを目指す。</p>	
	<p>※2020.4より下記も担当 (秋・冬学期) 春・夏学期に引き続き、アリストテレス『形而上学』の様相存在論の関連テキストのギリシア語原典を購読する。新たな受講生にも理解できるよう配慮する。関連個所のテキスト読解を通じて、その後の現代に至る様相哲学に対し新たな視点を提供することを目指す。存在者の存在をめぐる理解を深める。</p>	
近現代哲学特別演習	<p>(概要) 本演習では、近現代哲学に関する各分野の文献購読や受講生による発表を通じて、近現代哲学研究の現状を理解するとともに、近現代哲学各分野の専門的な知識を身につけることを目標とする。また哲学研究の動向及び先端的な研究内容の概要について理解し、近現代哲学を理解するために必要な語学力を身につけること目標とする。特に近現代哲学に特有の専門用語や、方法論を理解し、自分の研究に応用できるようになることを目標とする。</p>	
	<p>(12 藏田 伸雄) 本演習では、受講生が哲学倫理学に関する問題等について発表し、それについて受講生全員で議論を行う。それによって哲学史・倫理学史及び現代哲学・倫理学の各分野における研究の現状を概観するとともに、各受講生は発表のノウハウを身につけ、研究分野の異なる研究者にも理解できるような発表ができるようにする。さらに各自が自らの発表を踏まえてレポートを作成し、学術論文を作成する力を身につける。</p>	
	<p>(24 田口 茂) (春・夏学期) 本演習では、西田幾多郎、田辺元を始めとする近代日本の哲学者による著作等をテキストとして取り上げ、その議論を緻密に精査し、読解する訓練を行う。毎回担当者を決め、担当部分のテキストを熟読した上で内容をまとめた資料を作成し、発表する。近代日本哲学のテキスト読解には西洋哲学史の知識が必要になるので、担当者はテキストに関連する背景知識についてもまとめて報告する。それを叩き台として、受講生全員でテキストの内容について討議する。</p>	
	<p>(24 田口 茂) (秋・冬学期) 本演習では、フッサールを始めとする現象学者の著作等をテキストとして取り上げ、その議論を緻密に精査し、読解する訓練を行う。外国語文献（主にドイツ語）を読解する訓練も同時に行う。毎回担当者を決め、担当部分のテキストを熟読した上で内容をまとめた資料を作成し、発表する。フッサールに関連する文献や哲学史に関する背景知識についても、担当者は調査した上で情報をまとめて受講生に提供する。それを叩き台として、受講生全員でテキストの内容について討議する。</p>	

	<p>(77 野村 恭史)</p> <p>本演習では、分析哲学・言語哲学分野の文献講読とその内容についての討論を行う。それによって原典精読のための語学力を身につけるとともに、扱われている問題を自分の問題として引き受け、それについて議論できる力を養う。とくに、細かい区別に基づいた精緻な議論を正確にフォローできる語学力と、扱われる抽象的な問題を具体的な場面にも適用できるような仕方理解し議論できる力を身につけることを目標とする。</p>	
倫理学特別演習	<p>(概要)</p> <p>本演習は、倫理学史及び現代倫理学・応用倫理学に関する文献の批判的なテキスト読解を通じて倫理学史及び現代倫理学の研究の現状を概観するとともに、大学院での研究に必要な語学力と倫理学の基本概念について理解することを目標とする。倫理学について研究するためには古典的なテキストを地道に読み解き、その時代背景などを理解するとともに、そこでどのような倫理学的問題が扱われているのかを理解する能力が必要となる。本演習ではそのような力を身につけることを目標とする。</p>	
	<p>(12 藏田 伸雄)</p> <p>(春・夏学期)</p> <p>本演習では、現代英語圏におけるメタ倫理学に関する英語文献の読解を通じて、受講生が、現代メタ倫理に関するテキストを読解できるようになることを目標にする。現代のメタ倫理学について理解するためには、現代に至るメタ倫理学の主要理論に関する知識が必要であり、さらに主な規範倫理学理論に関する知識と、現代の認識論や存在論、哲学的道徳心理学に関する知識が必要となる。文献読解を通じて受講生がそのような基本的な知識を身につけるとともに、現代倫理学の英語文献を読みとくことができるだけの英語力を受講生が身につけることを目標とする。</p>	
	<p>(12 藏田 伸雄)</p> <p>(秋・冬学期)</p> <p>本演習では、現代英語圏における生命倫理学に関する英語文献の読解を通じて、応用倫理学の方法論について理解するとともに、現代の生命倫理学の基本的な動向について受講生が理解することを目標とする。生命倫理学に限らず応用倫理学では、対象とされる事象の現状についての知識と規範倫理学及び現代哲学や現代形而上学を応用して問題を分析するスキルが求められるが、本演習では受講生が文献を批判的に検討することを通じて、そのようなスキルを身につけることを目標にする。</p>	
	<p>(70 村松 正隆)</p> <p>(春・夏学期)</p> <p>本演習では、近現代フランス倫理学の文献の読解を通じて、受講生が当該テキストを読解できるようになることを目標にする。近現代のフランス倫理学の状況を理解するために、17世紀以降の古典的な問題設定の理解と20世紀冒頭以降の変化に対する理解が求められる。これらを総合的に理解し、テキストに対して、内在的理解並びに歴史的把握の両面からアプローチするスキルを身に付けることを目標とする。</p>	
	<p>(70 村松 正隆)</p> <p>(秋・冬学期)</p> <p>本演習では、特に現代フランス倫理学の文献の読解を通じて、受講生が当該テキストを読解できるようになることを目標にする。現代のフランス倫理学の状況を理解するために、20世紀冒頭以降の現象学の流入と二度の世界大戦の影響をよく理解する必要がある。これらの要因を総合的に理解し、テキストを内在的に理解するとともに、同時代の他のテキストとの比較の中で、問題を分析するスキルを身に付けることを目的とする。</p>	

<p>インド哲学仏教学特殊講義</p>	<p>(概要) 本講義では、インド哲学・仏教学分野における研究の現状を概観するとともに、近年の研究動向及び先端的な研究内容を解説する。インド哲学・仏教学分野において現在どのようなテーマが取り上げられ、どのような手法によって研究が進められているのか、さらに現在の研究上の問題点は何かを学ぶことができる。また、インド哲学・仏教学の特定分野に関する研究史、研究手法、資料、基本概念を解説するとともに、実証的な研究内容を教授することにより、インド哲学・仏教学分野の研究に関する理解を深めることができる。</p>	
	<p>(36 細田 典明) インド思想の根幹をなすウパニシャッドのテーマである「輪廻と解脱」について、ウパニシャッドを最終部分とするヴェーダ聖典を概説する。その上で、祭式を背景とするヴェーダの世界観（神々と世界の創造者）と自我観（感覚器官とその主体）について、両者の対応に基づく輪廻思想成立の過程を解説し、ウパニシャッドに説かれる梵我一如に至る経緯を解明する。ウパニシャッド思想については、存在の根本・睡眠と自我の状態について論じるとともに、出家と在家・瞑想と禪定・自我と無我など仏教思想に至る問題を講究する。</p>	
	<p>(64 林寺 正俊) 本講義では、五蘊、縁起、煩惱、業、輪廻転生、世界観、各種の修行法、聖者の階梯などといった原始仏教以来の基本的な教理について様々に解釈している部派仏教と大乘仏教の論書、及びそれらの教理解釈上の特色について、当該分野における先行研究を踏まえつつ解説する。また、漢語仏典研究において近年活用されるようになってきた日本古写経本について、従来使われてきたテキストとは異なる事例（論書を含む）があることを紹介し、その資料的価値と研究上の意義について解説する。</p>	
<p>宗教学特殊講義</p>	<p>(概要) 本講義では、宗教学・宗教史学分野における研究の現状を概観するとともに、近年の研究動向及び先端的な研究内容を解説する。宗教学分野において現在どのようなテーマが取り上げられ、どのような手法によって研究が進められているのか、さらに現在の研究上の問題点は何かを学ぶことができる。また、宗教学の特定分野に関する研究史、研究手法、資料、基本概念を解説するとともに、実証的な研究内容を教授することにより、宗教学分野の研究に関する理解を深めることができる。</p>	
	<p>(16 佐々木 啓) 本講義では、宗教学の学問領域のうち、宗教史学に関連する個別テーマについて、現在の研究上の成果とその問題点について、深く掘り下げて解説する。その際特に本講では、新約聖書正典、並びにその外典の内容や成立の経緯について概説するのみならず、初期キリスト教そのものの歴史的事実に迫ることを根本的なテーマとして論究する。また、これらの事柄の探究に欠かすことのできない言語として、コプト語の基礎を学修する。</p>	
	<p>(69 宮嶋 俊一) 本講義では、生命倫理・死生学研究における現在の研究状況を解説する。特に、宗教学に関わる研究において議論されているテーマを取り上げ、現在の研究成果とその問題点を扱うことにより、生命倫理・死生学研究で用いられている基本概念を解説するとともに、研究の現状を具体的な事例を用いて解説する。取り上げるテーマとしては、悲嘆、尊厳死・安楽死、死への恐怖、死の準備教育、ケア、人生の意味、弔いを取り上げ、宗教研究の観点から考察を加える。</p>	

<p>インド哲学仏教学特別演習</p>	<p>(概要) 本演習では、インド哲学・仏教学分野における研究の現状を概観するとともに、近年の研究動向及び先端的な研究内容を理解するため、当該分野の専門文献を講読する。インド哲学・仏教学分野において現在どのようなテーマが取り上げられ、どのような手法によって研究が進められているのか、さらに現在の研究上の問題点は何かを学ぶことができる。また、インド哲学・仏教学の特定の分野に関する研究史、研究手法、資料、基本概念を学び、インド哲学・仏教学分野の研究に関する理解を深めることができる。</p>	
	<p>(36 細田 典明) 「インド哲学仏教学特殊講義」で明らかにした古代インドの聖典であるヴェーダについての文献資料と言語的特徴、研究史を踏まえて、ウパニシャッド文献を講読する。ウパニシャッド文献は、仏教以前に成立した「初期散文ウパニシャッド」、仏教と同時期ないし仏教以降に成立した「中期韻文ウパニシャッド」、紀元後に成立した「新ウパニシャッド」に大別される。3群に大別されるウパニシャッド文献から、研究動向と受講生の研究テーマに即したウパニシャッドを取り上げ、仏教との比較を試みつつ、原典を解読する。</p>	
	<p>(64 林寺 正俊) 本演習では、仏教学分野における先行研究と研究史を踏まえつつ、サンスクリット仏典や漢語仏典などの専門文献を講読する。とりわけ、五蘊、縁起、煩惱、業、輪廻転生、世界観、各種の修行法など、原始仏教以来の基本的な教理に関して詳細な議論を展開している論書を取り上げ、教理解釈をめぐる思想的展開についての理解を深める。なお、漢語仏典を取り扱う際には、わが国に伝存しながらも文献研究の資料として従来十分に顧みられることのなかった日本古写経本を活用し、異読などを把握することで対象テキストのより正確な読解を試みる。</p>	
<p>宗教学特別演習</p>	<p>(概要) 本演習では、宗教学・宗教史学分野における研究の現状を概観するとともに、近年の研究動向及び先端的な研究内容を理解するため、当該分野の専門文献を講読する。宗教学・宗教史学分野において現在どのようなテーマが取り上げられ、どのような手法によって研究が進められているのか、さらに現在の研究上の問題点は何かを学ぶことができる。また、宗教研究の特定の分野に関する研究史、研究手法、資料、基本概念を学び、宗教学・宗教史学分野の研究に関する理解を深めることができる。</p>	
	<p>(16 佐々木 啓) (春・夏学期) 本演習では、宗教史学分野における研究の現状を概観するとともに、近年の研究動向及び先端的な研究内容を理解するために当該分野に関連する文献を講読する。とりわけ本演習においては、初期キリスト教の実像を知る手がかりとなる諸文献、すなわち、新約聖書正典やその外典、並びに初期教父等の諸文献を原典（ギリシア語等）で読解することを目指す。</p>	
	<p>(16 佐々木 啓) (秋・冬学期) 本演習では、春・夏学期に引き続く形で、宗教史学分野における研究の現状を概観するとともに、近年の研究動向及び先端的な研究内容を理解するために当該分野に関連する文献を講読する。春・夏学期同様、初期キリスト教の実像を知る手がかりとなる諸文献を原典（ギリシア語等）で読解することを目指す。秋・冬学期は特に、それらの原典に関する英米仏語等による注解書、研究書・論文等の精読に重点を置く。</p>	

	<p>(69 宮嶋 俊一) (春・夏学期) 本演習では、宗教学分野における研究の現状を概観するとともに、近年の研究動向及び先端的な研究内容を理解するため、当該分野の専門文献を講読する。宗教社会学や宗教心理学などの宗教諸研究とは区別される領域としての宗教学においてとりわけ重要な役割を果たしてきた宗教現象学的研究や比較宗教学的研究に関する研究史、研究手法に関する文献を受講生で分担して輪読する。そして、それを通じて学んだことを、受講生各自が自らの研究に生かせるようになる。</p>	
	<p>(69 宮嶋 俊一) (秋・冬学期) 本演習では、春・夏学期に引き続き、宗教学分野、とりわけ宗教思想研究における研究の現状を概観するとともに、近年の研究動向及び先端的な研究内容を理解するため、当該分野の専門文献を講読する。西洋・東洋の宗教思想研究分野に関する研究史、研究手法に関する文献、さらには研究史を理解するための宗教思想の一次文献を受講生で分担して輪読する。そして、それを通じて学んだことを、受講生各自が自らの研究に生かせるようになる。</p>	
日本史学特殊講義	<p>(概要) 本講義では、日本古代史・中世史・近世史・近現代史に関する研究史の蓄積及び現在の到達点、最近の研究動向などを専門的な見地から解説する。とりわけ先行研究に対する深い理解は、研究の前提として重要なので、これらをテキストとして用いながら、各教員が専門的な立場から解説する。基本史料についても、最新の解釈を解説するとともに、受講生には読解及び解釈ができるように指導する。</p>	
	<p>(11 権 錫永) 朝鮮の文化の問題を通して、「帝国日本」と「植民地」の歴史を解説する。特に重点的に取り上げる朝鮮の生活文化（衣食住・陶磁器など）が、日本の統治の根幹にも関わることであることを、様々な角度から解説する。植民地側と統治する側、この両者間の双方向的な力の関係性に注目し、歴史を柔軟かつ総体的に捉えようとするところに特徴がある。韓国語・英語で書かれた先行研究と一緒に読んで議論する中で能動的に課題を発見する過程を重視し、また、関連する概念についても理解を深める。</p>	
	<p>(20 白木沢 旭児) 日本近現代史研究の到達点について、主要な分野における研究史を学び、これまでの成果と今後の課題を明確にする。過去の研究者が、どのようにして問題を見出し、どのようにして自己の仮説をつくり、どのようにして論争を繰り広げたのか、を学ぶことにより各自が専門的研究者として問題解決に資するような論文の執筆能力を身につけることを目指す。「帝国と植民地をめぐる歴史理論」、「歴史問題」と日本史研究」など毎回1つのテーマを設定して講義を行う。</p>	
	<p>(27 谷本 晃久) 日本近世史研究に必要なトピックに即した講義を行う。具体的には、幕藩制国家論・在地社会論・都市社会論・身分論・対外関係論・流通経済論・宗教社会論などがテーマとして取り上げられ、各々の研究史を整理した上で、ティビカルな事例研究に基づいた解説が行われる。加えて、文献史学研究に欠かせない史料論・アーカイブズ論にも、具体的に論及する。さらに、蝦夷地・北海道地域をフィールドとするに際しての史料批判に必須な、近世アイヌ民族誌に関する基礎認識についての講義も行われる。</p>	

	<p>(48 小倉 真紀子) 平安時代史を研究する上で必須の史料である古記録について、受講生が自身の研究で活用できるようになることを目標とし、指導を行う。具体的には、藤原行成の日記『権記』と、藤原実資の日記『小右記』を素材とし、古記録の読み方の基礎を習得させるとともに、古記録が持つ歴史史料としての特質を理解させる。古記録の読解を通じて知られる平安時代の政治・社会・朝儀について、同時代の他の史料も検証の対象に加えながら考察させる。</p>	
	<p>(51 川口 暁弘) 大日本帝国憲法下の国家運営について、その形成過程と帰結を解説する。明治維新評価の史的変遷、憲法制定過程における天皇観の相克、憲法施行後の混乱と慣習蓄積による安定化、民衆暴動多発による民主化の進展、政党政治の盛衰、対外戦争の拡大と国内政治の停頓など、議論は日本近代史の重要項目のすべてに及ぶ。その際、日本近代史上の劃期となる諸事件についての先行研究を紹介しながら、研究に必要な概念についての理解を深めるとともに、史料操作や論理構成の方法論についても解説する。</p>	
	<p>(63 橋本 雄) 中世日本社会の特徴ともいうべき政治権力の分散情況や寺社勢力の偏在情況、密接なアジアとのつながり、各種の政治的・経済的・文化的ネットワークの諸相について解説する。また、文献史料や学術論文を精読する手法や、日本中世史全体にかかる研究史の整理の仕方などについても議論する。そして、明確な問題意識をもって歴史研究に取り組むにはどのような構えや型が必要か、先達の歴史理論や歴史哲学等から学ぶことも射程に含めたい。</p>	
日本古代史特別演習	<p>(概要) 本演習では、日本古代の基本的な法制史料を精読することにより、日本古代における国家統治の仕組みやそれを支えた諸制度について、受講生が深く理解できるようになることを目標とし、指導を行う。具体的には、『令集解』と『延喜式』を主な素材とし、受講生に研究発表をさせる。</p>	
	<p>(春・夏学期) 日本古代史研究において不可欠の法制史料である律令格式とその注釈書について、受講生が基本的な知識を備え、読み方の基礎を習得することを目標とし、指導を行う。具体的には、『令集解』と『延喜式』を素材とする。『令集解』に関しては、テキストの校訂と訓読・唐令の復元・大宝令の復元・集解諸説の現代語訳と解釈・養老令施行の実態について、『延喜式』に関しては、テキストの校訂と訓読・条文の現代語訳と解釈・法源の検証・養老令から『延喜式』に至る制度の変遷・施行の実態について、受講生に発表させる。</p>	
	<p>(秋・冬学期) 日本古代史を研究する上で必須の素材である法制史料について、受講生が自身の研究で活用できるようになることを目標とし、指導を行う。『令集解』や『延喜式』の他に、『類聚三代格』や『類聚符宣抄』・『別聚符宣抄』などの関連史料も精読し、日本古代における律令制の特質や施行の実態についての理解を深めさせる。受講生には、これらの法制史料を用いた研究発表をさせ、当該史料に関する学界の研究動向を把握すると共に、その法が作成・施行された経緯や歴史的な意義について考察させる。</p>	

日本中世近世史特別演習	<p>(概要)</p> <p>本演習では、文献・史資料の講読や、研究報告によって、日本中世史並びに近世史における研究の現状を概観し、研究史・学説史を整理するとともに、適切な課題設定を行う能力の涵養、具体的な史料操作と論証方法の実践的な習得などによって、学位論文等の作成に必要な知識と能力の向上に努める。また、史料講読により古文書（手稿史料）の専門的な読解力を高めるとともに、受講生相互のディスカッションを通じて、自己の研究内容を他者にわかりやすく説明するプレゼンテーション能力を身につけることができるように指導を行う。</p>	
	<p>(27 谷本 晃久) (春・夏学期)</p> <p>日本近世史（特に17世紀～18世紀前半）に関する諸問題について、受講生の研究テーマに即した報告や史料講読を行う。当該分野の研究史の整理や適切な課題設定を行う能力の涵養、具体的な史料批判や史料操作、考証・論証の方法を習得することによって、近世前期・中期の日本社会の特質に迫り、学位論文等の作成に必要な知識と能力の向上に努める。史料講読に際しては、御家流と呼ばれる近世武家の正書法を読みこなす力量を養う。また、受講生相互の討論を通じて、自己の研究内容を他者にわかりやすく説明する手法を身につけていく。</p>	
	<p>(27 谷本 晃久) (秋・冬学期)</p> <p>日本近世史（特に18世紀後半～幕末維新时期）に関する諸問題について、受講生の研究テーマに即した報告や史料講読を行う。当該分野の研究史の整理や適切な課題設定を行う能力の涵養、具体的な史料批判や史料操作、考証・論証の方法を習得することによって、近世後期・幕末維新期の日本社会の特質に迫り、学位論文等の作成に必要な知識と能力の向上に努める。史料講読に際しては、在地社会で作成された様々な文書を読みこなす力量を養う。また、受講生相互の討論を通じて、自己の研究内容を他者にわかりやすく説明する手法を身につけていく。</p>	
	<p>(63 橋本 雄) (春・夏学期)</p> <p>日本中世史（特に鎌倉・南北朝期）に関する諸問題について、受講生の研究テーマに即した報告や史料講読を行う。当該分野の研究史の整理や適切な課題設定を行う能力の涵養、具体的な史料批判や史料操作、考証・論証の方法を習得することによって、中世日本社会の特質に迫り、学位論文等の作成に必要な知識と能力の向上に努める。また、受講生相互の討論を通じて、自己の研究内容を他者にわかりやすく説明する技能を身につけていく。</p>	
	<p>(63 橋本 雄) (秋・冬学期)</p> <p>日本中世史（特に室町・戦国・織豊期）に関する諸問題について、受講生の研究テーマに即した報告や史料講読を行う。当該分野の研究史の整理や適切な課題設定を行う能力の涵養、具体的な史料批判や史料操作、考証・論証の方法を習得することによって、中世日本社会の特質に迫り、学位論文等の作成に必要な知識と能力の向上に努める。また、受講生相互の討論を通じて、自己の研究内容を他者にわかりやすく説明する技能を身につけていく。</p>	

日本近現代史特別演習	<p>(概要)</p> <p>本演習では、文献・史資料の講読や、研究報告によって、日本近現代史における研究の現状を概観し、研究史・学説史を整理するとともに、適切な課題設定を行う能力の涵養、具体的な史料操作と論証方法の実践的な習得などによって、学位論文等の作成に必要な知識と能力の向上に努める。また、受講生相互のディスカッションを通じて、自己の研究内容を他者にわかりやすく説明するコミュニケーション能力を身につけることができるように指導を行う。</p>	
	<p>(11 権 錫永) (春・夏学期)</p> <p>植民地の問題を含む日本近代史（特に思想史・文化史）の諸問題について、受講生の関心に即した文献購読及び研究報告を行う。具体的な史料操作と論証方法の実践的な習得などによって、学位論文等の作成に必要な知識と能力の向上に努める。また、受講生相互のディスカッションを通じて、コミュニケーション能力を身につけることができるように指導を行う。</p>	
	<p>(11 権 錫永) (秋・冬学期)</p> <p>植民地の問題を含む日本近代史（特に思想史・文化史）の諸問題について、受講生の関心に即した文献購読及び研究報告を行う。特に、論文執筆に繋がるような研究報告を意識する。具体的な史料操作と論証方法の実践的な習得などによって、学位論文等の作成に必要な知識と能力の向上に努める。また、講義受講生相互のディスカッションを通じて、コミュニケーション能力を身につけることができるように指導を行う。</p>	
	<p>(20 白木沢 旭児) (春・夏学期)</p> <p>日本現代史の諸問題について、受講生の関心に即したテキスト（学術書）を選び、講読・論評を行う。具体的な史料操作と論証方法の実践的な習得などによって、学位論文等の作成に必要な知識と能力の向上に努める。また、受講生相互のディスカッションを通じて、コミュニケーション能力を身につけることができるように指導を行う。</p>	
	<p>(20 白木沢 旭児) (秋・冬学期)</p> <p>日本現代史の諸問題について、受講生の研究テーマに即した研究報告を行う。当該分野の研究史・学説史の整理、適切な課題設定を行う能力の涵養、具体的な史料操作と論証方法の実践的な習得などによって、学位論文等の作成に必要な知識と能力の向上に努める。また、受講生相互のディスカッションを通じて、自己の研究内容を他者にわかりやすく説明するコミュニケーション能力を身につけることができるよう指導を行う。</p>	
	<p>(51 川口 暁弘) (春・夏学期)</p> <p>日本近代史（特に幕末・明治期の政治史・思想史の分野）の諸事件・諸問題について、受講生の研究テーマに即した研究報告を行う。当該分野の研究史・学説史の整理、適切な課題設定を行う能力の涵養、具体的な史料操作と論証方法の実践的な習得などによって、学位論文等の作成に必要な知識と能力の向上に努める。また、受講生相互のディスカッションを通じて、自己の研究内容を他者にわかりやすく説明するコミュニケーション能力を身につけることができるように指導する。</p>	

	<p>(51 川口 暁弘) (秋・冬学期) 日本近代史（特に大正・昭和期の政治史・思想史の分野）の諸事件・諸問題について、受講生の研究テーマに即した研究報告を行う。当該分野の研究史・学説史の整理、適切な課題設定を行う能力の涵養、具体的な史料操作と論証方法の実践的な習得などによって、学位論文等の作成に必要な知識と能力の向上に努める。また、受講生相互のディスカッションを通じて、自己の研究内容を他者にわかりやすく説明するコミュニケーション能力を身につけることができるように指導する。</p>	
	<p>(74 井上 敬介) 日本近代史（特に大正～昭和戦前期の政治史・北海道史の分野）の諸問題について、受講生の問題関心に即した研究報告を行う。当該分野の研究史の整理、適切な課題設定を行う準備、基本的な史料操作と論証方法の実践的な習得などによって、学位論文等の作成に必要な基礎知識と能力の向上に努める。また、発表と質疑応答を通じて、受講生が教職や一般企業に就職した場合に要請される、プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を身につけることができるように指導を行う。</p>	
東洋史学特殊講義	<p>(概要) 本講義では、東洋史学の諸分野において近年見られる代表的な研究や先端的な研究について解説する。その際、最新の学説を紹介するだけでなく、これらの研究においては、一体どのような点が問題となっているのか、そこにはどういった研究史上の背景があるのか、そして研究にはどういった史料が用いられ、またどのような分析手法がとられているのかを詳細に説明する。これにより、受講生は近年の研究動向を把握し、自らの研究内容をその中に適切に位置づけることができるようになる。</p>	
	<p>(40 吉開 将人) 中国史研究のあり方について、具体的研究例を通じて理解する。テーマは民族・学術制度・外交である。担当教員が専門とする三つのテーマについての講義を通じ、自らが研究を構築していく上で参考とすべき問題意識・手法などを、扱うテーマのうち、民族については西南中国を、学術制度については民国期を、外交については中越関係を題材とするが、受講生が自らの関心に読み替えられるような工夫をする予定である。</p>	
	<p>(54 佐藤 健太郎) 東洋史学の諸分野のうちイスラーム史、とりわけ北アフリカやイベリア半島を対象とする近年の研究状況や課題を解説する。ムスリムと非ムスリムとの複雑な関係性の中でこの地域の歴史が展開されている点を踏まえ、アラブ征服者と先住民社会との交渉の中で形成されるアンダルス社会やマグリブ社会の特質、イベリア半島北部のキリスト教諸国との衝突と交流の諸相、キリスト教徒支配下に置かれた残留ムスリムや隠れムスリムの社会と文化、さらには近現代スペインにおけるイスラーム認識の変遷などを具体的なテーマとして取り上げる。</p>	
東洋史学特別演習	<p>(概要) 本演習では、東洋史学の研究に必要な様々な能力、とりわけ漢文・中国語やアラビア語などで書かれた同時代史料の読解能力を実践的に身につけることを目指す。その際、正確な史料の読解はもちろんのこと、史料批判によって批判的な読解ができるようになることを目指す。また他史料や先行研究を参照することにより、多角的に過去を再構成する手法も身につける。これにより、受講生は自らの関心に従って史料を分析し研究を進めることができるようになる。</p>	

<p>(40 吉開 将人) (春・夏学期)</p> <p>東洋史学の諸分野のうち東アジア史，とりわけ中国史に関する様々な漢文・中国語史料を取り上げ，正確かつ批判的な史料読解能力の養成をはかる。具体的には，正史・文集・地理書といった比較的良好に知られたジャンルの文献と文書史料を素材として，受講生の研究対象とする地域・時代・民族など歴史的諸相をどのように明らかにすることができるのか，その際にどういった史料批判が必要かについて，実践を通じて身につける。</p>	
<p>(40 吉開 将人) (秋・冬学期)</p> <p>東洋史学の諸分野のうち東アジア史，とりわけ中国史に関する様々な漢文・中国語史料を取り上げ，正確かつ批判的な史料読解能力の発展をはかる。具体的には，受講生の取り組んでいる研究テーマに関わる文献と文書史料を素材として，受講生の研究対象とする地域・時代・民族など歴史的諸相をどのように明らかにすることができるのか，その際にどういった史料批判が必要かについて議論し，各自の研究の発展・深化を目指す。</p>	
<p>(42 太田 敬子) (春・夏学期)</p> <p>中世近東社会史，特に初期・中世イスラーム社会における異宗教間関係に焦点を当て，法律上の非ムスリム規定及び様々な史資料における非ムスリムの社会的地位を検討することによって，異宗教間の共存のあり方を多角的に研究する能力を涵養することを目指す。具体的にはアラビア語史料を正確に読解し，さらにそれらを批判的に考察することができることを目指す。また，先行研究や関連文献なども参照しながら実証的に中世近東社会を研究するための技術・倫理面での指導も行う。</p>	
<p>(42 太田 敬子) (秋・冬学期)</p> <p>中世近東社会史，特に初期・中世イスラーム社会における異宗教間関係に焦点を当て，非ムスリム史料に見られる非ムスリムの社会的地位を検討することによって，異宗教間の共存のあり方を多角的に研究する能力を涵養することを目指す。具体的には非ムスリムアラビア語史料及び，シリア語・ギリシア語史料を正確に読解し，さらにそれらを批判的に考察することができることを目指す。また，先行研究や関連文献なども参照しながら実証的に中世近東社会を研究するための技術・倫理面での指導も行う。</p>	
<p>(54 佐藤 健太郎) (春・夏学期)</p> <p>東洋史学の諸分野のうちイスラーム史，とりわけ北アフリカやイベリア半島に関する様々なアラビア語史料を取り上げ，正確かつ批判的な史料読解能力の養成をはかる。具体的には，年代記，伝記集，旅行記といった比較的良好に知られたジャンルの文献を素材として，当該地域の支配のあり方や宗教知識人の活動の諸相をどのように明らかにすることができるのか，その際にどういった史料批判が必要かをディスカッションを通して身につけていく。</p>	
<p>(54 佐藤 健太郎) (秋・冬学期)</p> <p>東洋史学の諸分野のうちイスラーム史，とりわけ北アフリカやイベリア半島に関する様々なアラビア語史料を取り上げ，正確かつ批判的な史料読解能力の養成をはかる。具体的には，ファトワー集や契約文書，あるいは自叙伝といった，当該地域の歴史研究ではこれまで十分に活用されてきたとは言いがたいジャンルの文献を素材として，日常生活の営みや人々の自己認識といった問題をどのように明らかにすることができるのか，その際にどういった史料批判が必要かをディスカッションを通して身につけていく。</p>	

<p>(概要)</p> <p>本講義では、西洋史学分野における研究の現状を概観するとともに、近年の研究動向及び先端的な研究内容を解説する。西洋史学分野において現在どのようなテーマが取り上げられ、どのような手法によって研究が進められているのか、さらに現在の研究上の問題点は何かを学ぶことができる。また、西洋史学の特定の分野に関する研究史、研究方法、史料、基本概念を解説するとともに、実証的な研究内容を教授することにより、西洋史学分野の研究に関する理解を深めることができる。</p>	
<p>(1 山本 文彦) (春・夏学期)</p> <p>中世・近世ドイツ史研究における現在の研究状況を解説する。特に、神聖ローマ帝国に関する国制史研究において議論となっているテーマを取り上げ、現在の研究成果とその問題点を扱うことにより、神聖ローマ帝国国制史研究で用いられている基本概念を解説するとともに、研究の現状を具体的な事例を用いて解説する。取り上げるテーマとしては、帝国国制の中心的な機関である帝国議会の問題及び皇帝権の問題を取り上げ、帝国国制史の観点から考察を加える。</p>	
<p>(1 山本 文彦) (秋・冬学期)</p> <p>中世・近世ヨーロッパ史研究における現在の研究状況を解説する。特に、近年研究が活性化しているコミュニケーション史に関して、研究動向及び研究上の問題を解説する。またコミュニケーション史研究における具体的な事例を用いて、コミュニケーション史の可能性を論ずる。取り上げるテーマとしては、郵便網の拡大と郵便馬車の普及がもたらした社会的影響及び会議の議事録等の印刷と使節に対する指示書と使節からの報告書の印刷がもたらした影響について、17世紀のヴェストファーレン講和会議を例にして考察を加える。</p>	
<p>(21 砂田 徹) (春・夏学期)</p> <p>西洋古代史研究における現在の研究状況を解説する。特に、古代ギリシア史研究において議論となっているテーマを取り上げ、現在の研究成果とその問題点を扱うことにより、古代ギリシア史研究で用いられている基本概念を解説するとともに、研究の現状を具体的な事例を用いて解説する。取り上げる素材は、ペロポネソス戦争であり、トゥキュディデス『歴史』をもとにして、ポリス国家、アテナイの民主政、内乱そして当時の国際関係（戦争）等々について考察を加える。</p>	
<p>(21 砂田 徹) (秋・冬学期)</p> <p>西洋古代史研究における現在の研究状況を解説する。特に、共和政期のローマ史研究において議論となっているテーマを取り上げ、現在の研究成果とその問題点を扱うことにより、共和政期ローマ史研究で用いられている基本概念を解説するとともに、研究の現状を具体的な事例を用いて解説する。取り上げるテーマは共和政末期の政治家像であり、国制、クリエンテラ、イタリア問題そして内乱等々と関連させて考察を加える。</p>	
<p>(34 長谷川 貴彦) (春・夏学期)</p> <p>ヨーロッパやアメリカにおける現代歴史学の問題状況から論点を抽出し、各自の専門分野に応用できる方法論や理論を検討することを目標とする。言語論的転回以降の新たな局面として時間論的並びに空間論的転回を遂げつつある「物語論的転回2.0」といわれる歴史学の現状について概括的な理論的整理を行う。当該テーマに関連した基礎的な文献を読み、それに関して講義によって解説し、理解を深める。</p>	

<p>(34 長谷川 貴彦) (秋・冬学期) 第二次世界大戦後の現代ヨーロッパ史の概説を行う。とりわけ、福祉国家の成立からサッチャリズムの成立をへて大きな変化の時期を迎えているイギリスの事例を中心に考察する。本講義は、これまでの政治史・経済史を主眼とした分析手法に加えて、史料の解禁が進んだことから可能となった社会史・文化史的なアプローチがとられる研究の状況に対応したものとなる。取り上げるテーマとしては、福祉国家、ヨーロッパ統合、文化革命、産業衰退、英国病、サッチャリズム、第三の道などである。</p>	
<p>(37 村田 勝幸) (春・夏学期) 都市史という観点から、アメリカ近現代史及び同時代史研究における現在の研究動向を解説する。特に、二十世紀後半以降を扱った代表的な都市史研究を取り上げ、個々の研究が生産された研究史的文脈に注目しつつ、最新の研究動向の特徴とその問題性、今後の方向性について解説する。様々な都市についての歴史研究と膨大な人種・エスニック研究の接合は、十分になされてきたとはいえない。この点を踏まえ、取り上げるテーマとしてアメリカ都市における人種・エスニック関係史を再検討する。</p>	
<p>(37 村田 勝幸) (秋・冬学期) 春・夏学期に引き続き、二十世紀後半以降のアメリカ都市史に関する現在の研究動向を人種・エスニック関係史に注目して解説する。ここでは特に、アメリカにおいてもっとも代表的な都市であるニューヨークに注目し、アメリカ都市史研究という枠組みにおけるニューヨーク史の特殊性と一般性を具体的な歴史実態と代表的な事例研究の両方の検討を通して解説する。取り上げるテーマは、ディアスポラの存在が一国史的枠組みを超えてニューヨーク史に及ぼした影響と意味についてである。</p>	
<p>(66 松嵜 明男) (春・夏学期) フランス革命期・第一帝政期を中心に、近代フランス史研究における現在の研究動向を解説する。特に、二十世紀末以降に展開された、フランス革命に始まる近代国家の形成に関する議論を中心に、最新の研究動向とその問題点を取り扱う。その潮流の中で問題提起された重要な概念を解説し、代表的な基礎文献を紹介することで、研究の現状を具体的に解説する。取り上げるテーマとしては、国民国家による国民統合を軸に、そこから排除されたマイノリティについても取り上げる。</p>	
<p>(66 松嵜 明男) (秋・冬学期) 春・夏学期に引き続き、フランス革命期・第一帝政期を中心に、近代フランス史研究における現在の研究動向を解説する。特に、二十世紀末以降に展開された、フランス革命以後の近代国家の形成に関する議論を中心に、新たに台頭した研究テーマを取り上げ、その意義と問題点を解説する。その新潮流の中で問題提起された重要な概念を解説し、代表的な基礎文献を紹介することで、研究の現状を具体的に解説する。取り上げるテーマとしては、十九世紀前半の各政府による多様な試みを取り上げ、国民の規律化（教育や徴兵制）、宗教的自由を素材に解説する。</p>	

西洋史学特別演習	<p>(概要)</p> <p>本演習では、各受講生の問題関心を前提に、関係の深い西洋史学の研究テーマにおける欧文の基礎文献の講読を行うとともに、各受講生による研究報告とそれに関する質疑応答、議論を行う。西洋史学分野において現在どのような問題設定が行われ、どのような手法と史料によって研究が進められているのかを、基礎文献を読むことで学び、さらに各自が研究報告を行うことによってプレゼンテーション能力の向上を図り、その後の質疑応答と議論によってコミュニケーション能力を育成し、同時に現在の研究上の問題点は何かを学ぶ。また、各受講生は自分と異なる研究テーマの受講生と意見交換することにより、広い視野から西洋史学の研究に関する理解を深めることができる。</p>	
	<p>(1 山本 文彦) (春・夏学期)</p> <p>本演習では、西洋中世史及び近世史研究分野における重要な研究文献の講読を行うことにより、西洋中世史及び近世史の研究動向、研究上の問題点及び研究の成果を学修するとともに、西洋中世及び近世の分野で研究を進めるために必要な基本概念及び考え方を学ぶ。また研究文献とともに、西洋中世史及び近世史における重要な史料の講読を行うことにより、史料読解に必要な語学力（ラテン語及び中世・近世ドイツ語）の向上に努める。本演習では研究文献及び史料の解釈について議論を行うことにより、西洋中世及び近世の分野における理解を深めることができる。</p>	
	<p>(1 山本 文彦) (秋・冬学期)</p> <p>本演習では、西洋中世史及び近世史における重要な史料の講読を行うことにより、史料読解に必要な語学力（ラテン語及び中世・近世ドイツ語）の向上を図るとともに、史料の内容を整理及び分析することを通じて、史料の扱い方を教授する。さらに、研究報告を行うことにより、プレゼンテーション能力の向上を図り、その後の質疑応答と議論によってコミュニケーション能力を育成し、同時に現在の研究上の問題点を的確に把握し、研究に反映させる能力を養う。</p>	
	<p>(21 砂田 徹) (春・夏学期)</p> <p>本演習では、西洋古代史の分野における重要な研究文献の講読を行うことにより、西洋古代史の研究動向、研究上の問題点及び研究の成果を学修するとともに、西洋古代史の分野で研究を進めるために必要な基本概念及び考え方を学ぶ。また研究文献とともに、西洋古代史における重要な史料の講読を行うことにより、史料読解に必要な語学力（ラテン語及びギリシア語）の向上に努める。本演習では研究文献及び史料の解釈について議論を行うことにより、西洋古代史の分野における理解を深めることができる。</p>	
	<p>(21 砂田 徹) (秋・冬学期)</p> <p>本演習では、西洋古代史における重要な史料の講読を行うことにより、史料読解に必要な語学力（ラテン語及びギリシア語）の向上を図るとともに、史料の内容を整理及び分析することを通じて、史料の扱い方を教授する。さらに、研究報告を行うことにより、プレゼンテーション能力の向上を図り、その後の質疑応答と議論によってコミュニケーション能力を育成し、同時に現在の研究上の問題点を的確に把握し、研究に反映させる能力を養う。</p>	

<p>(34 長谷川 貴彦) (春・夏学期)</p> <p>本演習では、現代歴史学の問題状況から論点を抽出し、近世から現代へと至るヨーロッパ史ないしはアメリカ史に適用できる方法論や理論を検討することにある。歴史学方法論においては言語論的転回以降の認識論の再検討を行う。また比較史の方法に関しては、最近の啓蒙や市民社会の歴史をめぐる論争から普遍性と特殊性、伝統と近代の関連性についての検討を行う。これらのテーマに関連した基礎的な文献を読み、それに関して受講生が関連報告を行い理解を深める。また随時、新刊書に関する合評会、学位論文等にむけての各自の研究報告を行ってもらおう。キーワードは、言語論的転回、文化論的転回、啓蒙、市民社会、アソシエーションである。</p>	
<p>(34 長谷川 貴彦) (秋・冬学期)</p> <p>春・夏学期に引き続き、現代歴史学の問題状況から論点を抽出し、近世から現代へと至るヨーロッパ史ないしはアメリカ史に適用できる方法論や理論を検討することにある。秋・冬学期では、時間論的・空間論的転回以降の研究動向の検討を行う。具体的には、グローバル・ヒストリー、ビッグ・ヒストリー、ディープ・ヒストリーをめぐる一連の論争の検討を行う。これらのテーマに関連した基礎的な文献を読み、それに関して受講生が関連報告を行い理解を深める。また随時、新刊書に関する合評会、学位論文等にむけての各自の研究報告を行ってもらおう。キーワードは、時間論的転回、空間論的転回、グローバル・ヒストリー、ビッグ・ヒストリー、ディープ・ヒストリーである。</p>	
<p>(37 村田 勝幸) (春・夏学期)</p> <p>本演習では、各受講生の問題関心を踏まえ、関連性と有用性が高いと思われるアメリカ近現代史及び同時代史の研究テーマにおける英語の基礎文献の講読を行うとともに、各受講生による研究報告とそれに関連する議論を行う。現在の研究動向においてどのような問いが学術的喫緊性が高く、また最先端の研究がどのような史料・方法論的な手続きによって生産されているか等を、代表的な文献を読むことで学ぶ。さらに、各自が自らの研究テーマに沿った研究報告を行うことにより、プレゼンテーション能力の向上を図り、その後の質疑応答と議論によってコミュニケーション能力を育成するとともに自らの問題点と今後の課題が何かを学ぶ。</p>	
<p>(37 村田 勝幸) (秋・冬学期)</p> <p>本演習では、春・夏学期に引き続き、各受講生の問題関心を踏まえて、アメリカ近現代史及び同時代史の研究テーマにおける英語の基礎文献の講読を行うとともに、各受講生による研究報告とそれに関連する議論を行う。また、各受講生は自分と異なる研究テーマの受講生と意見交換することにより、広い視野からアメリカ史とヨーロッパ史を架橋した西洋史学の研究に関する理解を深めることができる。狭義の専門知識を必ずしも共有しない受講生とも積極的に議論することで、説得的かつ明晰な議論を展開する技術と姿勢を学ぶとともに、学際的な視野や手法を身に付ける。</p>	

	<p>(66 松寫 明男) (春・夏学期)</p> <p>各受講生の問題関心を前提に、それと関係の深いフランス近代史の研究テーマにおけるフランス語の基礎文献の講読を行うとともに、各受講生によるフランス近代史の研究報告とそれに関する質疑応答、議論も行う。フランス近代史研究において現在どのような問題設定が行われ、どのような手法と史料によって研究が進められているのかを、基礎文献を読むことで学び、さらに各自が研究報告を行うことによってプレゼンテーション能力の向上を図り、その後の質疑応答と議論によってコミュニケーション能力を育成し、同時に現在の研究上の問題点は何かを学ぶ。また、各受講生は自分と異なる研究テーマの受講生と意見交換することにより、広い視野から西洋史学に関する理解を深めることができる。</p>	
	<p>(66 松寫 明男) (秋・冬学期)</p> <p>春・夏学期に引き続き、各受講生の問題関心を前提に、それと関係の深いフランス近代史の研究テーマにおけるフランス語の基礎文献の講読を行うとともに、各受講生によるフランス近代史の研究報告とそれに関する質疑応答、議論も行う。文献講読においては、フランス近代史研究において現在どのような問題設定が行われ、どのような手法と史料によって研究が進められているのかを、基礎文献を読むことで学ぶ。さらに各自が研究報告を行うことによって、プレゼンテーション能力の向上を図り、その後の質疑応答と議論によってコミュニケーション能力を育成し、同時に現在の研究上の問題点は何かを学ぶ。また、各受講生は自分と異なる研究テーマの受講生と意見交換することにより、広い視野から西洋史学に関する理解を深めることができる。</p>	
考古学特殊講義	<p>(概要)</p> <p>本講義では、考古学分野における研究の現状を概観するとともに、近年の研究動向及び先端的な研究内容を解説する。考古学分野において現在どのようなテーマが取り上げられ、どのような手法によって研究が進められているのか、さらに現在の研究上の問題点は何かを学ぶことができる。また、考古学の特定の分野に関する研究史、研究方法、考古資料、基本概念を解説するとともに、実証的な研究内容を教授することにより、考古学分野の研究に関する理解を深めることができる。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(13 小杉 康／8回)</p> <p>日本列島で展開した原始・古代の人類文化についての考古学の現在の研究状況を解説する。特に、各地域の縄文文化については、土器の編年研究と葬儀祭祀研究との観点から問題点を掘り下げて、新たな研究方法の実践例を示す。また、各時期・地域の研究成果に対して民俗誌考古学による解釈モデルの有効性を検討し、その方法論的な可能性を考察する。</p> <p>(57 高瀬 克範／7回)</p> <p>日本列島北部とその北方隣接地域(サハリン、千島、カムチャツカ)の先史考古学の研究状況を解説する。基本的な文化史変遷とともに、社会組織、居住形態、資源利用に関わる最新の研究成果を取り上げ、それが北太平洋沿岸や東北アジア全体において有する意義を考察する。</p>	オムニバス方式
考古学特別演習	<p>(概要)</p> <p>修士論文の作成に向けて、自らの研究テーマを設定できるように、研究を進めるための基礎資料である発掘調査報告書を読解する。前期は日本列島を中心として展開した各種の人類文化の遺跡の発掘調査報告書を取り扱い、後期は受講生各自の研究テーマに結び付いた発掘調査報告書を選定し取り扱う。報告書に掲載されている各種情報(位置情報・遺跡情報・地層情報・遺構情報・遺物情報、ほか)から、データを抽出・解析・解釈・再提示するための実践的方法を習得するために、レジュメ資料の作成・口頭発表及び情報機器を使用した発表・討論の演習形式の授業を進める。</p>	

	<p>(春・夏学期) 考古学の基礎資料である発掘調査報告書に掲載されている各種情報（位置情報・遺跡情報・地層情報・遺構情報・遺物情報、ほか）から、研究テーマに即したデータを抽出・解析・解釈・再提示する方法を解説する。受講生は自分の研究テーマに限定することなく、日本列島で展開した各種人類文化（旧石器文化、縄文文化(統縄文期を含む)、弥生文化、古墳文化、擦文文化、貝塚文化前期、貝塚文化後期)に関連する発掘調査報告書をテキストとして選定し、学習した各種情報のデータの抽出・解析・解釈・再提示を実践する。その結果を発表し、その内容について受講生全員で討論を重ねる。</p>	
	<p>(秋・冬学期) 考古学の基礎資料である発掘調査報告書に掲載されている各種情報（位置情報・遺跡情報・地層情報・遺構情報・遺物情報、ほか）から、研究テーマに即したデータを抽出・解析・解釈・再提示する方法を解説する。受講生は自分の研究テーマに関連する発掘調査報告書をテキストとして選定し、学習した各種情報のデータの抽出・解析・解釈・再提示を実践する。その結果を発表し、その内容について受講生全員で討論を重ねる。以上の実践を通して、受講生各自は自分の研究テーマの問題設定の意義を再検討あるいは再検討し、学位論文等作成に向けての準備を行う。</p>	
北方考古学特別演習	<p>(概要) 中・高緯度地域の考古学において取り組まれている問題設定と方法論の現状を把握することで、自らの研究を自律的に行うための土台を構築する。あわせて、進行中の研究内容についてのディスカッションを通して研究内容の向上をはかる。</p>	
	<p>(春・夏学期) 中・高緯度地域における考古学の先行研究の精読により、物質痕跡から過去の人類の行為や社会を復元するために必要となる資料選択、データ収集、解析手法、解釈の枠組みなど一連の研究プロセスについて理解を深める。地域や時期をあまり限定せずに、北方地域で有効性・汎用性が高く、頻繁に用いられてきている手法や、将来的に有力なツールとなりえる可能性がある最新の方法論に関わる研究を取り上げ、そのメリットと問題点を共有する。また、受講生各自が専門とする地域・時期にそうした方法論が適用可能か否かも議論する。</p>	
	<p>(秋・冬学期) 中・高緯度地域における考古学の先行研究の精読により、物質痕跡から過去の人類の行為や社会を復元するために必要となる資料選択、データ収集、解析手法、解釈の枠組みなど一連の研究プロセスについて理解を深める。受講生各自が専門とする地域・時期について現在の研究水準を確認し、残されている課題を整理するとともに、その課題を解決するために必要となる資料の種類と方法論を議論する。自らの研究がある程度進行している場合は、具体的なデータをもとに、分析手法や解釈の妥当性を検証し、研究の質向上をはかる。</p>	
考古科学特別演習	<p>先行研究の精読により、遺物や遺構、あるいは遺跡そのものから過去の人類の活動や社会を復元するために利用できる考古学的アプローチについて理解を深める。地域や時期を限定せずに考古科学が用いられた研究の事例を取り上げ、用いられている視点や分析・解析手法の長所と短所、及び前提となる科学的根拠を共有するとともに、結果や考察の妥当性について議論する。また、受講生各自が専門とするテーマ・地域・時期に引き付けて、そうしたアプローチが有効と考えられるかどうか議論する。</p>	

環境考古学特別演習	<p>自然環境と人間の相互関係に着目した先行研究を精読し、研究テーマの設定、資料の選択、分析・解析の手法、結果の解釈と考察といった環境考古学の一連の研究プロセスについて理解を深める。地域や時期を限定せずに環境考古学の研究事例を取り上げ、用いられている視点や分析・解析手法の長所と短所を共有するとともに、結果や考察の妥当性について議論する。また、受講生各自が専門とするテーマ・地域・時期に引き付けて、そうしたアプローチが有効と考えられるかどうか議論する。</p>	
考古学特別実習	<p>(概要) 本実習では、考古学研究の基礎となる遺跡の調査方法と出土資料の整理・分析方法を体系的に習得できるように実習指導する。遺跡の発掘調査の目的の決定・発掘する遺跡の選定・発掘の実施計画の策定・発掘調査組織の運営法・発掘調査の実践・遺跡保護のための手続きについて習得するために、遺跡発掘調査の準備と野外での実践を行う。また発掘した出土資料の整理・資料化・分析を習得するための実践を室内で実施して、考古学研究の専門的な実践的知識・技術を高める。</p> <p>(13 小杉 康・57 高瀬 克範) 考古学研究の基礎となる野外での遺跡の調査方法を体系的に習得できるように以下の順序で体系的に実習指導する。(1)発掘調査の目的の決定、(2)発掘する遺跡の選定、(3)発掘の実施計画の策定、(4)発掘調査組織の運営法、(5)測量基準の設定、(6)発掘区の設定、(7)発掘区周辺の整備と表土層の掘削、(8)出土遺物の記録と取り上げ、(9)サンプルの採取、(10)自然遺存体の取り上げ、(11)遺構の測量、(12)遺構の写真撮影、(13)発掘調査区の埋め戻しと発掘機材の整備、(14)調査記録類の台帳照合、(15)遺跡保護のための手続きについて。 上記の内容を2名の教員が役割分担をせず共同で行う。</p> <p>(76 高倉 純) 野外における遺跡の発掘調査での各種サンプルの採取方法と、室内での資料・データの整理・分析方法を実践的に指導する。特に出土した土器・石器等の各種遺物の整理・資料化の方法、測量データの解析・図化の方法、花粉やプラントオーバー等自然遺存体及び土壌・地層サンプルの分析・同定の方法の指導を行い、考古資料の体系的な資料化と分析方法を、実践を通して習得させる。</p>	共同
文化人類学特殊講義	<p>文化人類学の近年の動向を概説すると共に、受講生がそれを踏まえて自分で現場と向き合い、思考できるようになることを目指す。特に「存在論的転回」以後の人類学において問題となっている、自然と人間との関係性について、先行研究の概観を行うと同時に、それらを多様な事象と参照させ、対話的かつ批判的に検討する。さらに近代文明、植民地主義などのマクロな歴史的な文脈の中で人類学的研究と具体的な事象を位置づけられる姿勢を学ぶ。</p>	
文化人類学特別演習	<p>(概要) 文化人類学の先端的かつ根源的な問題と取り組む力を養うために、重要な文献を講読し、受講生間でディスカッションを実施する。論文や書籍を「もの書きモード」で読むことを通じて、研究の進め方と論文の書き方を具体的に習得することもめざす。多様性、自発性、生命論、流動性、存在論的転回、自然・人間関係などのテーマに関わる文献を主に取り上げる。</p>	

	<p>(春・夏学期) アマゾン先住民族のパースペクティヴィズムから多自然主義を提起するヴィヴェイロス・デ・カストロ，自然と人間の分割を根本的に検討するデスコラ，アンデス先住民族と「大地の存在」との関係から自然と政治との分割を乗り越えようとするデ・ラ・カデナ，「近代」を対称性人類学の視座から位置づけ直すラトゥール，非線形科学論に依拠しながら人類学の理論的前提を刷新するストラザーンの文献を講読する。</p>	
	<p>(秋・冬学期) 文化人類学の学術雑誌（『文化人類学』，American Anthropologist, Cultural Anthropologyなど）に掲載の原著論文を受講生と「もの書きモード」で講読し，研究の進め方と論文の書き方について学ぶ。また受講生が進めている研究について発表を行って，相互にコメントと質疑応答をすることで研究者として必要な対話的なディスカッションの能力を身につける。</p>	
芸術学特殊講義	<p>(概要) 芸術学で取り扱われる主要なテーマについて理解し，国内外の研究状況を把握するとともに，芸術学研究の方法論や課題を考察する。古典的な芸術の解釈にとどまることなく，芸術の現代的な問題にも取り組み，研究と芸術の現場を橋渡しする視野が得られるようにする。また，芸術学の研究に必須となる作品の実際の調査や，文献・資料の調査のやり方を身に付けるとともに，芸術の歴史的・理念的背景を明らかにする方法を学ぶものとする。</p>	
	<p>(38 谷古字 尚) 中世・ルネサンス・バロック期のヨーロッパ美術を取り上げ，最新の研究を参照しながら中心的なテーマを理解し，方法論について検討する。その際，都市や建築，環境にも目を向け，美術の造形的な側面だけでなく，宗教や思想的背景，人類学的なアプローチなども十分考慮に入れる。それにより新たな課題を発見する能力を養い，またどのように研究計画を立て，作品や資料の調査を行っていくのか，西洋美術史分野における実際の研究調査の方法について理解できるものとする。</p>	
	<p>(43 北村 清彦) 風景や景観などが絵画や庭園，都市公園，まちづくりなどにおいて造形化されてきた歴史やその思想性を理解し，現代の環境芸術や環境美学がグローバルな環境問題に対し展開している議論の妥当性を批判的に検証する。授業では毎回取り上げるべき作品の分析とその歴史的・思想的背景を講述し，芸術学的に解決された問題点と未解決のままに残された問題点を共有した上で，後者に対してどのような解決の方向性があり得るかを論議する。</p>	
	<p>(65 浅沼 敬子) 20～21世紀の近現代美術史の作例あるいは関連現象について，文献や資料を参照・提示しつつ講述し，その美術史的・芸術学的あるいは社会的意義について受講生とともに議論・考察する。個別作例の検証にとどまらず，後世にどのような影響を与えたのかを発展的に迎えることができるよう，適宜関連するトピックや資料の提示を行う。当該領域に関する基礎知識のみならず，受講生自ら研究課題を発見し，発展的に調査を行うための諸方法を伝授する。</p>	
芸術学特別演習	<p>(概要) 受講生各自が芸術学に関するテーマを定めて調査研究を行い，その成果を踏まえて発表や論文作成を行えるよう指導する。研究状況の把握，課題の設定，実際の調査，成果の適切なまとめ方，効果的なプレゼンテーションの方法などを習得することを目的とする。</p>	

	<p>(春・夏学期)</p> <p>受講生各自が芸術学の学問領域の中から、自分の専門として調査研究を進めていくテーマを選択し、適切に作業が進められるよう少人数のグループに分けて指導する。作品やテキスト・資料との接し方、具体的な調査のやり方と調査結果の利用法、また研究史・研究の現状を踏まえることにより課題をはっきりさせ、研究の目的を明確化すること、さらには論文作成や発表における議論の展開の仕方など、実際の調査から成果の報告まで、研究の方法を身に付けられるものとする。</p> <p>上記の内容を3名の教員が役割分担せず共同で行う。</p>	共同
	<p>(秋・冬学期)</p> <p>担当教員3名全員が毎回出席して、受講生各自が専門とする芸術学に関するテーマの研究発表を行う。毎回一人が発表を担当し、自身が進めている研究を原稿用紙30枚程度にまとめて発表する。国内外の学会や研究会で発表するためのプレゼンテーション技術を習得するだけでなく、他の受講生とディスカッションをして問題点などを明らかにすることにより、研究内容を深めたり修正したりしていく。また、発表に基づいて専門的な学術雑誌に掲載される論文を作成できるようになるものとする。</p> <p>上記の内容を3名の教員が役割分担せず共同で行う。</p>	共同
博物館・文化財研究特殊講義	<p>(概要)</p> <p>本講義は博物館研究・文化財研究に関する内容について、理論と実践の両面から、及び文系資料と理系資料の両方から理解を深める。そのために、博物館・文化財研究における研究史や研究動向、最新の研究テーマ、新たに用いられている研究手法、他の研究領域との共同による最新の研究成果などに関して解説する。併せて、実際の博物館現場における展示室や収蔵庫で、先の研究成果や研究手法などがどのように活用され博物館活動に有効に働いているか、それによって新たに発生する課題は何かを解説する。</p>	
	<p>(17 佐々木 亨)</p> <p>博物館研究の一分野である「博物館学」における現在の研究状況を解説する。特に、博物館と市民・地域社会の関係について近年議論されているテーマである、「博物館活動への市民参画」、「居場所としての博物館」、「社会的弱者に対する社会的包摂」、「説明責任のための事業評価結果の公開と活用」を取り上げる。これらのテーマに関する最新の研究成果や調査手法を概観し、その上で実際の博物館での適用事例を紹介し、成果や発生する課題について考察する。</p>	
	<p>(56 鈴木 幸人)</p> <p>文化財研究の一分野である「日本美術史」及び「美術工芸等文化財研究」に関する現在の研究状況を解説する。特に、美術史と博物館・文化財保護の関連性に着目して、「日本における美術史の形成と展開」、「日本美術コレクションの諸相」、「文化財・美術作品展示と展覧会の諸相」の問題を設定する。具体的な分析対象としては「天神信仰の造形」ないし「絵馬と絵馬堂」を取り上げて考察していく。これらのテーマに関する研究成果を概観し、これからの課題についても考察する。</p>	
	<p>(80 大原 昌宏)</p> <p>博物館研究の一分野である「自然史系資料の維持管理と教育展示応用」について、現在の研究状況を紹介する。特に自然史系博物館における「日本における自然史系博物館の歴史」、「資料管理方法」、「資料の展示利用」、「自然史系地域博物館ネットワーク」、「資料とデータベース構築」、「日本のナショナルコレクションの現在・未来」、「自然保護、生物多様性条約と博物館自然史資料」を取り上げ、その問題点を講義し、論点を深めていく。</p>	

博物館・文化財研究特別演習	<p>(概要) 本演習では、大学院生が博物館・文化財研究を進めるにあたり必要となる、実際の博物館及び文化財におけるフィールドワークに関する様々なスキルを、文系・理系を問わず身につける。それとともに、受講生自身の研究進捗や最新の論文成果を報告し、他の演習受講生や教員とのディスカッションを通して研究に関する思考を磨く。</p>	
	<p>(春・夏学期1) 「文化財調査のスキル」の修得のために、文化財(資料・作品・標本)保存管理の方法、及び文化財(資料・作品・標本)調査の方法を少人数のグループに分けて指導する。 上記の内容を3名の教員が役割分担せず共同で行う。</p>	共同
	<p>(春・夏学期2) 毎回3名の教員が出席し、受講生自身の研究論文執筆に向け、各自の研究計画の報告及び執筆予定論文の報告をもとに、演習受講生も交えたディスカッションを行う。 上記の内容を3名の教員が役割分担せず共同で行う。</p>	共同
	<p>(秋・冬学期1) 「博物館評価調査のスキル」の修得のために、展示内容に関する批評及び来館者調査の方法とそのデータ分析手法について少人数のグループに分けて指導する。 上記の内容を3名の教員が役割分担せず共同で行う。</p>	共同
	<p>(秋・冬学期2) 毎回3名の教員が出席し、受講生自身の研究論文執筆に資するために、当該分野の研究論文に関する批評及び当該分野の研究図書に関する批評をし、演習受講生も交えたディスカッションを行う。 上記の内容を3名の教員が役割分担せず共同で行う。</p>	共同
英米文学特殊講義	<p>(概要) 英米・英語圏文学を中心に、それぞれの作品が書かれるに至った歴史・社会・文化的な背景を考慮しつつ、作品自体の特異性にも目配りしながら、それらが現代を生きる読者にとって持ちうる意義を理解できるようにする。そのためには、まず作品を正確に解釈すること、また、先行研究を幅広く読み解いていくことが必要となる。そのような批評的理解に必要な英語力の涵養も行う。その上で、受容的な理解にとどまらず、自ら学術的な貢献をすべく、英米の学術研究誌に論文を投稿するための発信型の英語力も身につけていく。</p>	
	<p>(22 瀬名波 栄潤) (春・夏学期) 大学院生を対象とした高度な講義科目として、理論を正しく理解させる。これにより、文学理論だけでなく英語が使われている国や地域の歴史・社会・文化について理解し、作品の重層的な解釈の発見のみにとどまらず、他の文学作品との関係性や、理論・作家・作品の関係、そして文学的芸術表現形態について学ばせる。具体的には、英米文学研究用にプログラムした特別な図書館ガイダンスを実習させ、文学研究に関する基本書(英文)を精読し、注釈付き文献リストを作成させ、文学研究の倫理と論文執筆のための基本的技術を学ぶ。</p>	

	<p>(22 瀬名波 栄潤) (秋・冬学期)</p> <p>大学院生を対象とした高度な講義科目として、理論を正しく理解させる。これにより、文学理論だけでなく英語が使われている国や地域の歴史・社会・文化について理解し、作品の重層的な解釈の発見のみにとどまらず、他の文学作品との関係性や、理論・作家・作品の関係、そして文学的芸術表現形態について学ばせる。具体的には、春・夏学期の学習事項を踏まえ、現代アメリカのセクシュアリティに関する論集（英文）を精読し、文学作品におけるセクシュアリティ論やクイア研究の基本的概念を理解させる。そして、文学研究と論文執筆のための実践的基盤を築かせ、春・夏学期に作成した注釈付き文献リストを用いて、論文執筆の実践を始める。</p>	
	<p>(25 竹内 康浩) (春・夏学期)</p> <p>英米・英語圏文学を研究対象とする学術論文を執筆し、国内外の学術研究誌に論文を投稿することを最終的な目標としながら、そのために必要な基礎的事柄に対する知識を段階的かつ実践的に学んでいく。研究テーマの設定の仕方、様々なデータベースを使用するの先行論文の収集法、先行研究の実際的な読解とその整理方法、主な論文フォーマット形式の習熟、また様々な批評的アプローチの理解などを、英米・英語圏文学における重要な作品に対する読解・批評行為を通して、習得することになる。</p>	
	<p>(25 竹内 康浩) (秋・冬学期)</p> <p>春・夏学期に学んだ英米・英語圏文学を研究対象とする学術論文を執筆し、国内外の学術研究誌に論文を投稿するための知識を元に、さらに関連する事柄について発展的に学ぶ。研究テーマの設定の再検討、データベースを使用するの先行論文の収集法だけでなく、マンデレー等の論文整理のためのソフトウェアを使っての先行研究の管理などに引き続き習熟するよう学んでいく。また、最先端の文学理論の数々を理解し、自らの論文のフレームワークとして使用できるよう講義する。</p>	
西洋文学特殊講義	<p>(概要)</p> <p>本講義では、西洋文学研究の現状を概観するとともに、近年の研究動向及び先端的な研究内容を解説する。それぞれの言語に応じた文学研究の伝統・手法が部分的に大きく異なることに鑑み、各分野の特殊事情に即して、現在どのようなテーマが取り上げられ、どのような手法によって研究が進められているのか、さらに現在の研究上の問題点は何かといった点が教授される。さらに、特定のテーマ（時代、作家等）に応じた研究手法や研究上の基本概念が解説されることによって、研究の具体的な進め方に関する理解を深めることができる。</p>	
	<p>(6 大西 郁夫)</p> <p>本講義では20世紀以降から現代に至るロシアの文学研究、文学理論の主要な論点を問題として取り上げる。その中でもとりわけロシア・フォルマリズムやバフチンの文学理論や彼らの提起した異化、動機付け、クロノトポス、カーニバル論といった諸概念をまず学ぶ。またソビエト文芸学における彼らの理論、概念のロトマンによる記号論的展開を学び、現代における再評価、批判について検討した上で、今日の文学研究への接続点、各自の研究対象とする作家、作品、文学潮流などについての応用可能性を学ぶ。</p>	

	<p>(58 竹内 修一)</p> <p>受講生の専門分野に合わせて、フランス文学研究における研究対象の選び方や書誌の作成等の基礎的方法論、及び文学史、ナラトロジー、生成批評といった主要な批評理論を講義する。その上で、そうした批評理論に依拠した具体的な論文を複数紹介し、どのようにその論文が組み立てられ、論拠が導かれているのかを詳細に分析する。受講生には、自分が準備している論文のなかで各々の批評理論をどのように援用できるかについて、定期的にレポートを提出してもらう。</p>	
	<p>(60 戸田 聡)</p> <p>古代キリスト教文学に関する研究の現状を、その背景となる古代キリスト教史の解説を踏まえつつ概観し、その際、いわゆる東方キリスト教圏に於いて見られるギリシア語・ラテン語以外の言語での伝承に特に留意する。また、資料の取り扱い方をめぐる様々な問題（写本伝承の問題、著者不明の著作の扱い方の問題等）に言及し、独力での資料の取り扱いが可能となるように配慮する。さらに、二次文献の使用及び論点整理等についても留意すべき点を示し、研究の具体的な進め方に関する理解が深まるように配慮する。</p>	
	<p>(72 Matthias Grunewald)</p> <p>(春・夏学期)</p> <p>本講義ではドイツと他のヨーロッパ諸国及びEUの諸機関との関係を取り扱う。そのためにEUの形成へと至る経緯、具体的には、欧州原子力共同体、欧州石炭鉄鋼共同体、欧州経済共同体等の重要な機関の創設を考察するとともに、そこにおいてドイツが果たした役割を考察する。さらにEUの現状と問題点を理解するために、EU内部でのドイツの主要な役割を、その歴史的経緯を含めて考察する。このような考察を通じて、EUの将来とドイツの役割について考えることができるようになる。</p>	
	<p>(72 Matthias Grunewald)</p> <p>(秋・冬学期)</p> <p>春・夏学期の講義を踏まえ、国際社会におけるドイツの役割を取り扱う。世界経済、とりわけ世界経済関連の組織におけるドイツの役割を考察する。また、OSZE（欧州安全保障協力機構）や国際連合のような国際的な政治的機関におけるドイツの役割を考察する。このような考察により、第二次世界大戦での敗北にもかかわらず主要な経済国家へと興隆し、かつ政治的にも大きな役割を果たすドイツと日本を比較検討することにより、日本との共通点と相違点を考えることができるようになる。</p>	
<p>英米文学特別演習 I</p>	<p>(概要)</p> <p>大学院修士課程に資する高度な入門的科目で、英米・英語圏文学の作品解釈や翻訳などを演習形式で行う。学位取得のための基礎力養成が目的であり、修士論文・特定課題研究執筆の予備段階での知識や技術を身につけさせる。授業では、担当教員がテーマを絞り作品を選択する場合が主である。受講生は複数の作品を担当し、二次資料を用いての授業内発表や課題レポート提出を行う。</p>	
	<p>(春・夏学期)</p> <p>大学院生を対象とした高度な文学演習科目として、英語で書かれた文学作品を正しく理解し、且つ文学的表現力への理解を深め、高度な解釈能力を身につけさせる。これにより、英語が使われている国や地域の歴史・社会・文化について理解し、作品の重層的な解釈の発見のみにとどまらず、他の文学作品との関係性や、作家自身と作品の関係、そして文学的芸術表現形態について、いわゆる行間を読む能力をつけさせる。英語文学アンソロジーを読み、文学作品に表象されている文学と階級・文化を検証する。春・夏学期は散文に絞り18作品を扱い、検証・発表させる。</p>	

	<p>(秋・冬学期)</p> <p>大学院生を対象とした高度な文学演習科目として、英語で書かれた文学作品を正しく理解し、且つ文学的表現力への理解を深め、高度な解釈能力を身につけさせる。これにより、英語が使われている国や地域の歴史・社会・文化について理解し、作品の重層的な解釈の発見のみにとどまらず、他の文学作品との関係性や、作家自身と作品の関係、そして文学的芸術表現形態について、いわゆる行間を読む能力をつけさせる。英語文学アンソロジーを読み、文学作品に表象されている文学と階級・文化を検証する。秋・冬学期は詩に絞り25作品を扱い、検証・発表させる。</p>	
英米文学特別演習Ⅱ	<p>(概要)</p> <p>英米・英語圏文学を研究・批評するために不可欠な英語力を涵養しながら、個別のテキストの丁寧かつ客観的な読み解きと歴史主義批評や精神分析批評などの数々の文学理論の枠組みをも踏まえた上で、作品と作家に関する議論を演習形式で行う。</p>	
	<p>(春・夏学期)</p> <p>英米・英語圏文学に関する修士課程における基礎的な演習。19世紀から現代に至る文学作品を精読・批評することを主眼とする。批評に際しては、それぞれの作品が書かれるに至った歴史・社会・文化的な背景を考慮しつつ、作品自体の特異性にも目配りしながら、それらが現代を生きる読者にとって持ちうる意義を理解していく。そのためには、まず作品を正確に解釈すること、また先行研究を幅広く読み解いていくことが必要となる。その上で、受容的な理解にとどまらず、自ら学術的な貢献をするための発信型の英語力も身につけていく。</p>	
	<p>(秋・冬学期)</p> <p>英米・英語圏文学に関する修士課程における発展的な演習を行う。対象は、19世紀から現代に至る文学作品とする。研究対象に対する学術的な貢献をするための独自の研究成果を残せるよう、広範な視野を養っていく。その過程において、引き続き、それぞれの作品が書かれるに至った歴史・社会・文化的な背景を考慮しつつ、作品自体の特異性にも目配りしながら、それらが現代を生きる読者にとって持ちうる意義を理解していくことに努める。</p>	
英米文学特別演習Ⅲ	<p>(概要)</p> <p>大学院修士課程に資する高度な発展的科目で、英米・英語圏文学の作品解釈や翻訳などを演習形式で行う。学位取得のための実践力養成が目的であり、修士論文・特定課題研究執筆で実際に活用できる知識や技術を身につけさせる。授業では、担当教員がテーマと作品を設定する場合と各受講生が自主的に関心領域を選択担当する場合がある。いずれの場合も、受講生は二次資料を用いての授業内発表や課題レポート提出を行う。</p>	
	<p>(春・夏学期)</p> <p>大学院生を対象とした高度な文学演習科目として、英語で書かれた文学作品を正しく理解し、且つ文学的表現力への理解を深め、高度な解釈能力を身につけさせる。これにより、英語が使われている国や地域の歴史・社会・文化について理解し、作品の重層的な解釈の発見のみにとどまらず、他の文学作品との関係性や、作家自身と作品の関係、そして文学的芸術表現形態について、いわゆる行間を読む能力をつけさせる。英語文学アンソロジーを読み、文学作品に表象されているジェンダーを検証・発表させる。春・夏学期は26名の小説家・詩人の作品を扱う。</p>	

	<p>(秋・冬学期)</p> <p>大学院生を対象とした高度な文学演習科目として、英語で書かれた文学作品を正しく理解し、且つ文学的表現力への理解を深め、高度な解釈能力を身につけさせる。これにより、英語が使われている国や地域の歴史・社会・文化について理解し、作品の重層的な解釈の発見のみにとどまらず、他の文学作品との関係性や、作家自身と作品の関係、そして文学的芸術表現形態について、いわゆる行間を読む能力をつけさせる。英語文学アンソロジーを読み、文学作品に表象されているジェンダーを検証・発表させる。秋・冬学期は23名の小説家・詩人の作品を扱う。</p>	
西洋文学特別演習	<p>(概要)</p> <p>本演習では、西洋文学に関する研究動向の流れを把握し、研究の現状及び先端的な研究内容を解説する。それぞれの言語・分野に応じて基本的論文・著作、先端的研究、それらが対象とする文献や作品、資料等の欧文読解、解釈を通じて、学術的な基本概念、専門用語、文学理論、研究方法、理論構築の手法を学ぶことができる。また、これらの研究の意義、学術的位置づけを批判的に考察することにより、西洋文学研究の方向性をつかみ、各自の研究の具体的な進め方に関する理解を深めることができる。</p>	
	<p>(6 大西 郁夫)</p> <p>(春・夏学期)</p> <p>本演習では、近代文学研究分野に関する概念や専門用語について学ぶ中で、文学研究の方法について考察を行う。特に文学言語と一般言語の関係、文学と文化の相関、文学と歴史性などの問題とそこに含まれる諸概念は、ロシア・フォルマリズムに属した研究者が提起したものである。彼らの論文等をロシア語原文で読解し、正確な解釈を行えるよう指導する。この際、これらの文学理論が生まれた時代状況や背景も踏まえて考察し、その研究史上の意義を明らかにする。またこうした観点が個別作家に適用されている近年の研究も併せて読み、現代におけるその理論の現代的意義を検討する。</p>	
	<p>(6 大西 郁夫)</p> <p>(秋・冬学期)</p> <p>本演習では、近代文学研究分野に関する概念や専門用語について学ぶ中で、文学研究の方法について考察を行う。特に物語の構造分析、小説の言語、作者と主人公、文学作品の文化記号論的解釈などの問題とそこに含まれる諸概念は、ロシアの文学研究においてプロップ、バフチン、ロトマンなどが提起したものである。彼らの論文等をロシア語原文で読解し、正確な解釈を行えるよう指導する。この際、これらの文学理論が生まれた時代状況や背景も踏まえて考察し、その研究史上の意義を明らかにする。またこうした観点が個別作家に適用されている近年の研究も併せて読み、現代におけるその理論の現代的意義を検討する。</p>	
	<p>(58 竹内 修一)</p> <p>(春・夏学期)</p> <p>1984年から92年にかけて出版された『記憶の場』という書物は、フランスにおける集合的記憶の研究を著しく活性化させた。本演習ではこの大著に注目し、共同体の記憶と文学がどのような関係を取り結んでいるかについて考察する。第一線の研究者たちによって執筆された本書は多くの項目を含んでいる。春・夏学期は「三色旗」「バンテオン」「7月14日」「ヴェンデ」といった項目をもつ、『記憶の場』第一部を題材とする。まず受講生の興味と専門分野を踏まえて、取り上げる項目を決定し、そのあと受講生は該当項目に詳述されている(フランスの)集合的記憶と自分が研究対象とする作品との関係について発表を行う。</p>	

	<p>(58 竹内 修一) (秋・冬学期)</p> <p>1984年から92年にかけて出版された『記憶の場』という書物は、フランスにおける集合的記憶の研究を著しく活性化させた。本演習ではこの大著に注目し、共同体の記憶と文学がどのような関係を取り結んでいるかについて考察する。第一線の研究者たちによって執筆された本書は多くの項目を含んでいる。秋・冬学期は「アルザス」「街路の命名」「文化遺産」「コレージュ・ド・フランス」といった項目をもつ、『記憶の場』第二部を題材とする。まず受講生の興味と専門分野、そして準備している論文のテーマを踏まえて、取り上げる項目を決定し、そのあと受講生は該当項目に詳述されている（フランスの）集合的記憶と自分が研究対象とする作品との関係について発表を行う。</p>	
	<p>(60 戸田 聡) (春・夏学期)</p> <p>古代キリスト教研究関係の文献の原典講読を行なう。どのような文献を読むかについては受講生とも相談の上、選定する。そして講読を進める中で当該文献の成立・伝承等をめぐる解説・補足検討を行ない、かつ古代文献の常として必要となる本文批評についても解説を行ない、受講生が独力で古代文献を読み進める能力を習得できるように配慮する。春・夏学期では基本的に旧約聖書或いは旧約聖書に関連する文献（いわゆる旧約外典偽典を含むが、必ずしもそれに限られない）について講読を行なう。</p>	
	<p>(60 戸田 聡) (秋・冬学期)</p> <p>古代キリスト教研究関係の文献の原典講読を行なう。どのような文献を読むかについては受講生とも相談の上、選定する。そして講読を進める中で当該文献の成立・伝承等をめぐる解説・補足検討を行ない、かつ古代文献の常として必要となる本文批評についても解説を行ない、受講生が独力で古代文献を読み進める能力を習得できるように配慮する。秋・冬学期では基本的に新約聖書或いは新約聖書に関連する文献或いはさらに時代が下った古代キリスト教関連文献について講読を行なう。</p>	
	<p>(78 藤本 純子)</p> <p>様々なドイツ語テキストの実践的な解読トレーニングにより、ドイツ語の文法・語彙・発音などの基礎力を堅固なものにするとともに、読解力・語彙力、並びに構文・文脈を把握する力を高め、ドイツ語の表現や文体の多様性を知り、中級～上級レベルへのレベルアップを行う。受講生の共同作業による疑問解決や意見交換によって理解と考察を深め、また場面や状況に応じた正確・適切かつ良質な日本語訳の可能性を探る訓練も行う。受講生が各人の専門研究において、自立した解読者としてドイツ語の情報の収集や一次資料・学術論文などの文献解読を行うためのドイツ語力を養成し、また、様々なドイツ語運用場面への活用も促す。</p>	
言語文化論特別演習	<p>(概要)</p> <p>異文化に対する理解を深めるために、本演習では、英語圏のみならず、様々な地域や時代に及ぶ西洋の言語と文化を、複数の視角から掘り下げて考察する。扱われる対象は担当者ごとに異なる。たとえば、戯曲や小説の原文自体を正確に理解するというアプローチで対象を取り扱う場合もあれば、古典的作品が日本語や英語に翻訳されたものを数種比較するアプローチを採用する場合もある。いずれの場合にも、西洋の文化をどう把握し理解するかということが本演習の要諦をなす。</p>	

	<p>(58 竹内 修一)</p> <p>フランス文学の古典的作品にはしばしば複数の翻訳が存在している。本演習では、プーソの『失われた時を求めて』の四人の訳者による翻訳を取り上げ、それらを比較しながら、外国語で書かれた作品を日本語に移す上で生じる様々な問題（タイトル、訳語、文体、誤訳、時代と翻訳との関係など）について考察する。その際、翻訳をめぐる理論的研究を随時参照する。なおフランス語原典の解釈には拘泥せず、日本語訳の比較に重点を置き、英訳も平行して参照する。本演習を通して、わが国の翻訳文化と英語圏の翻訳文化との差異を理解することが期待される。</p>	
	<p>(60 戸田 聡)</p> <p>世界の文学の古典中の古典と言える「聖書」は、日本人にとって異文化である西洋の文化の根本を支えるものの一つだと言うことができ、その重要性に応じて、日本語への翻訳も多種多様に存在する。本演習ではそれら数種の日本語訳を比較することを通じて、日本人による聖書理解の変遷を探ると共に、翻訳一般が蔵する、異文化理解に関わる様々な問題への認識を深めることを目的とする。理想的には翻訳同士の比較だけでなく原文と翻訳の比較もできることが望ましいが、原語（ヘブル語やギリシア語など）の理解が必ずしも容易でないことに鑑み、日本語に比べて原語との並行性が取りやすい英語訳を原典代わりに使用して、原文との比較に類した作業をも行なう。なお、本演習を通じて受講生が聖書に関する基礎知識を習得することも本演習の狙いの一つを成す。</p>	
	<p>(79 宮下 弥生)</p> <p>シェイクスピアの作品について英語の表現一つ一つを大切に読み解いていく。単語の語源レベルにまで遡りそのニュアンスを理解し、それが与えられたコンテキストでどのような意義を持って用いられているのか考えていく。また、作品に多く見られる特異な文構造について、なぜそのような形を取っているのか、なぜ平易な文体ではないのか、その意義を考察する。そうすると、作品がさらなる深みを持ったものとして立ち現れてくるはずである。その上で、各自が作品に対する自分の確固たる見解を持ち、それを客観的な論拠を持つて的確に表現できるようになることを目標とする。最終的には英語で緻密な論文を書く能力を養う。このような作業を通して、シェイクスピア劇に深く根差したイギリス文化について理解を深めることも可能となる。</p>	
日本古典文化論特殊講義	<p>近世文化の特徴を把握するために人形浄瑠璃を中心にして理解していく。主に江戸前期に活躍した近松門左衛門と紀海音の著名な作品を取り上げ、作品の読解を中心に指導していくが、映像資料等も活用することでより深い理解を迫及する。その場合、人形の首に対する役割・機能等についての理解も重要であり、更に音楽的要素（曲節）の理解も不可欠となる。それらを総合的に把握することにより、作品読解及び舞台芸術としての人形浄瑠璃鑑賞能力の獲得にも繋げていく。</p>	
日本古典文化論特別演習	<p>(概要)</p> <p>本演習では、日本古典文学における諸分野に関し、近年の研究動向を踏まえつつ、諸作品あるいは諸資料の注釈及び読解を通して様々な問題解決の具体的手順と方法を学ぶ。これにより先端的な研究内容・研究方法を把握することが可能になり、新たなテーマに対する課題解決能力を習得することになる。また、専門分野の基本知識を確認し、資料操作の実践的経験を積むことにより、新資料の発掘や、未知なる資料に対する価値判断の能力を獲得する。</p>	

	<p>(14 後藤 康文) 平安朝文学研究の基本でありまた目標でもある、現存文献(主として写本)の読解注釈作業を体験させ適切な指導を行う。具体的には、現在に伝わる唯一の短編物語集で難読作品としても知られる『堤中納言物語』(高松宮本)を素材に、本文批判、本文解釈等の方法を身につけさせる指導を行う。</p>	
	<p>(29 富田 康之) 近世文学・近世演劇研究の基本となる文献読解注釈作業を体験させ、適切な指導を行う。近世文献資料読解の為には、数多くある資料から最も適切な情報を用いて注釈することが重要となる。必要に応じた文献選択の能力を獲得する指導を行う。また、歌舞伎・人形浄瑠璃のような演劇研究では、音楽的な知識も必要となる。特に義太夫節に関しては近世全般にわたって非常に大きな影響を与えたものであり、節付けの知識も獲得しつつ、注釈作業に活用する指導も併せて行う。</p>	
	<p>(50 金沢 英之) 仮名文字の成立以前に著された上代文学の読解には、漢文体から非漢文体に至る様々な形態の漢字文の理解や、後代には失われた上代特殊仮名遣いの用法などに関する知識が必要となる。そうした基礎を身につけながら、『古事記』『日本書紀』『万葉集』『風土記』といった上代文献それぞれの特徴を踏まえたテキスト理解を行い、漢籍・仏典との関係なども含めトータルに上代文学研究を行うための指導を行う。</p>	
	<p>(62 野本 東生) 中世文学研究の基本となる文献読解注釈作業を体験させ、適切な指導を行う。『撰集抄』を取り上げながら、韻文と散文の双方が交わる本文に対して、数多くある資料から最も適切な情報を用いて注釈する方法を獲得するように、と同時に、限られた資料に囚われずに関連性を探索する姿勢を獲得するように指導を行う。徹底した本文解釈を根幹に置きつつ、本文を誕生せしめる場や背景についても踏み込んでいき、注釈作業に活用する指導も併せて行う。</p>	
文献学(国語・国文) 特別演習	<p>(概要) 日本古典文学研究の最も基礎的作業は文献資料の解読である。その為に原典を読み下す能力の獲得が必須の問題となる。文献は写本と刊本とに分類することができるが、それぞれに特徴が存在する。それらの諸問題を含め、如何なる文献をも解読する能力を身に付けると共に、内容読解の能力へと発展するような指導を行う。また、文献学の理解には書誌学の知識も必須であり、その知識習得も併せて指導していく。</p>	
	<p>(14 後藤 康文) 変体仮名によって書き遺された平安朝文学作品の写本(複製・影印)を精確に解読する作業を体験させ、適切な指導を行う。具体的には、難読作品の一つとして知られる『堤中納言物語』(高松宮本)の翻字・本文整理・本文解釈の方法を身につけさせる指導を行う。</p>	
	<p>(29 富田 康之) 近世文学・近世演劇研究の基本的資料は、その多くが整版印刷されたものである。そこで、実際に刊行された書物をもとにして内容読解の作業を体験させ、併せて翻字の解読能力も向上させるべく適切な指導を行う。また、近世に刊行された文献は装訂に様々な特色があり、内容と装訂との関係やその背景となる意味についても理解させる指導を行う。更に様々な文献に対して書誌学的な解説を行うことが可能となるような能力を身につけさせる指導も併せて行う。</p>	

	<p>(50 金沢 英之) 上代文学作品はいずれも成立期の写本は現存せず、後代の複数の写本を通じて伝わった。また、歴史を通じて積み重ねられてきた注釈類の蓄積も、内容理解のみならず本文批判においても重要となる。現行の肯定され、整理されたかたちのテキストに頼るのではなく、こうした諸資料の実態に触れることを通じ、個々の作品に残された課題を発見・考究する方法を修得するよう指導を行う。</p>	
	<p>(62 野本 東生) 中世文学の基本的資料は、写本・版本で残された原物、あるいはその複製や影印をもとに手に入れることができる。それらを文字情報として解読する作業を体験させ、翻字・本文整定・解釈の方法を身につけさせるべく、適切な指導を行う。本文に紛れ込む注記などに着目し、あるいは本文の性格に応じて異なるその書体や装釘に触れていくなかで、当該対象本文から外に広がる諸資料についても、その適切な扱い方を理解させるように指導を行う。</p>	
中国文化論特殊講義	<p>南宋の朱熹の著作『易学啓蒙』を、室町時代の桃源瑞仙が解釈した講義録『百衲襖』という易学の抄物(易抄)を手引きとして読み解く。『百衲襖』を教科書として『易学啓蒙』を読み解くことを通して、中世の日本語、漢文の訓読、漢籍の構造、注釈の方法、そして中国古典の学問と思想(特に宋明の朱子学及び易学)などを、総合的に学ぶ。また、朱子学とその易学の特徴を考察しながら、漢文の文章技法及びそれによる数理的論理や図式的説明について理解を深める。</p>	
中国思想特殊講義	<p>『論語』の代表的な注釈書である『論語注疏』を取り上げながら、『論語』がどのように成立したか、またそれ以降『論語』がどのように注釈されてきたかについて解説する。その上で、『論語注疏』の文章を、漢文訓読法を用いつつ精読することを通して、『論語』解釈史上における『論語注疏』の位置づけとその特色を理解し、あわせて中国思想研究に必要とされる読解力と思考力の向上を目指す。</p>	
中国語学特殊講義	<p>後漢の許慎が著した最古の字書『説文解字』を取り上げ、清の段玉裁の注釈を参考にしながら、漢字の形・音・義や六書など、漢字全般に関する基礎的事項を説明する。その上で、『説文解字』における各漢字の解説文を精読するとともに、その漢字の原義、成立、字形の変遷などを具体的に考察することを通して、中国語学研究に必要とされる読解力と分析力の向上を目指す。</p>	
中国文学特殊講義	<p>清朝の末期に刊行された石印画報の代表格である『点石齋画報』の世界を、文学研究や文化史研究の方法を用いて読み解く。『点石齋画報』各編の記事から適切なものを選び、その日本語訳、注釈の作業を通して、近代中国における新聞報道、中国語の文法、語彙、スタイルに習熟し、読解力を高めるとともに、図像を分析する方法をも模索する。読解にあたっては、各種の工具書や中国語コーパス、各種データベースを駆使しながら、一字一句をていねいに読み解くとともに、周辺分野の多様な研究成果をも積極的に援用し、清朝末期の中国人が感得していた「世界」への理解を深める。</p>	

中国思想特別演習	<p>(概要) 朱子は、中国の学問のほとんどの方面（哲学・宗教・文学・歴史・科学）を、四書五経を中心に総合的に集大成している。本演習では、中国思想分野において重要な位置を占める朱子学研究の現状を把握するとともに、『朱子語類』の中に見える朱熹と門弟たちとの問答を読み解くことを軸として、朱子の著作の内容と特徴を考察する。また、中国語（特に宋代の口語体）と漢文訓読の知識と能力を向上させる。</p>	
	<p>(春・夏学期) 宋代の口語体の問答資料である『朱子語類』の各条の問答を逐一、現代中国語で音読し、漢文として訓読し、訳文と注釈を作成し、中国近世の口語で書かれた思想文献を解読する能力を高め、あわせて漢文を読解する能力を向上させる。宋代の思想文献資料『朱子語類』を訳注する作業を通じて、朱子学の特徴について考察し理解を深める。春・夏学期では、『朱子語類』のうち、「陰陽」と「気」に関する各条を中心に読み解き、易学思想の根本的な考え方を学ぶことになる。</p>	
	<p>(秋・冬学期) 宋代の口語体の問答資料である『朱子語類』の各条の問答を逐一、現代中国語で音読し、漢文として訓読し、訳文と注釈を作成し、中国近世の口語で書かれた思想文献を解読する能力を高め、あわせて漢文を読解する能力を向上させる。宋代の思想文献資料『朱子語類』を訳注する作業を通じて、朱子学の特徴について考察し理解を深める。秋・冬学期では、『朱子語類』のうち、「河図洛書」と「数」に関する各条を中心に読み解き、易学思想における数理的及び図式的な思考方法（象数易学の考え方）を学ぶことになる。</p>	
中国語学特別演習	<p>(概要) 本演習では、近現代中国の著名な研究者によって書かれた、中国語学関連の問題に言及した論著を精読しながら、中国語学分野における研究の現状を把握するとともに、どのようなテーマが問題とされており、それがどのような方法によって解明が進められてきたのかを理解し、さらにその問題を解決するための方法を模索する。</p>	
	<p>(春・夏学期) 銭鍾書『管錐編』の数ある項目から、特に中国語学の諸問題に言及したものを選択し、その精読（日本語訳、注釈等）を通して中国語学の研究における注目すべき問題群を見いだし、解決への糸口を模索するとともに、当該問題に関連する研究書と論文とを搜集、検討して、その研究史と現今における研究状況を理解する。春・夏学期は『管錐編』のうち、「太平広記・二一三則」に含まれる文章を中心に読解を進め、主として古小説における諸問題について考察する。</p>	
	<p>(秋・冬学期) 銭鍾書『管錐編』の数ある項目から、特に中国語学の諸問題に言及したものを選択し、その精読（日本語訳、注釈等）を通して中国語学の研究における注目すべき問題群を見いだし、解決への糸口を模索するとともに、当該問題に関連する研究書と論文とを搜集、検討して、その研究史と現今における研究状況を理解する。秋・冬学期は『管錐編』のうち「全上古三代秦漢三国六朝文・一三七則」に含まれる文章を中心に読解を進め、主として詩文に見られる諸問題について考察する。</p>	

中国文学特別演習	<p>(概要) 本演習では、古今東西の文献に通じた現代中国の研究者・銭鍾書の代表作『管錐編』を精読しながら、主として中国古代の文学に見られるいくつかのモチーフについて、それらの研究史における成果を把握しつつ、銭鍾書の文学批評・研究の手法を理解し、さらにその問題点についても検討を加える。</p>	
	<p>(春・夏学期) 現代中国の学界における巨人とされる銭鍾書が書いた『管錐編』の各項目の精読を通して、中国語文言文の文法理解・語彙力を高めるとともに、中国文学の諸問題を発見・理解し、その解明を模索する。具体的には『管錐編』の中から重要と思われる項目を選び、テキストの精読を進めながら、担当者は訳文と注釈を作成し、これを叩き台にして受講生全員による議論を展開する。春・夏学期は特に同書のうち「毛詩正義・六〇則」及び「史記会註考証・五八則」に含まれる文を題材にして、中国の古典文学の研究に必要な調査方法、レジュメの作り方、発表や論文作成のマナーなどに留意しつつ、考察を進める。</p>	
	<p>(秋・冬学期) 現代中国の学界における巨人とされる銭鍾書が書いた『管錐編』の各項目の精読を通して、中国語文言文の文法理解・語彙力を高めるとともに、中国文学の諸問題を発見・理解し、その解明を模索する。具体的には『管錐編』から重要と思われる項目を選び、テキストの精読を進めながら、担当者は訳文と注釈を作成し、これを叩き台にして受講生全員による議論を展開する。秋・冬学期は特に「列子張湛註・九則」及び「楚辭洪興祖補註・一八則」に含まれる文を題材にして、春・夏学期の作業を基本的には継続しながら、さらに高度な研究スキルを磨くことに留意する。</p>	
映像表象文化論特殊講義	<p>(概要) 映像と表象の時代といわれる社会的・文化的環境に身を置かれる現代においては、映像とは何か、また、表象とは何かが根底から問われなければならない。本講義は、映像と表象に関わる諸問題を理論的・史的に究明することを目標とし、哲学・思想の次元において当該問題を考察するとともに、作家・作品論の次元においても当該問題を具体的に検討することをテーマとする。日本・中国・欧米の諸事例を取り上げつつ映像と表象に関わる諸問題を今日的な視座において究明することを目標とする。</p>	
	<p>(3 応 雄) 本授業はおおむね前半と後半に分けて進めていく。前半では主に映像表象の問題を哲学と現代思想の水準において理論的に検討する。後半では、授業内容を映画作家・作品論と位置づけ、作家作品を具体的に取り上げながら、「見ること」、「表象すること」といった古くから存在し現代において隆盛を極める文化的営みにおいて映画作家がいかなる創造性を見せ続けてきたかを考察する。より具体的に記述すれば、前半は「映像表象文化と哲学」、「映像表象文化と現代思想」、「映画理論」となり、後半は「映画作家作品論」となる。</p>	

	<p>(46 阿部 嘉昭)</p> <p>本授業では作家、ジャンル・時代・製作国・主題・映像技法など、一貫したテーマを定め、豊富な作品群がどのような変遷を辿ったかを映像的・哲学的に分析し、映像表象学における着想に展開と解決を与えていく。現代思想における映像解析のほか、言語学・演劇学、さらには独自に空間表象学・時間表象学をも導入し、映画史にもとづきながら、持続と断絶と反復と構造に関わる表象一般への知見を組み立てる。期末レポート以外にも授業ごとの感想提出、中間レポート提出を求め、受講生の理解度を把握、講義での双方向性を高める。</p>	
現代表象文化論特殊講義	<p>本講義では、帝国主義・植民地支配、文化的移動・越境などのポストコロニアルの表象をめぐる主要な理論や研究動向について概観し、差異・アイデンティティ・言語・記憶を始めとする主要なテーマについて学ぶ。同時に、ポストコロニアルの問題を扱った様々な作品（評論・小説・詩・映画など）を取り上げて、歴史的背景を踏まえながら、分析方法について具体的に検討する。また、これらの作品の相互の関係について考察し、ポストコロニアルをめぐる表象の時間的、空間的な広がりについて理解を深める。</p>	
日本現代文化論特殊講義	<p>(概要)</p> <p>本講義では、文学を中心とした日本現代文化論分野における研究の現状を概観するとともに、近年の研究動向及び先端的な研究内容を解説する。日本現代文化論分野において現在どのようなテーマが取り上げられ、どのような手法によって研究が進められているのか、さらに現在の研究上の問題点は何かを学ぶことができる。また、日本現代文化論の特定の分野に関する研究史、研究手法、資料、基本概念を解説するとともに、実証的な研究内容を教授することにより、日本現代文化論分野の研究に関する理解を深めることができる。</p>	
	<p>(7 押野 武志)</p> <p>日本現代文化研究における現在の研究状況を解説する。特に、文学とその周辺のジャンルとの相互交渉をめぐるテーマを取り上げ、現在の研究成果とその問題点を扱うことにより、文学概念の歴史的な変遷やメディアミックス展開を概観するとともに、研究の現状を具体的な事例を用いて解説する。活字メディア・視聴覚メディアそれぞれの固有の特質を明らかにしながら、日本現代文化の諸事象に論理的な観点から考察を加える。</p>	
	<p>(31 中村 三春)</p> <p>本講義では、現代において行われている文芸理論の諸相を概説するとともに、それに基づいた現代文学の解釈と評価の方法と具体例とを講述する。日本と世界において提唱され、実践されてきた文芸理論をテキストに従って逐一解説し、併せて現代日本の著名な文芸作品を、研究史にも配慮しながら具体的に分析し評価を行う。受講生には、高度な読解と評価の手法を身につけさせるために、受講生自身による解釈も提出させ、理論的・実践的な文芸読解能力の向上を図る。</p>	
映像表象文化論特別演習	<p>(概要)</p> <p>大量宣伝された映像のみが中心化する現今にあって、本来の映像作品の可能性を、再認識かつ思考革新するのは喫緊の課題である。本演習では映像関連もしくは思想・文学上の先行文献を豊富に援用し、具体的な映像群を基軸に、多彩な観点から分析することを学び、映像一般に関わるリテラシーを、対象の国と時代とを問わず習得することに努め、映像表象学を一般学知のなかに正当に位置づけることを目的とする。同時に受講生の研究発表形式を導入することで、調査・着想・分析と、映像の引用を伴う発表の精度向上を図る。</p>	

	<p>(3 応 雄)</p> <p>映像表象文化を考察することの意義について説明し、当該分野の研究に関わる重要な論文・テキストを指定する。複数の論文・テキストを、映像表象文化と哲学・現代思想、映画理論諸問題、映画における空間・時間の表象、近代における「視覚」・「見ること」等各テーマに分け、学術的価値・難易度を考慮しつつ選定する。受講生にはこれらの論文・テキストを熟読させ、口頭研究発表を課す。それとともに、具体的な作家作品に関する考察を中心とする作家作品論をも設ける。欧米・日本・アジア、またヌーヴェル・ヴァーグ以前・以後あるいは戦前・戦後等国別・時代別に分けつつ、理論系文献で学習した内容に関連させつつ具体的な研究発表を行わせる。</p>	
	<p>(46 阿部 嘉昭)</p> <p>時代・ジャンル・作家・主題等をもとにした全体テーマを定める初期授業にて受講生の発表スケジュールを決め、以後の演習は教員の指導のもと、主題反復・技法・スタッフワーク・原作との異同・哲学性・俳優表象など、具体性に着眼した研究発表を、参考文献とともに指導していく。同時に発表者以外でも全般にわたり質問者を組織、議論の応酬によりコミュニケーション能力と多彩な学知獲得を涵養する。とりわけ映像表象の把握に偏向や浅見の生じた場合には演習全体で是正していく。</p>	
現代表象文化論特別演習	<p>本演習では、戦争の記憶をめぐる様々な事象や作品（評論・小説・詩・漫画・映画・オーラルヒストリーなど）を取り上げて、歴史的背景や研究史を踏まえながら、その表象文化的な問題点、分析方法について具体的に検討すると共に、領域横断的に展開されている記憶をめぐる近年の研究動向について理解を深める。とりわけ、トラウマ記憶をめぐる理論、研究を参照し、文学・芸術の諸ジャンルの特性も考慮に入れながら、トラウマ記憶の表現の問題について検討する。</p>	
日本現代文化論特別演習	<p>(概要)</p> <p>本演習では、日本現代文化、とりわけ文学を中心に関連する研究分野の近年の研究動向及び先端的な研究内容を理解した上で、受講生各自の研究テーマと接続させ、研究方法の精緻化を目指す。当該分野において現在どのようなテーマが取り上げられ、どのような手法によって研究が進められているのか、さらに現在の研究上の問題点は何かを学ぶことができる。指定された課題に関連した文献、資料を紹介し、プレゼンテーションを行わせる。その過程で、研究の背景、研究方法、文献や資料の解析等について学習する。さらにディスカッションを通じて関連研究に関する理解を深める。</p>	
	<p>(7 押野 武志)</p> <p>日本現代文化における現在の研究状況を理解する。特に、近年研究が活性化しているサブカルチャー研究に関して、研究動向及び研究上の問題を踏まえ、サブカルチャーと文学との交渉関係の歴史的展開を辿りながら、文学概念の再編と変容過程を明らかにする。文学のメディアミックス展開やメディア相互の固有の特性に着目しながら、受講生は、それぞれの関心領域・専門性を活かしつつ、当該課題に関するプレゼンテーションを行い、質疑応答を通して、議論を深めていく。</p>	

	<p>(31 中村 三春)</p> <p>本演習では、現代において行われている文芸理論一般の理解の上に、それに基づいた現代文学の解釈と評価の方法を具体的に構築し、プレゼンテーションの手法を用いて的確に表現し、高水準の論文を執筆することを目標とする。文芸理論をテキストに基づいて習得し、現代日本の著名な文芸作品を、研究史に十分に配慮しながら具体的に分析し評価を行う。受講生には、高度な読解と評価の手法を身につけさせるために、印刷資料のみならずプレゼンテーションツールを用いた効果的な研究発表を行わせ、理論的・実践的な文芸読解能力の向上と発表表現力の涵養を図る。</p>	
言語学特殊講義	<p>(概要)</p> <p>言語学の基礎的な知識を基盤にして、日本語（諸方言を含む）やアイヌ語などの日本の言語、中国語や韓国語を始めとするアジアの言語、英語を始めとする西欧諸語など多様な言語事実を踏まえて、音韻・形態・統語・意味などの諸現象を的確に捉えて記述し、分析するための方法論を学ぶ。データの適切な取り扱い、その記述とデータ化の技法、分析のための理論と先行研究などを広範な知識を習得していく。受講生がそれぞれ研究対象とする言語を言語学的手順に従って分析するのに必要な高度な能力を習得することを旨とする。</p>	
	<p>(18 佐藤 知己)</p> <p>アイヌ語及び北方諸言語を主なデータとして使用し、英語を始めとする西欧の諸言語にも注意を払いながら、どのように仮説を立てるか、どのようにデータ収集を行い、データベースを作るか、どのようにデータを分析するか、その場合、どのような言語学的概念を適用するか、得られた結果がどのような一般言語学的な意味を持つか、未解決な問題はどのようなもので、今後、どのような見通しが立てられるのか、というような種々の問題について、具体的に解説し、それぞれの受講生が自分で実際に研究を行う場合に参考になるような事例を提示する。</p>	
	<p>(47 李 連珠)</p> <p>対照言語学の目的と研究方法に対して理解し、日本語と他の言語（英語、中国語、韓国語を含めた諸外国語）との時制やアスペクトにおける対照言語学的考察を深めることを目的とする。諸言語における時制とアスペクトに関する体系を対照考察するために、日本語のタ形及びテ形の用法について考察し、またテアル構文とテイル構文を取り上げながら他の諸言語における時制、アスペクトとの類似点や相違点について対照考察を行う。最後に期末レポートを提出してもらい、講義内容についての理解の深まりを問う。</p>	
英語学特殊講義	<p>本講義は、認知言語学における文法研究、とりわけR. ラネカーが唱える認知文法をテーマとする。認知文法は包括的で精緻な議論を展開していることで知られる反面、その本質を理解することは必ずしも容易ではない。認知文法の考え方、道具立てを概観した後、英語の語彙の意味、品詞、構文について事例研究を紹介しながら認知文法の成果と課題について考える。それによって、受講生が認知文法の理論的枠組みを用いて英語の意味・文法現象を分析できるようになることを旨とする。</p>	

西洋言語学特殊講義	<p>本講義では、ヨーロッパの言語を対象とした言語学的研究の現状を概観するとともに、近年の研究動向及び先端的な研究内容を解説する。具体的には、英語・フランス語等における特定の言語現象を取り上げ、統語論・意味論・語用論といった言語学の下位領域における分析の仕方を提示する。これにより、当該分野において現在どのようなテーマが取り上げられ、どのような手法によって研究が進められているのか、さらに現在の研究上の問題点は何かを学ぶことができる。また、当該分野に関する研究手法、基本概念、データの扱い方を教授することにより、当該分野の研究に関する理解を深めることができる。</p>	
日本語学特殊講義	<p>(概要) 文法、語彙、音韻、文字・表記、文章・文体、社会言語・言語生活、地域言語・方言、数理的研究等、日本語学の諸分野の最近の研究動向と先端的な研究内容を解説する。さらに近年注目される理論的研究や言語資源の利活用に関する研究にも触れる。理論研究、実証研究の両面において、日本語のみに依拠した研究は成り立たないので、広く他言語との対照も視野に入れながら、日本語を研究するために必要な高度な専門知識・能力を養う。</p> <p>(9 加藤 重広) 日本語の構造・機能の両面から、主に統語論・語用論の知見を講ずる。現代日本語を主たる対象にして、通言語学的な論点も踏まえて、日本語における文法現象がいかに分分析されるか、いかなる言語学的な意味を持つかを考察し、記述と分析のための技術を習得することを目指す。また、日本語学的な研究の背景にある研究の流れや理論、あるいは、言語観などについても理解を深める。新しい研究成果を学びながら、一般言語学的な知見や国語学的な知識も確立させ日本語を高度に研究していくための基盤を確立させる。</p> <p>(41 池田 証壽) 日本語学の史的研究について、語彙、音韻、文字・表記を中心にして最近の研究動向と先端的な研究内容を解説する。日本語の史的研究に利用する文献資料は、判読に困難の伴う古版本・古写本であることが多いことから、原本の写真版やその翻刻テキストを利用することが多かったが、近年では、さらにそれらを電子テキスト化してオープンデータとして公開することが活発化している。このような動向にも注意して、それらの言語資源を適切に作成・利用する方法を解説する。</p>	
言語学特別演習	<p>(概要) 受講生がよく知る英語や日本語について言語事実を踏まえて、それぞれが研究対象とする言語を分析するための能力を高めるための諸研究に親しむことを主たる目標とする。アイヌ語や日本語諸方言、韓国語や中国語、あるいは、印欧諸語や北方系の言語など様々な言語データ、あるいは、それらに関する言語学的な成果（報告や論文）を丁寧に読み解き、実際に分析を行い、あるいは、分析の妥当性を検証して、言語研究を行う上での基礎技能を養うことを目標とする。</p>	

	<p>(18 佐藤 知己) 英語を中心とした欧文で書かれた言語学の論文を批判的に講読する。具体的には、主張されている内容を著者の立場に立って正確に理解する作業を受講生同士の議論を通して行う。毎回、受講生の一人が中心となって担当部分について発表し、内容の理解や批判の土台を提供する。さらに、受講生は、提示されている言語学的データから考えて著者の主張内容が妥当であるのか、どのような反例があり得るかを、それぞれが研究している言語の事例に照らして検証し、先行研究をより深く理解する力を養う。</p>	
	<p>(47 李 連珠) 日本語のアクセントの基本的特徴やその聞き分け方と記述の仕方を習得するとともに、日本語と英語における音律特徴やアクセント特質に関する理解を深めることを授業の目的とする。日本語と英語の音律特徴のうち、主にアクセントに関連する言語資料を取り上げて音声的考察や音韻論的解釈を理解する。例えば、日本語のアクセントにおける音声的特徴や弁別的要素について考察し、また複合語アクセント規則、外来語のアクセントなど語形成におけるアクセント規則や特質に関する考察を行う。授業の最後に、期末レポートを提出してもらい、授業内容についての理解の深まりを問う。</p>	
英語学特別演習	<p>(概要) 本演習では、言語のあり方を一般認知能力との関連で動機づけていくことを目指す認知言語学について演習形式で学ぶ。認知言語学の言語観・意味観・文法観を言語学史に位置づけながら学習するとともに、それを反映した具体的な言語分析の論文を分析方法、議論の進め方に注意しながら批判的に読み進める。これを通して、英語の語彙・文法現象を認知言語学の手法を用いて分析できるようになるとともに、論文の精緻な読解、書き方にも習熟することを目指す。</p> <p>(春・夏学期) 本演習では、認知言語学の基礎を築いたレイコフ、ラネカー、フィルモア、タルミー、スウィーツァーらの古典的な論文を精読し、認知言語学が明らかにしてきた知見を学習するとともに、具体的な研究の背後にある認知言語学の言語観・意味観・文法観を学ぶ。それによって、認知言語学的な分析の仕方、議論の進め方を学び、その観点から英語の語彙・文法現象を分析できるようにする。さらに、英語論文の精緻な読解、書き方にも習熟することを目指す。</p> <p>(秋・冬学期) 本演習では、認知言語学における意味論研究をテーマとする。認知言語学が意味をどう考えるに関して基礎的理解を得るとともに、身につけた考え方や道具立てを適用して、英語・日本語の多義語、比喩、談話を収集、分析できるようにする。また、英語文献を正確かつ批判的に読みこなせるようにすることを目指す。認知言語学の意味観を概観した後、担当者を決め、多義語の意味分析、比喩の分析に関する研究論文を読み進め、成果と問題点を議論する。</p>	

	<p>(概要)</p> <p>ヨーロッパ諸言語の中核をなす印欧語（インド・ヨーロッパ語）の3大グループ、すなわち、ゲルマン語、ロマンス語、スラヴ語のいずれかについて、代表的な言語を中心に、英語との比較対照を交えた分析を行う。伝統的な文献学に加えて、現代の理論言語学の成果を援用しつつ、英語の構造的理解を深め、ヨーロッパの諸言語の体系的把握と英語の構造的理解を深めることを目標とする。具体的には、ゲルマン語からドイツ語、ロマンス語からフランス語を中心に引き上げ、オランダ語と北歐語（ゲルマン語）、イタリア語とスペイン語（ロマンス語）のように視野を拡張していく。考察の対象は音韻、正書法、形態、統語、意味、語形成から複数の領域をカバーするように努める。使用テキストには、ドイツ語、フランス語のいずれかを中心に英語で書かれた文献を併せて用いる。</p>	
	<p>(19 清水 誠)</p> <p>この演習では、ゲルマン語に焦点を当て、ドイツ語と関連言語を中心に、それと密接に関連する英語との比較を重視して、言語構造の体系的把握を試みる。具体的には、名詞句と動詞句を中心として形態論と統語論の視点から現代言語学の理論的成果と歴史言語学の実証的蓄積を対比させ、それぞれの利点と問題点を検証していく。その過程で、受講生各自の研究テーマとの関連を探り、最新の研究動向と関連文献の内容を紹介し、言語学的方法論に関する高度の知識を教授するように努める。使用テキストには、ドイツ語及び英語で書かれた文献を用いる。</p>	
	<p>(35 藤田 健)</p> <p>(春・夏学期)</p> <p>この演習では、フランス語を中心としたロマンス諸語と英語を対象とし、意味論に関する問題を扱う。意味論における基本的な概念や研究手法を取り上げた文献、概念意味論、認知言語学を始めとする理論的枠組みによって意味に関わる具体的な現象を扱った研究論文を取り上げ、形態論など他の領域の観点も取り入れながら批判的に検討を加える。当該分野における現在の研究成果を把握し、未解決の問題がどのようなものであるかを認識できるよう、複合的な視点から言語を分析する方法を考察していく。使用テキストにはフランス語及び英語で書かれた文献を主に用いるが、イタリア語・スペイン語の文献を扱う場合もある。</p>	
	<p>(35 藤田 健)</p> <p>(秋・冬学期)</p> <p>この演習では、フランス語を中心としたロマンス諸語と英語を対象とし、統語論に関する問題を扱う。生成文法・機能主義文法といった統語論における代表的な理論の基本的な概念や研究手法、及び具体的な統語的現象を扱った文献・論文を取り上げ、音韻論など他の領域の観点も取り入れながら批判的に検討を加える。当該分野における現在の研究成果を把握し、未解決の問題がどのようなものであるかを認識できるよう、複合的な視点から言語を分析する方法を考察していく。使用テキストにはフランス語及び英語で書かれた文献を主に用いるが、イタリア語・スペイン語の文献を扱う場合もある。</p>	

<p>日本語学特別演習</p>	<p>(概要) 日本語学と関連分野の最新研究動向を踏まえて、理論研究と実証研究のバランスを取りながら、研究背景、問題点、研究資料、研究方法と目的、結果の解析等を学習する。仮説とその検証を重要視し、日本語学に関する高度な専門知識、言語学・日本文化・東洋文化など関連分野の深い教養を体得し、主体的に研究を遂行する能力を養うことを目指す。言語研究には様々な学説があり、同一の用語であっても、指し示す概念・内容を異にすることが少なくない点に留意して、議論を深める。</p>	
	<p>(9 加藤 重広) 日本語の研究全般にわたって研究能力を高めるために、関連論文を精読する。取り上げる範囲は、対照言語学・言語類型論、社会言語学・方言学・社会語用論、心理言語学、統語論と文法論、形態論、意味論、語用論、語彙論など多岐にわたる。論文によって、日本語研究に関する最新成果を学ぶとともに、それらを成立させている理論や方法論、研究についても認識を深める。現代日本語を主たる対象にして、日本語学の研究に沈潜するだけでなく、関連する領域についても理解を深めて日本語における言語現象を記述し、分析する技能を高めることを目指す。</p>	
	<p>(41 池田 証壽) 日本語の文字表記に関連する問題として特に漢字の字体を主要なテーマとして授業を展開する。漢字字体の理論的研究として、石塚晴通によって提唱された字体概念と字体変遷のモデルを正確に理解し、中国と日本の標準文献の漢字字体がどのようなものであって、どのように変遷したのかを考察する。特に現在の日本の漢字字体（「新字体」）と康熙字典体（「旧字体」）との相違の背景を理解するために、各種の漢字古文献の利用方法を学ぶとともに、漢字情報処理に関する知識と技術の習得を目指す。</p>	
<p>言語分析論特別演習</p>	<p>種々の言語が示す多様な現象について、受講生全員が知識を共有する英語の対応現象と比較しながら、受講生相互に議論し合い、自然言語の分析方法を多角的に体得し、教授していくことを目標とする。現代言語学及び伝統的な文献学の手法を援用しつつ、各自が専攻する個別言語の言語構造を言語類型論及び歴史言語学の視点を援用して考察し、併せて英語との比較について理解を深化させることを目指す。具体的には、英語と密接に関係するゲルマン語のひとつを資料として、音韻と文構造をめぐる現象に力点を置いて総合的な分析を試みる。</p>	
<p>スラブ・ユーラシア研究特殊講義</p>	<p>(概要) 英語とロシア語の文献の精読を通じて、大学院での研究に必要な読解力と批判能力を向上させることを第一の目的とする。また、帝政期からソビエト時代のロシア史の講義を英語で受けることで、作文・議論・口頭報告など能動的に英語を運用する能力も伸ばす。</p>	
	<p>(2 岩下 明裕) スラブ・ユーラシア地域を対象としたボーダースタディーズに関する英語文献を読み、この分野の研究に必要な基礎知識や言語能力を磨く。理論や比較分析の手法を学ぶとともに、ユーラシアを中心とした議論を行うが、ここではこれを広義に捉え、旧ソ連隣接地域並びにユーラシア外の地域を分析したものなども対象とする。本講義によって、ボーダースタディーズの基礎的な学問手法とユーラシア地域の特に関係の研究に必要な基礎能力を身につけ、その分析を理論的に展開する力を身につける。</p>	

	<p>(5 WOLFF DAVID) 本講義は英語で行われ、ロシア史の基本的な知識の習得と最新の研究動向の把握を目指す。それと同時に、読み・書き・議論・口頭報告の英語力を強化する。</p>	
	<p>(45 安達 大輔) 文学独特の文体を触知することにより、ロシア語をじっくり精読する力をつける。そして、文学作品に対する批評・研究のまとめを通じ、ロシア語で書かれた文章の内容を素早かつ確に理解し表現する力を養う。</p>	
スラブ・ユーラシア総合研究特殊講義	<p>(概要) 本講義は修士1年生を主な対象とし、各講師が、それぞれの専門分野を中心に、旧ソ連・東欧諸国に関する基礎情報(特に地理・経済・文化・歴史)、学説史・理論、文献収集・現地調査・資料処理の方法、論文の書き方などについて講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(28 田畑 伸一郎/5回) 経済学の観点から、スラブ・ユーラシア研究に必要な数字の読み方、統計処理、効果的な図表の作り方について解説する。</p> <p>(30 長縄 宣博/5回) 歴史学の観点からスラブ・ユーラシア研究の学説史・理論を説明する。また、英文学術雑誌にも通用する論文の書き方についても解説する。</p> <p>(45 安達 大輔/5回) 文学研究の観点から、スラブ・ユーラシア研究の学説史・理論、文献収集の方法を解説する。</p>	オムニバス方式
スラブ・ユーラシア総合研究特別演習	<p>(概要) 本演習には、教員8名が出席し、受講生全員が、各自の専門に応じて資料を作成し口頭報告する能力を鍛え、異なる専門の報告について質問・意見する態度を身につけることを通じて、旧ソ連・東欧地域に関する地域研究の学際的な方法を学ぶことを目的とする。 上記の内容を8名の教員が役割分担せず共同で行う。</p>	
	<p>(春・夏学期) スラブ・ユーラシア地域(旧ソ連・東欧地域)に関するテーマを専攻する受講生が、学際的な地域研究の方法を学び、また研究報告や討論の技法を身につけることを目的とする。学期の初めに演習の趣旨と参加の心得を説明し、同時に各受講生の報告担当日とおおまかな発表テーマを決める。この演習には、発表の予定や専門的関連の有無にかかわらず、教員8名と受講生全員が毎回出席する。毎回2名が各自の持ち時間45分で研究発表(20分)と討論(25分)を行うという形で進行する。この演習を通じて受講生は、研究の進捗に応じた課題を設定し、報告をまとめる能力を身に付ける。また同時に、自分の研究発表を点検・改善する力と専門外の報告についても自分の観点から批判・評価する態度を養う。 上記の内容を8名の教員が役割分担せず共同で行う。</p>	共同

	<p>(秋・冬学期)</p> <p>スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧地域）に関するテーマを専攻する受講生が、学際的な地域研究の方法を学び、また研究報告や討論の技法を身につけることを目的とする。8名の教員の出席の下で、受講生が毎回交代で研究報告を行い、他の受講生及び教員がコメント・質問をする。報告担当者は事前に報告ペーパーもしくは詳しいレジュメを作成し、受講生に配布する。①ペーパーの書き方、視覚機材の効果的な使い方、制限時間内に要点を伝える方法、②教員や他の受講生の意見を受けて自分の研究を点検・改善する力、③分野やテーマを異にする報告者の研究発表を理解し、自分の観点から批判・評価する力、を身につけさせる。</p> <p>上記の内容を8名の教員が役割分担せず共同で行う。</p>	共同
スラブ・ユーラシア文化研究特別演習	<p>(概要)</p> <p>本演習は、スラブ・ユーラシア地域の人文科学分野における研究の現状、近年の研究動向及び先端的な研究内容を習得することを目的とする。この分野において現在どのようなテーマが取り上げられ、どのような手法によって研究が進められているのか、さらに現在の研究上の問題点は何かを学ぶことができる。また、人文科学の分野における研究手法、とりわけテキストを読み解く際の基本的視座を習得することにより、スラブ・ユーラシア地域の研究に関する理解を深めることができる。</p> <p>(30 長縄 宣博)</p> <p>(春・夏学期)</p> <p>ロシア帝国研究に関わる過去十年間くらいの注目すべき論文や本を読み、そこで基本となっている発想方法を身に付け、その史学史上の位置づけを理解することを目指す。英語あるいはロシア語の文献を読み、議論の論理構造を理解した上で、各論考の方法が自分の研究にどのように役立つのかも含めて問題提起できるようにする。</p> <p>(30 長縄 宣博)</p> <p>(秋・冬学期)</p> <p>ソ連研究に関わる過去十年間くらいの注目すべき論文や本を読み、そこで基本となっている発想方法を身に付けることを目指す。その際、帝政期からの連続性と断絶についても理解を深める。英語あるいはロシア語の文献を読み、議論の論理構造を理解した上で、各論考の方法が自分の研究にどのように役立つのかも含めて問題提起できるようにする。</p> <p>(32 野町 素己)</p> <p>旧ユーゴスラヴィア諸国における言語状況とその歴史について解説する。特に、セルビア・クロアチア語が使用されてきた地域（今日のクロアチア、ボスニア・ヘルツェゴヴィナ、セルビア、モンテネグロ）において、どのような個別の歴史的背景があり、そこからいかに共通の文章語が目指され、何が達成されたかについて考察する。さらに20世紀の共通の国家の中でどのような言語状況にあり、20世紀末から21世紀にかけての国家解体に連動していかなる変化が起き、今日に至るのかについて考察する。これらの諸問題を社会言語学的側面から考察することにより、この事例の固有性と普遍性に関して検討する。</p> <p>(45 安達 大輔)</p> <p>ロシア文学とロシア語との関係を考察する上で有効な文体論の知識と方法を身につける。文体論に関する代表的な著作を読み、そこで取り上げられている文学作品と実際に読み比べながら、文学研究における文体論的アプローチの歴史的背景とその理論的射程、そして現在における可能性について考察する。</p>	

<p>スラブ・ユーラシア社会研究特別演習</p>	<p>(概要) 本演習は、スラブ・ユーラシア地域の社会科学分野における研究の現状、近年の研究動向及び先端的な研究内容を習得することを目的とする。この分野において現在どのようなテーマが取り上げられ、どのような手法によって研究が進められているのか、さらに現在の研究上の問題点は何かを学ぶことができる。また、社会科学の分野における研究手法、資料・データの分析方法、基本概念を習得することにより、スラブ・ユーラシア地域の研究に関する理解を深めることができる。</p>	
	<p>(23 仙石 学) 中東欧に関する比較政治学的な分析を行った英語論文を講読しながら、地域事情及び政治学(社会科学)の方法論に関する演習を行う。取り上げる内容は、政治制度、選挙と政党政治、経済政策、福祉政治などを予定している。演習では最初の5回程度で、中東欧地域及び比較政治の概念を習得するために概説的な論文を精読し、その後は具体的な領域に関する論文の多読を行う。</p>	
	<p>(28 田畑 伸一郎) (春・夏学期) スラブ・ユーラシア地域の経済に関する演習を行う。スラブ・ユーラシア地域の経済、社会主義経済、経済体制転換などに関する基本的な知識を得た上で、スラブ・ユーラシア地域経済に関する基本的文献(英語あるいはロシア語)の講読、受講生による専門的な文献や研究に関する報告と質疑を行う。基本的文献の読み方、文献資料や統計データの取得・利用・分析の方法、報告や質疑の仕方などを習得することが目標となる。</p>	
	<p>(28 田畑 伸一郎) (秋・冬学期) スラブ・ユーラシア地域の経済に関する演習を行う。スラブ・ユーラシア地域経済に関するより高度な基本的文献(英語あるいはロシア語)の講読、受講生による専門的な文献や研究に関する報告と質疑を行う。基本的文献の読み方、文献資料や統計データの取得・利用・分析の方法、報告や質疑の仕方などを習得することに加えて、聞き取り調査やアンケート調査の実施と分析の方法、効果的な図表の作成、論文の書き方などを学ぶことができる。</p>	
<p>スラブ・ユーラシア相關研究特別演習</p>	<p>(概要) 本演習は、スラブ・ユーラシア地域に関する学際的な研究、及び地域横断的な研究の手法を習得することを目的とする。人文学と社会科学にまたがる研究及び諸地域の比較と関係性に関わる研究の基礎と、先端的な研究の例を学び、先行研究を批判的に読み込みながら、地域研究に関する理解を深めていく。</p>	
	<p>(春・夏学期) 旧ソ連諸国(特に中央ユーラシア諸国とロシア)の政治を、学際的な比較研究の手法で分析する力を身につけることを目的とする。各国内の政治を、権威主義体制論を軸として検討すると同時に、内政と外政の連関や、歴史や国際環境に対する認識と政治との関わりにも注目する。ソ連時代との繋がりという時代的な広がり、旧ソ連以外の国々(アジア諸国・欧米諸国など)との比較・連関という地域的な広がり、政治的動員や非公式慣習、汚職などに関する人類学・社会学的研究への分野的な広がりも重視する。各回、英語(場合によりロシア語・日本語)の本・論文を取り上げ、担当する受講生が要約した上で自分の意見を述べた後、全員で討論を行う。</p>	

	<p>(秋・冬学期)</p> <p>中央ユーラシアを始めとする旧ソ連地域についての学際的な歴史研究、及び他の地域との比較研究（特に比較帝国史）の方法を習得すること、ひいては歴史学的な解釈法、多面的・学際的なものの見方、先行研究や最新の研究動向の撰取と批判の方法を身につけ、自ら論文を書く能力を向上させることを目標とする。中央ユーラシアの近現代史、特にロシア帝国・ソ連内の地域と隣接地域（東トルキスタン、イラン、アフガニスタンなど）の関係を中心に、比較帝国史・比較植民地史に関わる英語・ロシア語（時に日本語）の本・論文を取り上げ、各回の担当受講生が要約した上で自分の意見を述べた後、全員で討論を行う。</p>	
アイヌ・先住民学特殊講義	<p>(概要)</p> <p>本講義では、アイヌ民族に関する各学問領域の研究成果、先住民に関する海外の研究動向等について解説する。各学問領域におけるアイヌ・先住民研究の現状や課題、独自の研究手法や理論を深く学ぶことができる。また、アイヌ・先住民の過去や現在の実情を把握し、アイヌ・先住民に対する研究成果の影響に留意することにより、今後の学術研究のあり方について実践的に考察できるようになる。</p>	
	<p>(10 加藤 博文)</p> <p>先住民考古学はIndigenous archaeologiesの訳語である。本講義では、北米、オセアニアに端を発する先住民考古学の歴史と展開を解説するとともに、現在の考古学と先住民との関係性及び文化遺産の所有、返還、知的財産をめぐる諸課題について、北米、オセアニア、北欧の事例を参考にしながら考察する。また、北海道において考古学がどのようにアイヌ民族の歴史構築に関わることができるかについても検討する。</p>	
	<p>(49 落合 研一)</p> <p>法学には、現実の課題を解決するために、「あるべき法」を前提に既存の制定法（実定法）について批判的に議論する基礎法学と、実定法の解釈可能性を模索する実定法学がある。法治国家では、いかなる政策も実定法に基づいて実施されなければならないことから、各国の先住民政策にも基礎となる実定法がある。本講義では、アメリカ合衆国と台湾の実定法と先住民政策を概観するとともに、日本の実定法のもとでのアイヌ政策の可能性について解説する。</p>	
	<p>(52 北原 次郎太)</p> <p>本講義では、アイヌ民族の宗教文化に関する基礎的な概念・用語について解説する。アイヌ民族や他の北方先住民の物質文化研究や文学研究の成果を参照しつつ、主として和人によって構築されてきたアイヌ民族の宗教思想史に関する通説的な理解について検討する。</p>	
	<p>(59 丹菊 逸治)</p> <p>先住民社会において、民族固有の言語・文化・社会制度は互いに切り離しえない。アイヌ民族と行政や研究の関係を概観しつつ、先住民の言語と文化・社会の関係について学ぶ。方法論の参考のために、先住民をめぐる研究の脱植民地化に関する全般的な話題を取り上げる。アイヌ語・アイヌ伝統文化・アイヌ社会の現状に関する基本的な紹介を含む。</p>	

	<p>(68 蓑島 栄紀) 古代・中世のアイヌやその近隣(サハリン・アムール・千島地方)の諸文化・諸民族について、日本・中国・朝鮮・ロシアなどに残された文献史料だけでなく、考古学、民族誌の成果を積極的に参照しながら、その歴史像について解説する。また、学説史を含む方法論の検討を通して、「アイヌ・先住民を主体とする」歴史像を構想する上での課題と展望を示す。さらに、口承文芸など「当事者による世界認知」の論点を組み込んだ新しい歴史研究の動向なども紹介する。</p>	
	<p>(71 山崎 幸治) 「文化資源」という概念を手がかりとして、アイヌ民族を中心に先住民と文化資源との関わりについて世界的視野から理解・考察し、その将来のあり方について考察する。講義では、文化資源という概念について概説した後、関連する論文を複数講読し、それをもとに報告と討議を行う。トピックは多岐にわたるが、博物館等での実践、観光、物質文化、コレクション、文化財などの現代的なトピックを中心に取り上げる。</p>	
	<p>(75 近藤 祉秋) 先住民学における研究の現状を解説する。主に先住民の生業活動、自然観、動物観、自然資源管理をテーマとし、関連領域における基本概念、民族誌の具体的事例を紹介しながら研究の現状を論じる。上記のテーマは、アラスカ先住民社会においても、狩猟と漁撈活動をめぐる現代的課題として注目されている。狩猟や漁撈を担う次世代の育成に向けた取組も紹介する。</p>	
<p>アイヌ・先住民学総合 特殊講義</p>	<p>(概要) 本講義では、新たな学問領域であるアイヌ・先住民学について概説する。アイヌ・先住民学は学際的な学問領域であり、文化人類学、博物館学、歴史学、考古学、文化遺産学、言語学、法学等の観点から、国内外の先住民をとりまく課題について解説するとともに、その解決に向けた具体的取組を紹介する。また、研究基盤の異なる各学問領域の理論や手法を学ぶことにより、ひとつの課題に対して多様なアプローチがあること、近代学問である各領域に共通して問われている課題等についても理解できる。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(10 加藤 博文／2回) 先住民考古学という新たな学問領域の課題と方向性を講義する。先住民文化遺産の保存、管理、活用の具体的事例を紹介し、考古遺産と先住民との関係をめぐる国際的動向を理解するための基礎知識を提供する。</p> <p>(49 落合 研一／2回) アイヌ民族が先住民であることの法的意義や、日本国憲法のもとでのアイヌ政策の可能性について講義する。</p> <p>(52 北原 次郎太／2回) 先住民の宗教研究がもつ意義と課題について講義する。今日の先住民及び主流社会に対して宗教が担う役割、アイヌ・先住民による宗教文化の復興事例と個々の問題について講義する。</p> <p>(59 丹菊 逸治／2回) アイヌ民族を中心に先住民と言語の関わりについて講義する。</p>	<p>オムニバス方式</p>

	<p>(68 蓑島栄紀／2回) アイヌ及び北東アジアの先住民族の歴史（主に前近代）について講義する。文献史料だけでなく考古資料や文化人類学研究との協業の状況を踏まえて概観し、現状と課題を示す。</p> <p>(71 山崎 幸治／3回) アイヌ民族、先住民族について学ぶための基礎知識を提供するとともに、アイヌ・先住民と博物館との関わりについて講義する。</p> <p>(75 近藤 祉秋／2回) アラスカ先住民を中心に先住民族の生業や文化継承の現状と課題について講義する。</p>	
アイヌ・先住民学特別演習	<p>(概要) 本演習では、アイヌ・先住民学の基本的な研究理論、研究手法、史資料分析方法等を習得し、基礎的研究能力を確立するため、アイヌ・先住民に関する国内外の文献講読や史資料分析を実施する。チュートリアル形式の演習により、研究計画やフィールド調査等の実践方法についても具体的に教授する。研究理論と研究手法との関係性を理解し、研究実践の具体的方法を習得するとともに、アイヌ・先住民学の独自性や既存の学問領域との異同を理解できるようになる。</p>	
	<p>(10 加藤 博文) (春・夏学期) 本演習では、先住民文化遺産を調査するフィールドワークのための考古学と人類学それぞれのアプローチを学ぶ。アイヌ・先住民研究においては、調査の企画、実施において、先住民を含む地域コミュニティに対するインフォームドコンセントが不可欠である。本演習では、実際にフィールドワークに参加し、具体的な調査手法、研究倫理、研究成果の共有等について実践的に学ぶ。</p>	
	<p>(10 加藤 博文) (秋・冬学期) 本演習では、先住民考古学に関する国内外の論文を講読し、先住民考古学の国際的な課題について理解を深める。指定した文献の解題を通して、先住民族と考古学が直面している現在の課題を理解する。また、演習受講生相互の討議を通して、研究環境における課題を理解するとともに、解決方法を検討する。このようなチュートリアル形式の演習により、先住民考古学に関する知識と問題意識の深化をはかる。</p>	
	<p>(52 北原 次郎太) アイヌ民族及び北方先住民を中心とした諸民族の世界観・文学に関する書籍等を講読し、相互の類似点、相違点について検討する。受講生は担当箇所を読んで要約し、他の受講生と共有・討議する。</p>	
	<p>(59 丹菊 逸治) 先住民族の言語の継承・復興運動においては、学習理論と運動理論が一体化している。現在の北方諸言語の復興運動において主流となっている“Master and Apprentice”方式の教科書を読みながら、アイヌ語のケースを考える。なお、アイヌ語だけでなく他の言語の具体的事例を随時取り上げる。</p>	

	<p>(68 蓑島 栄紀)</p> <p>日本・中国・朝鮮に残された文献史料（漢文史料・古典資料）の精読を中心に，考古学の報告書・論文，民族誌の情報なども参照しながら，古代・中世のアイヌやその近隣（サハリン・アムール・千島地方）の諸文化・諸民族の様相について具体的・多角的に検討し，議論を深める。あわせて，口承文芸など「当事者の世界認知」を組み込んだ，新しい研究手法の導入についても，その方法と具体的な実践について検討する。</p>	
アイヌ・先住民学海外特別演習	<p>本演習では，カナダ，オーストラリア，スウェーデン，フィンランド，台湾等の海外の大学や研究機関等に1週間程度滞在し，その地域における先住民研究や先住民政策の実情等を体験的に学ぶ。担当教員と滞在先の研究者が共同で講義や実習指導等を実施する。また，滞在する地域の先住民コミュニティや先住民が主体的に運営する博物館での実践的活動を通して，先住民学の現状を実証的に学ぶことができる。</p> <p>上記の内容を7名の教員が役割分担せず共同で行う。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要

(文学院 人文学専攻 博士後期課程)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	博士論文指導特殊演習 I	<p>(概要) 人文学専攻における各専門分野の研究テーマに関して、研究の実践、指導を行い、博士論文の準備を進めるとともに、論文指導を行う。</p> <p>(1 山本 文彦) 西洋中世史及び近世史研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する史料の読解整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。</p> <p>(2 岩下 明裕) スラブ・ユーラシア地域に関わる国際関係やボーダースタディーズにおける博士論文のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の先行研究及び方法の整理、研究に使用する文献や情報の分析整理及び扱い方、フィールドワーク実践、論文の構成等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。</p> <p>(3 応 雄) 映像表象文化研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。論文の問題提起における学術的価値についての検討、当該課題の先行研究の整理、論文の全体構成及び論の進め方等について研究指導を行い、博士論文執筆の準備を進める。</p> <p>(4 宇山 智彦) 中央ユーラシア地域研究・旧ソ連諸国政治研究に関する博士論文執筆準備のために必要な研究指導を実施する。問題設定、先行研究の把握、資料の収集と読解・分析方法等に関しアドバイスし、中間成果を学会報告・雑誌論文等として発表するための指導を行い、博士論文の準備を進める。</p> <p>(5 WOLFF DAVID) ロシア史及びシベリア・極東研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する史料の読解整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。</p> <p>(6 大西 郁夫) 近現代ロシア文学研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する資料の読解整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。</p> <p>(7 押野 武志) 日本近現代文学・文化における博士論文のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該課題の研究手法、研究に使用する資料の読解整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。</p>	共同

(8 小田 博志)

文化人類学における博士論文のために必要な研究指導を実施する。先行研究のレビューの仕方、研究設問の導き方、論文の書き方について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。

(9 加藤 重広)

主に日本語を対象言語として取り組む言語学的な研究について、博士後期課程での研究を着実に進めるための、研究技法、論文作成法、研究成果の発表のための準備方法などの研究指導を実施する。特に、博士論文の完成に向けて必要な成果の積み上げ方を中心に、言語研究の基礎的能力を高度化することを目指して研究指導を行い、博士論文の準備を進める。

※2021.4より下記も担当

日本語学における博士論文の作成のために必要な研究指導を実施する。研究の背景と問題点、研究資料、研究目的と方法、分析方法、仮説の提示と検証、論文の構成などについて研究指導を行い、博士論文の準備を進める。

(10 加藤 博文)

先住民考古学及び先住民文化遺産学に関する博士論文のために必要な研究指導を実施する。研究論文の課題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する史資料の扱い方、論文作成の技法、研究倫理等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。

※2021.4より下記も担当

アイヌ・先住民学研究室の文化人類学分野・英語圏の先住民研究分野を中心に、アイヌ・先住民学研究室の博士後期課程学生の博士論文に関する研究の指導補助を行う。

(11 権 錫永)

日本近代思想史・文化史に関する博士論文の作成のために必要な研究指導を実施する。修士論文の成果を踏まえながら、博士論文にふさわしい課題設定、当該分野の研究史の整理、論証で用いる資料の収集・整理・読解、論文の構成などにつき、研究指導を行い、博士論文の準備を進める。

(12 藏田 伸雄)

現代規範倫理学・メタ倫理学・応用倫理学及び近現代哲学研究における博士論文作成のために必要な研究指導を実施する。問題設定の妥当性、当該問題に関わる研究史の整理、論文に使用する文献の読解、論文の構成等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。

(13 小杉 康)

考古学研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。研究の全体計画、問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する考古資料の扱い方、論文の構成について指導を行い、博士論文の準備を進める。

(14 後藤 康文)

平安朝文学作品・作家等をテーマとする博士論文執筆のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、研究史の捕捉とその整理方法、使用する資料の読解及び扱い方、論文の構成等に関する助言と適切な指導を行い、博士論文の準備を進める。

(15 近藤 浩之)

中国の古代思想、易学思想の研究における博士論文を作成するために必要とされる研究指導を実施する。当該分野における研究史の整理方法、問題設定の妥当性・独創性、研究対象の文献や史料の読解、論文構成の工夫等について指導を行い、博士論文の準備を進める。

(16 佐々木 啓)

宗教学・宗教学史における博士論文のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する資料の読解整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。

(17 佐々木 亨)

博物館学及び博物館人類学などにおける、博士論文作成のために必要な研究指導を実施する。課題設定の妥当性、先行研究の吟味、設定した課題の当該研究分野における位置づけの検討、使用するデータ・情報に関する調査方法・分析方法の検討、博士論文の構成の検討などについて研究指導を行い、博士論文の準備を進める。

(18 佐藤 知己)

アイヌ語及び北方言語に関する博士論文の作成のために必要な研究指導を実施する。テーマの選定、先行研究の調査、分析収集、データ収集、仮説の設定、データの分析、結果の提示について指導を行う。特に、研究の方向性が当該研究の現状から見て妥当であるか、また、先行研究に関する理解が適切なものであるか、先行研究の批判的な把握が妥当なものであるかについて指導を行う。草稿についても指導を行うが、主に構成、形式面での指導を中心に行い、博士論文の準備を進める。

(19 清水 誠)

ドイツ語学及びゲルマン語学の分野に関する博士論文作成のために必要な基礎的な研究指導を実施する。修士論文の研究成果を確認するとともに、博士論文完成への出発点となる研究課題を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する資料と方法論を確認し、専門的な研究指導を行い、博士論文の準備を進める。

(20 白木沢 旭児)

日本現代史に関する博士論文の作成のために必要な研究指導を実施する。修士論文の成果を踏まえながら、博士論文にふさわしい課題設定、当該分野の研究史の整理、論証で用いる資料の収集・整理・読解、論文の構成などにつき、研究指導を行い、博士論文の準備を進める。

(21 砂田 徹)

西洋古代史研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する史料の読解整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。

(22 瀬名波 栄潤)

英米・英語圏文学を中心に、博士論文執筆に向けた入門的な研究指導を実施する。論文執筆計画に基づき、第1・第2次資料を収集させ、それらの理解状況、全体の構成、並びに論理展開を検討し、その妥当性を検証指導し、博士論文の準備を進める。

※2021.4より下記も担当

ドイツ語圏文学を中心に、ドイツ語での学位論文執筆に向けた基本的な研究指導を実施する。まずは、論文執筆計画に基づき、ドイツ語で書かれた第1・第2次資料を収集させ、それらの理解状況、全体の構成、並びに論理展開を検討し、その妥当性を検証指導し、執筆に取り組みさせる。同時に、論文執筆に資するドイツ語表現能力の基盤を築き、博士論文の準備を進める。

(23 仙石 学)

中東欧比較政治・政治経済における博士論文執筆のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究の概観、研究に使用する資料・データ収集と分析の方法、論文の構成などについて研究指導を行い、博士論文の準備を進める。

(24 田口 茂)

現象学、近代日本哲学、その他の現代哲学に関する博士論文作成のために必要な研究指導を実施する。問題設定の妥当性、当該問題に関わる研究史の整理、論文に使用する文献の読解、論文の構成等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。

(25 竹内 康浩)

英米・英語圏文学に関する博士論文執筆に向けた入門的な研究指導を実施する。論文執筆計画に基づき、研究資料を収集させ、それらの理解状況、全体の構成、並びに論理展開を検討し、その妥当性を検証指導して執筆に取り组ませ、博士論文の準備を進める。

(26 武田 雅哉)

中国の文学、言語、及び芸術の研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する史料の読解整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。

(27 谷本 晃久)

日本近世史に関する博士論文の作成のために必要な研究指導を実施する。課題設定とその妥当性、当該分野の研究史整理、論証で用いる史資料の収集・整理・読解、論文の構成などについて、研究上の指導を行い、博士論文の準備を進める。

(28 田畑 伸一郎)

スラブ・ユーラシア地域の経済研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定、当該分野の先行研究の整理、研究に使用する資料・データの扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。

(29 富田 康之)

日本近世文学及び近世演劇における博士論文のために必要な研究指導を実施する。論文の問題点の設定方法、当該分野の先行研究の整理方法、関係資料の収集方法、及び論文構成等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。

(30 長縄 宣博)

中央ユーラシア近現代史及びロシア史研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する史料の読解整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。

(31 中村 三春)

日本近代文学・比較文学・表象文化論における博士論文のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する資料の読解整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。

(32 野町 素己)

スラブ言語学研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する資料の読解整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。

(33 野村 益寛)

英語学・認知言語学についての博士論文の作成のために必要な研究指導を実施する。テーマの選定、先行研究の読解、言語データの収集法、論文における議論の進め方、論文の表現等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。

(34 長谷川 貴彦)

西洋近世史・近代史及び現代史研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する史料の読解整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。

(35 藤田 健)

ロマンス諸語の言語学的研究における研究指導を実施する。博士論文のために必要なテーマの設定、先行研究の整理方法、データの扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。

(36 細田 典明)

インド哲学における博士論文のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する資料の読解整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。

(37 村田 勝幸)

アメリカ近現代史及び同時代史研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する史料の読解整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。

(38 谷古宇 尚)

西洋美術史に関する博士論文を作成するために必要な研究指導を実施する。研究課題の設定、研究史や現在の研究状況の把握、作品や資料の調査と分析、論文の構成や執筆等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。

※2021.4より下記も担当

美学・芸術学に関する博士論文を作成するために必要な研究指導を実施する。研究課題の設定、研究史や現在の研究状況の把握、作品や資料の調査と分析、論文の構成や執筆等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。

(39 弓巾 和順)

中国古代思想研究における博士論文を作成するために必要とされる基礎的な研究指導を実施する。当該分野における先行研究の整理方法、研究対象の文献の読解及び使用方法、論文の問題設定及び構成の妥当性等について指導し、博士論文の準備を進める。

(40 吉開 将人)

東洋史学の諸分野のうち東アジア史，とりわけ中国史を対象とする博士論文のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性，当該分野の研究史の整理方法，研究に使用する史料の読解整理及び扱い方，論文の構成等について研究指導を行い，博士論文の準備を進める。

(41 池田 証壽) ※2021.3退職

日本語学における博士論文の作成のために必要な研究指導を実施する。研究の背景と問題点，研究資料，研究目的と方法，分析方法，仮説の提示と検証，論文の構成などについて研究指導を行い，博士論文の準備を進める。

(42 太田 敬子)

東洋史学の諸分野のうち，中世近東史，及び初期・中世イスラーム社会におけるマイノリティに関する博士論文執筆のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性，当該分野の研究史の整理方法，研究に使用する史料の読解整理及び取り扱い方，論文の構成について研究指導を行い，博士論文執筆の準備を進める。

(43 北村 清彦) ※2021.3退職

美学・芸術学に関する博士論文を作成するために必要な研究指導を実施する。研究課題の設定，研究史や現在の研究状況の把握，作品や資料の調査と分析，論文の構成や執筆等について研究指導を行い，博士論文の準備を進める。

(44 千葉 惠) ※2020.3退職

古代中世哲学における博士論文作成のために必要な研究指導を実施する。問題設定の妥当性について当該問題に関わる研究状況をサーヴェイしつつ確認し，また問題の解明とその解決への貢献を指導し，博士論文の準備を進める。

(45 安達 大輔)

ロシア文学研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性，当該分野の研究史の整理方法，研究に使用するテキスト・資料の読解整理及び扱い方，論文の構成等について研究指導を行い，博士論文の準備を進める。

(46 阿部 嘉昭)

映画を始めとする映像表象，サブカルチャー表象研究での博士論文のために必要な研究指導を実施する。着眼の新規性・創造性，先行研究への配慮，論文の展開構成，用語の厳密性などについて指導を行い，博士論文への準備を進める。

(47 李 連珠)

記述言語学や対照言語学研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文における研究目的や研究の展望に対して妥当であるかを検討し，研究資料の収集方法や研究背景となる先行研究の調査など研究指導を行い，博士論文の準備を進める。

(48 小倉 真紀子)

日本古代史をテーマとする博士論文の作成に向けて研究指導を実施する。問題設定の妥当性，当該分野に関する研究史の把握，研究に使用する史料の選定・整理・調査方法，史料の解釈等に関する指導を行い，博士論文の準備を進める。

(49 落合 研一)

アイヌ・先住民法研究に関する博士論文のために必要な研究指導を実施する。論文の課題設定の妥当性、諸国の法制度との比較研究の方法、論文の読解整理、論文の構成等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。

(50 金沢 英之)

上代文学作品を対象とした博士論文作成のために必要な研究指導を実施する。課題の発見、当該分野の先行研究の調査と整理、それを踏まえての問題の設定、資料分析の方法と妥当性の検討等についての適切な指導を行い、博士論文の準備を進める。

(51 川口 暁弘)

日本近代史に関する博士論文の作成のために必要な研究指導を実施する。修士論文の成果を踏まえながら、博士論文にふさわしい課題設定、当該分野の研究史の整理、論証で用いる資料の収集・整理・読解、論文の構成などにつき、研究指導を行い、博士論文の準備を進める。

※2021.4より下記も担当

日本史学研究室の近現代史分野を中心に、日本史学研究室の博士後期課程学生の博士論文に関する研究の指導補助を行う。

(52 北原 次郎太)

北方先住民の宗教・思想史研究における博士論文作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する史資料の調査・整理法及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。

(53 近藤 智彦)

古代中世哲学及び西洋倫理思想史の研究における博士論文作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理、研究に使用する古典文献資料及び研究文献の読解、論文の構成等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。

※2020.4より下記も担当

古代中世哲学における博士論文作成のために必要な研究指導を実施する。問題設定の妥当性について当該問題に関わる研究状況をサーヴェイしつつ確認し、また問題の解明とその解決への貢献を指導し、博士論文の準備を進める。

(54 佐藤 健太郎)

東洋史学の諸分野のうちイスラーム史、とりわけ北アフリカやイベリア半島などの歴史を対象とする博士論文のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する史料の読解整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。

(55 佐野 勝彦)

分析哲学、数学・論理学の哲学、及び論理学における博士論文作成のために必要な研究指導を実施する。問題設定の妥当性、当該問題に関わる研究史・関連研究の整理、論文に使用する文献の読解、論文の構成等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。

(56 鈴木 幸人)

博物館学及び博物館人類学などにおける、博士論文作成のために必要な研究指導を実施する。課題設定の妥当性、先行研究の吟味、設定した課題の当該研究分野における位置づけの検討、使用するデータ・情報に関する調査方法・分析方法の検討、博士論文の構成の検討などについて研究指導を行い、博士論文の準備を進める。

(57 高瀬 克範)

考古学研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する資料及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。

(58 竹内 修一)

フランス文学を研究領域とする学生に対して、博士論文執筆に向けた入門的な研究指導を実施する。論文執筆計画に基づき、第1・第2次資料を収集させ、それらの理解状況、全体の構成、並びに論理展開を検討し、その妥当性を検証指導し、博士論文の準備を進める。

(59 丹菊 逸治)

アイヌ・先住民の口承文芸・言語研究に関する博士論文のために必要な研究指導を実施する。論文の課題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する史資料の整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。

(60 戸田 聡)

西洋古代学研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する資料の読解整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行ない、博士論文の準備を進める。

(61 長沼 正樹) ※2020.3退職

先住民考古学及び先住民文化遺産学分野を中心に、博士論文の作成のために必要な研究指導を実施する。研究に使用する発掘資料等の扱い方、論文の構成等について指導を行い、博士論文の準備を進める。

(62 野本 東生)

日本中世文学に関わる博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する文献資料等を確認し、博士論文の準備を進める。

(63 橋本 雄)

日本中世史に関する博士論文の作成のために必要な研究指導を実施する。課題設定とその妥当性、当該分野の研究史整理、論証で用いる史資料の収集・整理・読解、論文の構成などについて指導を行い、博士論文の準備を進める。

(64 林寺 正俊)

仏教学における博士論文のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の研究史の整理方法、研究に使用する資料の読解整理及び扱い方、論文の構成等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。

(65 浅沼 敬子)

現代美術史に関する博士論文を作成するために必要な研究指導を実施する。研究課題の設定，研究史や現在の研究状況の把握，作品や資料の調査と分析，論文の構成や執筆等について研究指導を行い，博士論文の準備を進める。

(66 松寫 明男)

フランス近世史及び近現代史研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性，当該分野の研究史の整理方法，研究に使用する史料の読解整理及び扱い方，論文の構成等について研究指導を行い，博士論文の準備を進める。

(67 水溜 真由美)

日本近現代文学・思想史における博士論文の執筆のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定及び方法論の妥当性，当該分野の先行研究の整理方法，研究対象とするテキストの選定と分析方法，論文の構成等について研究指導を行い，博士論文の準備を進める。

(68 蓑島 栄紀)

アイヌ史及び先住民族史研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。論文の執筆における問題設定の視点・方法や，研究史の整理の仕方，史料の読解と扱い方，論証の組み立て方や論文の構成等について研究指導を行い，博士論文の準備を進める。

(69 宮嶋 俊一)

宗教学における博士論文のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性，当該分野の研究史の整理方法，研究に使用する資料の読解整理及び扱い方，論文の構成等について研究指導を行い，博士論文の準備を進める。

(70 村松 正隆)

近現代フランス哲学・倫理学，その他近現代哲学・倫理学に関する博士論文作成のために必要な研究指導を実施する。問題設定の妥当性，当該問題に関わる研究史・関連研究の整理，論文に使用する文献の読解，論文の構成等について研究指導を行い，博士論文の準備を進める。

(71 山崎 幸治)

先住民族に関わる博物館学及び文化人類学に関する博士論文のために必要な研究指導を実施する。論文の課題設定の妥当性，当該分野の研究史の整理方法，研究に使用する史資料の整理及び扱い方，論文の構成等について研究指導を行い，博士論文の準備を進める。

※2020.4より下記も担当

先住民考古学及び先住民文化遺産学分野を中心に，博士論文の作成のために必要な研究指導を実施する。研究に使用する発掘資料等の扱い方，論文の構成等について指導を行い，博士論文の準備を進める。

(72 Matthias Grunewald) ※2021.3退職

ドイツ語圏文学を中心に，ドイツ語での学位論文執筆に向けた基本的な研究指導を実施する。まずは，論文執筆計画に基づき，ドイツ語で書かれた第1・第2次資料を収集させ，それらの理解状況，全体の構成，並びに論理展開を検討し，その妥当性を検証指導し，執筆に取り組みさせる。同時に，論文執筆に資するドイツ語表現能力の基盤を築き，博士論文の準備を進める。

(73 江田 真毅)

考古学研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性，当該分野の研究史の整理方法，実験に使用する資料の取り扱い方法，論文の構成等について研究指導を行い，博士論文の準備を進める。

(74 井上 敬介) ※2021.3退職

日本史学研究室の近現代史分野を中心に，日本史学研究室の博士後期課程学生の博士論文に関する研究の指導補助を行う。

(75 近藤 祉秋) ※2021.3退職

アイヌ・先住民学研究室の文化人類学分野・英語圏の先住民研究分野を中心に，アイヌ・先住民学研究室の博士後期課程学生の博士論文に関する研究の指導補助を行う。

(76 高倉 純)

考古学研究室の先史考古学分野を中心に，考古学研究室の博士後期課程学生の博士論文に関する研究の指導補助を行う。

(77 野村 恭史)

哲学倫理学研究室の分析哲学・言語哲学分野を中心に，哲学倫理学研究室の博士後期課程学生の博士論文に関する研究の指導補助を行う。

(78 藤本 純子)

言語科学研究室のドイツ語学及びドイツ語教育学に関わる分野を中心に，言語科学研究室の博士後期課程学生の博士論文に関する研究の指導補助を行う。

	<p>(79 宮下 弥生)</p> <p>欧米文学研究室のイギリス文学及び文学理論の分野を中心に、欧米文学研究室の博士後期課程学生の博士論文に関する研究の指導補助を行う。作品の分析方法、文学理論の応用の仕方、先行研究の調査方法など、論文を執筆する前段階を中心に指導補助を行う。</p>	
<p>博士論文指導特殊演習 II</p>	<p>(概要)</p> <p>人文学専攻の各専門分野の研究テーマに関して、研究の実践、指導を行い、博士論文の準備を進めるとともに、論文指導を行う。さらに、博士論文全体の構成等について具体的に指導し、研究成果を博士論文としてまとめることができるようにする。</p> <p>(1 山本 文彦)</p> <p>西洋中世史及び近世史研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習 I における研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する文献及び史料の内容を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。</p> <p>(2 岩下 明裕)</p> <p>スラブ・ユーラシア地域に関わる国際関係やボーダースタディーズにおける博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習 I における研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する情報や解析の内容を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。</p> <p>(3 応 雄)</p> <p>映像表象文化研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習 I における研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検証する。また、使用概念の精緻度、論の展開の厳密性、文献使用の妥当性を推敲・確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。</p> <p>(4 宇山 智彦)</p> <p>中央ユーラシア地域研究・旧ソ連諸国政治研究に関する博士論文執筆のために必要な指導を実施する。博士論文指導特殊演習 I の成果を確認し、引き続き成果発表に取り組みせると共に、研究の記述方法と構成を検討し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。</p> <p>(5 WOLFF DAVID)</p> <p>ロシア史及びシベリア・極東研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習 I における研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する二次文献及び一次史料の内容を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。</p> <p>(6 大西 郁夫)</p> <p>近現代ロシア文学研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習 I における研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する文献及び資料の内容を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。</p>	<p>共同</p>

(7 押野 武志)

日本近現代文学・文化研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する文献及び資料の内容を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(8 小田 博志)

文化人類学における博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、エスノグラフィック・フィールドワークに基づくオリジナルな知見を生産し、それを博士論文の形で表現できるようになるための指導を行い、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(9 加藤 重広)

主に日本語を対象言語として取り組む言語学的な研究について、博士後期課程での研究を着実に完成させるための、高度な研究技法また緻密な論文作成法、研究成果の効果的な発表方法などの研究指導を実施する。特に、博士論文の執筆完成に向けてどのような分析や論考が重要かをよく考えながら、言語研究の応用的能力を高度化することを目標に指導を行い、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

※2021.4より下記も担当

日本語学における博士論文の作成のために必要な研究指導を実施する。研究の背景と問題点、研究資料、研究目的と方法、分析方法、仮説の提示と検証、より洗練された論文の構成と表現などについて研究指導を行い、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(10 加藤 博文)

先住民考古学及び先住民文化遺産学に関する博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する文献及び史資料の内容を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

※2021.4より下記も担当

アイヌ・先住民学研究室の文化人類学分野・英語圏の先住民研究分野を中心に、アイヌ・先住民学研究室の博士課程学生の博士論文に関する研究の指導補助を行う。

(11 権 錫永)

日本近代思想史・文化史に関する博士論文作成のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰの成果を踏まえながら、博士論文全体の構成、個々の論証に必要な文献や資料の助言などの指導を行い、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(12 藏田 伸雄)

現代規範倫理学・メタ倫理学・応用倫理学及び近現代哲学研究における博士論文作成のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する文献の内容を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(13 小杉 康)

考古学研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認し、博士論文としての全体構成を検討し、妥当性を検証する。また博士論文で使用する考古資料の内容と論理性を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(14 後藤 康文)

平安朝文学作品・作家等に関する博士論文作成のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また、博士論文で使用する文献や資料の内容を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(15 近藤 浩之)

中国の古代思想、易学思想の研究における博士論文のために必要な研究指導を行う。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性・独創性を検証する。また博士論文で使用する文献や史料の内容と読解を検討し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(16 佐々木 啓)

宗教学・宗教史学における博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する文献及び資料の内容を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(17 佐々木 亨)

博物館学及び博物館人類学などにおける、博士論文作成のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を改めて確認し、博士論文の全体構成の妥当性や整合性を吟味する。この過程では、この間における当該研究分野の進捗状況の確認、及び使用するデータ・情報の分析結果の確認なども行い、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(18 佐藤 知己)

アイヌ語及び北方言語に関する博士論文作成に必要な研究指導を実施する。テーマの選定、先行研究の調査、分析収集、データ収集、仮説の設定、データの分析、結果の提示について再度確認すると共に、進められてきた言語分析が妥当なものであるか、改善点を指摘し、今後の発展に繋がるよう指導を行う。また、論文発表や学会発表をめぐって博士論文の内容を具体化し、内容の向上のための指導を行い、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(19 清水 誠)

ドイツ語学及びゲルマン語学の分野に関する博士論文作成に必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する資料及び方法論を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(20 白木沢 旭児)

日本現代史に関する博士論文作成のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰの成果を踏まえながら、博士論文全体の構成、個々の論証に必要な文献や資料の助言などについて指導を行い、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(21 砂田 徹)

西洋古代史研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する文献及び史料の内容を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(22 瀬名波 栄潤)

英米・英語圏文学を中心に、博士論文執筆完成に向けた最終的な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を踏まえ、論文の概要・構成・論理展開等を検証・指導し、妥当性と新規性を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

※2021.4より下記も担当

ドイツ語圏文学を中心に、ドイツ語での学位論文執筆完成に向けた最終的な研究指導を実施する。まずは、高度なドイツ語表現能力を養い、学位論文執筆に反映させる。そして、博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を踏まえ、論文の概要・構成・論理展開等を検証・指導する。最終的には、妥当性と新規性を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(23 仙石 学)

中東欧比較政治・政治経済における博士論文執筆のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文における資料・データと分析の結果についても検討し、博士論文に関する研究指導を行う。

(24 田口 茂)

現象学、近代日本哲学、その他の現代哲学に関する博士論文作成のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する文献の内容を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(25 竹内 康浩)

英米・英語圏文学に関する博士論文執筆に向けた発展的な研究指導を実施する。論文執筆計画に基づき、資料収集と論文データベースによる管理、その読解などを通して、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(26 武田 雅哉)

中国の文学、言語、及び芸術の研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する文献及び史料の内容を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(27 谷本 晃久)

日本近世史に関する博士論文作成のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰの成果を踏まえ、課題の設定や研究史の整理、史資料の収集・考証などについて助言を行い、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(28 田畑 伸一郎)

スラブ・ユーラシア地域の経済研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する文献及び資料・データの内容を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(29 富田 康之)

日本近世文学及び近世演劇における博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する文献資料等を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(30 長縄 宣博)

中央ユーラシア近現代史及びロシア史研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する二次文献及び一次史料の内容を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(31 中村 三春)

日本近代文学・比較文学・表象文化論における博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する文献及び資料の内容を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(32 野町 素己)

スラブ言語学研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する文献及び分析対象のテキスト・資料の内容を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(33 野村 益寛)

英語学・認知言語学についての博士論文の作成のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を土台とし、論文における議論の進め方、論文の表現等について引き続き研究指導を行い、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(34 長谷川 貴彦)

西洋近世史・近代史及び現代史研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する文献及び史料の内容を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(35 藤田 健)

博士論文指導特殊演習Ⅰの成果を確認した上で、ロマンス諸語の言語学的研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。全体の構成の検討、主張の妥当性の検証、使用する文献及びデータの確認などの研究指導を行い、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(36 細田 典明)

インド哲学における博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する文献及び資料の内容を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(37 村田 勝幸)

アメリカ近現代史及び同時代史研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する文献及び史料の内容を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(38 谷古字 尚)

西洋美術史に関する博士論文を作成するために必要な研究指導を実施する。研究課題の設定、研究史や現在の研究状況の把握、作品や資料の調査と分析、論文の構成などが適切になされているか等、博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、必要な修正を行い、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

※2021.4より下記も担当

美学・芸術学に関する博士論文を作成するために必要な研究指導を実施する。研究課題の設定、研究史や現在の研究状況の把握、作品や資料の調査と分析、論文の構成などが適切になされているか等、博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、必要な修正を行い、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(39 弓巾 和順)

中国古代思想研究における博士論文を作成するために必要とされる発展的な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を踏まえ、博士論文としての全体構成を確認するとともに、その内容の妥当性を検討する。あわせて博士論文で使用する文献の読解や使用方法を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(40 吉開 将人)

東洋史学の諸分野のうち東アジア史、とりわけ中国史を対象とする博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する文献及び史料の内容を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(41 池田 証壽) ※2021.3退職

日本語学における博士論文の作成のために必要な研究指導を実施する。研究の背景と問題点、研究資料、研究目的と方法、分析方法、仮説の提示と検証、より洗練された論文の構成と表現などについて研究指導を行い、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(42 太田 敬子)

東洋史学の諸分野のうち、中世近東史、及び初期・中世イスラーム社会におけるマイノリティ研究に関する博士論文執筆に必要とされる研究指導を実施する。博士論文指導Ⅰにおける研究成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また、博士論文で使用する文献及び史料が正確に読解・考察されているかを確認するなど、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(43 北村 清彦) ※2021.3退職

美学・芸術学に関する博士論文を作成するために必要な研究指導を実施する。研究課題の設定、研究史や現在の研究状況の把握、作品や資料の調査と分析、論文の構成などが適切になされているか等、博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、必要な修正を行い、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(44 千葉 恵) ※2020.3退職

古代中世哲学における博士論文作成のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する文献の内容を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(45 安達 大輔)

ロシア文学研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する文献及び分析対象のテキスト・資料の内容を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(46 阿部 嘉昭)

映画を始めとする映像表象、サブカルチャー表象研究での博士論文指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文に必要な構成要件、新規性・創造性、妥当性、使用文献の適切性を吟味し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(47 李 連珠)

記述言語学や対照言語学研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の内容や研究成果を踏まえて、博士論文として一步踏み込んだ研究主張へと繋がる全体的構成であるかを検討する。博士論文で提示する言語資料に対する検証やその分析・考察が論理的であるかを確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(48 小倉 真紀子)

日本古代史に関する博士論文の作成に向け、博士論文指導特殊演習Ⅰの成果を踏まえ、主に論文の構成等に関する研究指導を実施する。論点に関する検証の過程及び結果の妥当性、並びに学界における当該研究の意義を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(49 落合 研一)

アイヌ・先住民法研究に関する博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する文献及び史料の内容を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(50 金沢 英之)

上代文学作品を対象とした博士論文作成のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰの成果を踏まえ、引き続き先行研究の調査と整理、問題の設定、資料分析の方法の妥当性について検討を行うとともに、論文全体の構成等についても適切な指導を行い、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(51 川口 暁弘)

日本近代史に関する博士論文作成のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰの成果を踏まえながら、博士論文全体の構成、個々の論証に必要な文献や資料の助言などについて指導し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

※2021.4より下記も担当

日本史学研究室の近現代史分野を中心に、博士論文指導特殊演習Ⅰの成果を踏まえ、日本史学研究室の博士後期課程学生の博士論文に関する研究の指導補助を行う。

(52 北原 次郎太)

北方先住民の宗教思想史研究における博士論文作成のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する文献及び史料の内容を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(53 近藤 智彦)

古代中世哲学及び西洋倫理思想史の研究における博士論文作成のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する文献資料の内容を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

※2020.4より下記も担当

古代中世哲学における博士論文作成のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する文献の内容を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(54 佐藤 健太郎)

東洋史学の諸分野のうちイスラーム史、とりわけ北アフリカやイベリア半島などの歴史を対象とする博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認した上で、最終的な博士論文の完成にむけた指導をお行う。論文全体の構成が博士論文としての妥当性を備えているか検討するとともに、使用される研究文献や史料の内容・理解などについて確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(55 佐野 勝彦)

分析哲学、数学・論理学の哲学、及び論理学における博士論文作成のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習 I における研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する文献の内容を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(56 鈴木 幸人)

博物館学及び博物館人類学に関する、博士論文作成のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習 I における研究指導の成果を改めて確認し、博士論文の全体構成の妥当性や整合性を吟味する。この過程では、この間における当該研究分野の進捗状況の確認、及び使用するデータ・情報の分析結果の確認などを行い、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(57 高瀬 克範)

考古学研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習 I における研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する資料の内容を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(58 竹内 修一)

フランス文学を研究領域とする学生に対して、博士論文執筆完成に向けた最終的な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習 I における研究指導の成果を踏まえ、論文の概要・構成・論理展開等を検証・指導し、妥当性と新規性を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(59 丹菊 逸治)

アイヌ・先住民の口承文芸・言語研究に関する博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習 I における研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する文献及び史料の内容を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(60 戸田 聡)

西洋古代学研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習 I での指導の成果を確認し、かつ論文全体の構成を検討する。また、使用される文献及び資料の内容を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(61 長沼 正樹) ※2020.3退職

先住民考古学及び先住民文化遺産学分野を中心に、博士論文の作成のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習 I での指導の成果を確認し、論文全体の構成を検討し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(62 野本 東生)

日本中世文学に関わる博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習 I における成果に基づき、論文の問題点の設定方法、当該分野の先行研究の整理方法、関係資料の収集方法、及び論文構成等について研究指導を行い、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(63 橋本 雄)

日本中世史に関する博士論文の作成のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰの成果を踏まえ、課題の設定や研究史の整理、史資料の収集・考証などについて助言を行い、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(64 林寺 正俊)

仏教学における博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する文献及び資料の内容を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(65 浅沼 敬子)

現代美術史に関する博士論文を作成するために必要な研究指導を実施する。研究課題の設定、研究史や現在の研究状況の把握、作品や資料の調査と分析、論文の構成などが適切になされているか等、博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、必要な修正を行い、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(66 松嵜 明男)

フランス近世史及び近現代史研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する文献及び史料の内容を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(67 水溜 真由美)

日本近現代文学・思想史における博士論文の執筆のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を踏まえつつ、博士論文全体の構成について検討し、その妥当性を検証する。また、論文全体の枠組みを踏まえながら、的確な方法・手続きに基づいて、各章の執筆を確実に進めるよう指導を行い、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(68 蓑島 栄紀)

アイヌ史及び先住民族史研究における博士論文の作成のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する文献及び史料の内容を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(69 宮嶋 俊一)

宗教学における博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する文献及び資料の内容を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(70 村松 正隆)

近現代フランス哲学・倫理学, その他近現代哲学・倫理学に関する博士論文作成のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習 I における研究指導の成果を確認するとともに, 博士論文としての全体の構成を検討し, その妥当性を検証する。また博士論文で使用する文献の内容を確認し, 博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(71 山崎 幸治)

先住民族に関わる博物館学及び文化人類学に関する博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習 I における研究指導の成果を確認するとともに, 博士論文としての全体の構成を検討し, その妥当性を検証する。また博士論文で使用する文献及び史資料の内容を確認し, 博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

※2020.4より下記も担当

先住民考古学及び先住民文化遺産学分野を中心に, 博士論文の作成のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習 I での指導の成果を確認し, 論文全体の構成を検討し, 博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(72 Matthias Grunewald) ※2021.3退職

ドイツ語圏文学を中心に, ドイツ語での学位論文執筆完成に向けた最終的な研究指導を実施する。まずは, 高度なドイツ語表現能力を養い, 学位論文執筆に反映させる。そして, 博士論文指導特殊演習 I における研究指導の成果を踏まえ, 論文の概要・構成・論理展開等を検証・指導する。最終的には, 妥当性と新規性を確認し, 博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(73 江田 真毅)

考古学研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習 I における研究指導の成果を確認するとともに, 博士論文としての全体の構成を検討し, その妥当性を検証する。特に実験で使用する資料の内容と倫理性を確認し, 博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(74 井上 敬介) ※2021.3退職

日本史学研究室の近現代史分野を中心に, 博士論文指導特殊演習 I の成果を踏まえ, 日本史学研究室の博士後期課程学生の博士論文に関する研究の指導補助を行う。

(75近藤 祉秋) ※2021.3退職

アイヌ・先住民学研究室の文化人類学分野・英語圏の先住民研究分野を中心に, 博士論文指導特殊演習 I の成果を踏まえ, アイヌ・先住民学研究室の博士後期課程学生の博士論文に関する研究の指導補助を行う。

(76 高倉 純)

考古学研究室の先史考古学分野を中心に, 博士論文指導特殊演習 I の成果を踏まえ, 考古学研究室の博士後期課程学生の博士論文作成に関して, 完成までのスケジュール管理のアドバイスと研究の指導補助を行う。

(77 野村 恭史)

哲学倫理学研究室の分析哲学・言語哲学分野を中心に, 博士論文指導特殊演習 I の成果を踏まえ, 哲学倫理学研究室の博士後期課程学生の博士論文に関する研究の指導補助を行う。

	<p>(78 藤本 純子) 言語科学研究室のドイツ語学及びドイツ語教育学に関わる分野を中心に、博士論文指導特殊演習Ⅰの成果を踏まえ、言語科学研究室の博士後期課程学生の博士論文に関する研究の指導補助を行う。</p> <p>(79 宮下 弥生) 欧米文学研究室のイギリス文学及び文学理論の分野を中心に、博士論文指導特殊演習Ⅰの成果を踏まえ、欧米文学研究室の博士後期課程学生の博士論文に関する研究の指導補助を行う。英文論文を執筆する際に必要なテクニックや、日本語論文とは違った論理展開の方法など実践的な指導補助を行う。</p>	
--	--	--

授 業 科 目 の 概 要			
(文学院 人間科学専攻 修士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	修士論文・特定課題指導特殊演習	<p>(概要) 人間科学専攻における各専門分野の研究テーマに関して、研究の実践、指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるように指導を行う。</p> <p>(1 安達 真由美) 音楽心理学及び音楽発達心理学における修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。当該分野の過去の知見に基づく問題設定、研究方法の妥当性、実験計画、データ解析と解釈、及び論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。</p> <p>(2 池田 透) 保全生態学・社会生態学とその関連分野（野生動物管理学、動物と人間の関係論、侵入生態学、外来種管理論など）における修士論文の執筆、あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定、当該分野の先行研究の整理方法、フィールドワークの内容、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。</p> <p>(3 大沼 進) 環境社会心理学を軸とした行動科学における修士論文の作成のために必要な研究指導を実施する。研究的疑問 (Research question) の明確化、当該分野の先行研究のレビュー、目的に適した方法の選択、データ収集方法とその分析、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。</p> <p>(4 川端 康弘) 認知心理学及び認知科学研究における修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。問題設定とその妥当性、当該分野の背景研究、研究の方法、実験に使用する機材の扱い方、得られたデータの分析法、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。</p> <p>(5 櫻井 義秀) 宗教社会学及びアジア地域研究に関連する修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の既存研究の整理方法、研究に使用する資料の整理とデータの分析、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。</p> <p>(6 橋本 雄一) 人文地理学・都市地理学、地理情報科学とその関連分野における修士論文の執筆、あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の目的や方法論の設定、先行研究の収集と整理、GIS (地理情報システム) ・衛星測位・地理空間情報を用いた分析方法、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。</p>	共同

(7 平澤 和司)

教育社会学及び社会階層研究に関連する修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の既存研究の整理方法、研究に使用する資料の整理とデータの分析、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(8 宮内 泰介)

環境社会学・地域社会学とその関連分野（コモンズ論、環境ガバナンス論、合意形成論など）における修士論文の執筆、あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定、当該分野の先行研究の整理方法、フィールドワークの内容、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(9 結城 雅樹)

比較社会生態アプローチを軸として、社会環境と人間行動・心理の関係についての修士論文執筆のために必要な研究指導を実施する。問題の選択、先行研究のレビューと仮説の導出、検証方法の選択とデザイン、データ分析と論文執筆などについての研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(10 和田 博美)

実験動物を用いた学習・認知行動研究に関する修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、実験計画の組立て、データ解析と解釈の妥当性及び論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(11 田山 忠行)

感覚・知覚・認知に関する修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。当該分野の研究史の整理及び問題設定、実験計画の内容（実験方法及びデータ分析）、実験結果の考察、引用文献等の妥当性、また論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(12 小川 健二)

認知神経科学に関する修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。当該分野の研究史の整理及び問題設定、実験計画の内容（実験方法及びデータ分析）、実験結果の考察、引用文献等の妥当性、また論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(13 河原 純一郎)

認知行動科学に関する修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究の指導をする。当該分野の研究史の整理及び問題設定、実験計画の内容、実験方法及びデータ分析方法、実験結果の考察、引用文献の妥当性、また論文の構成、展開可能性について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(14 笹岡 正俊)

環境社会学とその関連分野（ポリティカル・エコロジー論、環境ガバナンス論など）における修士論文の執筆、あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定、当該分野の先行研究の整理方法、フィールドワークの内容、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(15 高橋 泰城)

以下に関する理論的・実験的な研究指導を実施する。①経済学における均衡の効率性（パレート効率性や社会的総余剰最大化）、②意思決定における合理性に関する公理群（フォン・ノイマンらの独立性公理・オーマンらの状態独立性公理など）、③神経科学における入門的演習（ネルンストの式 Nernst potential, ホジキン=ハクスリー方程式 Hodgkin=Huxley など）について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(16 高橋 伸幸)

社会学的社会心理学に基づく修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文で問う問題の妥当性、当該分野の先行研究の整理方法、具体的な研究テーマに即した研究手法、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(17 瀧本 彩加)

伴侶動物とヒトにおける異種間コミュニケーションを中心として、比較認知科学に関連する修士論文の作成に必要な研究指導を実施する。関連文献の読解、目的に適した方法の選択、研究を実現するために必要なスキルの習得、実験データの分析と解釈、論文の構成などについて研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(18 竹澤 正哲)

社会的意思決定を中心として、進化社会科学に関連する修士論文の作成のために必要な研究指導を実施する。関連文献の理解、研究に必要なプログラミング・スキルの習得、コンピュータ・シミュレーションのノウハウ、実験データの分析と解釈、関連領域のフォーマットに従った論文執筆について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(19 仁平 尊明)

人文地理学とその関連分野（地誌学、経済地理学、農業地理学、観光地理学など）における修士論文の執筆、あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定、当該分野の先行研究の整理方法、フィールドワークの内容、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(20 HOMMERICH CAROLA)

リスク社会学及び社会的不平等研究に関連する修士論文あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の既存研究の整理方法、研究に使用する資料の整理とデータの分析、論文の構成等について研究指導を行い、修士論文あるいは特定課題としてまとめることができるようにする。

(21 立澤 史郎)

保全生態学・社会生態学とその関連分野における修士論文の執筆、あるいは特定課題の作成のために必要な研究の指導補助を行う。論文の問題設定、当該分野の先行研究の整理方法、フィールドワークの内容、論文の構成等について研究の指導補助を行う。

(22 中島 晃)

行動科学研究室のデータ解析分野を中心に、その関連分野における修士論文の執筆、あるいは特定課題の作成のために必要な研究の指導補助を行う。論文の問題設定、当該分野の先行研究の整理方法、フィールドワークの内容、論文の構成等について研究の指導補助を行う。

	(23 森本 琢) 認知・記憶・心的イメージの分野を中心に、その関連分野における修士論文の執筆、あるいは特定課題の作成のために必要な研究の指導補助を行う。論文の問題設定、当該分野の先行研究の整理方法、フィールドワークの内容、論文の構成等について研究の指導補助を行う。	
人文社会構造論	(概要) 本授業では、国際関係の複雑化、価値観の多様化、民族主義の先鋭化など、現在の私たちを取り巻く世界レベルから生活空間レベルまで様々な人間社会の現象を、哲学的観点、文化的観点、歴史的観点、地理的観点、言語的観点、心理的観点など、複合的観点から分析する能力を身につけることにより、新たなものの見方や仕組みを設計し提案する能力を養う。そのために、旧来の狭い個別の学問領域にこだわらず、人文社会科学全般に関連する知見や問題意識を共有するとともに、より広い視野を持ってそれぞれの研究に取り組む姿勢を培う。 本授業では、実際の社会問題を事例として用いて、講義形式により、4名の教員が毎回、複数の観点からの論点の提示を行うことにより、複合的な思考方法を学ぶ。 上記の内容を4名の教員が、役割分担せずに共同で行う。	共同
複合環境文化論	(概要) 本授業では、環境問題、原子力発電を含むエネルギー問題、外来種問題、自然災害に関わる問題、少子高齢化問題、グローバル化に伴う産業構造の変化や社会的格差などの問題、及びそれらに対する対応など、私たちの生活の身近で生起している重要なテーマに関して、何が問題かを含めて、人文科学分野と社会科学分野における先端的な研究に基づいて複眼的に読み解く能力を養う。重層的な学術知を人類社会における福祉の向上に貢献する人材の育成を目指す。 本授業では、実際の社会問題を事例として用いて、講義形式により、4名の教員が毎回、複数の観点からの論点の提示することにより、複眼的な思考方法を学ぶ。 上記の内容を4名の教員が、役割分担せずに共同で行う。	共同
多文化共生論	(概要) 本授業では、世界各地の様々な文化的背景、価値観、歴史観、社会的慣習を学修することにより、自国の文化とは異なる文化を受容する社会的寛容性の涵養を図り、グローバル化していくこれからの社会において、国際理解や国際協力に貢献する人材の育成を目指す。文化に関して地域を超えて問題となりうる特定のテーマを設定し、人文学及び人間科学の諸分野における豊富な研究成果をもとに多角的に検討することを通じて、自身の専門領域にとどまらない幅広い視野で多種多様な文化のあり方を総合的に考察し、理解を深めることができる。 本授業では、実際の社会問題を事例として用いて、講義形式により、4名の教員が毎回、複数の観点からの論点の提示を行うことにより、多角的な思考方法を学ぶ。 上記の内容を4名の教員が、役割分担せずに共同で行う。	共同

総合社会情報論	<p>(概要)</p> <p>本授業では、人文科学、社会科学および自然科学の多くの領域において、これまで蓄積された様々なタイプの興味深い情報を活用しながら、受講者が数理的、論理的な思考力や情報の高度な処理力・応用力を身に付けることができることを目的としている。また、俯瞰的な視野から、複雑で多面的な高度情報化社会において、課題を発見し解決に導くことができる人材の育成を目指している。国際的な情報交流の歴史、情報処理と伝達における言語の機能、情報の統計的分析法とその見方や解釈、脳などの認知システムにおける情報処理などを扱う。</p> <p>本授業では、実際の社会問題を事例として用いて、講義形式により、4名の教員が毎回、複数の観点からの論点の提示を行うことにより、数理的な思考方法を学ぶ。</p> <p>上記の内容を4名の教員が、役割分担せずに共同で行う。</p>	共同
研究倫理・論文指導特殊講義	<p>(概要)</p> <p>本授業では、研究倫理や不正行為の防止、研究対象の選定と目的設定、資料等へのアクセス方法、電子ジャーナルの利用方法、論文の投稿方法など、文学院の学問領域において修士論文あるいは特定課題に取り組む際に必要となる基本的な研究力を養成する。</p> <p>(春学期)</p> <p>人文科学及び社会科学における研究倫理、特に論文や発表における捏造、データ改竄、盗用(不適切な引用)、さらに研究上での個人情報の保護や人を対象とした研究に関する倫理問題について説明し、ディスカッション等も交えながら研究倫理の基礎を学ぶ。また研究対象をどのように選定するか、研究の目的をどのように設定するのかといった研究の方法論についても学ぶ。さらに電子ジャーナルへのアクセスや利用方法、資料へのアクセス、フィールドワークにおける倫理、論文投稿の作法といった内容についても扱う。</p> <p>本授業では、実際の社会問題を事例として用いて、講義形式により、4名の教員が毎回、複数の観点からの論点の提示を行うことにより、研究倫理と論文作成法を学ぶ。</p> <p>上記の内容を4名の教員が、役割分担せずに共同で行う。</p> <p>(夏学期)</p> <p>文学院の学問領域においてすべての研究者に共通して求められる研究倫理や不正行為の防止について学び、ディスカッションを行って理解を深める。さらに人間や動物を直接の対象とする研究や歴史的文献及び考古学的資料の調査・収集を行う研究など、研究分野によって特に求められる研究倫理や国内外の法について解説する。これらの基礎知識に基づいて、研究対象の選定と目的設定、資料等へのアクセス方法、電子ジャーナルの利用方法、研究論文の投稿・研究書の出版方法など、修士論文あるいは特定課題に取り組む際に必要となる基本的な研究力を養成する。その上で、修士2年次に履修する「修士論文・特定課題指導特殊演習」を履修する。</p> <p>本授業では、実際の社会問題を事例として用いて、講義形式により、4名の教員が毎回、複数の観点からの論点の提示を行うことにより、研究倫理と論文作成法を学ぶ。</p> <p>上記の内容を4名の教員が、役割分担せずに共同で行う。</p>	共同
選択必修科目	<p>(概要)</p> <p>認知心理学とその関連学問領域における最近の研究動向や様々な研究方法についての講義を通して、心理学の修士課程における研究の土台・枠組みを提供するとともに、心理学の様々な研究領域の知見や視点から自分の研究を見つめ直す機会を提供する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p>	オムニバス方式

	<p>(1 安達 真由美／3回) 心理学の修士課程における研究の土台・枠組みを提供するために、音楽の聴取、演奏、創作に関わる現象やメカニズムを、認知心理学や認知科学の枠組みで解説する。また、複数の具体的な研究例から音楽心理学における実験手法の妥当性と限界について考えたり、同一文化内での成人と子どもを比較したり、異文化間での比較を行ったりする際の研究上の留意点などについて理解する。</p> <p>(4 川端 康弘／3回) 心理学の修士課程における研究の土台・枠組みを提供するために、視聴覚を中心とした人間の5つの感覚・知覚系の構造及びその主要な特性について解説する。感覚と知覚の主要な目的である空間の定位とパターン認識のためにどのような仕組みが使われているかを考える。また他の生物にはあまり見られない抹消の感覚器レベルからより高次の脳における処理を含む人間の感覚・知覚処理の特徴を理解する。</p> <p>(10 和田 博美／3回) 心理学の修士課程における研究の土台・枠組みを提供するために、エリクソンの精神発達理論をテーマに取り上げ、人間がこの世に生まれ出て成長し社会人となり、いずれ高齢者になって人生を終えるまでの心の発達過程を解説する。エリクソンの理論によれば、人間の心には乳児期、幼児期、学童期、青年期、成人期、壮年期及び円熟期という7つの発達段階があり、それぞれに乗り越えなければならない発達課題があると考えられている。この発達課題を乗り越えることで次の発達段階に進み、人間の心は成長していく。本講義ではこれらの発達段階の特徴とその発達課題について説明し、人間の心の発達について理解を深める。</p> <p>(12 小川 健二／3回) 心理学の修士課程における研究の土台・枠組みを提供するために、認知科学と神経科学の融合分野である認知神経科学について、その歴史的背景や方法及び最先端の研究テーマについて概説する。特にヒトを対象とした非侵襲脳機能イメージング方法の代表として、機能的核磁気共鳴画像法(functional MRI)の計測原理や分析方法について解説するとともに、脳機能イメージングを使った身体化認知や社会的認知等の最新の研究成果について講義する。また脳情報デコーディングやニューロフィードバックといった発展的な内容についても概説する。</p> <p>(13 河原 純一郎／3回) 心理学の修士課程における研究の土台・枠組みを提供するために、認知実験における統制について、注意研究、顔認知、応用研究それぞれにおいて、統制について学ぶ。注意を測定する場合、何を操作したらどのような成分の注意を測定していることになるか、比較のためにはどのような統制条件が必要かを、実際の研究例に基づいて講義する。過去の研究から統制の不十分な例や、交絡が懸念される実験デザインを改良する体験を通して、実験的統制の技能を習得する。</p>	
認知理論特別演習	<p>認知心理学、特に注意に関わる研究についての最先端の知見を把握するとともに、その研究手法、及び論文や口頭での発表技法を身につける。認知神経科学における最新の英語原著論文や書籍を取り上げ、議論する。受講生には認知心理学に関連した文献を分担して発表してもらい、全員で議論を行う。受講生の興味や研究対象に応じて広く認知神経科学の題材を扱う。発表担当者は事前に担当文献を精読し、発表準備をする必要がある。</p>	

行動理論特別演習	<p>(概要) 本演習では、春・夏学期に脳科学や神経科学の基礎的な知識を習得し、学習、認知、言語などの心理現象を司る脳内の高次神経機構を理解する。秋・冬学期には、これらの知識に基づいた脳科学・神経科学分野の研究論文を取り上げて議論する。以上の演習を通して自分の研究についての洞察を深めるとともに、学術論文を執筆する上で必要となる実践力を養う。</p> <p>(春・夏学期) 近年の認知心理学では、機能的核磁気共鳴画像法 (functional MRI) や脳磁図記録 (MEG) を利用した神経科学的研究が盛んに行われている。認知心理学を学ぶ受講生にとって、脳科学・神経科学の知識は必須である。本演習では、神経科学の基礎となる神経系の構造と機能及び神経伝達・シナプス伝達について学ぶ。さらに人間が情報を取り入れ行動するための感覚機能や運動機能について学ぶ。これらの知識を基に、学習、認知、言語などの心理現象を司る脳内の高次神経機構を理解する。受講生は指定されたテキストを読み内容をまとめた上で口頭発表をすることにより、理解を深めることができる。</p> <p>(秋・冬学期) 受講生は、春・夏学期の授業で学んだ脳科学・神経科学の知識を基に、学習、認知、言語などの心理現象を司る脳内の高次神経機構を研究対象にした学術論文を取上げ、わかりやすくまとめた上で口頭発表する。脳科学・神経科学の知識が心理現象を司る脳内高次神経機構を解明するためにどのように応用されているのかを論文研究を通して理解し、学術論文を執筆するために必要な実践的な力を養う。また他の受講生との質疑応答を通して口頭発表力を培うとともに、自分の研究について洞察を深めることができる。</p>	
知覚情報論特別演習	<p>認知科学、心理学、生物学における感覚・知覚領域の最近の学術論文を読むことで、当該領域に関する専門的知識を習得することを目的とする、また議論を通して問題の所在を明確にして、課題解決に向けての洞察力を養う。受講生による発表、全体での質疑の形式で授業を進めていく。受講生には当該領域の文献（論文や書籍）を分担して読んでもらい、発表のための資料を事前に作成してもらう。具体的な内容としては、感覚の生物学的基盤、視聴覚システムの感受性、色覚、立体視、音声認識、味覚と嗅覚の対連合学習、知覚の順応過程と体制化などを扱う。</p>	
表象構造論特別演習	<p>注意と認知の心理学についての基本的な研究技法を実践して身につける。具体的には、眼球運動測定系を構築するという実例を通して最新のサイコパイ (PsychoPy) システムを利用できるようにする。受講生全員で共通の関心があるテーマを議論から特定し、実施可能な研究計画を立案、試行する。この測定手続き、システム構築法を受講生が各自の研究テーマに適用できるよう訓練する。</p>	
知識構造論特別演習	<p>(概要) 本演習では、人間の認知情報処理過程において活用される様々なタイプの知識体系の構造や仕組みに焦点を当て、研究の現状を概観するとともに、近年の認知科学を中心とした学際領域の動向及びそこでの先端的な研究内容を取り上げる。当該分野における現在の主要なテーマ、またどのような方法や技法によって研究が進められているのか、さらに現在の研究上の問題などについて受講生が自ら調査することで深く理解することができる。</p>	

	<p>(春・夏学期) 人間の認知情報処理における知識の獲得と利用の過程について、また外界を適切に理解して行動するために人間が利用している様々な知識体系とそれを実装している認知システムについて、最近の学術論文を講読することで、当該領域に関する専門的知識を習得する。また議論を通して問題の所在を明確にするとともに、その課題解決に向けての洞察力を養う。受講生による発表、全体での質疑の形式で授業を進めていく。受講生には当該領域の文献(論文や書籍)を分担して読んでもらい、発表のための資料を事前に作成してもらおう。春・夏学期の具体的な内容としては、環境変化と適応、熟達化と脳の可塑性、言語情報処理、物体認識と知識のライブラリ化などを扱う。</p>	
	<p>(秋・冬学期) 春・夏学期の授業に引き続き、人間の認知情報処理における知識の獲得と利用の過程について、また外界を適切に理解して行動するために人間が利用している様々な知識体系とそれを実装している認知システムについて、最近の学術論文を講読する。春・夏学期と同様に受講生による発表、全体での質疑の形式で授業を進めていく。具体的な内容としては、人間の認知系の主な機能と他の生物との比較、感覚モダリティにおける相互作用と運動系との関連、知覚学習の過程、感情や気分の効果、映像的記憶の精度と変容などを扱う。また認知科学研究における実験刺激作成法と呈示の技法について学ぶ。 上記の内容を2名の教員が役割分担せずに共同で行う。</p>	共同
思考過程論特別演習	<p>(概要) 認知神経科学分野の最先端の研究内容を把握するとともに、その研究手法及び論文や口頭での発表技法を身につける。認知神経科学における最新の英語原著論文や書籍を取り上げ議論する。受講生には認知神経科学に関連した文献を分担して発表してもらい、全員で議論を行う。受講生の興味や研究対象に応じて広く認知神経科学の題材を扱う。発表担当者は事前に担当文献を精読し、発表準備を必要がある。</p>	
	<p>(春・夏学期) 認知科学と神経科学との融合分野として誕生した認知神経科学の歴史的経緯、及び代表的な方法について最近の学術論文を講読する。具体的には非侵襲脳機能イメージング方法の例として、特に機能的核磁気共鳴画像法(functional MRI)の計測原理や分析方法を対象とし、受講生が認知神経科学分野の英語原著論文や洋書を読むことができることを目標とする。受講生は各自の研究テーマに関連のある認知神経科学の原著論文についての発表を行い、全員で議論する。</p>	
	<p>(秋・冬学期) 春・夏学期に引き続き、認知神経科学分野の原著論文、あるいは書籍の輪読を行う。受講生は各自の研究テーマに関連のある認知神経科学の英語原著論文や洋書についての発表を行い、全員で議論する。さらに多変量解析法を用いた近年の分析手法や、リアルタイムの機能的核磁気共鳴画像法(functional MRI)処理に基づくニューロフィードバック方法等の最新の研究テーマについても解説を行い、認知神経科学分野の研究の最先端について理解することを目的とする。</p>	
学習過程論特別演習	<p>(概要) 音楽に関わる感覚・知覚・認知・運動・学習・発達のメカニズムや情報処理過程について、英語文献を通して学習する。また、受講生自身がトピックを選択し、それに関するこれまでの知見をまとめるとともに、今後の課題について議論するようなレビュー論文の執筆過程を体験する。</p>	

	<p>(春・夏学期)</p> <p>音楽に関わる感覚・知覚・認知・運動・学習・発達のメカニズムや情報処理過程を、英語文献を通して学習する。具体的には、アクティブ・ラーニングを促すため、受講生自身が音楽心理学またはその隣接領域から学習するトピックを選択し、それに関する複数の文献を読解した上で、これまでの知見と今後の課題をレポートにまとめる。授業では、文献読解からレポート作成までの過程を、受講生同士で支援しあえるような指導を行う。</p>	
	<p>(秋・冬学期)</p> <p>英語での講義や質疑応答、ディスカッションを通して、専門分野での英語のヒヤリング及びスピーキング力の向上を目指す。また、春・夏学期での学習を応用し、音楽心理学またはその隣接領域からトピックを一つ選択し、それに関する英語論文数本を独自に読解して英文または和文のレビュー論文を執筆することで、当該トピックに関する過去の知見と今後の課題を理解する。</p>	
行動科学特殊講義	<p>人間の心と行動を扱う心理学は、人間行動研究の最も中心的な研究領域の一つである。本講義では、その基礎に加え、先端的な理論と知見を幅広く習得することを目指す。具体的なトピックとしては、心理学の方法論、人間行動の生物学的基盤、意識、感覚と知覚、学習、記憶、思考・言語・知能、発達、感情と動機付け、身体的健康と心理的健康、社会心理学、パーソナリティなどを扱う。</p>	
行動科学特別演習	<p>(概要)</p> <p>行動科学は、社会心理学、認知科学、比較認知科学、行動経済学、文化心理学、環境心理学など、それ自体が多岐にわたる分野を含むので、第一に、広範な領域に視野を広げられるような素養を身につける。第二に、研究を進めていくに際し必要な素養を身につける。具体的には、当該分野の専門的な論文（主に英語）を読むことに抵抗感を減らす、自身で研究計画を立て、遂行していく力を身につけるなどが達成目標となる。もって、行動科学における専門分野の深化と複眼的・多層的な見方の両方を身につけることができるようにする。</p>	
	<p>(3 大沼 進)</p> <p>環境社会心理学を起点に、リスクガバナンス、政策科学、社会工学、経済学等関連諸領域の研究領域について理解を深めると共に、当該分野における研究の計画立案から遂行までの一連の流れを体験することを通じて、当該領域における研究についての理解を深める。そのために、専門誌の文献読解、実験や社会調査法、ゲーミング技法など様々な研究法などについて、本演習の一環として行うことにより、他の教員が担当する本演習の内容と相乗効果をもたらせるような授業を展開していく。</p>	
	<p>(9 結城 雅樹)</p> <p>社会心理学及び文化心理学を起点に、行動生態学、比較認知科学、脳神経科学など周辺領域の知識も取り込みながら、社会環境の特性と人間行動・人間心理の相互影響関係を理解するための理論的・実証的方法を学ぶ。文献購読、仮説の導出、研究計画の立案、そして実施・報告などを実践的に経験する中で、社会行動の実証研究の一連のプロセスについての理解と技能を深め、他の教員が担当する本演習の内容と相乗効果をもたらせるような授業を展開していく。</p>	

	<p>(16 高橋 伸幸) 社会学的社会心理学を起点に、社会の成り立ちと人々の心との関係について理解することを目的とする。授業は社会科学における社会心理学の位置づけから始め、近年自然科学をも巻き込んで急速に進みつつある、進化ゲーム理論と実証データに基づく統一人間社会科学の形成に向けて、各専門領域の基礎的な文献と研究手法（数理解析、シミュレーション、実験室実験、フィールド実験、調査等）についての理解を深め、研究計画の立案、実施・報告等を実践的に経験する。他の教員が担当する本演習の内容と相乗効果をもたらせるような授業を展開していく。</p>	
	<p>(17 瀧本 彩加) 比較認知科学を起点に、当該分野における研究の計画立案・遂行・分析・考察までの一連の流れを体験することを通じて、当該領域における研究についての理解を深める。そのために、専門誌の文献読解を行い、様々な行動・生理実験方法や行動観察法などについても実践を通じて学ぶ。他の教員が担当する本演習の内容と相乗効果をもたらせるような授業を展開していく。</p>	
<p>行動実験調査法特別演習</p>	<p>(概要) 行動科学関連の学術分野（認知神経科学、比較認知科学、行動神経科学、神経経済学、行動経済学、意思決定科学、実験社会科学、実証的社会科学など）に関する実験調査法の演習を行う。背景知識の修得、研究計画の立案法、研究実施における問題解決法などに重点を置く。さらに、研究成果をまとめる上で必要となる異分野間の知見を融合させる方法論の演習も行う。</p> <p>(春・夏学期) 行動科学関連の学術分野は、認知神経科学、比較認知科学、行動神経科学、神経経済学、行動経済学、意思決定科学、実験社会科学、実証的社会科学など多様である。さらに、これらの諸分野の社会的・政策的応用まで視野に入れた場合、その費用対効果の定量分析や倫理的側面に関する定性分析も必要となる。第一に、それらの多様な理解・分析のために必要な、行動に関する実験調査法に関する基本的知識・技術に関する理解を深める演習を行う。また第二に、それらの理解・分析手法に基づいて、具体的な研究計画を立案し、遂行するための演習を行う。第三に、その研究計画に基づいて実施した研究結果に関する考察をどのように行ったらよいか、入門的な演習を行う。</p> <p>(秋・冬学期) 行動科学関連分野（認知神経科学、比較認知科学、行動神経科学、神経経済学、行動経済学、意思決定科学、実験社会科学、実証的社会科学など）において必要となる知識の理解、分析手法の修得の段階に応じて、以下の演習を行う。第一に、背景知識に関する発展的な理解をもとに、具体的な研究計画の立案に基づいてより発展的な行動実験調査を行う。第二に、その行動実験調査を遂行する過程で、どのような問題点が生じたのか、またそれらの問題点にどのように対処するべきか、という点に関して考察し、必要に応じてさらに発展的な研究計画への修正を行うための演習を実施する。第三に、その修正や考察に基づいて実施した行動実験調査研究の結果を、より発展的な観点から考察し、必要に応じて政策的帰結の定量・定性的な考察を行う演習を実施する。</p>	

計量行動学特別演習	<p>社会科学で非常に頻繁に用いられる線形モデルについて、相関係数と単回帰分析から始め、その後、重回帰分析（共分散分析、パス解析を含む）、ロジスティック回帰分析、混合モデル等について、他の分析法と比較しつつ学ぶことを目的とする。それに伴い、対数、微分、行列演算などの数学の基礎と、最小二乗法と最尤推定法についても学ぶ。授業は、少人数のグループに分けて、数式を用いる伝統的な講義と実際に統計ソフトにより自らデータを分析する演習とを有機的に連携させる形で進める。</p> <p>上記の内容を2名の教員が役割分担せず共同で行う。</p>	共同
数理行動学特別演習	<p>行動科学における諸現象を数理的に表現して理解するために、合理的意思決定理論、ゲーム理論、統計モデリングなどの諸手法に触れ、その適用範囲と限界を理解する。ここに挙げた諸手法は行動科学で一般的に用いられる手法であるが、その適用範囲と限界を見極めずに乱用してしまうと、誤った結論を導いてしまう。本演習では、これら諸手法の本質を理解し、現実という複雑な対象を正しく数理的に理解するための注意点を理解していく。</p>	
社会心理学特別演習	<p>ヒトらしいところとは何かという問いは、多くの学問分野の研究者が興味を持つ学際的な問いである。特に、ヒトらしい社会性を明らかにするには、ヒトの社会性を扱う社会心理学だけでなく、他の動物の社会性を扱う比較認知科学への理解も深め、その社会性を比較することが必要になる。本演習では、文献読解を通じて、研究の最新動向を把握しつつ、社会心理学と比較認知科学の融合を阻む要因やその解消法にも言及し、両分野の融合による今後の研究展開を大胆に予測する。</p>	
集団力学特別演習	<p>(概要)</p> <p>個人のみ、社会や集団のみといった視点だけでは見えてこない、個人と社会の相互影響過程を理解するための視点と方法論を身につける。特に、個々人の意思や行動の単純な和集合がそのまま社会の現象に繋がらないという事象に着目し、あるときには集合知をもたらす、あるときには浅慮をもたらすといったメカニズムを理解していく。さらには、そうした社会的叡智や慣習・規範などが、ある時間軸の中でどのように継承されたり変遷したりしていくのかというメカニズムの解明に挑む。そのためには、文献読解に加え、実験法だけでなく、シミュレーション技法やゲーミング技法などの方法論も身につけていく必要が生じるが、これらも演習の中で取り上げていく。</p>	
	<p>(3 大沼 進)</p> <p>個人と社会の相互影響過程を分析的に解明する集団力学の視点を用い、社会全体の制度設計に展開し、ある制度が実効性を帯びたり帯びなかつたりするプロセスを理解する。これを社会力学と呼ぶならば、その対比として、合目的的に社会をある方向へ導こうとする社会工学の視点も知る必要が生じる。本演習では、社会力学と社会工学の両方の視点を行きつ戻りつすることを通じて、制度設計におけるプロセスデザインの意義を理解していく。</p>	
	<p>(18 竹澤 正哲)</p> <p>個人と社会の相互影響過程を分析するために必要な理論概念を身につける。これにより、現実社会に見られる様々な集団現象を、個人間の相互作用から生じるマクロが個人の意思決定というマイクロに影響を与えるマイクロ・マクロのプロセスとして、分析的に理解することが可能となる。本演習では、こうした集団力学を理解するための理論的概念を理解していく。</p>	

社会学特殊講義	<p>社会学の学説史から社会的相互作用、地位と役割、社会構造と社会的機能、社会の構造変動など、主要なものをいくつか選択して解説する。次いで、実証的な調査研究においてこれらの概念を用いながら具体的なテーマにそって社会現象を分析する際のポイントについて説明する。なお、授業はテキスト抜粋の購読・解説部分と、課題として配布された論文を受講生が読んでレポートする部分に分けて行う。</p>	
社会調査法特別演習	<p>第1～5回は、社会調査の基礎として、基幹統計データ・代表的な標本統計データ・近年の回収率低下問題などを、統計学の基礎として無作為抽出の方法・区間推定と標準誤差・検定などを学ぶ。そうした基礎の上で第6回以降は、回帰分析・パス解析・確証的因子分析・探索的因子分析・共分散構造分析・ロジスティクス回帰分析・マルチレベル分析などの方法を学ぶ。受講生は毎回、それらを実際に用いている教育・家族・階層調査に基づいた論文を精読し、社会調査と分析方法を一体として理解する。</p>	
社会学理論特別演習	<p>(概要) 社会学に関する理論には、大別して実証的な理論と規範的な理論がある。この演習では主に実証的な理論を学ぶが、春・夏学期は、社会のある現象を複数の理論から理解できるようにするために各理論の特徴を比較しながら学び、秋・冬学期はそうした理論を各自の問題関心とどう結びつけるかに主眼を置いて学ぶ。</p>	
	<p>(春・夏学期) 社会学の諸理論を学び、その批判的な検討を通じて、各自の修士論文やそれに関連する論文の作成に役立たせる。そのため春・夏学期はまず、機能主義・紛争理論・交換理論・相互作用論・合理的選択理論など主要な理論や学説を学ぶ。さらにそれぞれの理論が既存研究でどのように言及・利用されているかを、毎回指定された課題論文について少人数のグループに分けて、受講生が報告する。 上記の内容を3名の教員が役割分担せず共同で行う。</p>	共同
	<p>(秋・冬学期) 社会学の諸理論を学び、その批判的な検討を通じて、各自の修士論文やそれに関連する論文の作成に役立たせる。そのため秋・冬学期は、社会学理論とは何か、作業仮説との差異はどこにあるか、リサーチクエスチョンをどのように立てるか、それを実証するためにどのようにデータを収集すればよいか、そしてどのような分析を行えば理論や仮説を検証したことになるのかなどについて、毎回指定された課題論文に基づいて、少人数のグループに分けて、受講生が報告する。 上記の内容を3名の教員が役割分担せず共同で行う。</p>	共同
社会集団論特別演習	<p>社会学における基礎的集団である家族、地域社会の構造と変動を考察することになる。とりわけ、日本や東アジアにおいて進行している家族の個人化、都市・過密化と地方・過疎化の人口変動・社会移動によって変貌する現代社会の問題状況を叙述しながら、社会のサステナビリティ(持続可能性)と人々の幸せ(ウェルビーイング)について考察する。なお、授業形態はテキスト購読と受講生による論文のレポート、研究発表で構成される。</p>	

社会構造論特別演習	<p>現代の日本を含む東アジアでは人・モノ・情報が国境の壁を越えていくトランスナショナルリズムの傾向が見られる。他方で、各国の教育や医療・福祉は政治・経済政策の強い影響下におかれており、国家間の差異が大きい。グローバル化する経済によって国内においても階層・地域間格差が拡大している。このような現状を踏まえて、地域社会・国民社会・グローバル世界の構造がどのような状態になっているのかを、社会学の主要なトピックから考察していくことになる。授業形態はテキスト購読と受講生による論文のレポート、研究発表で構成される。</p>	
社会変動論特別演習	<p>社会構造の変化に関する社会学理論を解説し、実証的研究を基に現代の日本を含む東アジアにおける社会変動の実例について学習する。具体的には、各社会で見られる少子化・高齢化と、それに伴って生じる諸問題（家族の変容、地域コミュニティの変容、雇用形態の変容、労働者不足とその対策など）を取り上げる。受講生が事前に課題図書を購入し、授業はそれに基づく受講生による論文のレポートと研究発表から構成される。とくにクラスディスカッションは、教員の助言の下で受講生がリードし、議論を中心にテーマについて学ぶ。</p>	
地域科学特殊講義	<p>(概要) 本講義では、地域社会学・人文地理学・保全生態学の3分野をベースとして、地域科学の方法論と研究例を学ぶ。授業は、6名の担当教員がそれぞれ複数回を担当するオムニバス方式を採用し、地域社会学・人文地理学・保全生態学のいずれかにもとづいた地域科学研究の具体的な手法と事例を紹介する。またその上で、受講生自らの研究の目的設定や計画設計とも関連させつつ議論を行う。本講義を通じて、受講生が地域科学の代表的な方法論と具体的な研究例を理解し説明できるようになることを到達目標とする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(2 池田 透／2回) 社会生態学・保全生態学の概要について、特に、生物多様性問題と外来種問題を中心に講義する。</p> <p>(6 橋本 雄一／3回) 人文地理学及び地理情報科学の概要について、特に都市構造や防災を中心に講義する。</p> <p>(8 宮内 泰介／3回) 環境社会学の概要について、特にコモンズ、環境ガバナンス、及び合意形成を中心に講義する。</p> <p>(14 笹岡 正俊／2回) 開発社会学の概要について、特に、土地・資源をめぐる紛争と環境正義論を中心に講義する。</p> <p>(19 仁平 尊明／2回) 経済地理学と地誌学の概要について、日本、北アメリカ、南アメリカの事例をもとに講義する。</p> <p>(21 立澤 史郎／3回) 保全生態学の概要について、特に獣害、及びそれらをめぐる地域社会におけるコンフリクトを中心に講義する。</p>	オムニバス方式

地域分析法特別演習	<p>本演習では、地域社会と自然環境の関わりを地理的及び歴史的な観点から分析する手法を、文献講読、事例報告、及び討議から学ぶ。そのために、(1) 地域社会、(2) 地域環境、(3) 社会—自然系、のそれぞれに対し、(A) 地理的分析手法、(B) 歴史的な分析手法の概要と事例を学ぶ。特に重点的なテーマとして、「生業と生物資源管理」「文化・宗教と生物アイコン」「伝統的環境管理」「外来種問題」「世界遺産」などの文献を講読し、ディスカッションを行う。</p>	
地域社会学特別演習	<p>本演習では、自然環境、地域組織、地域規範といったテーマについて社会的な観点から考察する。具体的には、まず地域社会学の範囲と方法を学んだ後、自然環境と地域社会に関わる社会学ないし関連領域の文献報告とディスカッションを行う。次に、地域組織と地域の持続性、さらに地域規範に関わる社会学ないし関連領域の文献報告とディスカッションを行い、最後に、地域社会学の課題と展望について討議を行う。</p>	
開発社会学特別演習	<p>本演習では、主にポリティカル・エコロジーに焦点を当て、その主要概念、視点、研究手法について学ぶ。この演習では、(1) 様々な環境問題の背景や原因を理解するのに、ポリティカル・エコロジーのアプローチ、すなわち、人間と環境の相互作用の在り方を「政治」—権力をめぐって人びとが交渉し、また、権力を行使する実践やプロセスに着目して明らかにするアプローチが重要であることを理解できるようになること、(2) 環境をめぐる問題について、ポリティカル・エコロジーの主要概念や視点を踏まえて議論できるようになること、(3) ポリティカル・エコロジーの方法論について学んだことを、自身が取り組もうとする研究に何らかの形で活かすことができるようになることを到達目標とする。</p>	
地域環境学特別演習	<p>世界各地の生物学的侵入 (Biological Invasion) 問題について、地域的特性を把握するとともに、地球レベルの環境問題として発生原因や対策手法に関する理解を深める。具体的には、世界各地で問題となっている生物学的侵入問題について、テキストを中心に情報を整理・発表し、その発生原因を明らかにして、効果的・効率的対策について議論する。個々の地域事例を分担して発表を進めていく中で、問題の地域特性のみならず、共通性を整理することによって、最終的には地球規模の環境問題としての外来種問題の把握と解決のための対策手法に関する専門的知識を身につける。</p>	
社会生態学特別演習	<p>(概要) 本演習では、社会生態学及び保全生態学における研究の現状及び近年の研究動向及び先端的な研究内容を学ぶ。社会生態学及び保全生態学において現在どのようなテーマが取り上げられ、どのような手法によって研究が進められているのか、さらに現在の研究上の問題点は何かを学び、自ら研究を行うようにするための準備を行う。また、外来種問題など特定の分野に関する研究動向や方法論等を解説するとともに、実証的な研究手法等を教授することにより、社会生態学及び保全生態学の研究に関する理解を深めることができる。</p>	
	<p>(2 池田 透) 外来種対策最先進国ニュージーランドの地質・地理・生物の進化を理解することから、外来種問題の経緯を学び、外来種対策発展の要因を考察する。具体的内容としては、 Gondwana大陸から分離後、他の大陸と陸続きになることなく独自の生物進化を遂げたニュージーランドにおいて、外来種問題が発生した経緯について、地質・地理・歴史といった側面から受講生がテキストを参考に情報を収集・整理して発表し、外来種問題がニュージーランドでなぜ深刻に捉えられて、対策が発達してきたのかを議論する。</p>	

	<p>(21 立澤 史郎)</p> <p>本演習では、持続可能な社会の科学的基盤となる「保全生態学」及び「人と動物の関係学」の概要を、具体的事例を通じて学ぶ。そのために、「保全生態学」及び「人と動物の関係学」の代表的なテキストや論文の内容紹介・関連文献レビュー・議論を、教員及び受講生で分担して行う。本演習を通じて、(1)生態学の基本的概念及び社会との関わりを理解すること、(2)「保全生態学」及び「人と動物の関係学」の基本的手法と代表的事例を理解すること、を到達目標とする。</p>	
人文地理学特別演習	<p>本演習では、「空間と地域の科学」としての人文地理学の研究方法を理解し、実践する能力を身につけることを目標とする。ここでは、まず人文地理学の基礎概念、方法論、分析手法等を学んだ後、人文地理学に関する基礎文献及び事例文献を講読して議論する。次に、空間分析を援用した地理学の方法論について、地理空間情報の収集を軸として文献を講読して議論する。最後に各受講生が地域調査及び分析の成果を報告し、それも用いて全体で議論を行う。最後に人文地理学研究の課題と展望について討議を行う。</p>	
経済地理学特別演習	<p>本演習では、農業や農村などのテーマについて、経済地理学的な観点から考察する。具体的には、まず経済地理学の範囲と方法を学んだ後、農業と農村に関わる地理学ないし関連領域の文献報告とディスカッションを行う。その際、日本国内では、野菜や果樹などの園芸農業、高冷地農業、関東地方の畑作、北海道の大規模畑作、アグリツーリズムなどを、外国では、アメリカ合衆国、ブラジル、カナダの農業などを主な事例とする。最後に、経済地理学の課題と展望について討議を行う。</p>	
地誌学特別演習	<p>本演習では、日本と外国の諸地域について、地誌学的な観点から考察する。具体的には、まず地誌学の範囲と方法を学んだ後、日本と外国の地誌に関わる関連領域の文献報告とディスカッションを行う。その際、日本国内では、北海道地方、東北地方、関東地方、中部地方、近畿地方、中国・四国地方、九州地方などを、外国では、北アメリカと南アメリカの諸地域を主な事例とする。最後に、地誌学の課題と展望について討議を行う。</p>	
地理学特別演習	<p>本演習では、地理学の立場から主に都市地域の生活空間について地理空間情報を用いて考察する。具体的には、まず地理学、GIS(地理情報システム)、衛星測位、地理空間情報について講義を行った後、地理空間情報の収集やGISによる地理学的空間分析について指導する。さらに、都市内部構造や都市システム等に関する地理学ないし地理情報科学関連領域の文献報告とディスカッションを行う。最後に、地理学の課題と展望について講義と討議を行う。</p>	
地域調査特別演習	<p>本演習では、地域調査とは何か、また地域調査の方法論とはどういうものかについて、基礎的な文献から学び、さらに、受講生各自が調査計画を立てることを目標とする。具体的には、まず、地域調査とは何かについて、基礎文献及び事例文献を講読して議論する。次に、地域調査の方法論について、主に質的調査と参与観察に関わる基礎文献と事例文献を講読して議論する。最後に受講生一人ひとりが地域調査の計画を立てる。調査計画については、計画素案を作ってきて、それを相互批判し、さらに練り直して報告しあう。最後に地域調査の課題と展望について講義と討議を行う。</p>	

地域科学特別演習	<p>本演習では、地域科学とは何か、その問題領域と研究法はどのようなものかについて、基本文献を文献講読と討議を通じて学ぶ。地域科学の問題領域と研究法について、主に環境社会学の観点から、理解し、説明できるようになることを到達目標とする。具体的には、半期の授業を主に「地域科学の研究法に関する文献講読と討議」と「地域科学の研究事例に関する文献講読と討議」の二つに分け、前者については、フィールドワーク論概論、事例研究の意義、参与観察と「分厚い記述」(thick description)、生活史研究法、途上国の生活研究、調査に伴うバイアスなどのテーマについて文献講読と討議を行う。後者については、環境差別・被害、環境資源をめぐる紛争、地域資源管理、地域づくり・環境運動などのテーマについて文献講読と討議を行う。</p>	
----------	---	--

授 業 科 目 の 概 要			
(文学院 人間科学専攻 博士後期課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
必修科目	博士論文指導特殊演習 I	<p>(概要) 人間科学専攻における各専門分野の研究テーマに関して、研究の実践、指導を行い、博士論文の準備を進めるとともに、論文指導を行う。</p> <p>(1 安達 真由美) 音楽心理学及び音楽発達心理学に関する博士論文のために必要な研究指導を実施する。当該分野の研究史の整理及び問題設定、研究方法の妥当性、実験計画、データ解析と結果の解釈、論文の構成等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。</p> <p>(2 池田 透) 保全生態学・社会生態学とその関連分野（野生動物管理学、動物と人間の関係論、侵入生態学、外来種管理論など）における博士論文の執筆、あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定、当該分野の先行研究の整理方法、フィールドワークの内容、論文の構成等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。</p> <p>(3 大沼 進) 環境社会心理学を軸とした行動科学における博士論文のために必要な研究指導を実施する。研究的疑問 (Research question) の明確化、当該分野の先行研究のレビュー、目的に適した方法の選択、データ収集方法とその分析、論文の構成等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。</p> <p>(4 川端 康弘) 認知心理学及び認知科学研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。問題設定とその妥当性、当該分野の背景研究、研究の方法、実験に使用する機材の扱い方、得られたデータの分析法、論文の構成等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。</p> <p>※2021.4より下記も担当 感覚・知覚・認知に関する博士論文のために必要な研究指導を実施する。当該分野の研究史の整理及び問題設定、実験計画の内容（実験方法及びデータ分析）、実験結果の考察、引用文献等の妥当性、また論文の構成等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。</p> <p>(5 櫻井 義秀) 宗教社会学及びアジア地域研究に関連する博士論文のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性、当該分野の既存研究の整理方法、研究に使用する資料の整理及びデータの分析、論文の構成等について研究指導を行い、博士論文の準備を進める。</p>	共同

(6 橋本 雄一)

人文地理学・都市地理学，地理情報科学とその関連分野における博士論文の執筆，あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。国際学会での発表を前提としたプレゼンテーションの指導を行うとともに，論文の目的や方法論の設定，先行研究の収集と整理，GIS（地理情報システム）・衛星測位・地理空間情報を用いた分析方法，論文の構成等について研究指導を行い，博士論文の準備を進める。

(7 平澤 和司)

教育社会学及び社会階層論研究に関連する博士論文のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性，当該分野の既存研究の整理方法，研究に使用する資料の整理及びデータの分析，論文の構成等について研究指導を行い，博士論文の準備を進める。

(8 宮内 泰介)

環境社会学・地域社会学とその関連分野（コモンズ論，環境ガバナンス論，合意形成論など）における博士論文執筆のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定，当該分野の先行研究の整理方法，フィールドワークの内容，論文の構成等について研究指導を行い，博士論文執筆の準備を進める。

(9 結城 雅樹)

比較社会生態アプローチを軸として，社会環境と人間行動・心理の関係についての博士論文執筆のために必要な研究指導を実施する。問題の発想，先行研究のレビューと検討課題の絞り込み，検証方法の選択とデザイン，データ分析と結果報告などの研究指導を行い，博士論文の準備を進める。

(10 和田 博美)

実験動物を用いた学習・認知行動研究に関する博士論文のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性，実験計画の組立て，データ解析と解釈の妥当性及び論文の構成等について研究指導を行い，博士論文の準備を進める。

(11 田山 忠行) ※2021.3 退職

感覚・知覚・認知に関する博士論文のために必要な研究指導を実施する。当該分野の研究史の整理及び問題設定，実験計画の内容（実験方法及びデータ分析），実験結果の考察，引用文献等の妥当性，また論文の構成等について研究指導を行い，博士論文の準備を進める。

(12 小川 健二)

認知神経科学に関する博士論文のために必要な研究指導を実施する。当該分野の研究史の整理及び問題設定，実験計画の内容（実験方法及びデータ分析），実験結果の考察，引用文献等の妥当性，また論文の構成等について研究指導を行い，博士論文の準備を進める。

(13 河原 純一郎)

認知行動科学に関する博士論文のために必要な研究指導を実施する。当該分野の研究史の整理及び問題設定，実験計画の内容，実験方法及びデータ分析，実験結果の考察の妥当性，また論文の構成，展開可能性について研究指導を行い，博士論文の準備を進める。

(14 笹岡 正俊)

環境社会学とその関連分野（ポリティカル・エコロジー論，環境ガバナンス論など）における博士論文執筆のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定，当該分野の先行研究の整理方法，フィールドワークの内容，論文の構成等について研究指導を行い，博士論文執筆の準備を進める。

(15 高橋 泰城)

行動経済学や神経経済学、また量子意思決定論などの分野における理論的・実験的研究の研究指導を実施する。時間選好, リスク選好, 社会選好に関する3大アノマリー(双曲割引, プロスペクト理論, 社会割引など)に関する発展的研究とともに, 社会的・政策的応用に関しても研究指導を行い, 博士論文の準備を進める。

(16 高橋 伸幸)

社会学的社会心理学に基づく博士論文の作成のために必要な研究指導を実施する。論文で問う問題の妥当性, 当該分野の先行研究の整理方法, 具体的な研究テーマに即した研究手法, 論文の構成等について研究指導を行い, 博士論文の準備を進める。

(17 瀧本 彩加)

伴侶動物とヒトにおける異種間コミュニケーションを中心として, 比較認知科学に関連する博士論文の作成に必要な研究指導を実施する。関連文献の読解, 目的に適した方法の選択, 研究を実現するために必要なスキルの習得, 実験データの分析と解釈, 論文の構成などについて研究指導を行い, 博士論文の準備を進める。

(18 竹澤 正哲)

社会的意思決定を中心として, 進化社会科学に関連する博士論文の作成のために必要な研究指導を実施する。関連文献の理解, 研究に必要なプログラミング・スキルの習得, コンピュータ・シミュレーションのノウハウ, 実験データの分析と解釈, 関連領域のフォーマットに従った論文執筆について研究指導を行い, 博士論文の準備を進める。

(19 仁平 尊明)

人文地理学とその関連分野(地誌学, 経済地理学, 農業地理学, 観光地理学など)における博士論文執筆のために必要な研究指導を行う。論文の問題設定, 当該分野の先行研究の整理方法, フィールドワークの内容, 論文の構成等について研究指導を行い, 博士論文執筆の準備を進める。

(20 HOMMERICH CAROLA)

リスク社会学及び社会的不平等研究に関連する博士論文のために必要な研究指導を実施する。論文の問題設定の妥当性, 当該分野の既存研究の整理方法, 研究に使用する資料の整理及びデータの分析, 論文の構成等について研究指導を行い, 博士論文の準備を進める。

(21 立澤 史郎)

保全生態学・社会生態学とその関連分野における博士論文のために必要な研究の指導補助を行う。論文の問題設定, 当該分野の先行研究の整理方法, フィールドワークの内容, 論文の構成等について研究の指導補助を行う。

(22 中島 晃)

行動科学分野のデータ解析とその関連分野における博士論文のために必要な研究の指導補助を行う。論文の問題設定, 当該分野の先行研究の整理方法, フィールドワークの内容, 論文の構成等について研究の指導補助を行う。

(23 森本 琢)

認知・記憶・心的イメージ分野とその関連分野における博士論文のために必要な研究の指導補助を行う。論文の問題設定, 当該分野の先行研究の整理方法, フィールドワークの内容, 論文の構成等について研究の指導補助を行う。

<p>博士論文指導特殊演習Ⅱ</p>	<p>(概要) 人間科学専攻の各専門分野の研究テーマに関して、研究の実践、指導を行い、博士論文の準備を進めるとともに、論文指導を行う。さらに、博士論文全体の構成等について具体的に指導し、研究成果を博士論文としてまとめることができるようにする。</p> <p>(1 安達 真由美) 音楽心理学及び音楽発達心理学に関する博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成と妥当性を検討し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。</p> <p>(2 池田 透) 保全生態学・社会生態学とその関連分野（野生動物管理学、動物と人間の関係論、侵入生態学、外来種管理論など）における博士論文執筆のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、全体の構成、使用するデータの内容、分析の方法、議論の妥当性を吟味し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。</p> <p>(3 大沼 進) 環境社会心理学を軸とした行動科学における博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また、博士論文で用いられる先行研究のレビュー、方法、分析等の内容を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。</p> <p>(4 川端 康弘) 認知心理学及び認知科学研究における博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文で使用する文献及び実験、調査データの内容を確認し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。</p> <p>※2021.4より下記も担当 感覚・知覚・認知に関する博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文の研究として実施した実験の内容を検討し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。</p> <p>(5 櫻井 義秀) 宗教社会学及びアジア地域研究に関連する博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。</p> <p>(6 橋本 雄一) 人文地理学・都市地理学、地理情報科学とその関連分野における修士論文の執筆、あるいは特定課題の作成のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究成果をもとに、国際的なレベルの研究を目指し、全体の構成、研究方法と分析手法、議論や考察等について妥当性を検討し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。</p>	<p>共同</p>
--------------------	--	-----------

(7 平澤 和司)

教育社会学及び社会階層論研究に関連する博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(8 宮内 泰介)

環境社会学・地域社会学とその関連分野（コモンズ論、環境ガバナンス論、合意形成論など）における博士論文執筆のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、全体の構成、使用するデータの内容、分析の方法、議論の妥当性を吟味し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(9 結城 雅樹)

比較社会生態アプローチを軸として、社会環境と人間行動・心理の関係についての博士論文執筆のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける学修内容を踏まえ、博士論文の全体的な構成、論理的かつ説得的な議論展開や文章表現などを含む実践的な研究指導を行い、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(10 和田 博美)

実験動物を用いた学習・認知行動研究に関する博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成と妥当性を検討し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(11 田山 忠行) ※2021.3 退職

感覚・知覚・認知に関する博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文の研究として実施した実験の内容を検討し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(12 小川 健二)

認知神経科学に関する博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文の研究として実施した実験の内容を検討し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(13 河原 純一郎)

認知行動科学に関する博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認する。博士論文としての全体の構成を検討し、その妥当性を検証する。また博士論文の研究として実施した実験の内容を検討し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(14 笹岡 正俊)

環境社会学とその関連分野（ポリティカル・エコロジー論、環境ガバナンス論など）における博士論文執筆のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに、全体の構成、使用するデータの内容、分析の方法、議論の妥当性を吟味し、博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(15 高橋 泰城)

行動経済学や神経経済学，また量子意思決定論などの分野においてさらに発展した理論的・実験的研究の研究指導を実施する。時間選好，リスク選好，社会選好に関する3大アノマリーやそれらに関連したテーマに関する発展的研究とともに，ゲノム科学，脳科学，情報科学などの関連にも配慮し，社会的・政策的応用に関して関連法規なども視野に入れて研究できるように指導を行い，博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(16 高橋 伸幸)

社会学的社会心理学に基づく博士論文の作成のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに，博士論文としての全体の構成を検討し，その妥当性を検証する。また，博士論文で用いられる先行研究のレビュー，方法，分析等の内容を確認し，博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(17 瀧本 彩加)

伴侶動物とヒトにおける異種間コミュニケーションを中心として，比較認知科学に関連する博士論文の作成に必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究成果を確認するとともに，博士論文としての全体の構成を検討して，博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(18 竹澤 正哲)

社会的意思決定を中心として，進化社会科学に関連する博士論文の作成のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける成果を確認するとともに，博士論文としての全体の構成を検討するとともに，理論と実証が歪みなく接合した博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(19 仁平 尊明)

人文地理学とその関連分野（地誌学，経済地理学，農業地理学，観光地理学など）における博士論文執筆のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに，全体の構成，使用するデータの内容，分析の方法，議論の妥当性を吟味し，博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(20 HOMMERICH CAROLA)

リスク社会学及び社会的不平等研究に関連する博士論文のために必要な研究指導を実施する。博士論文指導特殊演習Ⅰにおける研究指導の成果を確認するとともに，博士論文としての全体の構成を検討し，博士論文としてまとめることができるように研究指導を行う。

(21 立澤 史郎)

保全生態学・社会生態学とその関連分野を中心に，博士論文指導特殊演習Ⅰの成果を踏まえ，論文の問題設定，当該分野の先行研究の整理方法，フィールドワークの内容，論文構成等について研究の指導補助を行い，博士論文としてまとめることができるようにする。

(22 中島 晃)

行動科学分野のデータ解析分野を中心に，博士論文指導特殊演習Ⅰの成果を踏まえ，論文の問題設定，当該分野の先行研究の整理方法，フィールドワークの内容，論文構成等について研究の指導補助を行い，博士論文としてまとめることができるようにする。

(23 森本 琢)

認知・記憶・心的イメージの分野を中心に，博士論文指導特殊演習Ⅰの成果を踏まえ，論文の問題設定，当該分野の先行研究の整理方法，フィールドワークの内容，論文構成等について研究の指導補助を行い，博士論文としてまとめることができるようにする。

教員の氏名等

(文学院人文学専攻 修士課程)												
課 書 番 号	専 任 等 区 分	職 位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年 齢	保 有 学 位 等	月 額 基 本 給 (千円)	担 当 授 業 科 目 の 名 称	配 当 年 次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申 請 に 係 る 大 学 等 の 職 務 に 従 事 す る 通 当 り 平 均 日 数
1	専	教授 (学院長)	ヤマモト フシコ 山本 文彦 <平成31年4月>		博士 (文学)		修士論文・特定課題指導特殊演習 西洋文学特殊講義 西洋史学特別演習	2通 1・2②③④ 1・2②③④	2 4 4	1 2 2	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平4.4)	5日
2	専	教授	イワノ フミエ 岩下 明裕 <平成31年4月>		博士 (法学)		修士論文・特定課題指導特殊演習 スラブ・ユーラシア研究特殊講義 スラブ・ユーラシア総合研究特別演習	2通 1・2①② 1・2①②③④	2 2 0.4	1 1 2	北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター 教授 (平13.10)	5日
3	専	教授	ウシオ ヒロ 応 雄 <平成31年4月>		文学修士		修士論文・特定課題指導特殊演習 映像表象文化論特殊講義 映像表象文化論特別演習	2通 1・2③④ 1・2①②	2 2 2	1 1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平11.10)	5日
4	専	教授	ウヰ ヲシコ 宇山 智彦 <平成31年4月>		学術修士		修士論文・特定課題指導特殊演習 スラブ・ユーラシア総合研究特別演習 スラブ・ユーラシア総合研究特別演習	2通 1・2①②③④ 1・2①②③④	2 1.2 4	1 2 2	北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター 教授 (平8.4)	5日
5	専	教授	ウルフ デビッド WOLFF DAVID <平成31年4月>		Doctor of Philosophy (米国)		修士論文・特定課題指導特殊演習 スラブ・ユーラシア研究特殊講義 スラブ・ユーラシア総合研究特別演習	2通 1・2③④ 1・2①②③④	2 2 0.4	1 1 2	北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター 教授 (平18.4)	5日
6	専	教授	オホシ イサ 大西 郁夫 <平成31年4月>		文学修士		修士論文・特定課題指導特殊演習 西洋文学特殊講義 西洋文学特別演習	2通 1・2①② 1・2①②③④	2 2 4	1 1 2	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平1.4)	5日
7	専	教授	オノ タケシ 押野 武志 <平成31年4月>		博士 (文学)		修士論文・特定課題指導特殊演習 人文社会構造論 日本現代文化論特殊講義 日本現代文化論特別演習	2通 1①② 1・2①② 1・2③④	2 0.2 2 2	1 1 1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平12.4)	5日
8	専	教授	オノ ヒロシ 小田 博志 <平成31年4月>		Dr. sc. hum. (ドイツ)		修士論文・特定課題指導特殊演習 文化人類学特殊講義 文化人類学特別演習	2通 1・2③④ 1・2①②③④	2 2 4	1 1 2	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平13.4)	5日
9	専	教授	カサハラ シゲヒロ 加藤 重広 <平成31年4月>		博士 (文学)		修士論文・特定課題指導特殊演習 総合社会情報論 日本語学特殊講義 日本語学特別演習	2通 1①② 1・2③④ 1・2①②③	2 0.2 2 2	1 1 1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平17.4)	5日
10	専	教授	カサハラ ヒロフミ 加藤 博文 <平成31年4月>		修士 (文学)		修士論文・特定課題指導特殊演習 アイヌ・先住民学特殊講義 アイヌ・先住民学総合特殊講義 アイヌ・先住民学特別演習 アイヌ・先住民学海外特別演習	2通 1・2①② 1・2①② 1・2①②③④ 1・2③④	2 0.2 4 2	1 1 2 1	北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 教授 (平13.4)	5日
11	専	教授	カネコ シロコ 権 鶴永 <平成31年4月>		博士 (文学)		修士論文・特定課題指導特殊演習 日本史学特殊講義 日本近現代史特別演習	2通 1・2①② 1・2①②③④	2 2 4	1 1 2	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平10.8)	5日
12	専	教授	カサハラ ヒロフミ 蔵田 伸雄 <平成31年4月>		修士 (文学)		修士論文・特定課題指導特殊演習 研究論理・論文指導特殊講義 倫理学特殊講義 近現代哲学特別演習 倫理学特別演習	2通 1①② 1・2①② 1・2③④ 1・2①②③④	2 0.4 2 2 4	1 1 1 2	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平13.10)	5日
13	専	教授	コサキ ケイ 小杉 慶 <平成31年4月>		文学修士		修士論文・特定課題指導特殊演習 考古学特殊講義 考古学特別演習 考古学特別実習	2通 1・2③④ 1・2①②③④ 1・2①②	2 1.1 4 2	1 1 2 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平9.4)	5日
14	専	教授	コノハ ヤクニ 後藤 康文 <平成31年4月>		博士 (文学)		修士論文・特定課題指導特殊演習 日本古典文化論特別演習 文献学(国語・国文)特別演習	2通 1・2①② 1・2③④	2 2 2	1 1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平6.4)	5日
15	専	教授	コンノ ヒロコ 近藤 浩之 <平成31年4月>		文学修士		修士論文・特定課題指導特殊演習 中国文化論特殊講義 中国思想特別演習	2通 1・2③④ 1・2①②③④	2 2 4	1 1 2	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平12.4)	5日
16	専	教授	ササキ ケイ 佐々木 啓 <平成31年4月>		文学修士		修士論文・特定課題指導特殊演習 人文社会構造論 宗教学特殊講義 宗教学特別演習	2通 1①② 1・2①②③④	2 0.4 2 4	1 1 1 2	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平14.8)	5日
17	専	教授	ササキ ヒロコ 佐々木 享 <平成31年4月>		文学修士		修士論文・特定課題指導特殊演習 多文化共生論 博物館・文化財研究特殊講義 博物館・文化財研究特別演習	2通 1③ 1・2①② 1・2①②③④	2 0.2 2 3.2	1 1 1 4	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平12.4)	5日
18	専	教授	ササキ ヒロコ 佐藤 知己 <平成31年4月>		文学修士		修士論文・特定課題指導特殊演習 言語学特殊講義 言語学特別演習	2通 1・2①② 1・2③④	2 2 2	1 1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平6.10)	5日
19	専	教授	シマヰ マコト 清水 誠 <平成31年4月>		博士 (文学)		修士論文・特定課題指導特殊演習 西洋言語学特別演習 言語分析論特別演習	2通 1・2①② 1・2③④	2 2 2	1 1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (昭62.4)	5日
20	専	教授	シマヰ マコト 白木 旭見 <平成31年4月>		博士 (経済学)		修士論文・特定課題指導特殊演習 複合環境文化論 日本史学特殊講義 日本近現代史特別演習	2通 1② 1・2③④ 1・2①②③④	2 0.2 2 4	1 1 2 2	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平2.10)	5日
21	専	教授	シマヰ ヒロコ 島田 健 <平成31年4月>		博士 (文学)		修士論文・特定課題指導特殊演習 人文社会構造論 西洋史学特殊講義 西洋史学特別演習	2通 1①② 1・2①②③④ 1・2①②③④	2 0.2 4 4	1 1 2 2	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平7.4)	5日
22	専	教授	シマヰ ヒロコ 瀬名波 栄潤 <平成31年4月>		Ph.D. in English (米国)		修士論文・特定課題指導特殊演習 英米文学特殊講義 英米文学特別演習 I 英米文学特別演習 III	2通 1・2①②③④ 1・2①②③④ 1・2①②③④	2 4 4 4	1 2 2 2	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平8.8)	5日
23	専	教授	シマヰ マコト 仙石 学 <平成31年4月>		学術修士		修士論文・特定課題指導特殊演習 スラブ・ユーラシア総合研究特別演習 スラブ・ユーラシア総合研究特別演習	2通 1・2①②③④ 1・2③④	2 0.4 2	1 2 1	北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター 教授 (平25.10)	5日

24	専	教授	野村 益寛 田口 茂 <平成31年4月>	Doktor der Philosophie (Dr. phil.) (ドイツ)	修士論文・特定課題指導特殊演習 複合探検文化論 哲学特殊講義 近現代哲学特別演習	2通 1② 1-2②④ 1-2①②・③④	2 0.2 2 4	1 1 2 2	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平24.4)	5日
25	専	教授	野村 益寛 竹内 康浩 <平成31年4月>	修士 (文学)	修士論文・特定課題指導特殊演習 研究倫理・論文指導特殊講義 英米文学特殊講義 英米文学特別演習 II	2通 1② 1-2①②・③④ 1-2①②・③④	2 0.2 4 4	1 1 2 2	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平20.4)	5日
26	専	教授	野村 益寛 武田 雅哉 <平成31年4月>	文学修士	修士論文・特定課題指導特殊演習 中国文学特殊講義 中国語学特別演習 中国文学特別演習	2通 1-2①② 1-2①②・③④ 1-2①②・③④	2 2 4 4	1 1 2 2	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平1.4)	5日
27	専	教授	谷本 晃久 <平成31年4月>	修士 (史学)	修士論文・特定課題指導特殊演習 日本史学特殊講義 日本中世近世史特別演習	2通 1-2①② 1-2①②・③④	2 2 4 2	1 1 2 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平20.4)	5日
28	専	教授	田畑 伸一郎 <平成31年4月>	社会学修士	修士論文・特定課題指導特殊演習 スラブ・ユーラシア総合研究特殊講義※ スラブ・ユーラシア総合研究特別演習 スラブ・ユーラシア社会研究特別演習	2通 1-2①② 1-2①②・③④ 1-2①②・③④	2 0.6 0.4 4	1 1 2 2	北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター 教授 (昭61.4)	5日
29	専	教授	富田 康之 <平成31年4月>	博士 (文学)	修士論文・特定課題指導特殊演習 日本古典文化論特殊講義 日本古典文化論特別演習 文科学(国語・国文)特別演習	2通 1-2①② 1-2③④ 1-2①②	2 2 2 2	1 1 1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平7.4)	5日
30	専	教授	田畑 伸一郎 <平成31年4月>	博士 (学術)	修士論文・特定課題指導特殊演習 スラブ・ユーラシア総合研究特殊講義※ スラブ・ユーラシア総合研究特別演習 スラブ・ユーラシア文化研究特別演習	2通 1-2①② 1-2①②・③④ 1-2①②・③④	2 0.8 0.4 4	1 1 2 2	北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター 教授 (平19.8)	5日
31	専	教授	中村 三春 <平成31年4月>	博士 (文学)	修士論文・特定課題指導特殊演習 日本現代文化論特殊講義 日本現代文化論特別演習	2通 1-2③④ 1-2①②	2 2 2	1 1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平20.10)	5日
32	専	教授	野村 益寛 <平成31年4月>	博士 (文学)	修士論文・特定課題指導特殊演習 スラブ・ユーラシア総合研究特別演習 スラブ・ユーラシア文化研究特別演習	2通 1-2①②・③④ 1-2③④	2 0.4 2	1 2 1	北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター 教授 (平20.5)	5日
33	専	教授	野村 益寛 <平成31年4月>	Ph.D. in Linguistics (米国)	修士論文・特定課題指導特殊演習 英語学特殊講義 英語学特別演習	2通 1-2①② 1-2①②・③④	2 2 4	1 1 2	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平13.4)	5日
34	専	教授	長谷川 貴彦 <平成31年4月>	博士 (文学)	修士論文・特定課題指導特殊演習 西洋文学特殊講義 西洋文学特別演習	2通 1-2①②・③④ 1-2①②・③④	2 4 4	1 2 2	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平8.10)	5日
35	専	教授	藤田 健 <平成31年4月>	博士 (文学)	修士論文・特定課題指導特殊演習 多文化共生論 西洋言語学特殊講義 西洋言語学特別演習	2通 1③ 1-2③④ 1-2①②・③④	2 0.4 2 4	1 1 1 2	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平11.10)	5日
36	専	教授	細田 典明 <平成31年4月>	文学修士	修士論文・特定課題指導特殊演習 インド哲学仏教特殊講義 インド哲学仏教特別演習	2通 1-2①② 1-2③④	2 2 2	1 1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (昭60.4)	5日
37	専	教授	村田 勝幸 <平成31年4月>	博士 (学術)	修士論文・特定課題指導特殊演習 西洋史学特殊講義 西洋史学特別演習	2通 1-2①②・③④ 1-2①②・③④	2 4 4	1 2 2	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平12.9)	5日
38	専	教授	谷古字 尚 <平成31年4月>	修士 (文学)	修士論文・特定課題指導特殊演習 多文化共生論 芸術学特殊講義 芸術学特別演習	2通 1③ 1-2①② 1-2①②・③④	2 0.2 2 1.2	1 1 2 2	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平17.4)	5日
39	専	教授	馬田 和順 <平成31年4月>	文学修士	修士論文・特定課題指導特殊演習 中国思想特殊講義 中国語学特殊講義	2通 1-2①② 1-2③④	2 2 2	1 1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平7.4)	5日
40	専	教授	吉岡 将人 <平成31年4月>	博士 (文学)	修士論文・特定課題指導特殊演習 東洋史学特殊講義 東洋史学特別演習	2通 1-2①② 1-2①②・③④	2 2 4	1 1 2	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平15.4)	5日
41	専	教授	池田 証壽 <平成31年4月>	文学修士	修士論文・特定課題指導特殊演習 日本語学特殊講義 日本語学特別演習	2通 1② 1-2①② 1-2③④	2 0.2 2 2	1 1 1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平9.8)	5日
42	専	教授	太田 敬子 <平成31年4月>	文学修士	修士論文・特定課題指導特殊演習 東洋史学特別演習	2通 1-2①②・③④	2 4	1 2	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平8.4)	5日
43	専	教授	北村 清彦 <平成31年4月>	博士 (文学)	修士論文・特定課題指導特殊演習 芸術学特殊講義 芸術学特別演習	2通 1-2③④ 1-2①②・③④	2 1 1.6	1 1 2	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平8.10)	5日
44	専	教授	千葉 恵 <平成31年4月>	D.Phil in Philosophy (イギリス)	修士論文・特定課題指導特殊演習 古代中世哲学特別演習	2通 1-2①②・③④	2 4(-2019)	1 2	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平2.4)	5日
45	専	准教授	安達 大輔 <平成31年4月>	博士 (文学)	修士論文・特定課題指導特殊演習 スラブ・ユーラシア研究特殊講義 スラブ・ユーラシア総合研究特殊講義※ スラブ・ユーラシア総合研究特別演習 スラブ・ユーラシア文化研究特別演習	2通 1-2①② 1② 1-2①②・③④ 1-2③④	2 2 0.6 0.4 2	1 1 1 2	北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター 准教授 (平30.4)	5日
46	専	准教授	阿部 嘉昭 <平成31年4月>	法学士	修士論文・特定課題指導特殊演習 映像表象文化論特殊講義 映像表象文化論特別演習	2通 1-2①② 1-2③④	2 2 2	1 1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平24.4)	5日
47	専	准教授	李 連珠 <平成31年4月>	修士 (文学)	修士論文・特定課題指導特殊演習 言語学特殊講義 言語学特別演習	2通 1-2③④ 1-2③④	2 2 2	1 1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平20.4)	5日
48	専	准教授	小倉 真紀子 <平成31年4月>	博士 (文学)	修士論文・特定課題指導特殊演習 日本史学特殊講義 日本古代史特別演習	2通 1-2①② 1-2①②・③④	2 2 4	1 1 2	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平23.4)	5日
49	専	准教授	落合 研一 <平成31年4月>	修士 (法学)	修士論文・特定課題指導特殊演習 アイヌ・先住民学特殊講義 アイヌ・先住民学総合特殊講義※ アイヌ・先住民学海外特別演習	2通 1-2①② 1-2③④ 1-2③④	2 0.2 2	1 1 1	北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 准教授 (平23.2)	5日
50	専	准教授	金沢 英之 <平成31年4月>	博士 (学術)	修士論文・特定課題指導特殊演習 日本古典文化論特別演習 文科学(国語・国文)特別演習	2通 1-2①② 1-2③④	2 2 2	1 1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平22.4)	5日

51	専	准教授	クワチ フシロ 川口 曉弘 <平成31年4月>		修士 (史学)	修士論文・特定課題指導特殊演習 日本史学特殊講義 日本近現代史特別演習	2通 1-2①② 1-2①②・③④	2 2 4	1 1 2	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平13.9)	5日	
52	専	准教授	キウワ(スズキ) シノブ 北原(楠本) 次郎太 <平成31年4月>		博士 (学術)	修士論文・特定課題指導特殊演習 アイヌ・先住民学特殊講義 アイヌ・先住民学総合特殊講義※ アイヌ・先住民学特別演習 アイヌ・先住民学海外特別演習	2通 1-2①② 1-2①② 1-2③④ 1-2③④	2 2 0.2 2 2	1 1 1 1 1	北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 准教授 (平22.4)	5日	
53	専	准教授	コソウ トロコ 近藤 智彦 <平成31年4月>		博士 (文学)	修士論文・特定課題指導特殊演習 修士論文・特定課題指導特殊演習 古代中世哲学特別演習 古代中世哲学特別演習	2通 2通 1-2①②・③④ 1-2①②・③④	2 2 4 4	2(-2019) 2(2020-) 4(-2019) 4(2020-)	1 1 2 2	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平23.4)	5日
54	専	准教授	キチノブ 佐藤 健太郎 <平成31年4月>		博士 (文学)	修士論文・特定課題指導特殊演習 東洋史学特殊講義 東洋史学特別演習	2通 1-2③④ 1-2①②・③④	2 2 4	1 1 2	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平23.4)	5日	
55	専	准教授	サノ ヒロコ 佐野 勝彦 <平成31年4月>		博士 (文学)	修士論文・特定課題指導特殊演習 哲学特殊講義 論理学特別演習	2通 1-2③④ 1-2①②	2 2 2	1 1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平28.9)	5日	
56	専	准教授	スズキ ユキ 鈴木 幸人 <平成31年4月>		文学修士	修士論文・特定課題指導特殊演習 博物館・文化財研究特殊講義 博物館・文化財研究特別演習	2通 1-2③④ 1-2①②・③④	2 2 2.4	1 1 4	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平16.4)	5日	
57	専	准教授	タケノコ 高橋 克範 <平成31年4月>		博士 (文学)	修士論文・特定課題指導特殊演習 研究倫理・論文指導特殊講義 考古学特殊講義※ 北方考古学特別演習 考古学特別演習	2通 1② 1-2③④ 1-2①②・③④ 1-2①②	2 0.2 4 4 2	1 1 2 2 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平23.4)	5日	
58	専	准教授	タケノコ 竹内 修一 <平成31年4月>		博士 (文学)	修士論文・特定課題指導特殊演習 西洋文学特殊講義 西洋文学特別演習 言語文化論特別演習	2通 1-2③④ 1-2①②・③④ 1-2③④	2 2 4 2	1 1 2 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平18.4)	5日	
59	専	准教授	タケノコ 丹菊 逸治 <平成31年4月>		博士 (文学)	修士論文・特定課題指導特殊演習 アイヌ・先住民学特殊講義 アイヌ・先住民学総合特殊講義※ アイヌ・先住民学特別演習 アイヌ・先住民学海外特別演習	2通 1-2①② 1-2①② 1-2③④ 1-2③④	2 2 0.2 2 2	1 1 1 1 1	北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 准教授 (平23.2)	5日	
60	専	准教授	トノ 戸田 聡 <平成31年4月>		博士 (文学)	修士論文・特定課題指導特殊演習 西洋文学特殊講義 西洋文学特別演習 言語文化論特別演習	2通 1-2③④ 1-2①②・③④ 1-2①②	2 2 4 2	1 1 2 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平25.4)	5日	
61	専	准教授	ナカノ 長沼 正樹 <平成31年4月>		博士 (史学)	修士論文・特定課題指導特殊演習	2通	2	2(-2019)	1	北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 准教授 (平27.4)	5日
62	専	准教授	ノボリ 野本 康生 <平成31年4月>		博士 (文学)	修士論文・特定課題指導特殊演習 日本古典文化論特別演習 文献学(国語・日文)特別演習	2通 1-2③④ 1-2①②	2 2 2	1 1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平27.4)	5日	
63	専	准教授	ノボリ 橋本 雄 <平成31年4月>		博士 (文学)	修士論文・特定課題指導特殊演習 総合社会論 日本史学特殊講義 日本中世近世史特別演習	2通 1①② 1-2③④ 1-2①②・③④	2 0.2 2 4	1 1 1 2	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平19.4)	5日	
64	専	准教授	ノボリ 林寺 正俊 <平成31年4月>		博士 (文学)	修士論文・特定課題指導特殊演習 インド哲学仏教特殊講義 インド哲学仏教特別演習	2通 1-2①② 1-2③④	2 2 2	1 1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平24.4)	5日	
65	専	准教授	ノボリ 浅沼(松浦) 敬子 <平成31年4月>		修士 (文学)	修士論文・特定課題指導特殊演習 芸術学特殊講義 芸術学特別演習	2通 1-2①② 1-2①②・③④	2 2 1.2	1 1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平18.4)	5日	
66	専	准教授	ノボリ 松尾 明男 <平成31年4月>		博士 (文学)	修士論文・特定課題指導特殊演習 研究倫理・論文指導特殊講義 西洋史学特殊講義 西洋史学特別演習	2通 1① 1-2①②・③④ 1-2①②・③④	2 0.2 4 4	1 1 2 2	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平24.4)	5日	
67	専	准教授	ノボリ 水沼 真由美 <平成31年4月>		博士 (学術)	修士論文・特定課題指導特殊演習 現代表象文化論特殊講義 現代表象文化論特別演習	2通 1-2③④ 1-2①②	2 2 2	1 1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平14.4)	5日	
68	専	准教授	ノボリ 藁島 栄紀 <平成31年4月>		博士 (歴史学)	修士論文・特定課題指導特殊演習 アイヌ・先住民学特殊講義 アイヌ・先住民学総合特殊講義※ アイヌ・先住民学特別演習 アイヌ・先住民学海外特別演習	2通 1-2①② 1-2①② 1-2③④ 1-2③④	2 2 0.2 2 2	1 1 1 1 1	北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 准教授 (平26.4)	5日	
69	専	准教授	ノボリ 宮嶋 俊一 <平成31年4月>		博士 (文学)	修士論文・特定課題指導特殊演習 研究倫理・論文指導特殊講義 宗教学特殊講義 宗教学特別演習	2通 1① 1-2③④ 1-2①②・③④	2 0.2 2 4	1 1 1 2	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平27.4)	5日	
70	専	准教授	ノボリ 村松 正隆 <平成31年4月>		博士 (文学)	修士論文・特定課題指導特殊演習 倫理学特別演習	2通 1-2①②・③④	2 4	1 2	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平19.10)	5日	
71	専	准教授	ノボリ 山崎 幸治 <平成31年4月>		修士 (学術)	修士論文・特定課題指導特殊演習 修士論文・特定課題指導特殊演習 アイヌ・先住民学特殊講義 アイヌ・先住民学総合特殊講義※ アイヌ・先住民学海外特別演習	2通 2通 1-2③④ 1-2③④	2 2 2 2	2(-2019) 2(2020-) 2 2	1 1 1 1	北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 准教授 (平19.4)	5日
72	専	准教授	マテウス グラウネンワルド Matthias Grunewald <平成31年4月>		Ph. D. in Philosophy (ドイツ)	修士論文・特定課題指導特殊演習 西洋文学特殊講義	2通 1-2①②・③④	2 4	1 2	北海道大学大学院 文学研究科 特任准教授 (平28.4)	5日	
73	専	講師	エダ マチ 江田 真敏 <平成31年4月>		博士 (農学)	修士論文・特定課題指導特殊演習 考古学特別演習 環境考古学特別演習	2通 1-2①② 1-2③④	2 2 2	1 1 1	北海道大学 総合博物館 講師 (平24.4)	5日	
74	専	助教	イノエ ケイ 井上 敬介 <平成31年4月>		博士 (文学)	修士論文・特定課題指導特殊演習 日本近現代史特別演習	2通 1-2③④	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 助教 (平28.4)	5日	
75	専	助教	コトウ シノブ 近藤 祉秋 <平成31年4月>		修士 (文学)	修士論文・特定課題指導特殊演習 アイヌ・先住民学特殊講義 アイヌ・先住民学総合特殊講義※ アイヌ・先住民学海外特別演習	2通 1-2①② 1-2①② 1-2③④	2 2 0.8 2	1 1 1 1	北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 助教 (平28.4)	5日	
76	専	助教	タケノコ 高倉 祐 <平成31年4月>		博士 (文学)	修士論文・特定課題指導特殊演習 考古学特別演習	2通 1-2③④	2 2	1 1	北海道大学 理蔵文化財調査センター 助教 (平13.4)	5日	

77	専	助教	ノム ヤシ 野村 恭史 <平成31年4月>		博士 (文学)	修士論文・特定課題指導特殊演習 近現代哲学特別演習	2通 1・2③④	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 助教 (平14.4)	5日
78	専	助教	フクニ ジュンコ 藤本 純子 <平成31年4月>		文学修士	修士論文・特定課題指導特殊演習 西洋文学特別演習	2通 1・2③④	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 助教 (昭63.10)	5日
79	専	助教	ミツヲ ナオ 宮下 奈生 <平成31年4月>		文学修士	修士論文・特定課題指導特殊演習 言語文化論特別演習	2通 1・2③④	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 助教 (平4.7)	5日
80	兼担	教授	オハラ ヒロ 大原 昌宏 <平成31年4月>		博士 (農学)	博物館・文化財研究特殊講義 博物館・文化財研究特別演習	1・2①② 1・2①②・③④	2 2.4	1 4	北海道大学 総合博物館 教授 (平9.4)	
81	兼担	教授	イサノ トモ 池田 透 <平成31年4月>		文学修士	複合環境文化論	1②	0.2	1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (昭63.4)	
82	兼担	教授	カワノ ケイ 川端 康弘 <平成31年4月>		博士 (行動科学)	総合社会情報論	1④	0.4	1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平11.4)	
83	兼担	教授	ヒラノ ナツキ 平澤 和司 <平成31年4月>		文学修士	複合環境文化論	1②	0.4	1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平4.4)	
84	兼担	教授	ユキキ マチ 結城 雅樹 <平成31年4月>		博士 (社会心理学)	多文化共生論	1③	0.2	1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平10.4)	
85	兼担	教授	ワタ ナミ 和田 博美 <平成31年4月>		学術博士	研究倫理・論文指導特殊講義	1②	0.4	1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (昭61.4)	
86	兼担	准教授	オガワ ケン 小川 健二 <平成31年4月>		博士 (情報学)	総合社会情報論	1④	0.2	1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平25.4)	
87	兼担	准教授	ササキ マサシ 笹岡 正俊 <平成31年4月>		博士 (農学)	研究倫理・論文指導特殊講義	1①	0.2	1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平25.4)	
88	兼担	准教授	タカハシ ノブキ 高橋 伸幸 <平成31年4月>		Doctor of Philosophy Sociology (米国)	人文社会構造論	1①	0.2	1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平13.1)	

教員の氏名等

(文学院人文学専攻 博士後期課程)												
調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する適当たり平均日数
1	専	教授 (学院長)	ヤマモト フシコ 山本 文彦 <平成31年4月>		博士 (文学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平4.4)	5日
2	専	教授	イワタ フシコ 岩下 明裕 <平成31年4月>		博士 (法学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター 教授 (平13.10)	5日
3	専	教授	イシ シオン 石 雄 <平成31年4月>		文学修士		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平11.10)	5日
4	専	教授	ウヤマ トモコ 宇山 智彦 <平成31年4月>		学術修士		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター 教授 (平8.4)	5日
5	専	教授	ウルフ デイヴィッド WOLFF DAVID <平成31年4月>		Doctor of Philosophy (米国)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター 教授 (平18.4)	5日
6	専	教授	オオセ イサオ 大西 郁夫 <平成31年4月>		文学修士		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平1.4)	5日
7	専	教授	オノ タカ 押野 武志 <平成31年4月>		博士 (文学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平12.4)	5日
8	専	教授	オノ ヒロシ 小田 博志 <平成31年4月>		Dr. sc. hum. (ドイツ)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平13.4)	5日
9	専	教授	イトウ シゲヒロ 加藤 重広 <平成31年4月>		博士 (文学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II 博士論文指導特殊演習 II	1通 1通 2通 2通	2(-2020) 2(2021-) 2(-2020) 2(2021-)	1 1 1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平17.4)	5日
10	専	教授	イトウ シゲヒロ 加藤 博文 <平成31年4月>		修士 (文学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II 博士論文指導特殊演習 II	1通 1通 2通 2通	2(-2020) 2(2021-) 2(-2020) 2(2021-)	1 1 1 1	北海道大学 アイス・先住民研究センター 教授 (平13.4)	5日
11	専	教授	ウヰノ シズ子 梅 鍋水 <平成31年4月>		博士 (文学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平10.8)	5日
12	専	教授	ウヰノ シズ子 蔵田 伸雄 <平成31年4月>		修士 (文学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平13.10)	5日
13	専	教授	コシキ ヤスシ 小杉 康 <平成31年4月>		文学修士		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平9.4)	5日
14	専	教授	コシキ ヤスシ 後藤 康文 <平成31年4月>		博士 (文学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平6.4)	5日
15	専	教授	コシキ ヤスシ 近藤 浩之 <平成31年4月>		文学修士		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平12.4)	5日
16	専	教授	ササキ ケイ 佐々木 啓 <平成31年4月>		文学修士		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平14.8)	5日
17	専	教授	ササキ トシ 佐々木 亨 <平成31年4月>		文学修士		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平12.4)	5日
18	専	教授	ササキ トシ 佐藤 知己 <平成31年4月>		文学修士		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平6.10)	5日
19	専	教授	シズキ マコト 清水 誠 <平成31年4月>		博士 (文学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (昭62.4)	5日
20	専	教授	シノベリ アサヒコ 白木沢 旭児 <平成31年4月>		博士 (経済学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平2.10)	5日
21	専	教授	サカタ トシ 砂田 徹 <平成31年4月>		博士 (文学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平7.4)	5日

22	専	教授	サハ エビソン 瀬名波 宗潤 <平成31年4月>	Ph. D. in English (米国)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II 博士論文指導特殊演習 II	1通 1通 2通 2通	2(-2020) 2(2021-) 2(-2020) 2(2021-)	1 1 1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平8. 8)	5日
23	専	教授	セウリ マア 仙石 学 <平成31年4月>	学術修士		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター 教授 (平26. 10)	5日
24	専	教授	クワチ シゲル 田口 茂 <平成31年4月>	Doktor der Philosophie (Dr. phil.) (ドイツ)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平24. 4)	5日
25	専	教授	クワチ ケイロ 竹内 康浩 <平成31年4月>	修士 (文学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平20. 4)	5日
26	専	教授	クワチ マチ 武田 雅哉 <平成31年4月>	文学修士		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平元. 4)	5日
27	専	教授	クニト フシジ 谷本 晃久 <平成31年4月>	修士 (史学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平20. 4)	5日
28	専	教授	クハチ シンイチ 田畑 伸一郎 <平成31年4月>	社会学修士		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター 教授 (昭61. 4)	5日
29	専	教授	トシタ ケンキ 富田 康之 <平成31年4月>	博士 (文学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平17. 4)	5日
30	専	教授	チガチ ノブヒロ 長縄 宜博 <平成31年4月>	博士 (学術)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター 教授 (平19. 8)	5日
31	専	教授	チカチ ミチ 中村 三春 <平成31年4月>	博士 (文学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平20. 10)	5日
32	専	教授	ノボチ マチ 野町 素己 <平成31年4月>	博士 (文学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター 教授 (平20. 5)	5日
33	専	教授	ノボチ マスヒ 野村 益寛 <平成31年4月>	Ph. D. in Linguistics (米国)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平13. 4)	5日
34	専	教授	ハチチ ケイコ 長谷川 貴彦 <平成31年4月>	博士 (文学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平8. 10)	5日
35	専	教授	フナチ ケイ 藤田 健 <平成31年4月>	博士 (文学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平11. 10)	5日
36	専	教授	ホリチ ノブヒ 細田 典明 <平成31年4月>	文学修士		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (昭60. 4)	5日
37	専	教授	ムラチ ノブキ 村田 勝幸 <平成31年4月>	博士 (学術)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平12. 9)	5日
38	専	教授	ヤウチ ヒロシ 谷古字 尚 <平成31年4月>	修士 (文学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II 博士論文指導特殊演習 II	1通 1通 2通 2通	2(-2020) 2(2021-) 2(-2020) 2(2021-)	1 1 1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平17. 4)	5日
39	専	教授	ユキチ ノブミ 弓巾 和順 <平成31年4月>	文学修士		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平7. 4)	5日
40	専	教授	シロイ マチ 吉開 将人 <平成31年4月>	博士 (文学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平15. 4)	5日
41	専	教授	イナチ ショウユ 池田 証壽 <平成31年4月>	文学修士		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2(-2020) 2(-2020)	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平9. 8)	5日
42	専	教授	イナチ ケイ 太田 敬子 <平成31年4月>	文学修士		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平8. 4)	5日
43	専	教授	キナチ キヒロ 北村 清彦 <平成31年4月>	博士 (文学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2(-2020) 2(-2020)	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平8. 10)	5日
44	専	教授	チノ ケイ 千葉 恵 <平成31年4月>	D. Phil in Philosophy (イギリス)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2(-2019) 2(-2019)	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平2. 4)	5日
45	専	准教授	フナチ タケシ 安達 大輔 <平成31年4月>	博士 (文学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター 准教授 (平30. 4)	5日

46	専	准教授	アノ アサヲ 阿部 嘉昭 <平成31年4月>	法学士		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平24.4)	5日
47	専	准教授	イ ヨソヅメ 李 連珠 <平成31年4月>	修士 (文学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平20.4)	5日
48	専	准教授	オハラ マコ 小倉 真紀子 <平成31年4月>	博士 (文学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平23.4)	5日
49	専	准教授	オクイ ヒロイ 落合 研一 <平成31年4月>	修士 (法学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 准教授 (平23.2)	5日
50	専	准教授	オガサリ ヒロユキ 金沢 英之 <平成31年4月>	博士 (学術)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平22.4)	5日
51	専	准教授	オカグチ アキヒロ 川口 曉弘 <平成31年4月>	修士 (史学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II 博士論文指導特殊演習 II	1通 1通 2通 2通	2(-2020) 2(2021-) 2(-2020) 2(2021-)	1 1 1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平13.9)	5日
52	専	准教授	キタハラ(タヌキ) ジョウタ 北原(橋本) 次郎太 <平成31年4月>	博士 (学術)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 准教授 (平22.4)	5日
53	専	准教授	コトウリ トモヒコ 近藤 智彦 <平成31年4月>	博士 (文学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II 博士論文指導特殊演習 II	1通 1通 2通 2通	2(-2019) 2(2020-) 2(-2019) 2(2020-)	1 1 1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平23.4)	5日
54	専	准教授	オノノ ケンタロウ 佐藤 健太郎 <平成31年4月>	博士 (文学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平23.4)	5日
55	専	准教授	サノ カズヒコ 佐野 勝彦 <平成31年4月>	博士 (文学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平28.9)	5日
56	専	准教授	スズキ エトシ 鈴木 孝人 <平成31年4月>	文学修士		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平16.4)	5日
57	専	准教授	タケノ クワカ 高瀬 克範 <平成31年4月>	博士 (文学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平23.4)	5日
58	専	准教授	タケチ ショウイチ 竹内 修一 <平成31年4月>	博士 (文学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平18.4)	5日
59	専	准教授	オノノ アツシ 丹野 逸治 <平成31年4月>	博士 (文学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 准教授 (平23.2)	5日
60	専	准教授	トノノ フシ 戸田 聡 <平成31年4月>	博士 (文学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平25.4)	5日
61	専	准教授	ナカノ マサキ 長沼 正樹 <平成31年4月>	博士 (史学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2(-2019) 2(-2019)	1 1	北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 准教授 (平27.4)	5日
62	専	准教授	ノノノ トモユキ 野本 東生 <平成31年4月>	博士 (文学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平27.4)	5日
63	専	准教授	ノノノ トモユキ 橋本 雄 <平成31年4月>	博士 (文学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平19.4)	5日
64	専	准教授	ハヤシダラ ショウジ 林寺 正俊 <平成31年4月>	博士 (文学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平24.4)	5日
65	専	准教授	マツノ(マツノ) ケイコ 浅沼(松浦) 敬子 <平成31年4月>	修士 (文学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平18.4)	5日
66	専	准教授	マツノ アキオ 松島 明男 <平成31年4月>	博士 (文学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平24.4)	5日
67	専	准教授	ミヅノ マユミ 水沼 真由美 <平成31年4月>	博士 (学術)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平14.4)	5日
68	専	准教授	ミナモト ヒロキ 渡島 栄紀 <平成31年4月>	博士 (歴史学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 准教授 (平26.4)	5日
69	専	准教授	ミヤノ シンイチ 宮嶋 俊一 <平成31年4月>	博士 (文学)		博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平27.4)	5日

70	専	准教授	ムラツマ マサキ 村松 正隆 <平成31年4月>		博士 (文学)		博士論文指導特殊演習Ⅰ 博士論文指導特殊演習Ⅱ	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平19.10)	5日
71	専	准教授	ヤマキ コウジ 山崎 幸治 <平成31年4月>		修士 (学術)		博士論文指導特殊演習Ⅰ 博士論文指導特殊演習Ⅱ 博士論文指導特殊演習Ⅱ 博士論文指導特殊演習Ⅱ	1通 1通 2通 2通	2(-2019) 2(2020-) 2(-2019) 2(2020-)	1 1 1 1	北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 准教授 (平19.4)	5日
72	専	准教授	マテウス グルニェワルト Matthias Grunewald <平成31年4月>		Ph. D. in Philosophy (ドイツ)		博士論文指導特殊演習Ⅰ 博士論文指導特殊演習Ⅱ	1通 2通	2(-2020) 2(-2020)	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 特任准教授 (平28.4)	5日
73	専	講師	エダ マサキ 江田 真毅 <平成31年4月>		博士 (農学)		博士論文指導特殊演習Ⅰ 博士論文指導特殊演習Ⅱ	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学 総合博物館 講師 (平24.4)	5日
74	専	助教	イノエ ケイジ 井上 敬介 <平成31年4月>		博士 (文学)		博士論文指導特殊演習Ⅰ 博士論文指導特殊演習Ⅱ	1通 2通	2(-2020) 2(-2020)	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 助教 (平28.4)	5日
75	専	助教	コンドウ シキ 近藤 社秋 <平成31年4月>		修士 (文学)		博士論文指導特殊演習Ⅰ 博士論文指導特殊演習Ⅱ	1通 2通	2(-2020) 2(-2020)	1 1	北海道大学 アイヌ・先住民研究センター 助教 (平28.4)	5日
76	専	助教	タカハ シュン 高倉 純 <平成31年4月>		博士 (文学)		博士論文指導特殊演習Ⅰ 博士論文指導特殊演習Ⅱ	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学 埋蔵文化財調査センター 助教 (平13.4)	5日
77	専	助教	ノノ ヤシ 野村 恭史 <平成31年4月>		博士 (文学)		博士論文指導特殊演習Ⅰ 博士論文指導特殊演習Ⅱ	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 助教 (平14.4)	5日
78	専	助教	フジモト シュンコ 藤本 純子 <平成31年4月>		文学修士		博士論文指導特殊演習Ⅰ 博士論文指導特殊演習Ⅱ	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 助教 (昭63.10)	5日
79	専	助教	ミヤタ ヤコイ 宮下 弥生 <平成31年4月>		文学修士		博士論文指導特殊演習Ⅰ 博士論文指導特殊演習Ⅱ	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 助教 (平4.7)	5日

別記様式第3号 (その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教 員 の 氏 名 等													
(文学院院长人間科学専攻 修士課程)													
調査番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	
1	専	教授	アノチ マミ 安達 真由美 <平成31年4月>		Doctor of Philosophy (米国)		修士論文・特定課題指導特殊演習 心理学特殊講義※ 学習過程論特別演習	2通 1-2①② 1-2①②・③④	2 0.4 4	1 1 2	北海道大学院 文学研究科 教授 (平14.4)	5日	
2	専	教授	イケダ トモ 池田 透 <平成31年4月>		文学修士		修士論文・特定課題指導特殊演習 複合環境文化論 地域科学特殊講義※ 地域環境学特別演習 社会生態学特別演習	2通 1② 1-2①② 1-2①② 1-2③④	2 0.2 0.2 2 2	1 1 1 1 1	北海道大学院 文学研究科 教授 (昭63.4)	5日	
3	専	教授	オオノ スム 大沼 進 <平成31年4月>		博士 (心理学)		修士論文・特定課題指導特殊演習 行動科学特別演習 集団力学特別演習	2通 1-2①② 1-2③④	2 2 2	1 1 1	北海道大学院 文学研究科 教授 (平15.9)	5日	
4	専	教授	カハタ ケイジロ 川端 康弘 <平成31年4月>		博士 (行動科学)		修士論文・特定課題指導特殊演習 総合社会情報論 心理学特殊講義※ 知覚情報論特別演習 知識構造論特別演習	2通 1① 1-2①② 1-2③④ 1-2①②・③④	2 0.4 0.4 2 3	1 1 1 1 2	北海道大学院 文学研究科 教授 (平11.4)	5日	
5	専	教授	サライ ヨシテ 櫻井 義秀 <平成31年4月>		博士 (文学)		修士論文・特定課題指導特殊演習 社会学特殊講義 社会学理論特別演習 社会集団論特別演習	2通 1-2③④ 1-2①②・③④ 1-2①②	2 2 1.6 2	1 1 2 1	北海道大学院 文学研究科 教授 (平4.4)	5日	
6	専	教授	ハシモト ユウイチ 橋本 雄一 <平成31年4月>		博士 (理学)		修士論文・特定課題指導特殊演習 地域科学特殊講義※ 人文地理学特別演習 地理学特別演習	2通 1-2①② 1-2③④ 1-2①②	2 0.6 2 2	1 1 1 1	北海道大学院 文学研究科 教授 (平5.7)	5日	
7	専	教授	ヒラノ ナツヲ 平澤 和司 <平成31年4月>		文学修士		修士論文・特定課題指導特殊演習 複合環境文化論 社会調査法特別演習 社会学理論特別演習 社会構造論特別演習	2通 1② 1-2①② 1-2①②・③④ 1-2①②	2 0.4 2 1.2 2	1 1 2 2 1	北海道大学院 文学研究科 教授 (平4.4)	5日	
8	専	教授	ミヤチ タケシ 宮内 泰介 <平成31年4月>		博士 (社会学)		修士論文・特定課題指導特殊演習 地域科学特殊講義※ 地域社会学特別演習 地域調査特別演習	2通 1-2①② 1-2③④ 1-2①②	2 0.4 2 2	1 1 1 1	北海道大学院 文学研究科 教授 (平9.4)	5日	
9	専	教授	スギタ マチ 結城 雅樹 <平成31年4月>		博士 (社会心理学)		修士論文・特定課題指導特殊演習 多文化共生論 行動科学特殊講義 行動科学特別演習	2通 1③ 1-2①② 1-2③④	2 0.2 2 2	1 1 1 1	北海道大学院 文学研究科 教授 (平10.4)	5日	
10	専	教授	ワタ ヒロミ 和田 博美 <平成31年4月>		学術博士		修士論文・特定課題指導特殊演習 研究倫理・論文指導特殊講義 心理学特殊講義※ 行動理論特別演習	2通 1② 1-2①② 1-2①②・③④	2 0.4 0.4 4	1 1 1 2	北海道大学院 文学研究科 教授 (昭61.4)	5日	
11	専	教授	タナ タクシ 田山 忠行 <平成31年4月>		博士 (文学)		修士論文・特定課題指導特殊演習	2通	2	1	北海道大学院 文学研究科 教授 (昭61.7)	5日	
12	専	准教授	オホノ ケンジ 小川 健二 <平成31年4月>		博士 (情報学)		修士論文・特定課題指導特殊演習 総合社会情報論 心理学特殊講義※ 思考過程論特別演習	2通 1① 1-2①② 1-2①②・③④	2 0.2 0.4 4	1 1 1 2	北海道大学院 文学研究科 准教授 (平25.4)	5日	
13	専	准教授	カワハ シンイチロウ 河原 純一郎 <平成31年4月>		博士 (心理学)		修士論文・特定課題指導特殊演習 心理学特殊講義※ 認知理論特別演習 表象構造論特別演習	2通 1-2①② 1-2①② 1-2③④	2 0.4 2 2	1 1 1 1	北海道大学院 文学研究科 准教授 (平29.4)	5日	
14	専	准教授	サカキ マサトシ 笹岡 正俊 <平成31年4月>		博士 (農学)		修士論文・特定課題指導特殊演習 研究倫理・論文指導特殊講義 地域科学特殊講義※ 環境社会学特別演習 地域科学特別演習	2通 1① 1-2①② 1-2③④ 1-2①②	2 0.2 0.2 2 2	1 1 1 1 1	北海道大学院 文学研究科 准教授 (平25.4)	5日	
15	専	准教授	タカハシ タケシ 高橋 泰成 <平成31年4月>		博士 (理学)		修士論文・特定課題指導特殊演習 行動実験調査法特別演習	2通 1-2①②・③④	2 4	1 2	北海道大学院 文学研究科 准教授 (平20.12)	5日	
16	専	准教授	タカハシ ノブキ 高橋 伸幸 <平成31年4月>		Doctor of Philosophy Sociology (米国)		修士論文・特定課題指導特殊演習 人文社会構造論 行動科学特別演習 計量行動学特別演習	2通 1① 1-2③④ 1-2①②	2 0.2 2 1	1 1 1 1	北海道大学院 文学研究科 准教授 (平13.1)	5日	
17	専	准教授	タケト アサヒ 滝本 彩加 <平成31年4月>		博士 (文学)		修士論文・特定課題指導特殊演習 行動科学特別演習 社会心理学特別演習	2通 1-2③④ 1-2①②	2 2 2	1 1 1	北海道大学院 文学研究科 准教授 (平27.4)	5日	
18	専	准教授	タケノリ マサキ 竹澤 正哲 <平成31年4月>		博士 (行動科学)		修士論文・特定課題指導特殊演習 数理解行動学特別演習 集団力学特別演習	2通 1-2③④ 1-2①②	2 2 2	1 1 1	北海道大学院 文学研究科 准教授 (平24.11)	5日	
19	専	准教授	ニノミヤ タカ 仁平 尊明 <平成31年4月>		博士 (理学)		修士論文・特定課題指導特殊演習 地域科学特殊講義※ 経済地理学特別演習 地誌学特別演習	2通 1-2①② 1-2①② 1-2③④	2 0.2 2 2	1 1 1 1	北海道大学院 文学研究科 准教授 (平22.4)	5日	
20	専	准教授	ホムリヒ(ホルヒ) カロラ HOMMERICH(HOMMERICH- HORKOSHI) CAROLA <平成31年4月>		Doktor der Wirtschafts- und Sozialwissensch- aften (Dr. rer. pol.) (ドイツ)		修士論文・特定課題指導特殊演習 社会学理論特別演習 社会変動論特別演習	2通 1-2①②・③④ 1-2③④	2 1.2 2	1 2 2	北海道大学院 文学研究科 准教授 (平27.9)	5日	
21	専	助教	タケノリ ショウ 立澤 史郎 <平成31年4月>		博士 (理学)		修士論文・特定課題指導特殊演習 地域科学特殊講義※ 地域分析法特別演習 社会生態学特別演習	2通 1-2①② 1-2③④ 1-2①②	2 0.4 2 2	1 1 1 1	北海道大学院 文学研究科 助教 (平15.4)	5日	
22	専	助教	ナカノ マサキ 中島 晃 <平成31年4月>		修士 (行動科学)		修士論文・特定課題指導特殊演習 計量行動学特別演習	2通 1-2①②	2 1	1 1	北海道大学院 文学研究科 助教 (平11.5)	5日	
23	専	助教	モリト タカ 森本 琢 <平成31年4月>		博士 (文学)		修士論文・特定課題指導特殊演習 知識構造論特別演習	2通 1-2③④	2 1	1 1	北海道大学院 文学研究科 助教 (平15.4)	5日	
24	兼担	教授	オシノ タケシ 押野 武志 <平成31年4月>		博士 (文学)		人文社会構造論	1①	0.2	1	北海道大学院 文学研究科 教授 (平12.4)		

25	兼担	教授	カサハ シゲヒロ 加藤 重広 <平成31年4月>		博士 (文学)		総合社会情報論	1④	0.2	1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平17.4)
26	兼担	教授	クラタ ノブオ 蔵田 伸雄 <平成31年4月>		修士 (文学)		研究倫理・論文指導特殊講義	1①	0.4	1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平13.10)
27	兼担	教授	ササキ ケイ 佐々木 啓 <平成31年4月>		文学修士		人文社会構造論	1①	0.4	1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平14.8)
28	兼担	教授	ササキ トシロ 佐々木 亨 <平成31年4月>		文学修士		多文化共生論	1③	0.2	1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平12.4)
29	兼担	教授	シラベツワ フサヒコ 白木沢 旭児 <平成31年4月>		博士 (経済学)		複合環境文化論	1②	0.2	1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平2.10)
30	兼担	教授	イシダ トシロ 砂田 徹 <平成31年4月>		博士 (文学)		人文社会構造論	1①	0.2	1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平7.4)
31	兼担	教授	タナベ シゲル 田口 茂 <平成31年4月>		Doktor der Philosophie (Dr. phil.) (ドイツ)		複合環境文化論	1②	0.2	1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平24.4)
32	兼担	教授	タケノコ ケイジロ 竹内 康浩 <平成31年4月>		修士 (文学)		研究倫理・論文指導特殊講義	1②	0.2	1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平20.4)
33	兼担	教授	フジタ タケシ 藤田 健 <平成31年4月>		博士 (文学)		多文化共生論	1③	0.4	1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平11.10)
34	兼担	教授	ヤコウ ヒサシ 谷古宇 尚 <平成31年4月>		修士 (文学)		多文化共生論	1③	0.2	1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平17.4)
35	兼担	教授	イケガキ ショウジユ 池田 証壽 <平成31年4月>		文学修士		研究倫理・論文指導特殊講義	1②	0.2	1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平9.8)
36	兼担	准教授	タカハシ ケイジロ 高瀬 克範 <平成31年4月>		博士 (文学)		研究倫理・論文指導特殊講義	1②	0.2	1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平23.4)
37	兼担	准教授	ハシモト ヨシ 橋本 雄 <平成31年4月>		博士 (文学)		総合社会情報論	1④	0.2	1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平19.4)
38	兼担	准教授	マツシマ アキオ 松島 明男 <平成31年4月>		博士 (文学)		研究倫理・論文指導特殊講義	1①	0.2	1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平24.4)
39	兼担	准教授	ミヤノウマ シンイチ 宮嶋 俊一 <平成31年4月>		博士 (文学)		研究倫理・論文指導特殊講義	1①	0.2	1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平27.4)

別記様式第3号 (その2の1)

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教 員 の 氏 名 等													
(文学院人間科学専攻 博士後期課程)													
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月 額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単位数	年 間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 選当たり平均日数	
1	専	教授	アダチ マユミ 安達 真由美 <平成31年4月>		Doctor of Philosophy (米国)		博士論文指導特殊演習Ⅰ 博士論文指導特殊演習Ⅱ	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平14.4)	5日	
2	専	教授	イケガ トモ 池田 透 <平成31年4月>		文学修士		博士論文指導特殊演習Ⅰ 博士論文指導特殊演習Ⅱ	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (昭63.4)	5日	
3	専	教授	オオヤマ スム 大沼 進 <平成31年4月>		博士 (心理学)		博士論文指導特殊演習Ⅰ 博士論文指導特殊演習Ⅱ	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平15.9)	5日	
4	専	教授	カバタ ヤスヒロ 川端 康弘 <平成31年4月>		博士 (行動科学)		博士論文指導特殊演習Ⅰ 博士論文指導特殊演習Ⅰ 博士論文指導特殊演習Ⅱ 博士論文指導特殊演習Ⅱ	1通 1通 2通 2通	2(-2020) 2(2021-) 2(-2020) 2(2021-)	1 1 1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平11.4)	5日	
5	専	教授	ウケイ ヨシヒデ 櫻井 義秀 <平成31年4月>		博士 (文学)		博士論文指導特殊演習Ⅰ 博士論文指導特殊演習Ⅱ	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平4.4)	5日	
6	専	教授	ウヰト コウイチ 橋本 雄一 <平成31年4月>		博士 (理学)		博士論文指導特殊演習Ⅰ 博士論文指導特殊演習Ⅱ	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平5.7)	5日	
7	専	教授	ヒラノ カズシ 平澤 和司 <平成31年4月>		文学修士		博士論文指導特殊演習Ⅰ 博士論文指導特殊演習Ⅱ	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平4.4)	5日	
8	専	教授	ミヤウ タカシ 宮内 泰介 <平成31年4月>		博士 (社会学)		博士論文指導特殊演習Ⅰ 博士論文指導特殊演習Ⅱ	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平9.4)	5日	
9	専	教授	ムネキ マサキ 結城 雅樹 <平成31年4月>		博士 (社会心理学)		博士論文指導特殊演習Ⅰ 博士論文指導特殊演習Ⅱ	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (平10.4)	5日	
10	専	教授	ワダ ヒロミ 和田 博美 <平成31年4月>		学術博士		博士論文指導特殊演習Ⅰ 博士論文指導特殊演習Ⅱ	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (昭61.4)	5日	
11	専	教授	タヤマ タカユキ 田山 忠行 <平成31年4月>		博士 (文学)		博士論文指導特殊演習Ⅰ 博士論文指導特殊演習Ⅱ	1通 2通	2(-2020) 2(-2020)	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 教授 (昭61.7)	5日	
12	専	准教授	オガリ ケンジ 小川 健二 <平成31年4月>		博士 (情報学)		博士論文指導特殊演習Ⅰ 博士論文指導特殊演習Ⅱ	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平25.4)	5日	
13	専	准教授	カワハ シンイチロウ 河原 純一郎 <平成31年4月>		博士 (心理学)		博士論文指導特殊演習Ⅰ 博士論文指導特殊演習Ⅱ	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平29.4)	5日	
14	専	准教授	ササキ マサトシ 笹岡 正俊 <平成31年4月>		博士 (農学)		博士論文指導特殊演習Ⅰ 博士論文指導特殊演習Ⅱ	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平25.4)	5日	
15	専	准教授	タカハシ タケ 高橋 泰城 <平成31年4月>		博士 (理学)		博士論文指導特殊演習Ⅰ 博士論文指導特殊演習Ⅱ	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平20.12)	5日	
16	専	准教授	タカハシ ノブユキ 高橋 伸幸 <平成31年4月>		Doctor of Philosophy Sociology (米国)		博士論文指導特殊演習Ⅰ 博士論文指導特殊演習Ⅱ	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平13.1)	5日	
17	専	准教授	タケモト アサカ 瀧本 彩加 <平成31年4月>		博士 (文学)		博士論文指導特殊演習Ⅰ 博士論文指導特殊演習Ⅱ	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平27.4)	5日	
18	専	准教授	タケノリ マサヲ 竹澤 正哲 <平成31年4月>		博士 (行動科学)		博士論文指導特殊演習Ⅰ 博士論文指導特殊演習Ⅱ	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平24.11)	5日	
19	専	准教授	ニヘイ タカシ 仁平 尊明 <平成31年4月>		博士 (理学)		博士論文指導特殊演習Ⅰ 博士論文指導特殊演習Ⅱ	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平22.4)	5日	
20	専	准教授	ホメリ(ホメリ 朝コ) カローラ HOMERICH(HOMERICH- HORIYUKI)CAROLA <平成31年4月>		Doktor der Wirtschafts- und Sozialwissen- schaften (Dr. rer. pol.) (ドイツ)		博士論文指導特殊演習Ⅰ 博士論文指導特殊演習Ⅱ	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 准教授 (平27.9)	5日	
21	専	助教	タケノリ ショウ 立澤 史郎 <平成31年4月>		博士 (理学)		博士論文指導特殊演習Ⅰ 博士論文指導特殊演習Ⅱ	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 助教 (平15.4)	5日	
22	専	助教	ナカノ マサキ 中島 晃 <平成31年4月>		修士 (行動科学)		博士論文指導特殊演習Ⅰ 博士論文指導特殊演習Ⅱ	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 助教 (平11.5)	5日	

23	専	助教	科目 球 森本 球 <平成31年4月>		博士 (文学)	博士論文指導特殊演習 I 博士論文指導特殊演習 II	1通 2通	2 2	1 1	北海道大学大学院 文学研究科 助教 (平15.4)	5日
----	---	----	---------------------------	--	------------	-------------------------------	----------	--------	--------	---------------------------------	----

国立大学法人北海道大学 研究科等の設置に関わる組織の移行表 [学部]

平成30年度	入学 定員	編入学 定員②	編入学 定員③	収容 定員	平成31年度	入学 定員	編入学 定員②	編入学 定員③	収容 定員	変更の事由
北海道大学					北海道大学					
文学部					文学部					
人文科学科	185	-	-	740	人文科学科	185	-	-	740	
教育学部					教育学部					
教育学科	50	-	10	220	教育学科	50	-	10	220	
法学部					法学部					
法学課程	200	10	10	850	法学課程	200	10	10	850	
経済学部					経済学部					
経済学科	100	-	-	400	経済学科	100	-	-	400	
経営学科	90	-	-	360	経営学科	90	-	-	360	
理学部					理学部					
数学科	50	-	-	200	数学科	50	-	-	200	
物理学科	35	-	-	140	物理学科	35	-	-	140	
化学科	75	-	-	300	化学科	75	-	-	300	
生物科学科	80	-	-	320	生物科学科	80	-	-	320	
地球惑星科学科	60	-	-	240	地球惑星科学科	60	-	-	240	
医学部					医学部					
医学科	107	5	-	667	医学科	107	5	-	667	
保健学科 [看護学専攻]	70	-	-	280	保健学科 [看護学専攻]	70	-	-	280	
保健学科 [放射線技術科学専攻]	37	-	-	148	保健学科 [放射線技術科学専攻]	37	-	-	148	
保健学科 [検査技術科学専攻]	37	-	-	148	保健学科 [検査技術科学専攻]	37	-	-	148	
保健学科 [理学療法専攻]	18	-	-	72	保健学科 [理学療法専攻]	18	-	-	72	
保健学科 [作業療法専攻]	18	-	-	72	保健学科 [作業療法専攻]	18	-	-	72	
歯学部					歯学部					
歯学科	53	-	-	318	歯学科	53	-	-	318	
薬学部					薬学部					
薬科学科	50	-	-	200	薬科学科	50	-	-	200	
薬学科	30	-	-	180	薬学科	30	-	-	180	
工学部					工学部					
応用理工系学科	160	-	-	640	応用理工系学科	160	-	-	640	
情報エレクトロニクス学科	180	-	10	720	情報エレクトロニクス学科	180	-	10	720	
機械知能工学科	120	-	-	480	機械知能工学科	120	-	-	480	
環境社会工学科	210	-	-	840	環境社会工学科	210	-	-	840	
農学部					農学部					
生物資源科学科	36	-	-	144	生物資源科学科	36	-	-	144	
応用生命科学科	30	-	-	120	応用生命科学科	30	-	-	120	
生物機能化学科	35	-	-	140	生物機能化学科	35	-	-	140	
森林科学科	36	-	-	144	森林科学科	36	-	-	144	
畜産科学科	23	-	-	92	畜産科学科	23	-	-	92	
生物環境工学科	30	-	-	120	生物環境工学科	30	-	-	120	
農業経済学科	25	-	-	100	農業経済学科	25	-	-	100	
獣医学部					獣医学部					
共同獣医学課程	40	-	-	240	共同獣医学課程	40	-	-	240	
水産学部					水産学部					
海洋生物科学科	54	-	-	216	海洋生物科学科	54	-	-	216	
海洋資源科学科	53	-	-	212	海洋資源科学科	53	-	-	212	
増殖生命科学科	54	-	-	216	増殖生命科学科	54	-	-	216	
資源機能化学科	54	-	-	216	資源機能化学科	54	-	-	216	
計	2,485	15	30	10,515	計	2,485	15	30	10,515	

② … 2年次編入学

③ … 3年次編入学

* 工学部の編入学定員は、特定の学科ではなく、学部全体に定められたものである。

そのため、工学部の各学科の収容定員には編入学定員を含めていない（大学全体の合計には含めている）。

国立大学法人北海道大学 研究科等の設置に関わる組織の移行表 [大学院]

平成30年度

	入学定員			収容定員			
	修士	博士	専門職	修士	博士	専門職	
北海道大学大学院							
文学研究科							
思想文化学専攻	14	6		28	18		
歴史地域文化学専攻	28	11		56	33		
言語文学専攻	29	11		58	33		
人間文化科学専攻	19	7		38	21		
法学研究科							
法学政治学専攻	20	15		40	45		
法律実務専攻			50			150	
情報科学研究科							
情報理工学専攻	48	12		96	36		
情報IT応用専攻	39	8		78	24		
生命人間情報科学専攻	33	6		66	18		
ITイノベーション専攻	30	8		60	24		
IT情報科学専攻	27	8		54	24		
水産科学院							
海洋生物資源科学専攻	43	17		86	51		
海洋応用生命科学専攻	47	18		94	54		
環境科学院							
環境起学専攻	44	15		88	45		
地球圏科学専攻	35	14		70	42		
生物圏科学専攻	52	23		104	69		
環境物質科学専攻	28	11		56	33		
理学院							
数学専攻	46	17		92	51		
物性物理学専攻	24	10		48	30		
宇宙理学専攻	20	9		40	27		
自然科学専攻	39	20		78	60		
農学院							
共生基盤学専攻	40	8		80	24		
生物資源科学専攻	42	14		84	42		
応用生物科学専攻	18	6		36	18		
環境資源学専攻	42	14		84	42		
生命科学学院							
生命科学専攻	116	38		232	114		
ソフトウェア専攻	16	6		32	18		
臨床薬学専攻		6			24		
教育学院							
教育学専攻	45	21		90	63		
国際広報・IT・観光学院							
国際広報・IT専攻	27	14		54	42		
観光創造専攻	15	3		30	9		
保健科学院							
保健科学専攻	40	10		80	30		
工学院							
応用物理学専攻	33	9		66	27		
材料科学専攻	39	7		78	21		
機械宇宙工学専攻	27	5		54	15		
人間機械システム工学専攻	26	5		52	15		
IT・環境システム専攻	26	5		52	15		
量子理工学専攻	20	5		40	15		
環境・IT工学専攻	24	6		48	18		
北方圏環境政策工学専攻	26	7		52	21		
建築都市空間工学専攻	22	5		44	15		
空間性能システム専攻	27	5		54	15		
環境創生工学専攻	28	5		56	15		
環境循環システム専攻	18	5		36	15		
共同資源工学専攻				20			
総合化学院							
総合化学専攻	129	38		258	114		
経済学院							
現代経済経営専攻	35	8		70	24		
会計情報専攻			20			40	
医学院							
医科学専攻	20			40			
医学専攻		90			360		
歯学院							
口腔医学専攻		40			160		
獣医学院							
獣医学専攻		16			64		
医理工学院							
医理工学専攻	12	5		24	15		
国際感染症学院							
感染症学専攻		12			48		
国際食資源学院							
国際食資源学専攻	15			30			
公共政策学教育部							
公共政策学専攻			30			60	
計	1,603	664	100	3,206	2,156	250	

平成31年度

	入学定員			収容定員			変更の事由
	修士	博士	専門職	修士	博士	専門職	
北海道大学大学院							
法学研究科							
法学政治学専攻	20	15		40	45		
法律実務専攻			50			150	
水産科学院							
海洋生物資源科学専攻	43	17		86	51		
海洋応用生命科学専攻	47	18		94	54		
環境科学院							
環境起学専攻	44	15		88	45		
地球圏科学専攻	35	14		70	42		
生物圏科学専攻	52	23		104	69		
環境物質科学専攻	28	11		56	33		
理学院							
数学専攻	44	16		88	48		定員変更 (M△2, D△1)
物性物理学専攻	24	10		48	30		
宇宙理学専攻	20	9		40	27		
自然科学専攻	39	20		78	60		
農学院							
農学専攻	142	36		284	108		H31年度より学生募集停止 専攻の設置 (事前伺い)
生命科学学院							
生命科学専攻	116	38		232	114		
ソフトウェア専攻	16	6		32	18		
臨床薬学専攻		6			24		
教育学院							
教育学専攻	45	21		90	63		
国際広報・IT・観光学院							
国際広報・IT専攻	27	14		54	42		
観光創造専攻	15	3		30	9		
保健科学院							
保健科学専攻	40	10		80	30		
工学院							
応用物理学専攻	33	9		66	27		
材料科学専攻	39	7		78	21		
機械宇宙工学専攻	27	5		54	15		
人間機械システム工学専攻	26	5		52	15		
IT・環境システム専攻	26	5		52	15		
量子理工学専攻	20	5		40	15		
環境・IT工学専攻	24	6		48	18		
北方圏環境政策工学専攻	26	7		52	21		
建築都市空間工学専攻	22	5		44	15		
空間性能システム専攻	27	5		54	15		
環境創生工学専攻	28	5		56	15		
環境循環システム専攻	18	5		36	15		
共同資源工学専攻				20			
総合化学院							
総合化学専攻	129	38		258	114		
経済学院							
現代経済経営専攻	35	8		70	24		
会計情報専攻			20			40	
医学院							
医科学専攻	20			40			
医学専攻		90			360		
歯学院							
口腔医学専攻		40			160		
獣医学院							
獣医学専攻		16			64		
医理工学院							
医理工学専攻	12	5		24	15		
国際感染症学院							
感染症学専攻		12			48		
国際食資源学院							
国際食資源学専攻	15	6		30	18		課程の変更 (意見伺い) 研究科等の設置 (事前伺い)
文学院							
人文学専攻	71	28		142	84		
人間科学専攻	19	7		38	21		
情報科学院							
情報科学専攻	179	43		358	129		研究科等の設置 (事前伺い)
公共政策学教育部							
公共政策学専攻			30			60	
計	1,608	659	100	3,216	2,141	250	